

植栗山根 A 遺跡

植栗山根 A 遺跡



一般県道植栗伊勢線 道路改築（地方道・連携）に伴う
埋 藏 文 化 財 発 挖 調 査 報 告 書

二〇二三

2023

群馬県中之条土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県中之条土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

植栗山根 A 遺跡

一般県道植栗伊勢線 道路改築（地方道・連携）に伴う
埋 藏 文 化 財 発 挖 調 査 報 告 書

2023

群馬県中之条土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

一般県道植栗伊勢線は、中之条町伊勢町から東吾妻町植栗を結ぶ道路で、地域住民にとっては貴重な生活道路であり、吾妻川両岸を結ぶ物流の幹線の役割を果たしているものであります。群馬県は、「はばたけ群馬・県土整備プラン」において、関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から長野県側の上信越自動車道へ至る総延長80kmに及ぶ地域高規格道路「上信自動車道」を計画、現在その事業を実施中です。この上信自動車道は、関越自動車道と上信越自動車道を連携させ、都市と農村の連携強化、災害時の国道353号線のバイパス機能を発揮するとともに、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」の主軸を担うものです。一般県道植栗伊勢線は、まさに上信自動車道に直結するアクセス道路として改築されます。そして、改築事業により、緊急搬送時の速達性・安全性の確保のみならず、産業・観光振興による地域経済の活性化が期待されています。

本書で報告する植栗山根A遺跡は、令和2・3年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。遺跡の発掘調査では、古墳時代の棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に埋もれた竪穴建物、縄文時代晚期前半の竪穴建物などが貴重な遺物とともに発見され、大きな成果がありました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県中之条土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会をはじめ、関係機関及び地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が吾妻川流域地域における歴史の解明に広く役立つことを念じて、序とします。

令和5年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、一般県道植栗伊勢線道路改築事業(地方道・連携)に伴って発掘調査された植栗山根A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字植栗字山根285-1、302-2、302-3、286、287、294-1、294-3、296、299、300-1、300-2、301番地に所在。
3. 調査対象面積は、令和2年度1541.99m²、令和3年度2768.23m²、計4310.22m²である。
4. 事業主体は群馬県中之条土木事務所である。
5. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
6. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

名　　称 令和元年度一般県道植栗伊勢線補助公共道路改築事業(地方道・連携)

令和3年度一般県道植栗伊勢線補助公共道路改築事業(地方道・連携)

履行期間 令和2年3月31日～令和3年1月31日　　調査期間 令和2年4月1日～令和2年11月30日

履行期間 令和3年4月1日～令和3年8月31日　　調査期間 令和3年4月1日～令和3年6月30日

調査担当 令和2年 田村　真(主任調査研究員)、飛田野正佳(専門調査役)

令和3年 田村　真(主任調査研究員)、木村　收(専門調査役)

遺跡掘削工事請負 令和2・3年 株式会社 歴史の杜　　地上測量委託 令和2・3年 株式会社 清研

7. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

名　　称 令和4年度 一般県道植栗伊勢線道路改築(地方道・連携)事業

履行期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

整理期間 令和4年10月1日～令和5年3月31日

整理担当 飛田野正佳(専門調査役)

8. 本書作成担当は次のとおりである。

編集・本文執筆 飛田野正佳(専門調査役)

友廣　哲也(専門調査役)第1章 第1節・2節(飛田野が改編・加筆)

藤巻　幸男(専門調査役)第3章 第3節 1号竪穴建物 出土遺物・調査所見

木村　收 (専門調査役)第4章 第5節 分析結果の考察 植物珪酸体分析の項

遺物観察:土師・須恵・繩文 藤巻　幸男(同上)・鈴木佑太郎(専門員)

石器・石製品 岩崎　泰一(専門調査役)・藤巻　幸男(同上)・鈴木佑太郎(同上)

デジタル編集 齋田　智彦(主任調査研究員)

遺物写真撮影 鈴木佑太郎(同上)

遺物保存処理 板垣泰之(専門員(主任))

火山灰分析 株式会社 火山灰考古学研究所 植物珪酸体分析 パリノ・サーヴェイ株式会社

赤色顔料及び微細物同定 株式会社 バレオ・ラボ 燃骨の鑑定・分析 新潟医療福祉大学

石材鑑定 飯島静男(群馬県地質研究会)

9. 出土遺物及び写真・図面等の記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査及び報告書作成には、次の関係機関にご助言をいただいた。

群馬県県土整備部、中之条土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会

凡　例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を基本的に踏襲した。整理作業の過程で変更したものがある。
2. 本報告書に用いた座標値・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)を用い、座標北で示した。また、等高線や遺構断面図に記した値は、海拔標高地を示す。
3. 本報告書の遺構図版の縮尺は、竪穴建物1／60、竪穴建物カマド1／30、土坑・ピット1／40を原則とした。
4. 本報告書の遺物図版は、1／3を基本とし、石器等は1／1、1／2のものもある。
5. 本報告書中のスクリーントーン表現・記号は、以下のとおり。
遺構図
焼土…■ Hr-FA 1次堆積…■ Hr-FA 2次堆積…■
●…土器 ▲…石器 ○…焼骨 △…植物 ■…ベンガラ
遺物図
赤彩…■ 磨り面…□□□ 赤色顔料付着…■ 石錠基部付着物…■ 須恵器断面…■

6. 遺構及び遺物観察表における計測値は、推定値の場合は()を用いて表記した。
7. 本報告書中の標高値は、L=○○. ○mのように表記した。
8. 本報告書中の遺構断面図の色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修1988「新版標準土色帳」を原則としている。
9. 本報告書における火山噴出物(テフラ)の略号は、下のとおり。
As-A：浅間Aテフラ、As-B：浅間Bテフラ、As-Kk：浅間船川テフラ、As-C：浅間Cテフラ、Hr-FP：榛名二ツ岳伊香保テフラ(FP)、Hr-FA：榛名二ツ岳渡川テフラ(FA)
10. 観察表における遺物出土面について、調査時に1面・2面・3面と区分していたが、報告書整理段階では1面を1・2面、2面を3面、3面を4面として精査の上認定した。よって観察表の面の記載については上記のように読みかえるものとしたい。

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図・表・写真目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1	第5節 奈良・平安時代	114
第1節 調査に至る経緯	1	第6節 中・近世	120
第2節 発掘調査の方法	2	遺物観察表	122
第3節 発掘調査の経過	2	遺構計測表	140
第4節 整理作業の経過	3	第4章 自然科学分析	144
第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡	4	第1節 赤色顔料・微細物分析	144
第1節 地理的環境	4	第2節 出土焼骨分析	153
第2節 歴史的環境	4	第3節 火山灰分析	161
第3節 遺跡の基本土層	14	第4節 植物珪酸体分析	168
第3章 発見された遺構と遺物	17	第5節 分析結果の考察	172
第1節 遺跡の概要	17	第5章 まとめ	175
第2節 旧石器時代	17	非掲載遺物一覧	177
第3節 縄文時代	20		
1 積穴建物	20		
2 石囲炉	40		
3 土坑	41		
4 ピット	61		
5 遺構外の出土遺物	61		
第4節 古墳時代	78		
1 積穴建物	78		
2 土坑・ピット	104		
3 遺物集中	104		
4 水田・溝	106		
5 遺構外の出土遺物(古墳時代以降)	113		

写真図版

挿図目次

第1図	道路位置図	1
第2図	調査区設定図	3
第3図	周辺の地形図	5
第4図	周辺の道路分岐図	8
第5図	各地点の基本上層図	15
第6図	各面の遺構	18
第7図	旧石器時代の基本上層	19
第8図	4面全体図(2区)	21
第9図	7号竪穴建物(1)	22
第10図	7号竪穴建物(2)	23
第11図	7号竪穴建物(3)(縦・遺物・復元)	24
第12図	7号竪穴建物出土遺物(4)	25
第13図	7号竪穴建物出土遺物(5)	26
第14図	7号竪穴建物出土遺物(6)	27
第15図	7号竪穴建物出土遺物(7)	28
第16図	7号竪穴建物出土遺物(8)	29
第17図	7号竪穴建物出土遺物(9)	30
第18図	7号竪穴建物出土遺物(10)	31
第19図	7号竪穴建物出土遺物(11)	32
第20図	7号竪穴建物出土遺物(12)	33
第21図	7号竪穴建物出土遺物(13)	34
第22図	7号竪穴建物出土遺物(14)	35
第23図	7号竪穴建物出土遺物(15)	36
第24図	7号竪穴建物出土遺物(16)	37
第25図	8号竪穴建物(1)	38
第26図	8号竪穴建物出土遺物(2)	39
第27図	8号竪穴建物出土遺物(3)	40
第28図	1号石碑	41
第29図	土坑(1)	50
第30図	土坑(2)	51
第31図	土坑(3)	52
第32図	土坑(4)	53
第33図	土坑(5)	54
第34図	土坑(6)	55
第35図	土坑出土遺物(7)	56
第36図	土坑出土遺物(8)	57
第37図	土坑出土遺物(9)	58
第38図	土坑出土遺物(10)	59
第39図	土坑出土遺物(11)	60
第40図	土坑出土遺物(12)	61
第41図	ピット(1)	61
第42図	ピット(2)	62
第43図	ピット(3)	63
第44図	ピット(4)	64
第45図	ピット出土遺物(5)	65
第46図	遺構外出土上石器1区	66
第47図	遺構外出土上石器2区(1)	67
第48図	遺構外出土上石器2区(2)	68
第49図	遺構外出土上石器2区(3)	69
第50図	遺構外出土上石器2区(4)	70
第51図	遺構外出土上石器2区(5)	71
第52図	遺構外出土上石器2区(6)	72
第53図	遺構外出土上石器2区(7)	73
第54図	遺構外出土上石器1区	74
第55図	遺構外出土上石器2区(1)	75
第56図	遺構外出土上石器2区(2)	76
第57図	遺構外出土上石器2区(3)	77
第58図	1号竪穴建物(1)	78
第59図	3面全体図	(折込)
第60図	1号竪穴建物出土遺物(2)	81
第61図	2号竪穴建物(1)	83
第62図	2号竪穴建物(2)	84
第63図	2号竪穴建物(3)	85
第64図	2号竪穴建物(4)	86
第65図	2号竪穴建物掘り方	87
第66図	2号竪穴建物出土遺物(6)	88
第67図	3号竪穴建物(1)	89
第68図	3号竪穴建物カマド・炉(2)	90
第69図	3号竪穴建物掘り方(3)	91
第70図	3号竪穴建物出土遺物(4)	92
第71図	4号竪穴建物(1)	94
第72図	4号竪穴建物Hr-FA面・掘り方(2)	95
第73図	4号竪穴建物カマド(3)	96
第74図	4号竪穴建物カマド(4)	97
第75図	4号竪穴建物カマド(5)	98
第76図	4号竪穴建物出土遺物(6)	99
第77図	4号竪穴建物出土遺物(7)	100
第78図	4号竪穴建物出土遺物(8)	101
第79図	5号竪穴建物	102
第80図	6号竪穴建物	103
第81図	土坑・ピット	104
第82図	1号動物集中	105
第83図	水田・溝(1)	(折込)
第84図	水田・溝(2)	109
第85図	水田・溝(3)	110
第86図	水田・溝(4)	111
第87図	水田・溝	112
第88図	道構外出土遺物	113
第89図	水田・溝(1)	(折込)
第90図	水田・溝(2)	117
第91図	水田・溝(3)	118
第92図	水田・溝(4)	119
第93図	水田・溝(5)	120
第94図	採取試料の蛍光X線分析結果(1)	145
第95図	採取試料の蛍光X線分析結果(2)	146
第96図	1区北壁の上層柱状図	162
第97図	1区北壁の上層柱状図	162
第98図	2区西壁2号竪穴建物・中央複土断面の土層柱状図	162
第99図	植物遺体存量	170

表 目 次

第1表	吾妻川流域の地質一覧	6
第2表	周辺の道路一覧	11
第3表	遺物觀察表	122
第4表	道構計測表	140
第5表	分析対象遺物	146
第6表	植栗山根A道跡から出土した大型植物遺体	151
第7表	目以下まで同定できた出土動物骨	156
第8表	目以降まで同定できた出土動物骨の同定資料数(NISP)と 最小個体数(MNI)	156
第9表	試料数・点取り番号別の同定結果	160
第10表	テフラ検出分析結果	163
第11表	植物遺体存量	169
第12表	非報載遺物一覧	177

写真目次

- P L. 1 1. 1・2区全景空撮(西から)
2. 1・2区全景空撮(上空から)
- P L. 2 1. 2区豊穴建物他全景(西から)
2. 2区豊穴建物全景(東から)
- P L. 3 1. 2区豊穴建物・土坑(上空から)
2. 1区南壁基本土層セクション(北から)
3. 1区南壁基本土層セクション(西から)
4. 2区柱行跡基本土層(南から)
5. R 2年調査区南壁セクション(北から)
- P L. 4 1. 2区7号豊穴建物遺物出土状況全景(上空から)
2. 2区7号豊穴建物遺物出土状況全景(北から)
3. 2区7号豊穴建物全景(西から)
4. 2区7号豊穴建物全景(北から)
5. 2区7号豊穴建物セクションB-B'(東から)
- P L. 5 1. 2区7号豊穴建物遺物出土状況全景(西から)
2. 2区7号豊穴建物遺物出土状況全景(西から)
3. 2区7号豊穴建物骨・遺物(南から)
4. 2区7号豊穴建物出土状況(西から)
5. 2区7号豊穴建物ミニニアラ露出上状況(南から)
6. 2区7号豊穴建物石碑・土器遺物出土状況(南から)
7. 2区7号豊穴建物磨製石器遺物出土状況(南から)
8. 2区7号豊穴建物焼土(西から)
- P L. 6 1. 2区8号豊穴建物炉全景(東から)
2. 2区8号豊穴建物出土罐
3. 2区8号豊穴建物全景(東から)
4. 2区8号豊穴建物セクションA-A'(東から)
5. 2区8号豊穴建物遺物出土状況(東から)
6. 2区8号豊穴建物遺物出土状況(東から)
7. 2区1号石臼炉(東から)
8. 2区1号石臼炉掘り方全景(東から)
- P L. 7 1. 2区2号土坑遺物出土状況(西から)
2. 2区3号土坑遺物出土状況全景(南から)
3. 2区16号土坑全景(南から)
4. 2区19号土坑全景(東から)
5. 2区24号土坑全景(南から)
6. 2区53号土坑遺物出土状況全景(南から)
7. 2区53号土坑セクションA-A'(南から)
8. 2区53号土坑遺物出土状況全景(南から)
9. 2区54号土坑遺物出土状況(東から)
10. 2区55号土坑遺物出土状況全景(南から)
11. 2区55号土坑遺物出土状況(西から)
12. 2区56号土坑遺物出土状況(北から)
13. 2区60号土坑全景(西から)
14. 2区63号土坑全景(東から)
15. 2区64号土坑全景(南から)
- P L. 8 1. 2区5号ビット全景(北西から)
2. 2区6号ビット遺物出土状況(南東から)
3. 2区8号ビット全景(南から)
4. 2区26号ビット全景(南から)
5. 2区36号ビット全景(南から)
6. 2区38号ビット全景(南から)
7. 2区39号ビット全景(西から)
8. 2区41号ビット全景(南から)
9. 2区44号ビット遺物出土状況(東から)
10. 2区47号ビット全景(南から)
11. 2区50号ビット全景(西から)
12. 2区51号ビット遺物出土状況全景(南から)
13. 2区52号ビット全景(南から)
14. 2区53号ビット全景(東から)
15. 2区31号ビット全景(南から)
- P L. 9 1. 2区1号豊穴建物セクションA-A'(南から)
2. 2区1号豊穴建物FA下面全景(南から)
3. 2区1号豊穴建物遺物出土状況(西から)
4. 2区1号豊穴建物掘り方全景(南から)
5. 2区1号豊穴建物遺物出土状況(南から)
- P L. 10 1. 2区2号豊穴建物全景(上空から)
2. 2区2号豊穴建物掘り方全景(東から)
3. 2区2号豊穴建物全景(西から)
4. 2区2号豊穴建物遺物出土状況(西から)
5. 2区2号豊穴建物掘り方ベンガラ出土状況(南から)
- P L. 11 1. 2区2号豊穴建物セクションA-A'(南から)
2. 2区2号豊穴建物貯藏穴全景(北から)
3. 2区2号豊穴建物トガ柱痕(西から)
4. 2区2号豊穴建物トガ柱痕(西から)
5. 2区3号豊穴建物全景(上空から)
- P L. 12 1. 2区3号豊穴建物遺物出土状況(東から)
2. 2区3号豊穴建物全貌白線入り(南東から)
3. 2区3号豊穴建物掘り方全景(西から)
4. 2区3号豊穴建物遺物出土状況(東から)
5. 2区3号豊穴建物貯藏穴全景(南から)
6. 2区3号豊穴建物トガ柱痕(西から)
7. 2区3号豊穴建物カマド掘り方全景(西から)
8. 2区3号豊穴建物カマド掘り方セクションA-A'(南から)
- P L. 13 1. 2区4号豊穴建物全景(上空から)
2. 2区4号豊穴建物トガ柱痕(西から)
3. 2区4号豊穴建物全貌(南から)
4. 2区4号豊穴建物跡跡去全景(東から)
5. 2区4号豊穴建物セクションD-D'(東から)
- P L. 14 1. 2区4号豊穴建物棒状痕抽出状況(東から)
2. 2区4号豊穴建物木材出土状況(東から)
3. 2区4号豊穴建物トガ柱痕(西から)
4. 2区4号豊穴建物カマド(西から)
5. 2区4号豊穴建物カマド周辺遺物出土状況(北から)
6. 2区4号豊穴建物カマドセクションC-C'(西から)
7. 2区4号豊穴建物カマド遺物出土状況(北から)
8. 2区4号豊穴建物P1柱痕(西から)
- P L. 15 1. 2区5号豊穴建物遺物出土状況(北西から)
2. 2区5号豊穴建物セクションA-A'(西から)
3. 2区5号豊穴建物木材炭化物出土状況(西から)
4. 2区5号豊穴建物遺物出土状況(西から)
5. 2区6号豊穴建物全景(西から)
- P L. 16 1. 1区南側6・7号溝・水田面全景(上空から)
2. 1区北側9号溝・水田面全景(上空から)
- P L. 17 1. 1区南側6号溝・水田面全景(上空から)
2. 1区堆积断面セクション(北から)
3. 1区水田面(東から)
4. 1区北側全景水田面(東から)
5. 1区北側全景水田面(東から)
- P L. 18 1. 1区北側全景水田面(東から)
2. 1区6号溝全景(西から)
3. 1区6号溝全景(東から)
4. 1区6号溝セクションD-D'(南東から)
5. 1区7号溝全景(北から)
- P L. 19 1. R 2年調査区2面全景(南から)
2. R 2年調査区水田面(北から)
3. R 2年調査区断面セクションE-E'(南から)
4. R 2年調査区断面セクションTレンチ7・8号セクション(南から)
5. R 2年調査区断面セクションTレンチ9号セクション(東から)
- P L. 20 1. 1区全景(北から)
2. 1区北側As-Kk1面全景(北から)
3. 1区1号溝全景(東から)
4. 1区1号溝セクションC-C'(北から)
5. 1区2号溝全景(北から)
- P L. 21 1. 1区1面4・5号溝全景(北西から)

- 2. 1区4号溝(北から)
 - 3. R 2号調査区2号トレンドセクション(東から)
 - 4. 1区8号溝全景(北から)
 - 5. 2区1号遺物集中出土状況全景(東から)
 - 6. 2区1号遺物集中出土状況(東から)
 - 7. 2区南遺物出土状況(東から)
 - 8. 1区北側石棒・石皿遺物出土状況(南から)
- P.L. 22 7号竪穴建物
P.L. 23 7号竪穴建物
P.L. 24 7号竪穴建物
P.L. 25 7号竪穴建物
P.L. 26 7号竪穴建物
P.L. 27 7号竪穴建物
P.L. 28 7号竪穴建物
P.L. 29 7号竪穴建物
P.L. 30 7・8号竪穴建物
P.L. 31 8号竪穴建物 1号石壠炉 土坑
P.L. 32 土坑
P.L. 33 土坑
P.L. 34 土坑
P.L. 35 ピット 道構外出土土器1区
P.L. 36 道構外出土土器1・2区
P.L. 37 道構外出土土器2区
P.L. 38 道構外出土土器2区
P.L. 39 道構外出土土器2区
P.L. 40 道構外出土土器2区・石器1区
P.L. 41 道構外出土石器2区
P.L. 42 道構外出土石器2区
P.L. 43 道構外出土石器2区 1号竪穴建物
P.L. 44 2・3号竪穴建物
P.L. 45 3・4号竪穴建物
P.L. 46 4号竪穴建物
P.L. 47 4～6号竪穴建物 6号土坑 1号遺物集中
道構外出土遺物1・2区

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

一般県道植栗伊勢線道路改築事業は、中之条町伊勢町から東吾妻町植栗を結ぶ道路建設工事で、上信自動車道植栗インターチェンジと接続することを目的に事業計画が立てられた。上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から、東吾妻町・長野原町を経て、烏居峠付近を経由し、長野県側の上信越自動車道へ至る総延長約80kmの地域高規格道路である。関越自動車道と上信越自動車道を連動し、きわめて広域的な地域の連携強化や災害時のバイパス機能を発揮するとともに、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」の主軸を担うものとして位置づけられている。一般県道植栗伊勢線は、高規格幹線道路である上信自動車道の機能を補完し、地域の連携による「地域集積圏」の形成、集積圏相互の交流の促進、

交通拠点の連結を図ることが求められ、その一翼を担うものとして位置づけられている。まさに広範な地域と上信自動車道を直結するアクセス道路である。

現状の一般県道植栗伊勢線は、線形不良や幅員の狭少、急勾配の存在、歩道の未整備などの点で、安全性の確保とともに改良が求められてきた。また、上信自動車道を活用した物流の効率化や観光振興を地域に波及させるためにもアクセス道路としての本線を改良する必要がさらに高まり、安全性の確保やアクセスの向上を期して、平成25年度から令和8年度までの期間で、道路改築事業の実施計画が立てられた。

本遺跡の調査は、こうした計画のもとに群馬県地域創生部文化財保護課の試掘調査において、埋蔵文化財の存在が明らかとなり、文化財保護課の調整を受けて、群馬県中之条土木事務所と公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査の委託契約が締結され、発掘調査を実施した。



第1図 遺跡位置図(国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成24年5月1日を使用)

第2節 発掘調査の方法

本遺跡の調査は、現道及び地境をもとに調査区を設定した。令和2年度の調査では、調査面積が狭く現道の東西にまたがるもの、煩雑さを避けるために調査区名を付与しなかった。令和3年度の調査では、南側から1区及び2区とし、令和2年度の調査範囲は令和2年度調査区(以下、R 2年調査区とする)とした。R 2年調査区の調査面積は1541.99m²、令和3年度の調査面積は、1・2区合わせて2768.23m²、総計4310.22m²におよぶ。

発掘調査は、国家座標を基準として調査範囲を設定し、重機(バックフォー)による表土掘削から始めた。掘削表土は、工事用地内に搬出できないため、調査区内に仮置きました。調査終了後に反転して埋め戻し、未調査部分の調査を行う、いわゆるうって返しの手法を用いて行われた。調査面の土層確認のもとに、発掘作業員による遺構確認を行い、遺構認定した。調査面は、表土直下の浅間粕川テフラ(As-Kk)混土層を第1面(中・近世)、浅間粕川テフラ(As-Kk)もしくは浅間Bテフラ(As-B)下面を第2面(古代)、棟名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下を第3面(古墳時代)、ローム漸移層上面を第4面(縄文時代)として調査を進めた。

各遺構の調査は、遺構種別ごとに通し番号を付けて混乱を避けた。掘削に当たっては、堆積土層観察用のセクションベルトを設定することを基本にし、ピット・土坑類については半裁して堆積土層を観察し、記録・写真撮影等を行った。また、遺構の掘削作業は発掘作業員が行い、堆積土層の観察・記録・出土遺物・遺構全景・調査区全景等の写真撮影は、調査担当者が行った。

土層断面図・遺構平面図等の遺構測量は、測量業者に委託して実測するとともに、写真撮影記録は、デジタル一眼レフカメラと中型プロニー判フィルムカメラを併用して撮影した。

第3節 発掘調査の経過

発掘調査は、令和2年度及び令和3年度の2カ年度にわたって実施した。令和2年度は、4月から5月12日まで、令和3年度については、4月から6月までの3カ月

間実施された。

令和2年度の調査は、植栗中原遺跡、小渕沢B遺跡、植栗山根A遺跡の3遺跡の同時調査として実施された。植栗山根A遺跡は、4月当初より排水対策を施したのち表土の掘削を開始した。表土は、概ね30~40cmを測るが、調査区南側及びその他の部分でも、土地改良時の掘削が及んでいて遺構の残存状態が良好でなかった。一部浅間粕川テフラ(As-Kk)の一次堆積が認められる場所では、畦畔状の高まりや溝状の遺構が確認できた。全景及び詳細写真撮影、平・断面測量等の記録作業後、下面の遺構確認作業を経て埋め戻し、調査を終了した。

令和2年度 調査日誌抄

4月6日	調査準備、プレハブ設置工事
4月9日	調査区設定
4月13日	排水ポンプ設置
4月14日	表土掘削開始(調査区東側)
4月16日	遺構確認作業、浅間粕川テフラ(As-Kk) (浅間降下火山灰)確認
4月21日	浅間粕川テフラ(As-Kk)下水田面精查
4月23日	高所作業車による全景等写真撮影
4月24日	遺構測量、畦畔等断ち割り、2面掘削 遺構なし確認
4月28日	調査区西側表土掘削開始、東側埋め戻し
4月30日	遺構精査
5月8日	高所作業車による全景等写真撮影
5月11日	遺構測量、畦畔等断ち割り、2・3面掘削 遺構なし確認
5月12日	調査終了、埋め戻し

令和3年度の調査は、4月当初より調査準備が進められた。調査1区は、現道を挟んで東側の幅1mほどの狭い調査区から表土掘削を始め、2面目までの調査を完了した。暫時1区の表土掘削を進め、1面(中・近世面)の水田面・溝の調査終了後、浅間粕川テフラ(As-Kk)下水田面及び溝の調査を実施した。1区2面の調査終了後は、1・2区の2面の調査をはじめ、1区では、棟名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下の水田(3面)、2区は、古墳時代の竪穴建物を中心とする遺構群(3面)の調査を開始した。竪穴建物6棟、溝3条、土坑2基、ピット2基が発見された。2区2面の調査終了と同時に2区の4面相当(縄文時代の遺構群)の調査を始め、竪穴建物2棟、石

囲炉1基、土坑62基、ピット52基の調査・記録後、旧石器トレンチ調査を経て、調査終了となった。

令和3年度 調査日誌抄

- 4月5日 調査準備、プレハブ設置工事
- 4月6日 1区現道東(南東部調査区掘削)全景写真及び測量等記録、1区南から掘削開始
- 4月8日 現道東(南東部調査区)埋め戻し
- 4月9日 1区南浅間粕川テフラ(As-Kk)下水田面及び溝等精査
- 4月15日 1区南浅間粕川テフラ(As-Kk)下水田面全景写真・測量
- 4月16日 1区南3面棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下水田精査開始
- 4月22日 1区1面調査区全景写真・測量、2区3面掘削開始
- 4月23日 1区2面棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下水田掘削・精査開始、2区3面掘削開始・遺構確認
- 4月26日 1区2面掘削・精査開始、2区3面遺構調査開始
- 5月10日 1区棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下水田調査終了、埋め戻し
- 5月12日 2区4面南側掘削開始、北側調査継続
- 5月14日 1区北側3面掘削・精査開始
- 5月25日 1区北側全景写真・測量、2区北側4面調査開始
- 5月26日 1区北側4面掘削・精査開始
- 6月1日 1区北側4面精査 遺構なし
- 6月9日 1区3面棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下水田調査終了
- 6月10日 1区北側4面掘削・精査 遺構なし
- 6月11日 1区埋め戻し開始
- 6月18日 旧石器トレンチ調査実施・記録
- 6月22日 2区3・4面調査終了、埋め戻し
- 6月28日 調査区埋め戻し終了、プレハブ撤去
- 6月29日 中之条土木事務所へ引き渡し

第4節 整理作業の経過

植栗山根A遺跡の整理業務は、群馬県地域創生部文化

財保護課の調整の下、群馬県中之条土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で委託契約がかわされ、「令和4年度 一般県道植栗伊勢線 道路改築(地方道・連携)事業に伴う埋蔵文化財の整理委託」として実施した。履行期間・整理期間及び整理の目的と方法は次の通りである。

履行期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

整理期間：令和4年10月1日～令和5年3月31日

整理の目的

令和2・3年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査した一般県道植栗伊勢線道路改築(地方道・連携)事業に伴う植栗山根A遺跡(東吾妻町植栗所在)の埋蔵文化財発掘調査と埋蔵文化財保護との調和を図るため、発掘調査により出土した埋蔵文化財の整理事業を行った。

整理の方法

出土遺物の整理(接合・復元・実測・写真撮影)、写真と図面等の記録類の整理(遺構写真・遺構図面の整理及び製図)、並びに発掘調査報告書の原稿執筆、編集作業を行った。

植栗山根A遺跡は、縄文時代・古墳時代・古代・中近世の遺物が出土し、総量遺物収納コンテナ箱36箱(土器・石器・陶磁器・炭化材等の植物遺存体)にのぼる。遺構は、令和2年度 水田1面(As-Kk下)、令和3年度竪穴建物8棟、土坑64基、ピット54基、溝9条、石囲炉1基、水田3面(As-Kk混土層下、As-Kk下、Hr-FA下)があり、先に述べた整理の方法に従って業務の遂行に当たり、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第725集として刊行した。



第2図 調査区設定図(吾妻町都市計画図1/3,500)

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

第1節 地理的環境

植栗山根A遺跡は、群馬県北西部の吾妻郡東吾妻町の北東に位置し、植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡と隣接する。JR中之条駅からは吾妻川を挟み直線距離で南西約2.5kmを測る。植栗山根A遺跡・植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡の北側は吾妻川を越えると中之条町になる。本遺跡の立地は、吾妻川が大きく北に半円形を描く右岸の段丘上に所在し、榛名山北麓の丘陵が南側に迫っている。標高は350m前後で、吾妻川との比高は約25mである。吾妻川は長野県との県境である鳥居峠付近を源とし、川沿いには河岸段丘が発達し、吾妻郡内を東流した後は、波渋市阿久津付近で利根川と合流する。また東吾妻町内には吾妻川をはじめ、温川、深沢川などの河川が流れている。

本遺跡の西側には現在の大泉寺川が北流し、吾妻川に注いでいる。大泉寺川は、榛名山北麓を源流とし下流する。本遺跡は、この大泉寺川の右岸にあり、榛名山北麓の丘陵地帯と接する位置にある。この丘陵地帯から吾妻川までは、緩やかな勾配で吾妻川に傾斜している。今日では、埋没谷は確認できないが、植栗中原遺跡の調査では、北西から南西にかけて比較的規模の大きな谷が確認されている。文化財保護課による試掘・確認調査結果では、現地表面下-3.8mで礫層に達する。谷の埋没は、集落が確認される弥生時代末から古墳時代初期の竪穴建物の存在から、それ以前であったことがわかる。

吾妻郡東吾妻町は、平成18（2006）年3月27日に吾妻町と東村が合併し、成立した。榛名山の北側に位置し、町内側の吾妻川右岸には榛名山、浅間山、北側には岩櫃山、吾嬬山などが聳えている。岩櫃山は標高802mの岩山で、奇岩・怪石からなる山容は吾妻八景を代表する景勝地としても知られている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。東吾妻町にある国指定の名勝地吾妻渓谷も、吾妻川によって形成された峡谷である。

榛名山は標高1449mの掃部ヶ岳を最高峰とする複式成層火山であり、山頂部にはカルデラ・火口原湖・中央火口丘等が、山体斜面には溶岩ドームや爆裂火口が存在し、

古墳時代6世紀の初頭と前半とされる2度の噴火が発生している。本遺跡の西に位置する浅間山は、現在でも活発な火山活動を続けており地域に様々な影響を与えていく。

第2節 歴史的環境

本遺跡のある東吾妻町植栗は町域の北東に当たり、吾妻川を越えると中之条町になる。町内には名勝地吾妻渓谷を有する吾妻川が東流する。古代にあっては「吾妻郡」の一角をなし、植栗山根A遺跡・植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡は郡内の太田郷に比定されている。現在、本遺跡の北東には太田小学校がある。戦国時代は戦国武将「真田氏」の岩櫃城、近世の大戸の閑はよく知られているところである。特に、東吾妻町内の郷原遺跡から出土した縄文時代後期の国指定重要文化財「ハート形土偶」、岩櫃山の山頂付近には弥生時代中期の「岩櫃山鷹の巣遺跡」といった著名な遺跡がある。近年では上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査を含め、徐々に発掘調査件数が増えてきている状況にある。

ここでは歴史的環境として各時代を通じた概要を記すこととする。

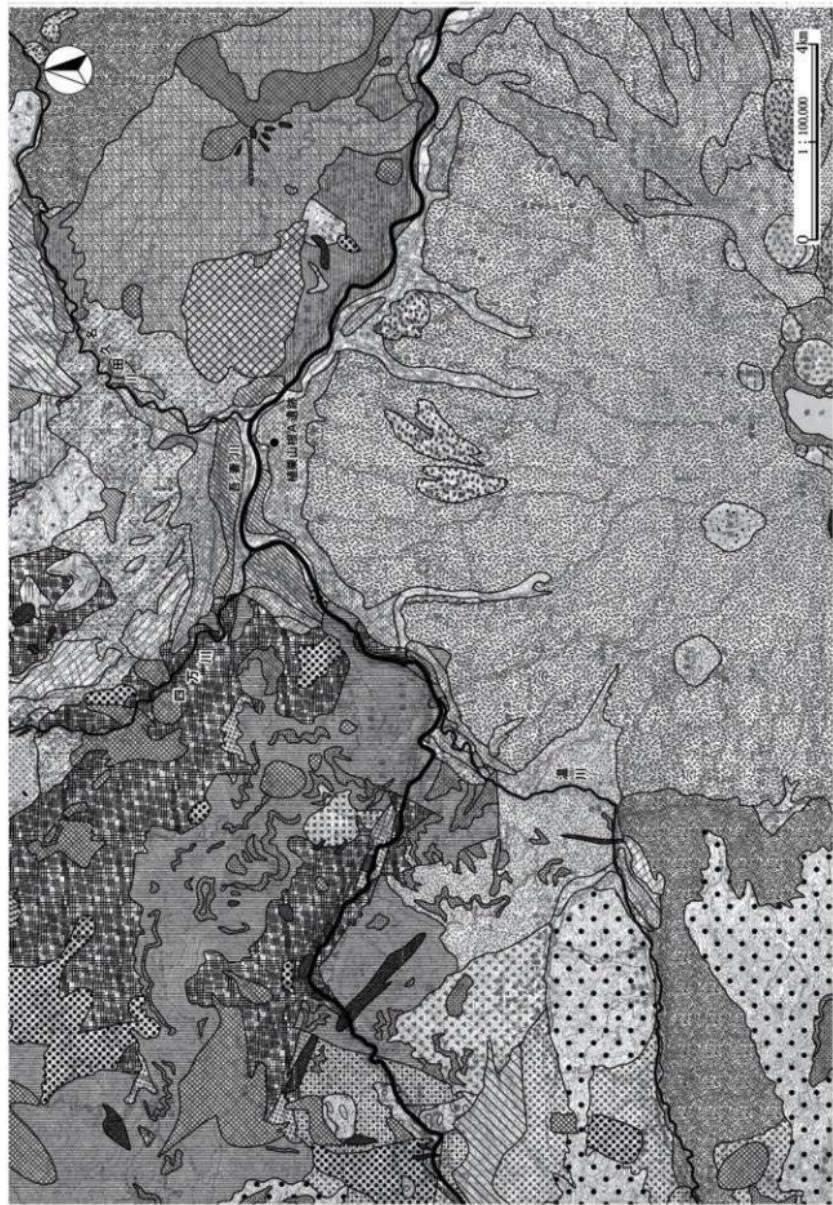
1. 旧石器時代

吾妻郡内での旧石器時代の遺跡調査事例は極めて少なく、高山村に所在する新田西沢遺跡が知られているのみで、東吾妻町での調査例はない。

2. 縄文時代

縄文時代後期のハート形土偶で知られる郷原遺跡をはじめとして、晚期の唐堀遺跡、ハッカダム関連調査での上郷岡原遺跡があるものの、東吾妻町内での縄文時代の発掘調査例は少なく、現状では不明な点が多い。近年の上信自動車道吾妻西バイパス調査において、四戸遺跡をはじめとし、新井遺跡、唐堀遺跡、万木沢B遺跡、唐堀C遺跡で縄文時代の遺構が検出され、それ以外にも縄文時代の遺物が出土している遺跡が増えてきている。

本遺跡では縄文時代中期から晩期前にかけて、土器と石器・石製品が竪穴建物や土坑等から発見されている。



第3図 周辺の地形図

第1表 吾妻川中流域の地質一覧

記号	地質時代(紀)	地質時代(世)	火山噴出物名	噴出時期	地形・層名	岩質
S	第四紀	完新世			段丘面、伊勢原面	漂、砂及び J_3
M	第四紀	海成紀			段丘面、成田原面	漂、砂及び J_3
A	第四紀				河槽	漂、砂及び J_3
Fo	第四紀				山體堆積物	漂、砂及び J_3
Nk	第四紀				中之条面層	漂、砂及び土
On	第四紀	前中期更新世			小野上層	風化角礫岩、砂岩及び泥岩
Ky	第四紀	後中期更新世～完新世			川原層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Vk	第四紀	新第三紀			川原層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Hg	第四紀	新第三紀			橋梁層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Ty	第四紀	新第三紀			小食層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Ng	第四紀	新第三紀			高山河床	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Yn	第四紀	後中期更新世			谷下複合体	所以、後中期及び新第三紀
Ag	第四紀	後中期更新世			ハッカ層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩及び風化岩
Kg	第四紀	後中期更新世			台基層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Kr	第四紀	後中期更新世			橋門層	デイサイト質普通輝石安山岩及び漂灰角礫岩
Tk	第四紀	後中期更新世			切ヶ久保層	デイサイト質普通輝石安山岩
—	—	—			高田山層	紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Nh	第四紀	中期更新世			人道層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・漂灰角礫岩及び安山岩溶岩
Sw	第四紀	中期更新世			足湯層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・安山岩溶岩・漂灰角礫岩
Ah	第四紀	中期更新世			赤坂層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・安山岩溶岩
Tc	第四紀	中期更新世			赤坂層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・安山岩溶岩
Yg	第四紀	中期更新世			合谷層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・安山岩溶岩
Kh	第四紀	中期更新世			川原層	輝石・輝葉岩・泥岩互層・安山岩溶岩
Al	—	—			火成岩類	安山岩溶岩
Ad	—	—			火成岩類	安山岩溶岩
Aw	—	—			火成岩類	安山岩溶岩
Og	—	—			火成岩類	花崗岩斑岩なし・石英斑岩
Qd	第四紀	完新世			火成岩類	火成岩類
Hf	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	二ツ岳・榛名富士溶岩円頂丘	角閃石・斜長石・漂灰岩
Hf	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	二ツ岳・砂質噴出物	輝石・火成岩及び火山岩
Hd	第四紀	完新世	榛名火山噴出物	第5期	榛名山・相馬山噴出物	角閃石・斜長石・漂灰岩
Hd	第四紀	中期更新世	榛名火山噴出物	第4期	第4期火成岩	輝石・火成岩及び火山岩
Hd	第四紀	中期更新世	榛名火山噴出物	第3期	第3期の溶岩類	紫蘇輝石普通輝石安山岩及び漂灰岩
Hd	第四紀	中期更新世	榛名火山噴出物	第2期	第2期の噴出物	紫蘇輝石普通輝石安山岩及び漂灰岩
Hd	第四紀	中期更新世	榛名火山噴出物	第1期	第1期の噴出物	普通輝石普通輝石安山岩
0m	第四紀	中期更新世	小野子火山噴出物		坂東大山噴出物	かんらん石含普通輝石紫蘇輝石安山岩溶岩及び漂灰岩
Ko2	第四紀	中期更新世	小野子火山噴出物		本郷活動期噴出物	坂東大山噴出物
—	—	前中期更新世	子持火山噴出物		初期活動期噴出物	紫蘇輝石普通輝石安山岩及び漂灰岩
—	—	前中期更新世	信越		中期活動期噴出物	紫蘇輝石普通輝石安山岩及び漂灰岩
Fds	第四紀	前中期更新世			不動山層	不動山層
						紫蘇輝石普通輝石安山岩

前期の遺構が検出された遺跡は四戸遺跡、新井遺跡、唐堀C遺跡がある。四戸遺跡では前葉の竪穴建物・土坑、新井遺跡では中葉の竪穴建物と土坑、唐堀C遺跡では後葉の竪穴建物と土坑が検出されている。

中期の遺構が検出された遺跡は郷原遺跡がある。郷原遺跡はハート形土偶で知られた後、昭和59（1984）年と平成6（1994）年に発掘調査が行われ、中期後半の竪穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡は、郷原遺跡、新井遺跡、上郷岡原遺跡がある。郷原遺跡のハート形土偶もそうであるが、昭和59年と平成6年の調査において後期初頭の敷石建物や配石土坑が検出されている。新井遺跡では後期初頭の敷石建物が検出されている。上郷岡原遺跡でも後期初頭から後期前半にかけての敷石建物や竪穴建物が多数検出されている。また遺構は検出されていないが、後期から晩期の多量の遺物を出土し昭和55年に調査された唐堀遺跡が知られている。

晩期の遺構が検出された遺跡として、唐堀遺跡や万木沢B遺跡がある。吾妻西バイパス建設に伴う唐堀遺跡の調査では、後期後半から晩期の竪穴建物や土坑、配石遺構、水場遺構等が検出され、東北地方から搬入されたと考えられる遮光器土偶の頭部をはじめとする多量の遺物が出土している。さらに、万木沢B遺跡においても、土坑と共に晩期の遺物が多量に出土している。本遺跡においても、晩期前半の竪穴建物2棟が調査されている。

3. 弥生時代

中期の遺跡としては、「岩櫃山式土器」の標識遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡、再葬墓が検出された前畠遺跡が知られている。前畠遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面上に立地する一次埋葬地であり、岩櫃山鷹の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する二次埋葬地と考えられている。他に、新井遺跡では土坑や遺物、四戸遺跡でも竪穴建物が検出されている。

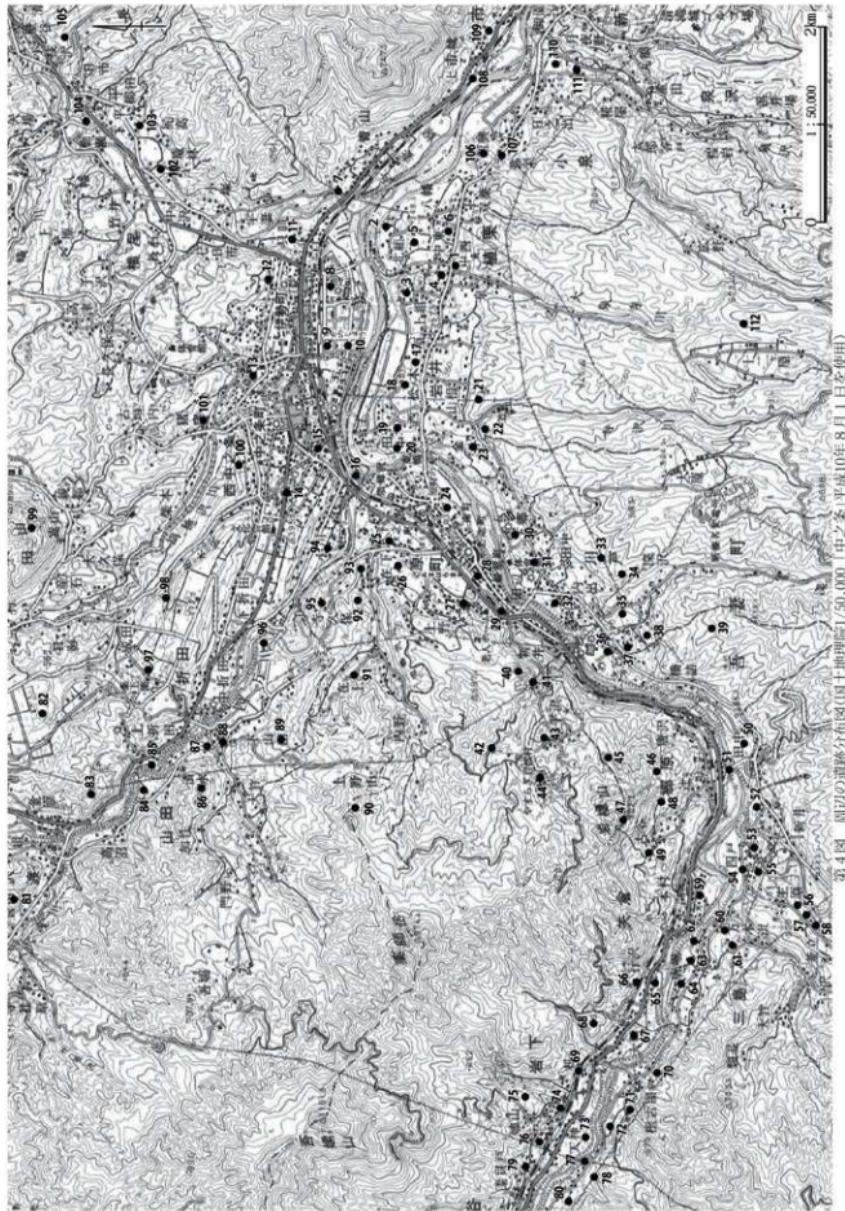
後期の遺構が検出された遺跡は、四戸遺跡、四戸の古墳群、新井遺跡、唐堀B遺跡がある。植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡では後期の竪穴建物・土坑等が検出されている。また樽式土器と古墳時代前期の土師器の共伴が確認され、東吾妻町教育委員会の調査による「植栗中原遺跡」（町内遺跡Ⅲ2006・町内遺跡Ⅳ2007）報告書中でも同時期の土器の検出が確認されている。

さらに東吾妻町教育委員会による「小泉宮戸遺跡」（町内遺跡Ⅰ2003）では土坑内より後期の硝子小玉が17点検出されている。新井遺跡からは竪穴建物、円・方形周溝墓、大型の方形土坑等が検出されている。唐堀B遺跡においても竪穴建物を含む集落が確認されている。

吾妻川対岸中之条町の伊勢町天神遺跡、伊勢町川端遺跡は大規模な後期の集落遺跡で、大型竪穴建物、環濠、多量の樽式土器と共に鉄斧、鉄劍、人面土器等の特殊遺物が出土し、本地域における各期の拠点的集落と考えられる。

4. 古墳時代

当該地域は、本県における古墳所在地の最西北端の地として知られてきた。植栗中原遺跡、小渕沢B遺跡では、古墳時代前期の竪穴建物が検出されている。古墳時代前期の竪穴建物は樽式土器が出土し、弥生時代から古墳時代への変換期の様相を表している。集落遺跡は吾妻西バイパス建設に伴う調査で多く確認されている。これは今まで希薄であった部分に新たにこの時期の遺跡の存在が明確になってきた感がある。東吾妻町の四戸遺跡・四戸の古墳群からは、古墳時代前期から後期に及ぶ竪穴建物が100棟近く検出されている。中期から後期に至っても継続し、唐堀C遺跡、万木沢B遺跡でも後期の集落が存在する。しかし、前期の集落と中期以降の集落とは地域的、規模、内容に歴然とした違いが認められる。吾妻川の対岸（左岸）、中之条町に所在する弥生時代から継続する大規模集落である伊勢町川端遺跡、伊勢町天神遺跡との関係が密と考えることができるが、未報告であるため内容が明らかではない。吾妻川中流域の河岸段丘上では、西の四戸遺跡～四戸の古墳群と、東の伊勢町を中心とした遺跡群がそれぞれの地域での拠点集落と考えができる。それぞれの地区は現在の渋川市、沼田市から西に向かい中之条町、東吾妻町を抜け四万御坂峠越えに向かう、あるいは、吾妻川からいったん四戸で南下し、大戸から須賀尾経由で鳥居峠から信濃へ抜ける道の中継点となる箇所にある。このルートは弥生時代のみならず縄文時代あるいはそれ以前より、そして古墳時代以降にも継続して、群馬と長野を繋ぐ重要な役割を果たしていたことと指摘できる。このような吾妻川両岸の集落、耕地、古墳群の成立は当時の長期に渡る交流、交通の中継地であり、その結果が拠点的大集落として発展したことが想



第4図 周辺の遺跡分布図(国土地理院「50,000「中之条」平成10年8月1日を用)

定される。

吾妻地域において吾妻川上流域では古墳は少数で、堅穴建物も孤立的に数棟あるのみである。中流域では発掘調査で明らかになった唐堀遺跡1号墳を西端にして古墳と共に集落も急激に増加する。特に四戸遺跡周辺と中之条町伊勢町川端・天神遺跡を拠点集落として発展していく、いずれも交通・交流の基点である。

吾妻川は渋川市内で利根川に合流する。渋川市にある金井東裏遺跡、金井下新田遺跡では中期の集落が広がり、古墳が確認されている。また、今まで確認されていなかつた生産遺構が東吾妻町温川東岸にある厚田中村遺跡で初めて検出された。6世紀初頭に降下した榛名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に覆われた極小小区画水田が検出され、植栗山根A遺跡でも同様の小区画水田が発見されている。また、Hr-FAが覆土中に確認された堅穴建物4棟の検出も注目されるところである。

5. 古代(奈良・平安時代)

律令制下において、上野国内には「碓冰・片岡・甘樂・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14の郡が置かれていた。(当初13郡、和銅4(711)年に多胡設置で14郡)。吾妻郡には「長田郷」、「伊參郷」、「大田郷」の3郷があったとされている。植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡で9世紀から10世紀にかけての堅穴建物が検出され、小渕沢B遺跡4号堅穴建物から吾妻郡の「吾」の墨書がされた須恵器の椀が出土している。また東吾妻町教育委員会の報告書『植栗中原遺跡(2007)』の2号堅穴建物から須恵器、椀が10点以上出土し、椀から「太」、杯には「寺」の墨書が確認された。この文字資料からこの地域が「吾妻郡大田郷」にあたるものと推定することができ、周辺には寺があった可能性が指摘できる。植栗周辺には現在でも太田という地名が残り、植栗山根A遺跡の北東に太田小学校・太田中学校(現在は統廃合され、消防庁舎となっている)がある。

また対岸にある中之条町大字「市城」付近は、「官牧」である「市代牧」の比定地とされている。

東吾妻町内における奈良・平安時代の遺跡はこれまで、前畠遺跡などで集落が検出されていたこと、本遺跡の南西約2kmに位置する白鳳期寺院遺跡である金井庵寺の存在に留まっていた。そうした状況下、近年の吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査と取り付け道路等の改修・

補修工事による発掘調査も増え、奈良・平安時代の遺跡の検出事例は格段に増加し、新たな注目を呼んでいる。さらに金井庵寺の約1km南西には、7世紀代の集落の下郷古墳群が調査・報告されている。遺跡では楚板石、布掘りを持つ掘立柱建物群が検出され、中空円面鏡が出土した堅穴建物も確認されている。温川の東に位置する新井遺跡でも平安時代(9世紀)の集落が検出されている。四戸遺跡では7世紀から10世紀前半までの集落が検出され、石組みのカマドが長期に渡って継続されていたことが明らかとなった。東吾妻町調査の植栗中原遺跡の堅穴建物から出土した須恵器には「寺」「吾」と書かれた墨書き器も確認され、小渕沢B遺跡堅穴建物出土「吾」同様、吾妻郡家や寺院との関連も窺われる。

四戸遺跡では、9世紀後半の堅穴建物から、ほぼ完形の奈良三彩短頸壺が出土するなど、希少性や特異性も含め、注目される発見が続いた。金井庵寺・四戸遺跡・新井遺跡・植栗中原遺跡・小渕沢B遺跡もすべて吾妻川右岸の事例である。

中之条町誌(1976)では吾妻郡家の比定地として原市町に所在する大宮巖鼓神社を想定している。神社に代々伝えられる藏手大刀を根拠としており、大刀の時期は8世紀初頭期に比定されている。その後、吾妻西バイパスの建設による発掘調査が進むにつれ、一気に墨書、三彩、中空円面鏡等の遺物が伴う下郷古墳群、小泉宮戸・天神遺跡の掘立柱建物等の発見は吾妻川右岸に多くあり、注目されるところである。

万木沢遺跡の西にある万木沢B遺跡、唐堀C遺跡、根小屋遺跡でも平安時代の集落の存在が発掘調査によって明らかになってきた。植栗地域から約2km弱にある金井庵寺は7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院とみられる伊勢崎市上植木庵寺と同范の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王庵寺(放光寺)、伊勢崎市上植木庵寺、太田市の寺井庵寺とこの金井庵寺以外に、現在のところ本格的な白鳳期寺院は発見されていない。吾妻地域にいち早く本格的な寺院を建立できるような経済基盤を有する在地首長が存在していた証である。

『長元3(1030)年上野国不与解由状案』(いわゆる「上野国交代実録帳」)定額寺項には、「放光寺」、「法林寺」、「弘

「輪寺」、「慈廣寺」の四寺の名称が記載されている。「放光寺」が前橋に所在する山王庵寺にあたることは、出土した文字瓦によって確実視できることから、「法林寺」、「弘輪寺」、「慈廣寺」の三箇寺が、伊勢崎市上木本庵寺、太田市寺井庵寺、東吾妻町金井庵寺のどれかにあたるのではないかと考えられている。

生産遺構としては古代の畑や水田も検出されている。厚田中村遺跡では、天仁元(1108)年降下のAs-Bによって埋没した水田が部分的に検出されている。

植栗山根A遺跡では、As-Kk・As-Bに被覆された水田面の畦畔状の高まりや水流を思わせる溝が発見されているが、四戸遺跡でもAs-Bが被覆した水田、畑が部分的に確認された。万木沢B遺跡ではAs-B上に小規模の畑、その上位となる12世紀前半に降下したとみられている浅間粕川テフラ(As-Kk)、As-Bで埋没した畑が検出されている。こうした古代における水田、畑は四戸遺跡、万木沢B遺跡、唐堀C遺跡において平安時代の集落の上に検出されており、集落廃絶後に大きな土地利用の変換がなされたことを物語っている。

6. 中近世

天仁元(1108)年の浅間山噴火後、上野国内では莊園開発の動きが活発となる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名が見えるが、承久3(1221)年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより吾妻氏は滅亡したと言われている。その後、嘉祐年間(1235~38年)前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では、便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭てくる。永祿4(1561)年の上杉謙虎の関東出兵時の「関東幕注文」には「岩下衆 齊藤越前守 六葉柏」とあり、齊藤氏が四戸遺跡の北西約3.5kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城)に拠った

大戸氏が勢力を伸ばし、四戸遺跡の西約3kmに位置する根小屋城に入っている。根小屋城跡は、吾妻西バイパス建設に伴い発掘調査され、竪穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。同時に根小屋川を挟んだ対岸の根小屋B遺跡、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡も調査されている。

永祿6(1563)年、甲斐・信濃を領した武田信玄の上野国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の武将真田幸隆により齊藤氏の居城であった岩下城が落城し、岩下城が武田氏の拠点となった。これによって吾妻郡域は武田氏の支配下になる。その後、岩下城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却されるまで存続した。この岩下城は、令和元(2019)年10月16日に国指定史跡となった。吾妻川流域は中世城館跡が多い地域として知られているが、こうした中世・戦国期における割権・勢力争いの結果であることは言うまでもない。

徳川家康の江戸入府後、東吾妻町三島村は引き続き真田氏の支配下にあった。そして天和2(1682)年に天領となり、文政7(1824)年には御三卿清水徳川家の支配下となるが、その後の安政2(1855)年には、再度天領となつた。

この間、天明3(1783)年には浅間山が噴火してAs-Aを降下させ、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被害が知られている。本遺跡の所在する東吾妻町は、厚田中村遺跡・新井遺跡・唐堀遺跡でその被害の実態が明らかにされている。

第2表 周辺の道路一覧

道路名	所在地	時代	種別	調査歴・備考	参考文献
1 植栗山根A遺跡	東吾妻町植栗			本遺跡	
2 植栗城	東吾妻町植栗	中	城館		49
3 植栗舞台遺跡	東吾妻町植栗	弥・古・奈・平	集落		15・52
4 諏訪塙古墳	東吾妻町岩井	古	古墳		52
5 植栗古墳群	東吾妻町植栗	古	古墳		
6 銀山出土地	東吾妻町植栗	奈・平	集落		
7 西浦遺跡	中之条町山口	奈・平・中・近	集落、その他		51
8 伊勢町平原遺跡	中之条町伊勢町 642	古・奈・平・中	集落、城館		25
9 伊勢町天神遺跡	中之条町伊勢町天神 748	弥・古・奈・平	集落、生産	平成2～5年調査(中之条町教育委員会)	
10 伊勢町川端遺跡	中之条町伊勢町 3	弥・古・奈・平	集落、居館	昭和63・平成3～6年調査(中之条町教育委員会)	52
11 只因古墳群	中之条町只因	古	古墳	古墳総覧 中之条町 13～15	46
12 天代瓦窯跡遺跡	中之条町伊勢町 1351-6	奈・平	生産遺跡		22
13 方溝寺ノ山遺跡	中之条町中之条	古	散布地		48
14 水原遺跡	中之条町西中之条水原 119	古	古墳、散布地	遺跡台帳 3078 古墳総覧 中之条町 38	46・48
15 中条城址	中之条町中之条	中	城館	中世城館跡 755	44・49
16 石之塔古墳	中之条町石の塔 400-1	古	古墳	中之条町指定史跡	48
17 岩松井の木遺跡	東吾妻町岩井	彌・弐・古	集落、古墳		15
18 白山神社遺跡	東吾妻町岩井	彌・弐・古	集落、古墳	古墳総覧 太田村 21	41・46
19 岩井古墳群	東吾妻町岩井田中	古	古墳		
20 岩井西古墳群	東吾妻町岩井字西 135	古	古墳	古墳総覧 大田村 1～14	44・46・50
21 先神跡の跡跡	東吾妻町岩井	中	城館	中世城館跡 794	5・49
22 岩井寺跡古墳	東吾妻町岩井字寺跡庚 1693	古	古墳	古墳総覧 太田村 17	46
23 金井扉寺道路	東吾妻町金井 472-1	奈・平	集落、寺院	東吾妻町指定史跡(昭和47年3月1日指定) 昭和53年発掘調査(吾妻町教育委員会)	1
24 原町下之町古墳群	東吾妻町原町 460	古	古墳	古墳総覧 原町 1～16	46・50
25 中学校裏跡	東吾妻町原町 807-1	彌	散布地		48
26 東上野遺跡	東吾妻町原町上野 2662-1他	彌・弐・古・奈・平	散布地、集落		52
27 諏訪前遺跡	東吾妻町原町 1018-1	弥・古・奈・平・中	集落、古墳、殿治、その他	平成6・7年調査(吾妻町教育委員会)	13
28 原町駅遺跡	東吾妻町原町上之町	平	散布地		52
29 善導寺前遺跡	東吾妻町原町 1091-1	弐・平・中	散布地、墓、その他	平成7年調査(吾妻町教育委員会)	8
30 下郷古墳群	東吾妻町原町甲 271	古	古墳、掘立柱建物、その他	古墳総覧 川口村 62～69 平成24・25年調査(埋文事業団)	17・27・46
31 下郷入遺跡	東吾妻町川口下郷 284	彌・古	散布地		52
32 内出城	東吾妻町川口	中	城館	中世城館跡 788	44・49
33 城峯城	東吾妻町川口	中	城館	中世城館跡 789	49
34 水上遺跡	東吾妻町川口水上	彌・古	集落		52
35 深沢遺跡	東吾妻町川口深沢	彌・古	集落		52
36 川口神社西古墳	東吾妻町川口	古	古墳		46・50
37 上ノ宮遺跡	東吾妻町川口上ノ宮	古	散布地		52
38 玉科遺跡	東吾妻町川口 1602-1	彌・古	散布地	古墳総覧 川口 42～51	50
39 川口杵原遺跡	東吾妻町川口 1364-2他	彌	その他	隨し六	18
40 柳沢城跡	東吾妻町平沢	中	城跡	中世城館跡 783	5・44・49
41 道心山遺跡	東吾妻町原町 4159	弐	散布地		52
42 蛭夷穴遺跡	東吾妻町原町雁陳山	弐	墓、その他		52
43 忽佐塚遺跡	東吾妻町原町忽佐塚 1768	彌・古	集落	平成3・4年調査(吾妻町教育委員会)	7
44 岩懸城跡北側構築	東吾妻町原町	彌・中	集落、城館	平成4年調査(吾妻町教育委員会)	6
45 岩懸城跡	東吾妻町原町在下	彌・中	散布地、城館	中世城館跡 781 国指定史跡(令和元年10月16日指定)	5・19・20・40・44・49
46 郡原城	東吾妻町郡原	中	城館	中世城館跡	52
47 岩懸山鷹の巣遺跡	東吾妻町原町岩懸山	弐	巣、その他	弥生時代の墓址(明治大学) 東吾妻町史跡	42
48 潜龍院跡(古屋跡)	東吾妻町郡原	中	社寺	中世城館跡 778	44・45・49
49 古谷遺跡	東吾妻町郡原古谷	弐	散布地		40
50 厚田中村遺跡	東吾妻町厚田 840 他	古・奈・平・近	水田、畠	平成25・26・28年調査(埋文事業団)	21・30
51 郡原遺跡	東吾妻町郡原 592-1	彌・平・中	集落、散布地、その他	昭和59年・平成6年調査(吾妻町教育委員会)	3・11・16
52 新井遺跡	東吾妻町厚田新井 646 他	彌・弐・古・奈・平	集落	平成26～28・30年調査(理文事業団)	39
53 四田の古墳群	東吾妻町三島 77 他	弐・古	集落、古墳	平成30年度調査(理文事業団)	32

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考	参考文献
54	四戸遺跡	東吾妻町三島	縄・古・奈・平・中・近	集落	平成 25~28・30年調査(埋文事業団)	31
55	峰遺跡	東吾妻町三島四戸 388	古	散布地		52
56	生原遺跡	東吾妻町三島生原 620	古	古墳		10
57	石村下古墳	東吾妻町三島生原 620	古	古墳		52
58	上古墳	東吾妻町三島生原 580-1	古	古墳	古墳総覧 岩島村 43	46・50
59	岩島 4号墳	東吾妻町矢倉本町	古	古墳	円墳径 17m 横穴式石室	12
60	万木沢遺跡	東吾妻町三島字 3324	古	散布地	万木沢B遺跡 平成 29 年度調査(埋文事業団)	37
61	上反遺跡	東吾妻町三島字 3203	縄	散布地		40・43
62	唐塹 A 遺跡	東吾妻町三島字唐塹	縄・古・奈・平・近	集落	平成 26~27 年調査(埋文事業団)	29
63	唐塹遺跡	東吾妻町三島字唐塹	縄・古	散布地	昭和 55 年調査(吾妻町教育委員会) 平成 27~30 年調査(埋文事業団)	2・33・36
64	唐塹 C 遺跡	東吾妻町三島字唐塹	縄・古・奈・平・中・近	集落、その他	平成 28・30 年調査(埋文事業団)	34
65	御塚古墳	東吾妻町矢倉寄行沢	古	古墳	古墳総覧 岩島村 6	46・50
66	行沢古墳	東吾妻町矢倉	古	古墳		46・50
67	前畠遺跡	東吾妻町岩下 76	縄・古・奈・平・中	散布地、集落、墓、その他	昭和 62 年調査(吾妻町教育委員会)	9・16
68	岩下城	東吾妻町岩下	中	城館	中世城館跡 779	40・44・45・49
69	机古墳	東吾妻町岩下机 1675-1	古	古墳	聖穴系(石櫛)	52
70	根小屋遺跡	東吾妻町三島字根小屋	縄・奈・平	その他、不明	根小屋遺跡・根小屋 B 遺跡 平成 28 年調査(埋文事業団)	35
71	根小屋城跡	東吾妻町三島	縄・中	城館、その他	中世城館跡 780	38
72	細谷 E 遺跡	東吾妻町三島細谷	井	散布地	平成 28 年調査(埋文事業団)	35
73	弁天洞遺跡	東吾妻町岩下弁天	縄	散布地		52
74	赤武遺跡	東吾妻町岩下	古	散布地		43
75	姉の石畠かまど	東吾妻町岩下	古	集落	県指定史跡(昭和 33 年 3 月 22 日指定)	43・47
76	岩下天神遺跡	東吾妻町岩下天神 873 他	井・古・平	散布地		52
77	細谷 D 遺跡	東吾妻町三島細谷 5128	縄	散布地		52
78	細谷 C 遺跡	東吾妻町三島細谷 5092 他	縄・平	散布地		52
79	漆貝戸遺跡	東吾妻町岩下漆貝戸 1172 他	縄・古	散布地		52
80	細谷 B 遺跡	東吾妻町三島細谷 5542	縄・平	散布地		26
81	天狗山城址	中之条町下渡瀬	中	城館	中世城館跡 746	49
82	貧原遺跡	中之条町五反田 4373-1	縄・奈・平	散布地、その他	平成 17 年立会調査(中之条町教育委員会)	
83	内山城址	中之条町折田 2070-1	中	城館	中世城館跡 753 仙藏城 中之条町指定史跡(平成 6 年 12 月 1 日指定)	49
84	清水遺跡	中之条町山田				
85	折田屋敷跡	中之条町折田	中	城館	中世城館跡 745	49
86	桑田城址(寺山)	中之条町山田 2181-1	中	城館	中世城館跡 748 中之条町指定史跡(平成 6 年 12 月 1 日指定)	49
87	清水敷石住居跡	中之条町山田清水 2289-3	縄	集落	道跡台帳 3065	48
88	古城址	中之条町山田	中	城館	中世城館跡 749	49
89	山田城址(古城)	中之条町山田 696	中	城館	中世城館跡 750 山田古城 中之条町指定史跡(平成 6 年 12 月 1 日指定)	49
90	高野平城	東吾妻町原町	中	城館	中世城館跡	44・49
91	上須賀遺跡	東吾妻町原町上須賀 3295-1	古	集落	平成 2 年(吾妻町教育委員会)	4
92	福崎城	東吾妻町原町在下	中	城館	中世城館跡 787	44・49
93	下古墳群	東吾妻町原町在下	古	古墳		
94	小川古墳群	中之条町小川 362	古	古墳	古墳総覧 中之条町 25~28・31 ~34 中之条町指定史跡(昭和 63 年 3 月 26 日指定)	46
95	寺久保古墳群	中之条町	古	古墳	古墳総覧 澤田村 1 ~ 4 中之条町指定史跡(笛吹塚 昭和 63 年 3 月 26 日指定)	46
96	山田勝負瀬古墳群	中之条町山田 119-3	古	古墳		
97	成田遺跡	中之条町折田成田原 2344	井	集落	道跡台帳 3062	48
98	成田原千貫遺跡	中之条町折田千貫 2859	縄・井	散布地	道跡台帳 3066	48
99	嵩山城址	中之条町五反田	中	城館	中世城館跡 760 中之条町指定史跡(昭和 63 年 3 月 26 日指定)	49
100	城峯城址	中之条町西中之条	中	城館	中世城館跡 756 中之条町指定史跡(昭和 63 年 3 月 26 日指定)	44・49
101	法満寺遺跡	中之条町中之条法満寺 2268	井	散布地	道跡台帳 3076	48
102	竹田遺跡	中之条町平 947	奈・平	集落		24

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考	参考文献
103	下戸高遺跡	中之条町平 727	弥・古・奈・平	集落		24
104	下平遺跡	中之条町平 2043	織・古・奈・平	集落、古墳、生産跡		23
105	寄居原遺跡	中之条町大塚壁谷 312	織	散布地	遺跡台帳 3067	48
106	東吉妻町小原 344 他	東吉妻町小原 344 他	織・古・奈・平・中	集落、古墳	古墳総覧 大田村 25	14+46
107	宮戸古墳群	東吉妻町小原宮戸	古	古墳		
108	市城古墳群	中之条町市城	古	古墳		
109	市城塔古道跡	中之条町市城塔本 768-1 他	弥・古・奈・平	集落、散布地		28
110	小泉天神遺跡	東吉妻町小泉天神 976 他	古・奈・平・中・近	集落、古墳		15+46
111	新登勝附古道跡	東吉妻町新登勝附 871-1 他	織・奈・平・中・近	集落		14
112	中峠城	東吉妻町植栗	中	城館		

参考文献

- 1 吾妻町教育委員会1979『金井庵寺遺跡』
- 2 吾妻町教育委員会1983『唐橋遺跡』
- 3 吾妻町教育委員会1985『郷原遺跡』
- 4 吾妻町教育委員会1992『上須賀遺跡』
- 5 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡 岩棚城跡一保有整理計画策定報告書一』
- 6 吾妻町教育委員会1994『岩棚城北道横群跡』
- 7 吾妻町教育委員会1994『念仏塚遺跡』
- 8 吾妻町教育委員会1996『善道寺前遺跡』
- 9 吾妻町教育委員会1998『前畠遺跡』
- 10 吾妻町教育委員会1998『生原遺跡』
- 11 吾妻町教育委員会1999『郷原遺跡』
- 12 吾妻町教育委員会2002『岩島 4号墳』
- 13 吾妻町教育委員会2004『諏訪前遺跡』
- 14 吾妻町教育委員会2003『町内遺跡 I 小泉宮戸遺跡』
- 15 吾妻町教育委員会2004『町内遺跡 II 小泉天神遺跡』
- 16 吾妻町教育委員会2006『町内遺跡 III 各種開発事業に伴う試掘確認調査報告書』
- 17 東吾妻町教育委員会2011『東吾妻町 下郷古墳群遺跡』
- 18 東吾妻町教育委員会2011『川戸橋原遺跡』
- 19 東吾妻町教育委員会2016『東吾妻町指定史跡 岩棚城跡一平成25年度第1次発掘調査報告書一』
- 20 東吾妻町教育委員会2018『東吾妻町指定史跡 岩棚城跡総合調査報告書』
- 21 東吾妻町教育委員会2020『厚田中村2遺跡』
- 22 中之条町教育委員会1982『天代瓦窯跡遺跡』
- 23 中之条町教育委員会1986『平遺跡群・下平遺跡発掘調査報』
- 24 中之条町教育委員会1988『平遺跡群・下平戸高遺跡・菅田遺跡』
- 25 中之条町教育委員会1999『伊勢町地区遺跡群・上原遺跡』
- 26 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『綿谷B遺跡』
- 27 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『下郷古墳群』
- 28 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『市城古本遺跡』
- 29 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『厚田中村遺跡』
- 30 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『平田中村遺跡』
- 31 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『印ノ山遺跡』
- 32 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『四つノ古墳群』
- 33 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐橋遺跡(1)』
- 34 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐橋C遺跡』
- 35 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『綿谷A遺跡・根古屋遺跡・根古屋B遺跡』
- 36 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『唐橋遺跡(2)』
- 37 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『万木沢B遺跡』
- 38 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『根小山城跡』
- 39 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『新井遺跡』
- 40 吾妻教育会1929『群馬縣吾妻郡誌』
- 41 太田村誌編集委員会1965『あがつま太田村誌』
- 42 杉原社介1968『群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址』『考古学集刊』第3巻4号 東京考古学会
- 43 岩鳥村誌編集委員会1971『岩鳥村誌』
- 44 山崎 一1972『群馬県古城遺址の研究』下巻 群馬県文化事務振興会
- 45 山崎 一・山崎武雄1972『吾妻郡城史』西毛新聞社
- 46 群馬県1938『上毛古墳総覧』
- 47 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編2原始古代2 群馬県
- 48 群馬県教育委員会1972『群馬県道路台帳・西毛編Ⅱ』
- 49 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 50 群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』
- 51 群馬県教育委員会事務局文化財保護課2012『群馬県内公共開発に伴う平成22年度県内道路発掘調査報告書』
- 52 群馬県総合型地理情報システム(GIS)マッピングぐんま「道路」

第3節 遺跡の基本土層

令和2年・3年度の調査区は、南北に長く、南側の令和2年度調査区においては、榛名山の北側の火山麓に接している。そのため、南側からの浸食を受けやすく、土層の堆積状況も一様でない。各地点ごとの基本土層図を掲げて概観しておきたい。年代や調査面の指標となるテフラの堆積もばらつきがあり、その層様にもばらつきが認められる。

R2年調査区2号トレンチ(E-E')

堆積状況の安定している2号トレンチの土層図では、3層から表記されているが、1層は、表土・土地改良時の客土であった。2層に浅間柏川テフラ(As-Kk)及び浅間Bテフラ(As-B)（以下As-Kk・As-Bと省略する）の1次または2次堆積層が認められた。3層が水田耕作土となる標準的な土層で、畦畔状の高まりや水流の痕跡が確認されている。4層が暗褐色粘質土で砂粒や小礫の混入（4A・4B層）が認められるものである。水田土壤の基底をなす4層下は、砂礫層（0.3～0.8mの礫が混入する）となり、灰白色粘土層に達する地点も認められた。この調査区においては、令和3年度調査で確認された榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)や榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)（以下Hr-FP・Hr-FAと省略する）由來の堆積物の確認には及ばなかった。

1区南東隅基本土層(A-A')

表土・土地改良客土下の3層は、Hr-FA由來の泥流堆積物（洪水堆積物）と思われ、4層のHr-FA 1次堆積土となる。5・6層は粘質の黒褐色土となり、水田土壤に該当する。

2区北 東壁基本土層(B-B')

表土下1層は、As-Kk混土暗褐色土、II層Hr-FAブロック混入にぶい黄褐色土、Hr-FA主体層のIII層になる。IV層縄文時代の遺物包含層、VI層への漸移層のV層、VI～VII層はそれぞれ旧石器基本土層のI層下面・II層・IV層に相当する。

2区南壁基本土層(C-C')

I・2層はAs-Kk混土層で、3層はAs-Kk 1次堆積土、5層はAs-B 1次堆積層で4層は細粒の黒色土である。6層の水田耕作土下層の7・8層は洪水層となり、

Hr-FP由來の灰層である9層が認められる。10層の黒褐色土下の11層はHr-FAの2次堆積土、12層はHr-FAの1次堆積土となる。縄文時代の遺物を含む13層、14層のローム質土となる。

2区旧石器基本土層(D-D')

最下層の礫を多量に含む青灰色粘土及びシルト質火山灰青灰色土層（IX・VII層）を基底に、固くしまる砂質グラナイト土（浅間板鼻黄色輕石：As-YPKが含まれるか：VII層）及びシルトまたは細砂で構成されるVI層、黄色粒子（輕石）を含む粘性の黄褐色土（V層）、マンガンまたは鉄分の凝集が認められ、泥流堆積物と思われる黄褐色土（IV層）、ローム漸移層的（I・II・III層）の層序で構成される。I層上面は、縄文時代晚期の遺構確認面となっており、II層より下層では、遺構が確認されていない。III・V層は、粘質の暗褐色土または黄褐色土であり、水成堆積を示している。泥流堆積物の可能性が高いIV層、VII層～IX層についても細砂・シルト層、礫を多量に含む礫層などであることから、地層的・地形的な安定感に欠けると考えられる。

遺跡の土層堆積状況概要

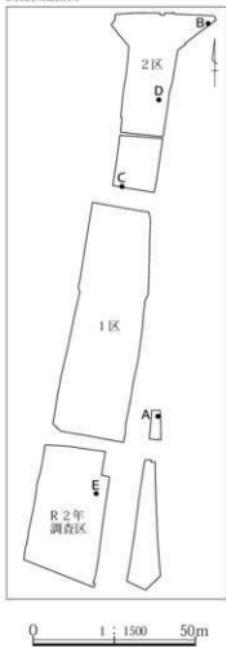
本遺跡地の土層の堆積状況は、先にも述べたように、南側に榛名山麓の丘陵を抱えていることから、度重なる浸食を受けたことが明らかとなった。

植栗山根A遺跡において確認されたテフラは、火山灰分析結果で明らかにされたように、下位層から始良Tn火山灰、浅間大窪沢テフラ(As-0k1・2)、浅間板鼻黄色輕石(As-YPK)などのテフラが確認された。

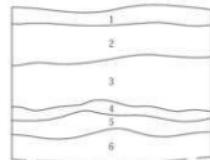
また、1区南側では、浅間Cテフラ(As-C)が混在する暗褐色泥層を基底にHr-FA及びHr-FA火山泥流堆積物の堆積のみならず、1区北側ではHr-FA由來の火山泥流堆積物の上位に榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)の火山灰層やその上位の洪水層の確認がなされた。

Hr-FP由來の洪水層と考えられる堆積物が確認されたことは、きわめて重要であり、吾妻川流域におけるHr-FP降下の実相究明の手掛かりになると考えられる。

調査区配置図



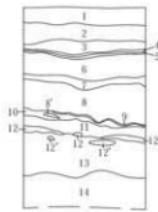
1区南東端基本土層

A L=362.50m

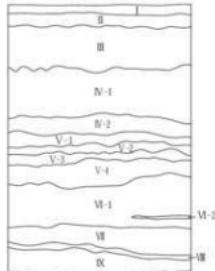
2区北 重堅基本土層

B L=369.50mB'

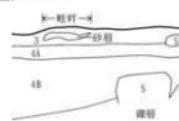
2区南壁基本土層

C L=361.50mC'

2区北壁基本土層

D L=360.00mD'

R 2年調査区 2号トレンチ

E L=363.10mE'

0 1:40 1m

第5図 各地点の基本土層図

第2章 遺跡の立地と周辺の遺跡

1区南東隅基本上層A-A'

1. 10YR3/4 にぶい黄褐色土 現況水田耕上
2. 10YR4/4 褐色土 土地改良に伴う客土。As-Kl多量に含む。
3. 10YR5/1 暗緑褐色土 きめ細かなシルト質の土壤中(Hr-FAと思われる)に5~30mmの円礫を多量に含む。3層上面は酸化する部分がある。
4. 7.5GY6/1 緑灰色土 Hr-FA1 次堆積層と思われる。
5. 10YR2/3 黒褐色土 きめ細やかな粘質土。植物片を多く含む。2面の上面。
6. 10YR3/2 黒褐色土 5層中にφ 5mm程度の礫や植物片を多く含む。

2区北 東壁基本上層B-B'

表土 10YR3/4 暗褐色土 As-Klを多く含む。表土層。

I. 10YR3/3 暗褐色土 As-Kl含む。90%以上がAs-Kl

II. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 褐色土中にFAを現状に含む。

III. 10YR5/6 黄褐色土 FAを主体とする。

IV. 10YR2/2 黒褐色土 黒色土中に黄色軽石を含む。細かな白色粒子や黄色粒子を含む。縄文時代の遺物包含層。

V. 10YR3/3 暗褐色土 IV層とVI層の漸移層

VI. 10YR5/6 黄褐色土 和粧黄色軽石を含む。2区旧石器基本上層のI層下面に相当。

VII. 10YR5/6 黄褐色土 旧石器基本上層II層に相当。

VIII. 10YR5/6 黄褐色土 旧石器基本上層IV層に相当。VII層とVIII層の間には旧石器基本上層Ⅲ層としたチョコレート色の粘質土がある。

2区南壁基本上層C-C'

1. 10YR3/4 暗褐色土 表土。As-Kl含む。

2. 10YR3/4 暗褐色土 中近世耕作土か。As-Kl含む。

3. 10YR4/2 灰黃褐色土 As-Klの1次堆積層 φ 1~5mmの軽石層

4. 10YR3/1 黒色土 As-Kl & As-Bの間に黒色土。きめ細かで粘性強い。

5. 10YR5/1 黒褐色土 As-B 1次堆積層。きめ細かな灰層と最大1cmを超える軽石を含む。

6. 10YR4/1 黒褐色土 粘性の強い土。As-Bをぐるわずに含む。水田の耕作土か。

7. 10YR4/4 黒褐色土 砂粒φ 5mmの黄色軽石を少し含む。洪流水層と思われる。

8. 10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性の強い土。洪流水層と思われる。白色粒子を少し含む。

8'. 10YR6/2 灰黃褐色土 8層下層のきめ細かな土のブロック上。

9. 10YR6/2 灰黃褐色土 層厚最大1cmのFPと思われる。上層のきめ細かな火山灰層。

10. 10YR3/2 黒褐色土 8層や9層の土を含む。

11. 10YR5/2 灰黃褐色土 Hr-FAの2次堆積層と思われる。φ 5mm程度の礫を含む。

12. 5Y5/4 オリーブ色土 Hr-FAの1次堆積層と思われる。

12'. 5Y5/4 オリーブ色土 Hr-FAのブロック上。

13. 10YR2/2 黒褐色土 きめ細かな黒色土中に小礫を少し含む。縄文時代の遺物を含む。

14. 10YR3/4 暗褐色土 地山の雨堆積ローム質土壤。粘性強く固くしまる。

2区旧石器基本上層D-D'

I. 10YR3/3 暗褐色土 φ 1cm程度の黄色軽石を特徴的に含む。I層上面が縄文時代の遺構確認画。他にも細かな白色粒子や黄色粒子を含む固くしまる。

II. 7.5YP4/4 褐色土 φ 1~5mmの褐色の軽石を含む。

III. 7.5YP4/4 暗褐色土 チョコレート色の粘性の強く固くしまった上層。黄色や白色の細かな粒子を少し含む。

N-1. 10YP5/6 黄褐色土 粘土質の黄褐色土中に1cm程度の小礫を多く含む。黄色の粒子も多く含む。泥流による上層。

N-2. 10YP5/4 にぶい黄褐色土 IV-1層に似るが色調が薄い。黄分の凝縮した層が入る。IV-1層に入る。IV-1層に比べて泥の混入が多い。

V-1. 10YP5/5 にぶい黄褐色土 φ 2mmの黄色粒子を少し含む。粘性強い。

V-2. 10YP4/4 黑褐色土 V-1に似る黄色軽石のブロックを含む。

V-3. 10YP5/3 にぶい黄褐色土 V-1に似るが色調が明るい。

V-4. 10YP5/3 にぶい黄褐色土 V-3に似るが若干グラウイ化する。砂粒を多く含む。

VI-1. 5GY6/1 オリーブ灰色土 きめ細かな砂粒を主体としグラウイ化している。

VI-2. 5GY6/2 黑褐色土 きめ細かな砂粒を主体とする。

VII. 5BY4/1 喷青灰色土 固くしまった砂粒を主体としグラウイ化は著しい。As-YPKの可能性が高い。

VIII. 5BG6/1 青灰色土 砂質の粗粒火山灰土を主体とする。

X. 5BG6/1 青灰色土 粘土質が土中に礫を多量に含む。

R2年調査区2号トレーンE-E'

3. 10YR2/1 黒褐色粘質土 標準土

4.A. 3に多量の砂粒(φ 1~5mm)が混じる。

4.B. 4.Aに砂粒(φ 2~3mm)を加えたもの。

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

植栗山根A遺跡の発掘調査は、令和2年度、令和3年度の2カ年度にわたって実施された。本遺跡は、一般県道植栗伊勢線と県道35号渋川東吾妻線の丁字路交差点（植栗）の南側に広がる。本遺跡地は、吾妻川右岸の上位段丘上、吾妻川の支流である大泉寺川右岸の台地上にあり、あたりは土地改良事業が実施されているため、整然とした水田が広がっている。

令和2年度の発掘調査は、植栗信号の200m南側、榛名山北麓の丘陵となる地形変換点付近の面積1541.99m²の調査範囲を調査した。表土（30～40cm）下から、部分的ではあるが浅間柏川テフラ（As-Kk）またはAs-Bの1次堆積が認められた。浅間柏川テフラ（As-Kk）下は、水田土壤（水田面）及び畦畔状の高まりや溝状の落ち込みが確認され、調査した。調査範囲の大半は、土地改良工事や丘陵の縁辺部であることに起因する堆積土壤の流失（榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FF）や榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）由来の火山泥流堆積物による）などもあって、十全な調査とはならなかった。浅間柏川テフラ（As-Kk）下の水田面の1面調査となった。

整理作業では、令和3年度の調査結果をもとに、浅間柏川テフラ（As-Kk）・As-B下の面を第2面とした。

令和3年度の発掘調査においては、令和2年度調査区（R2年調査区）同様浅間柏川テフラ（As-Kk）またはAs-B下の水田面及び畦畔状の高まりが確認されている。また、As-Kk・As-B下の水田面を削る溝が6条確認された。竹管を用いた暗渠であったり、近世陶磁器を作出することから、B軽石混土を覆土とするものの、近世以降の所産と考えた。B軽石混土を覆土とする溝を1面の遺構として扱い、浅間柏川テフラ（As-Kk）・B軽石下の調査面を2面扱いとした。

3面扱いの遺構は、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）下の水田面（跡）と水田に伴う溝が3条、古墳時代の竪穴建物・土坑・ピット・遺物集中等の遺構である。竪穴建物は6棟、土坑2基、ピット2基がある。水田・溝・

土坑は1区、竪穴建物・土坑・ピット等は2区で確認できた。6棟の竪穴建物のすべての覆土中に榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）が確認できた。カマドを作うものは2棟あり、他の4棟は調査区外に存在する可能性が高いが、確認が取れていない。カマドの残存状態の良好で豊富な遺物が出土した4号竪穴建物や、床下から赤色顔料の出土した2号竪穴建物などが注目されるところである。1号遺物集中では、明確な掘り込みが確認できなかつたが、遺物の豊富さから遺構として取り上げた。土坑・ピットについては、確認面と覆土の様相から3面扱いとした。

2区から発見された4面相当の遺構は、竪穴建物2棟、石垣炉1基、土坑62基、ピット52基であった。繩文時代中期から晩期にかけての遺構・遺物と考えられる。2棟の竪穴建物は、いずれも繩文晩期前半の所産と考えられるもので、7号竪穴建物からは、炭化物とともに多量の焼骨が出土している。出土遺物についても、大洞C式期の土器が出土し、注目されるところである。土器の分布図等の実相解明が史料の蓄積とともになされることが期待されよう。

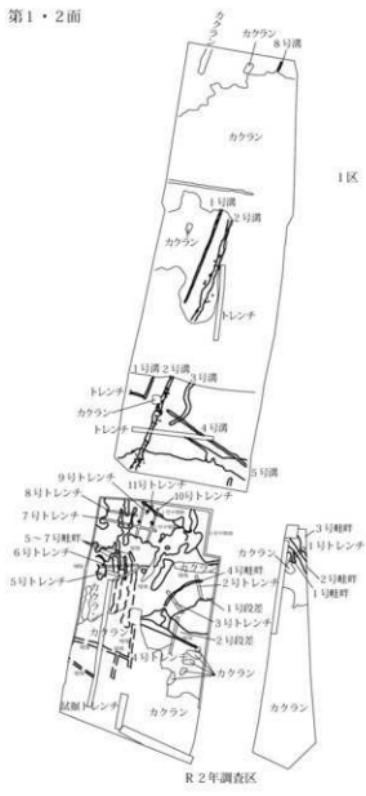
第2節 旧石器時代

植栗山根A遺跡から旧石器時代に所属する遺構・遺物は発見されなかった。関東ローム層の堆積状況に鑑み、令和3年度、2区において、旧石器トレンチ調査を2カ所で実施した。トレンチは、5×5mのグリッド（基準点にそった任意のグリッド）を設定し、調査した。また、基底層までの堆積状況確認のため、安定した堆積状況が期待できる2区北側において、旧石器基本土層の確認トレンチ掘削調査を行った。

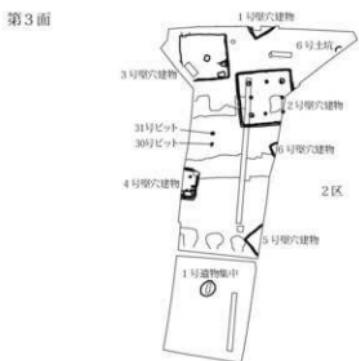
旧石器基本土層の掘削調査では、礫を多量に含む青灰色粘土及びシルト質火山灰青灰色土層（IX・VII層）を基底に、固くしまる砂質グライ化土（浅間板鼻黄色輕石：As-YPKが含まれるか：VII層）及びシルトまたは細砂で構成されるVI層、黄色粒子（輕石）を含む粘性の黄褐色土（V層）、マンガンまたは鉄分の凝集が認められ、泥流堆

第3章 発見された遺構と遺物

第1・2面



第3面



第4面



第6図 各面の遺構

0 1 : 800 20m

植物と思われる黄褐色土（IV層）、ローム漸移層の（I・II・III層）の層序で構成されることが確認された。

I層上面は、縄文時代晚期の遺構確認面となっており、II層より下層では、遺構が確認されていない。III・V層は、粘質の暗褐色土または黄褐色土であり、水成堆積を示している。泥流堆積物の可能性が高いIV層、VI層～IX層についても細砂・シルト層、礫を多量に含む疊層などであることから、地層的・地形的な安定感に欠けると考えられ、旧石器トレンチ調査の結果も踏まえ、III層より下位では遺構・遺物の出土の可能性が極めて低いと判断された。

旧石器トレンチ調査

旧石器トレンチ調査は、これまでにすべての調査区で4面調査を終えていることもあって、縄文時代の遺構確認面からの掘削となった。すなわち、ローム漸移層下位層もしくは上部ローム上面からの掘削であった。旧石器基本土層のIV層までの調査であったが、遺構・遺物の発見には至らなかった。

1号旧石器トレンチ

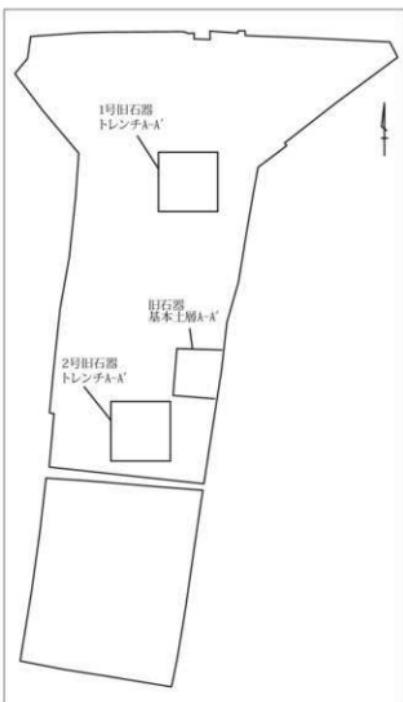
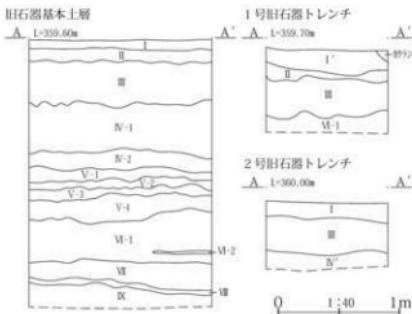
位置 X=64,021～64,025・Y=-87,171～-87,175

所見 細石刃石器・小剥片石器等出土も想定し、慎重に作業を進めたが、遺構・遺物の出土はなかった。旧石器基本土層のI'・II・III・IV'層の層順が確認された。

2号旧石器トレンチ

位置 X=64,000～64,004・Y=-87,175～-87,179

所見 調査区の関係もあって、掘削面積は多少少なかつた。1号トレンチ同様出土遺物はなかった。旧石器基本土層のI'・III・IV'層の層順が確認された。



旧石器基本土層・1号旧石器トレンチ・2号旧石器トレンチ

- I 10TP5/3 暗褐色土 φ10mm程度の黄色軽石を特徴的に含む。1層上面が縄文時代の遺構確認面。他にも細かな白色粒子や黄色粒子を含み固くしまる。
- I' 10TP5/6 黄褐色土 1層に似るが粗粒軽石が多くφ50mm程度の円礫を含み、層よりも色調が明るい。
- II 7.5TP4/4 褐色土 φ1～5mmの褐色の軽石を含む。
- III 7.5TP4/4 暗褐色土 チョコレート色の粘性の強く固くしまった土層。黄色や白色の細かな粒子を少し含む。
- IV-I 10TP5/6 黄褐色土 粘土質の黄褐色土中に10mm程度の小礫を多く含む。黄色の粒子も多く含む。泥流による土層。
- IV-2 10TP5/4 にぶい黃褐色土 IV-1層に似るが色調が薄い。鉄分の凝縮した層が入る。IV-1層に入る。IV-1層に比べ隕の混入が少ない。
- IV' 10TP5/6 黄褐色土 IV層に似るが褐色の軽石を含み色調も明るい。
- V-I 10TP5/5 にぶい黃褐色土 φ2mmの褐色粒子を少し含む。粘性強い。
- V-2 10TP4/4 褐色土 V-1に似るがV-1に似るが色調が明るい。
- V-3 10TP5/3 にぶい黃褐色土 V-1に似るがV-3に似るが若干グラウ化する。砂粒を多く含む。
- V-4 10TP5/3 にぶい黃褐色土 V-3に似るが若干グラウ化する。砂粒を多く含む。
- VI-I 50Y6/1 オリーブ灰褐色土 きめ細かな砂粒を主体としグラウ化している。
- VI-2 50Y6/2 灰褐色土 きめ細かな砂粒を主体とする。
- VII 58A/1 暗青灰色土 固くしまった砂粒を主体としグラウ化は著しい。As-YPKの可能性が高い。
- VIII 58E/1 青灰色土 砂質の細粒火山灰を主体とする。
- IX 58E/1 青灰色土 粘土質が土中に礫を多量に含む。

第7図 旧石器時代の基本土層

第3節 繩文時代

植栗山根A遺跡で発見された4面（概ね縄文時代）の遺構は、竪穴建物2棟、石圓炉1基、土坑62基、ピット52基を数える。いずれの遺構も調査2区からの発見であった。出土遺物は、遺物収納コンテナ箱に土器類13箱、石器類10箱が出土した。ここでは、遺構ごとに詳細を記述したい。

1 竪穴建物

2区南側の調査区から2棟の竪穴建物が発見された。2棟の竪穴建物は、建物範囲の全面が調査されてはいないものの、7号竪穴建物については、南東コーナー部が未調査ではあるが、規模形状等を類推することはほぼ可能である。8号竪穴建物は調査区外の部分が多く、竪穴建物プランの東辺部の一部の調査にとどまっている。いずれの竪穴建物も縄文時代晚期前半の土器群を伴出している。

7号竪穴建物（第9～24図 PL. 4～6・22～30）

位置 X=63,984～64,991・Y=-87,173～-87,180

平面形状 試掘調査によるトレンチによって、炉及び北東コーナー部が一部欠失するが、ほぼ方形とみなすことができる。南北方向がわずかながら長く、南側の掘り込み幅が膨らむ傾向が見て取れる。遺構確認面からの掘り込みは、きわめて浅い。

規模 西壁長6.22m 北壁長5.94m 壁高0.1～0.32m

現存床面積 (14.36) m² **長軸方位** N-27°-W

埋没状況 覆土を概観的に見ると、被熱した大量の礫（径0.1～0.3m）、炭化物・炭化材、獸骨・獸骨片、土器片、石器・剥片石器が粘質の黒褐色土に包含され、埋土として充填されている状況にある。これらの出土遺物は、床面及び床面付近からの出土である。被熱した礫群は、竪穴建物プランの南側に集中する傾向があるが、出土遺物や獸骨についても南側に集中しており、その傾向を一にしていている。

床面 概ね平坦であるが若干の起伏が認められる。明らかな硬化面は確認されていないが、床面の焼土化した部分の広がりと炭化材・炭化物・骨片の広がりが確認され

ている。焼土化した床面は広範囲に点在し、堆積した焼土ではなく、床面が焼土化したものという調査所見が得られている。

柱穴 ピットは計7基確認できた。いずれのピットも円形または長円形で、深く掘り込まれ安定したものであった。P5・P6は、南壁の中央部に穿たれたもので、出入り口部の構造物に関係するものと理解される。P1・P2・P4・P7は主柱穴に想定されるが、P2に代わってP3が主柱穴という考え方や建て替えまたは補助的な役割を持たせたという考え方とも可能である。P1・P4・P5・P6においては、獸骨と思われる骨片が含まれていた。各ピットの計測値は、一覧表（第4表）にある。

炉 本調査前の試掘調査によって、東側の半分が欠失してしまったため、その全容は明らかでない。炉の形状は、現況から推測すると長軸1.56m×短軸(1.1)mの長円形を呈し、深さは床面から0.18mほど掘り込まれている。住居覆土である1層下には、炭化物・焼土粒子を多く含む暗褐色土があり、炉の覆土を構成している。覆土下の炉の使用面は、焼土面の広がりによって確認された。使用面と考えられるこの焼土面は、厚さ0.06～0.07mを計り、焼土化した地山であり、長時間にわたる使用的痕跡といえる。

出土遺物 出土遺物は極めて多い。土器類は、圧倒的に粗製土器が多く、精製土器は少ない傾向にある。深鉢を中心に、壺・鉢・注口土器・台付土器・ミニチュア土器・土製円盤など132点を図示した。

出土土器は晚期前葉の安行3b式～3c式期が主体を占めるが、後期末葉から晚期中葉までの土器も少量含まれていた。後期末葉では高井東式や安行2式、越後地域の福付土器第IV段階などが認められ、晚期初頭の安行3a式も少量出土している。晚期前葉では天神原式古段階～新段階、越後地域の大洞B-C式～C1式や信濃地方の佐野1a式、および北陸地方の中谷2式なども少量ではあるが認められ、比較的広範囲な地域のものが到達している状況がわかった。

石器類は、石鏃を主体とする打製石器類が34点、磨石を主体とする磨製石器類が32点、石製品類が6点、剥片類が1073点出土している。そのうち、石鏃8点、石鏃未成品10点、剝器2点、石錐1点、磨製石斧1点、磨石類9点、石皿3点、台石6点、砥石4点、赤色顔料が付着

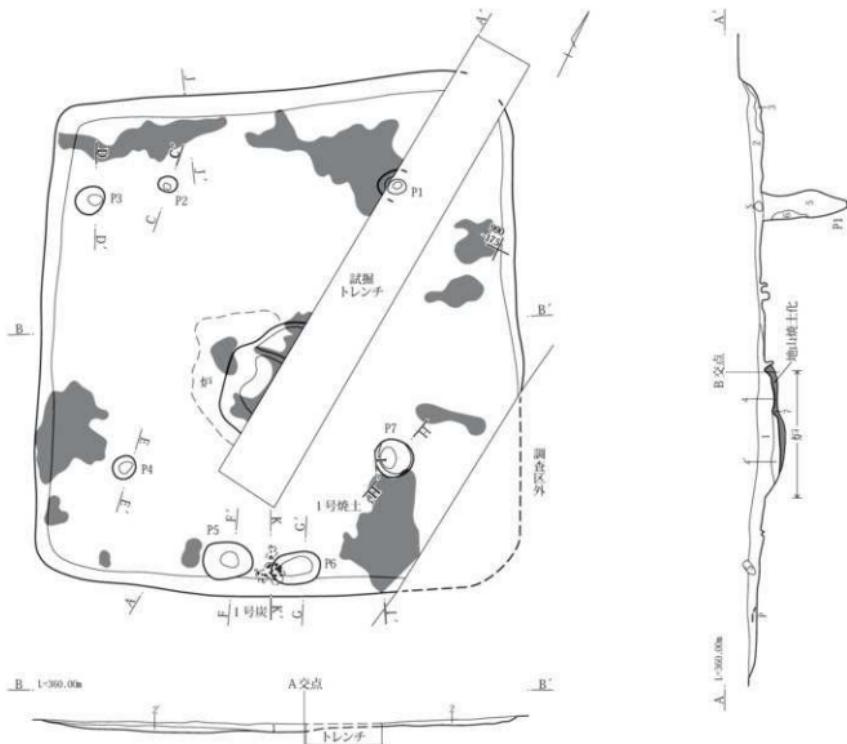


第8図 4面全体図（2区）

した小さな球状円碟1点、石剣1点、玉1点、岩板2点、石錐1点、多孔石1点、軽石製品2点、軽石の原石1点の合計54点を図示した。

この中から注目すべき石器として、赤色顔料が付着した台石3点（167・171・172）と球状円碟1点（177）を

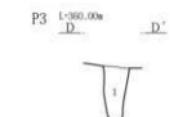
挙げたい。赤色顔料の精製や使用に関わることを想定させる道具類がセットで出土した事例は貴重である。また、本竪穴建物出土の台石は厚手のものと薄手のものがあり、いずれも小さく分割されたような形状のものが多い点も注目しておきたい。



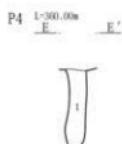
1. 10YR2/2 黒褐色土 被然とした礫、炭化物、獸骨、土器片を多く含む。粘性強い。
 2. 10YR3/2 暗褐色土 1層に似るが含まれる炭化物や獸骨が少なくローム粒を含む。
 - 2'. 10YR3/3 暗褐色土 地山のローム層と塊を主体とする。
 3. 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを主体とする。
 4. 10YR3/3 暗褐色土 かの覆土、炭化土と焼土粒を多く含む。
 - 4'. 10YR4/4 褐色土 粘性の強いローム質の上。即ち、炉の覆土。
 5. 10YR3/3 暗褐色土 2層に似る。ピットの覆土。ローム粒を含む。粘性強い。
 6. 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを主体とする。ピットの覆土。
 7. 2.5YR4/6 褐色土 かの熱により地山が焼化した上層。

P2 L=360.00m C C'

1. 10YR3/2 黒褐色土 焼上粒を少し含む。固くしまる。
 2. 10YR3/4 暗褐色土 白色粒子を少し含む。固くしまる。



1. 10YR3/2 黒褐色土 塗土粒や炭化物。ロームを多く含む。固くしまる。



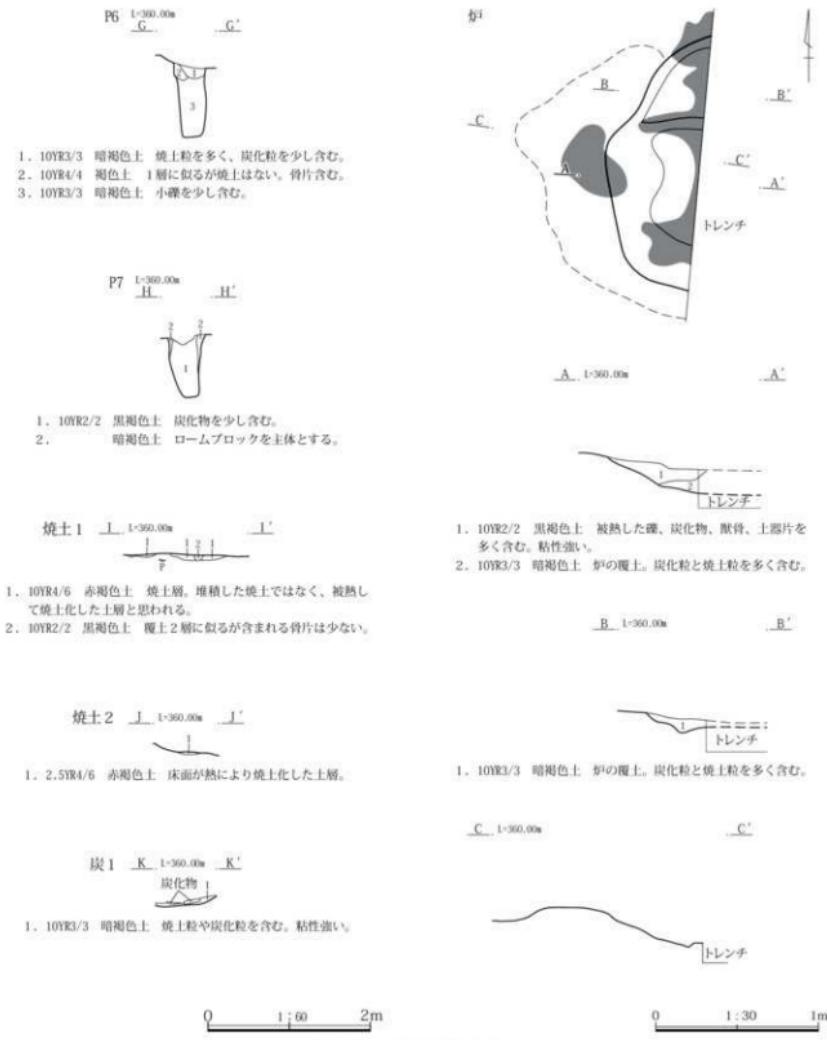
1. 10YR3/2 黒褐色土 炭化物
や骨片を含む。固くしまる。



1. 10YR3/2 黒褐色土 炭化物や骨片を含む。固くしまる。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 1層に似るが骨片を含む。

0 1 : 60 2m

第9図 7号竪穴建物（1）

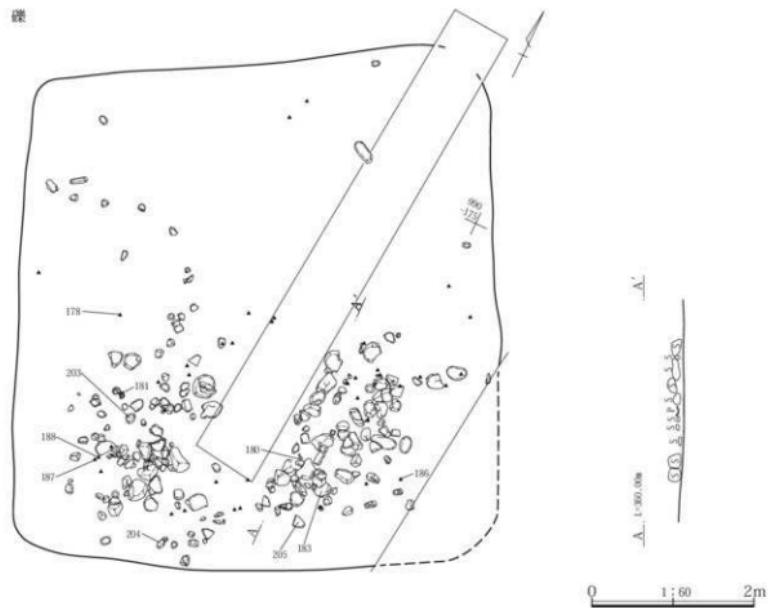


第10図 7号竖穴建物 (2)

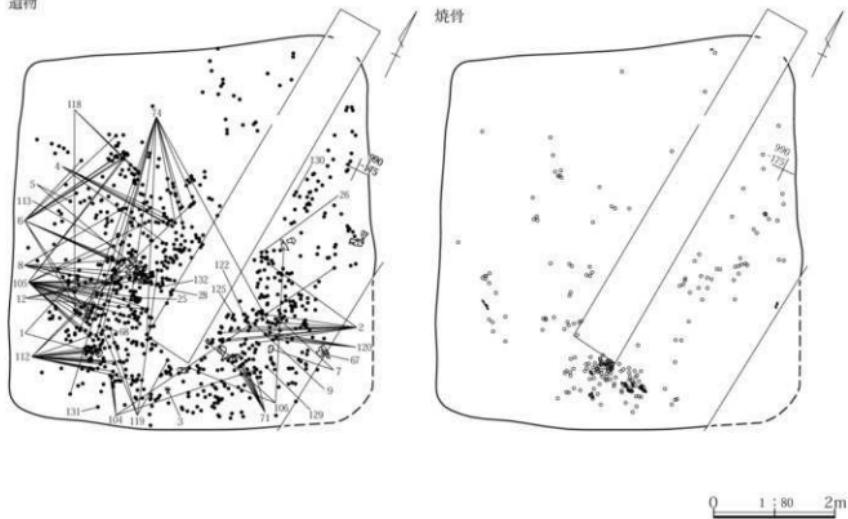
調査所見 出土遺物から本竖穴建物は晩期前葉の安行3b式～3c式期に比定しておきたい。西側コーナー部のP2とP3がややずれているが、4本の主柱穴をもつ方形の建物で、南東側の壁面中央にあるP5とP6が出入り口に該

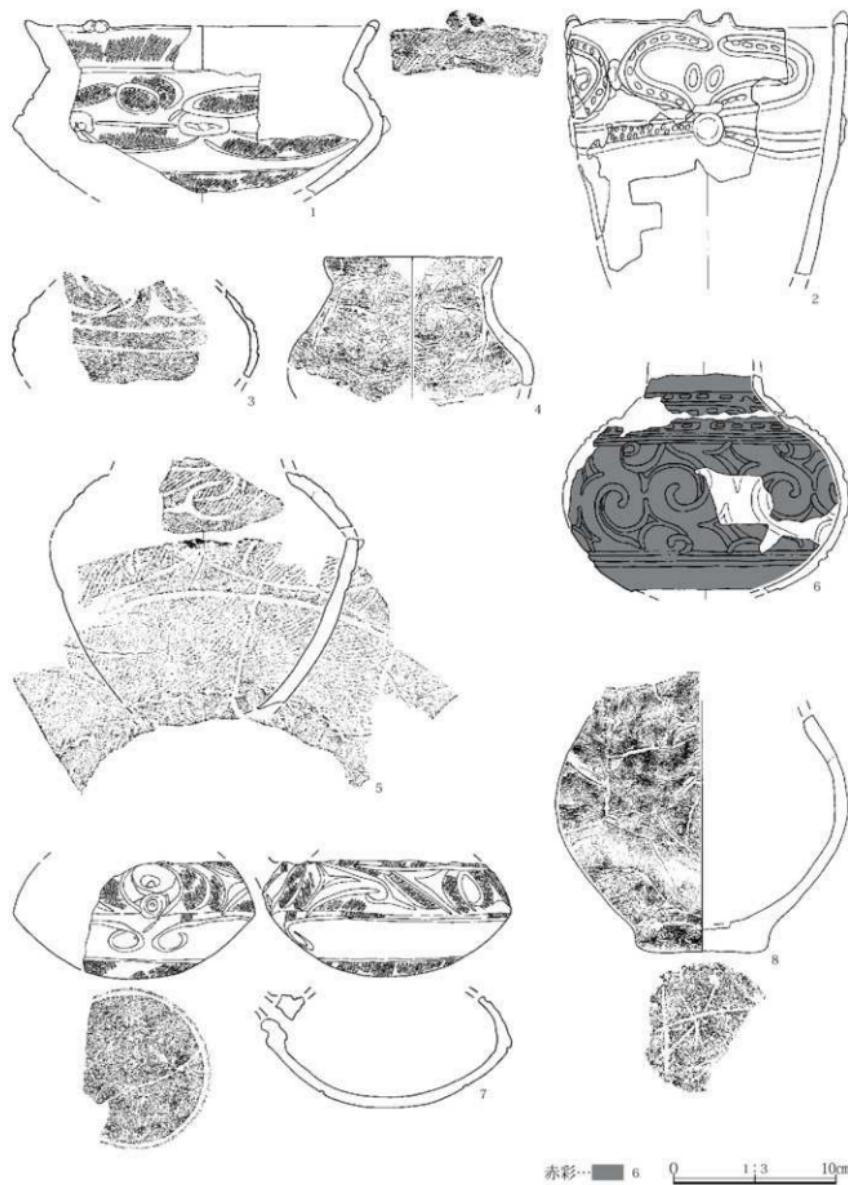
当するものと考える。床面が焼土化している竖穴建物は、県内では棟東村茅野遺跡が有名であり、近県では埼玉県加須市長竹遺跡でも確認されている。この時期の一つのパターンなのである。

礫

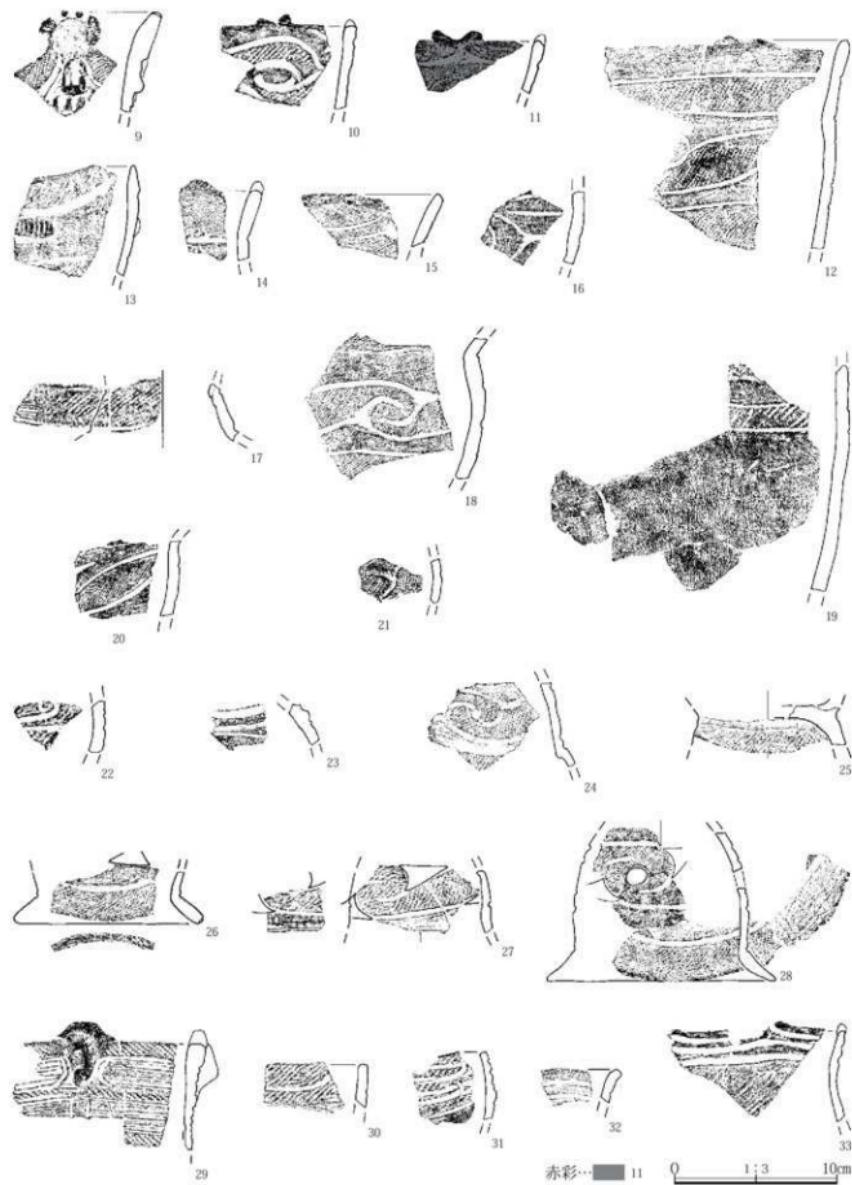


遺物





第12圖 7号竪穴建物出土遺物（4）



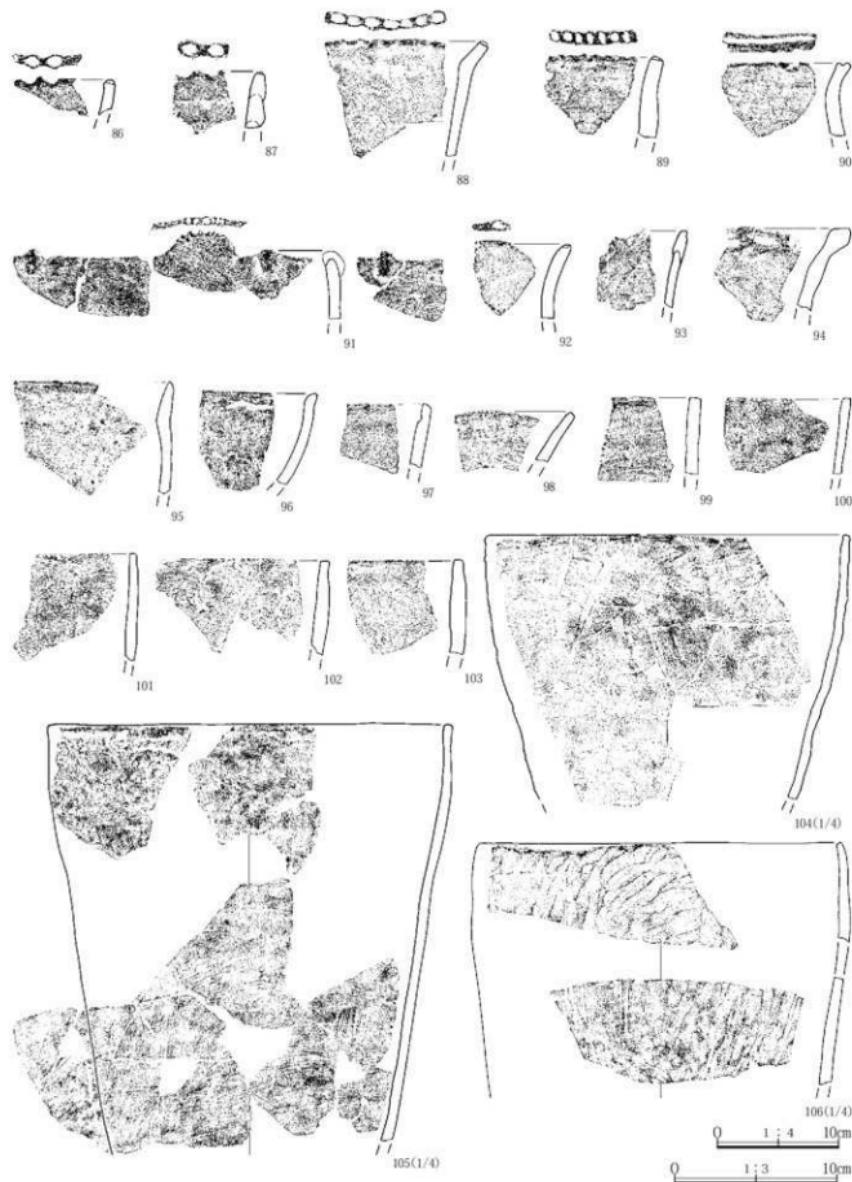
第13図 7号竪穴建物出土遺物（5）



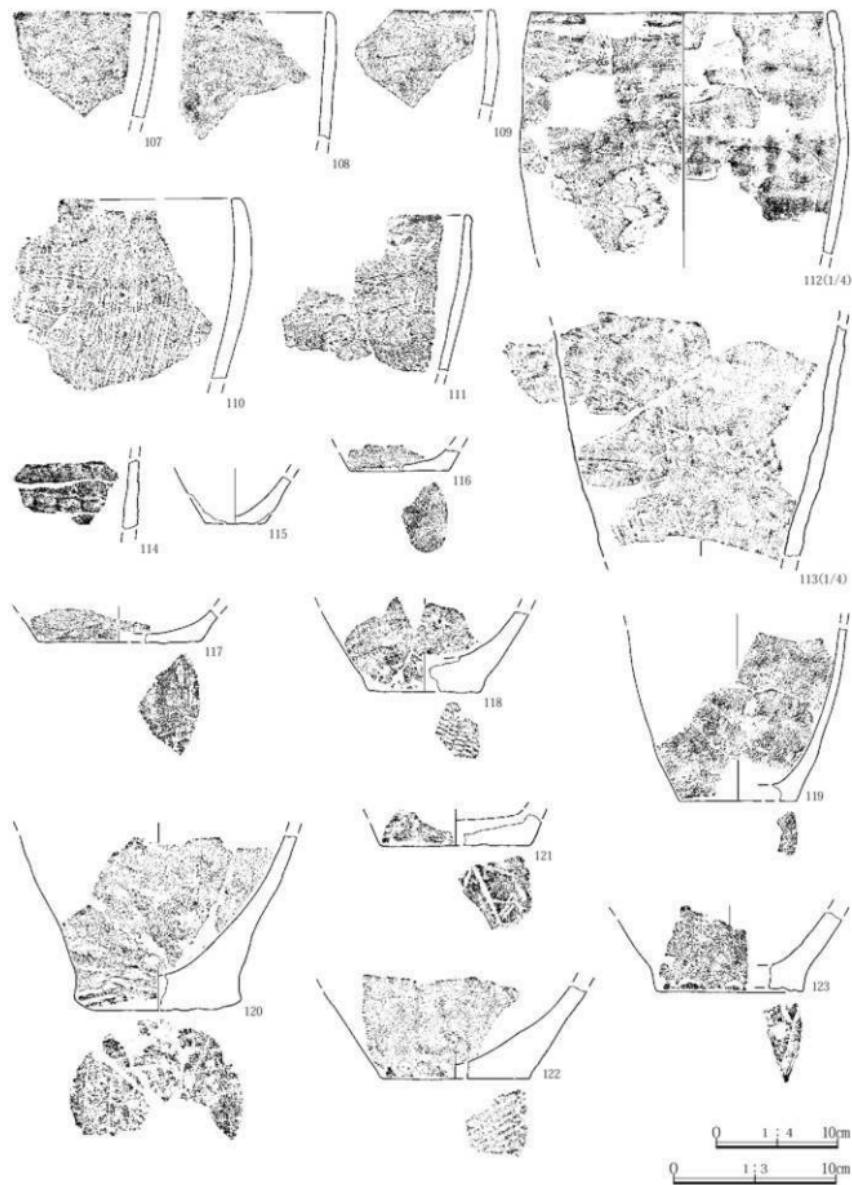
第14図 7号竪穴建物出土遺物（6）



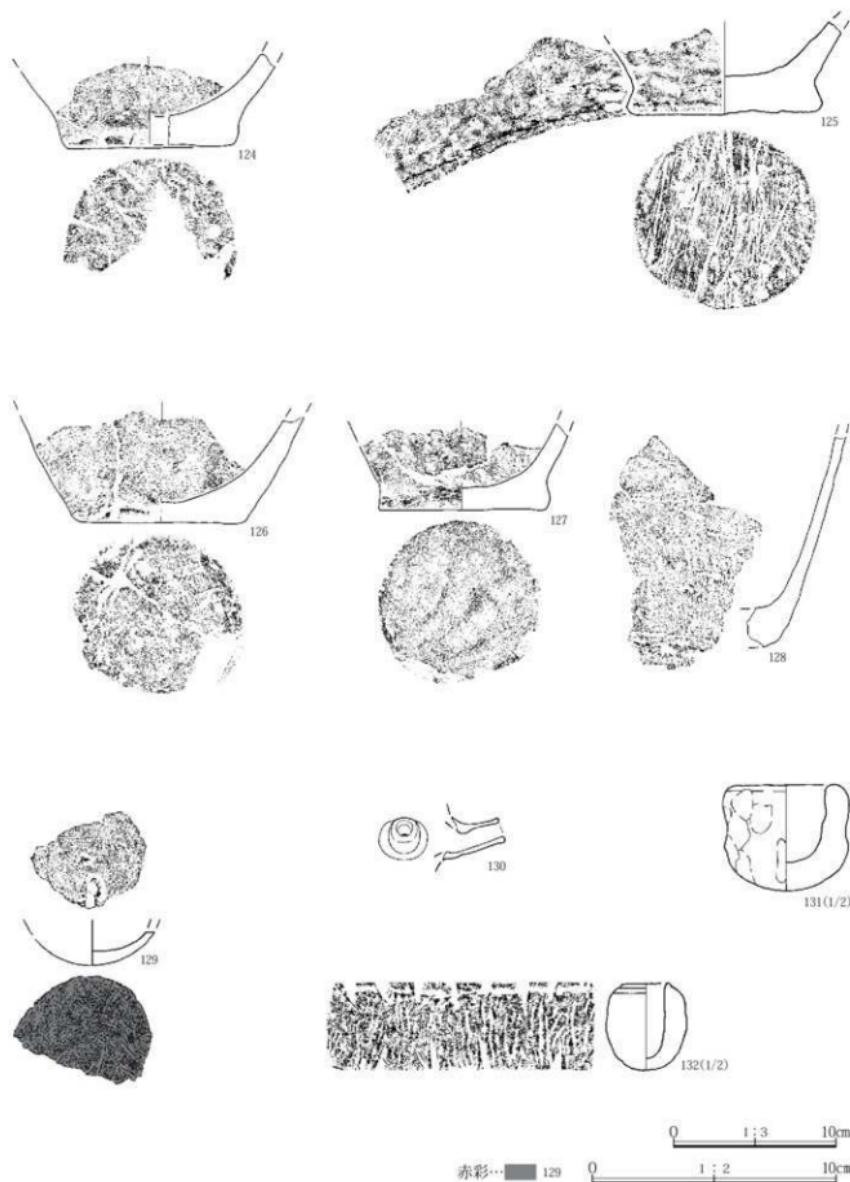
第15図 7号堅穴建物出土遺物（7）



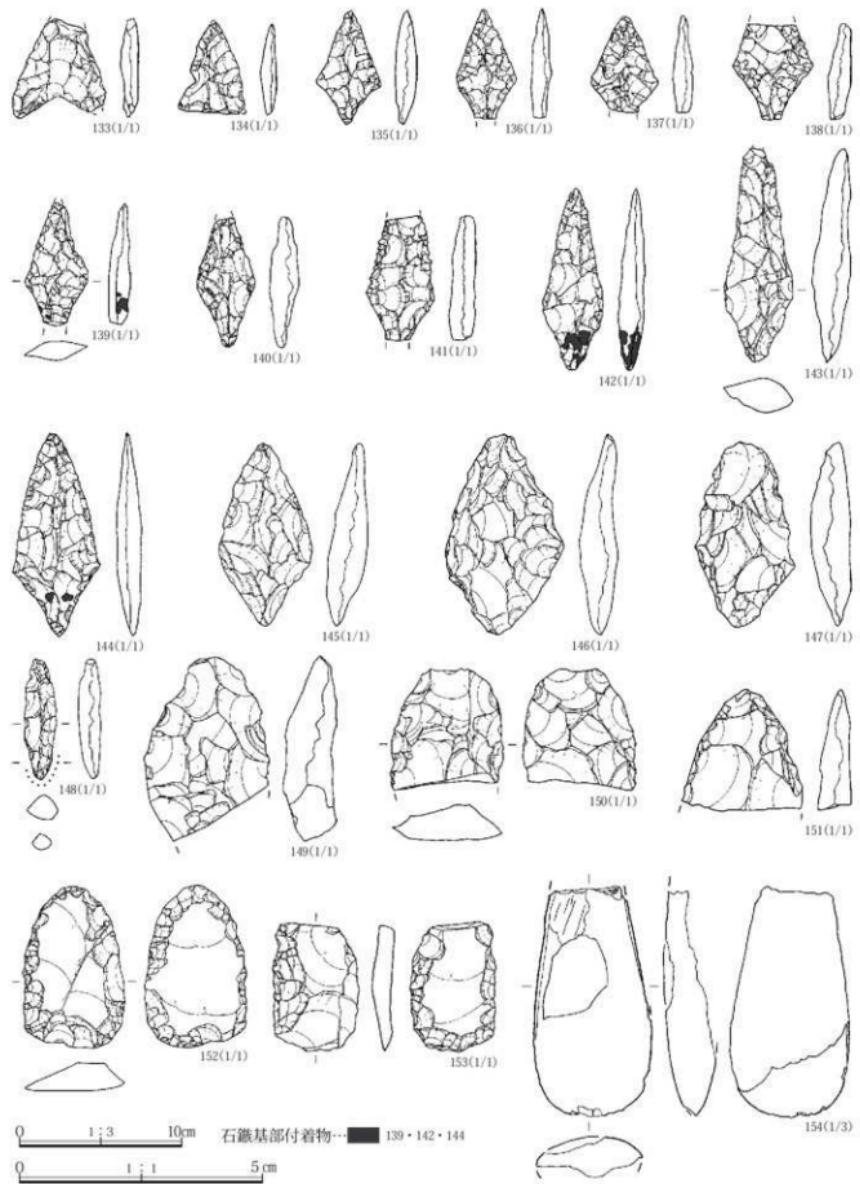
第16圖 7号竪穴建物出土遺物（8）



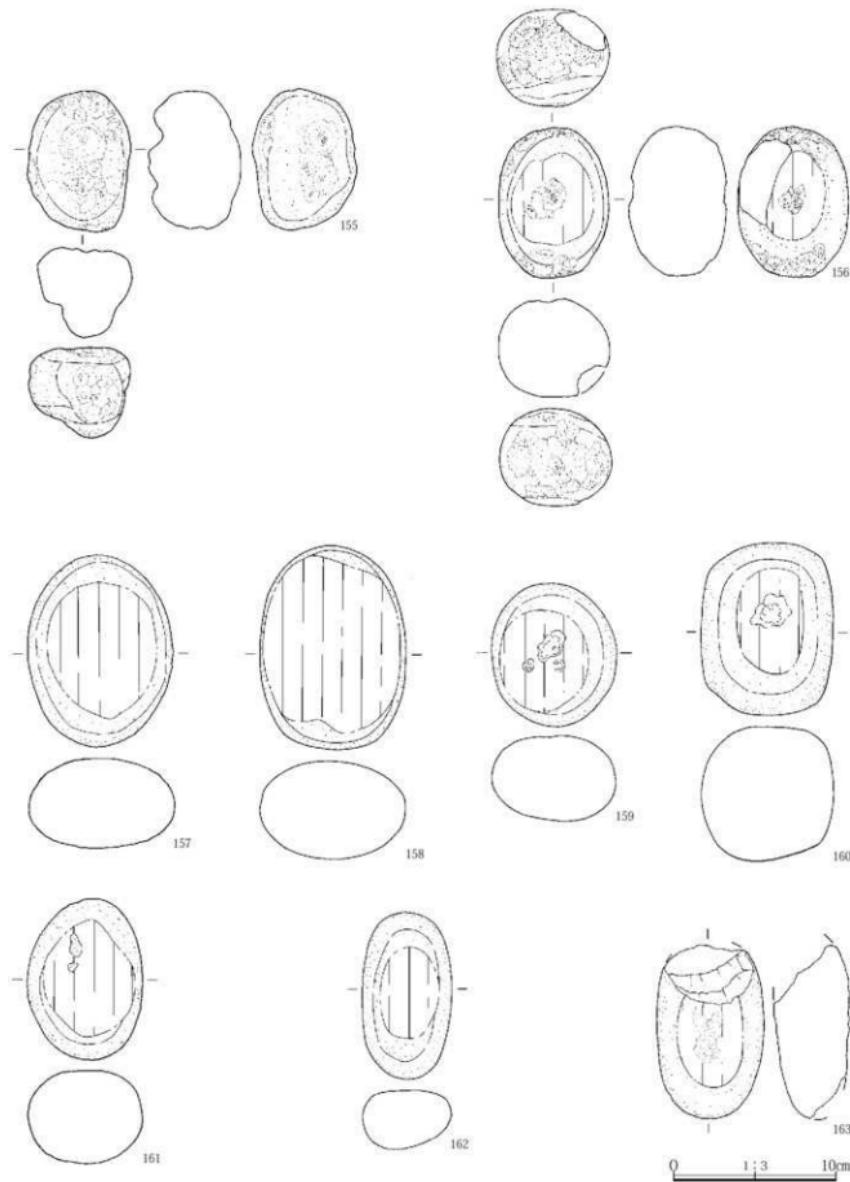
第17図 7号竪穴建物出土遺物（9）



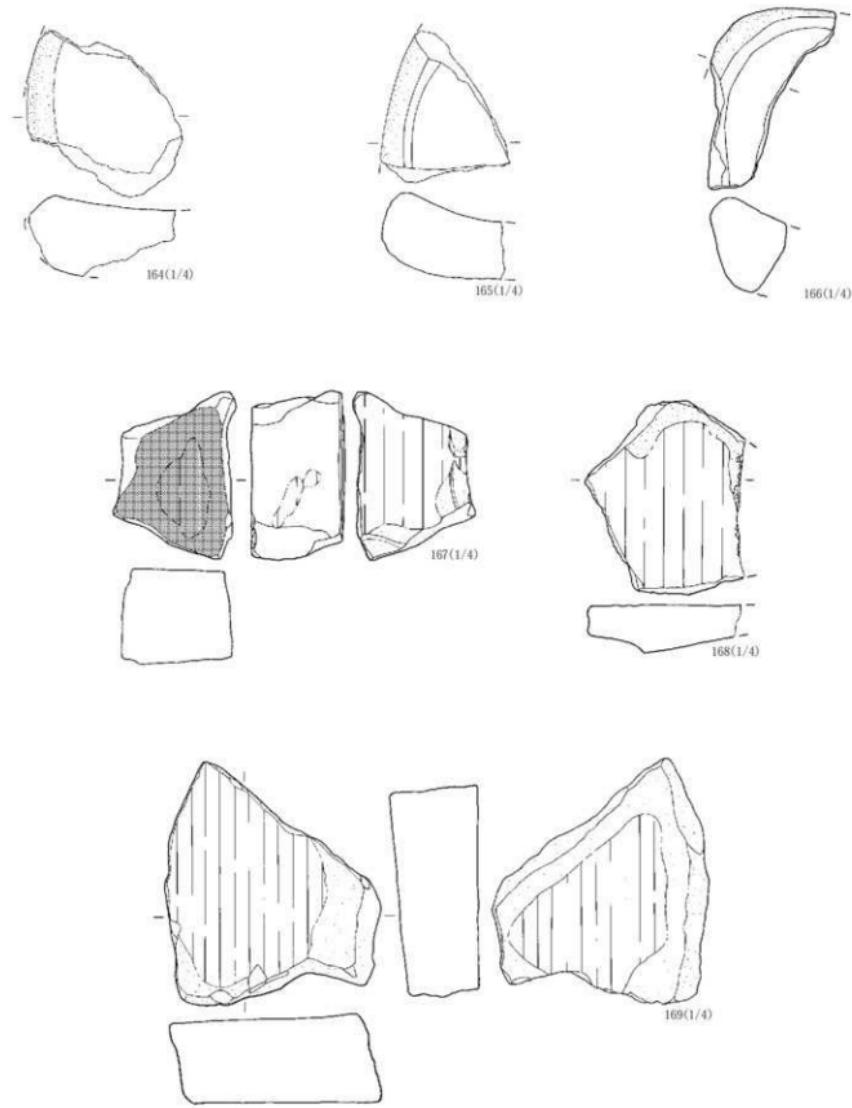
第18図 7号竖穴建物出土遺物 (10)



第19図 7号竖穴建物出土遺物 (11)

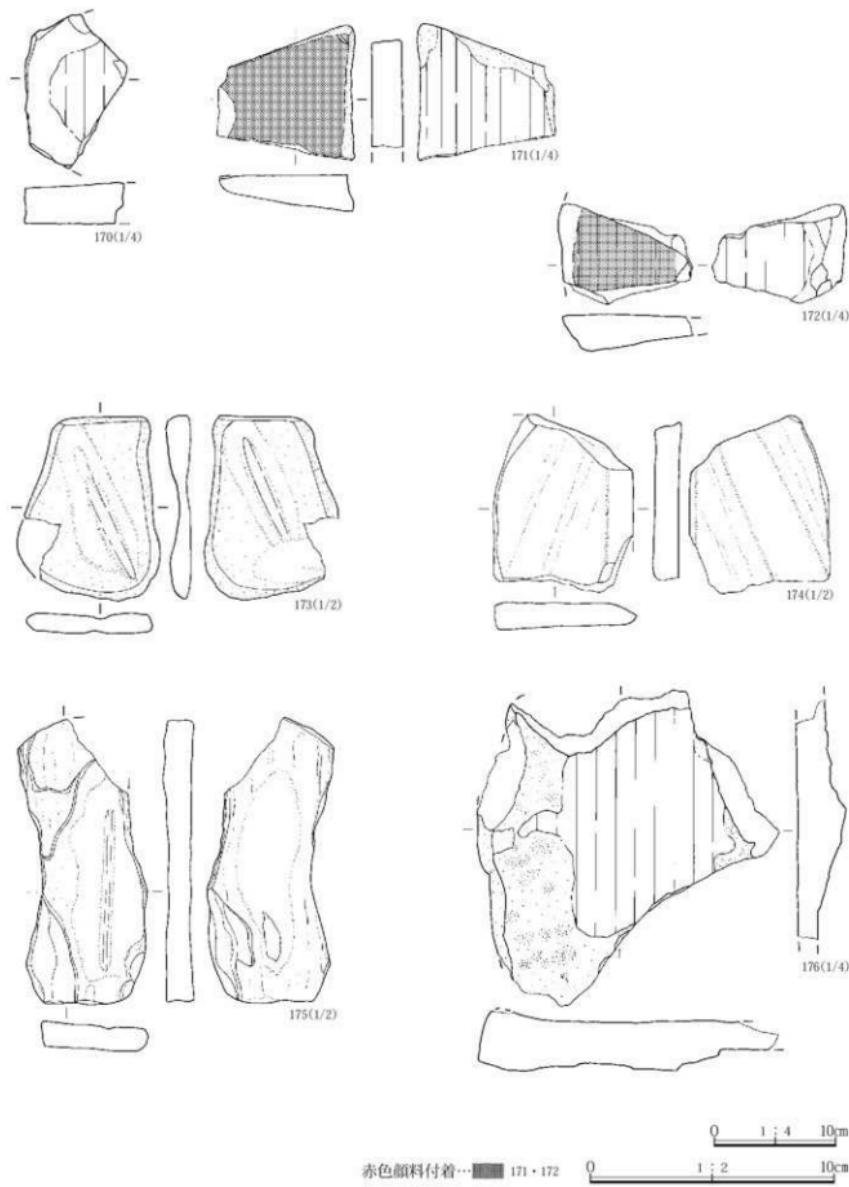


第20図 7号竪穴建物出土遺物 (12)

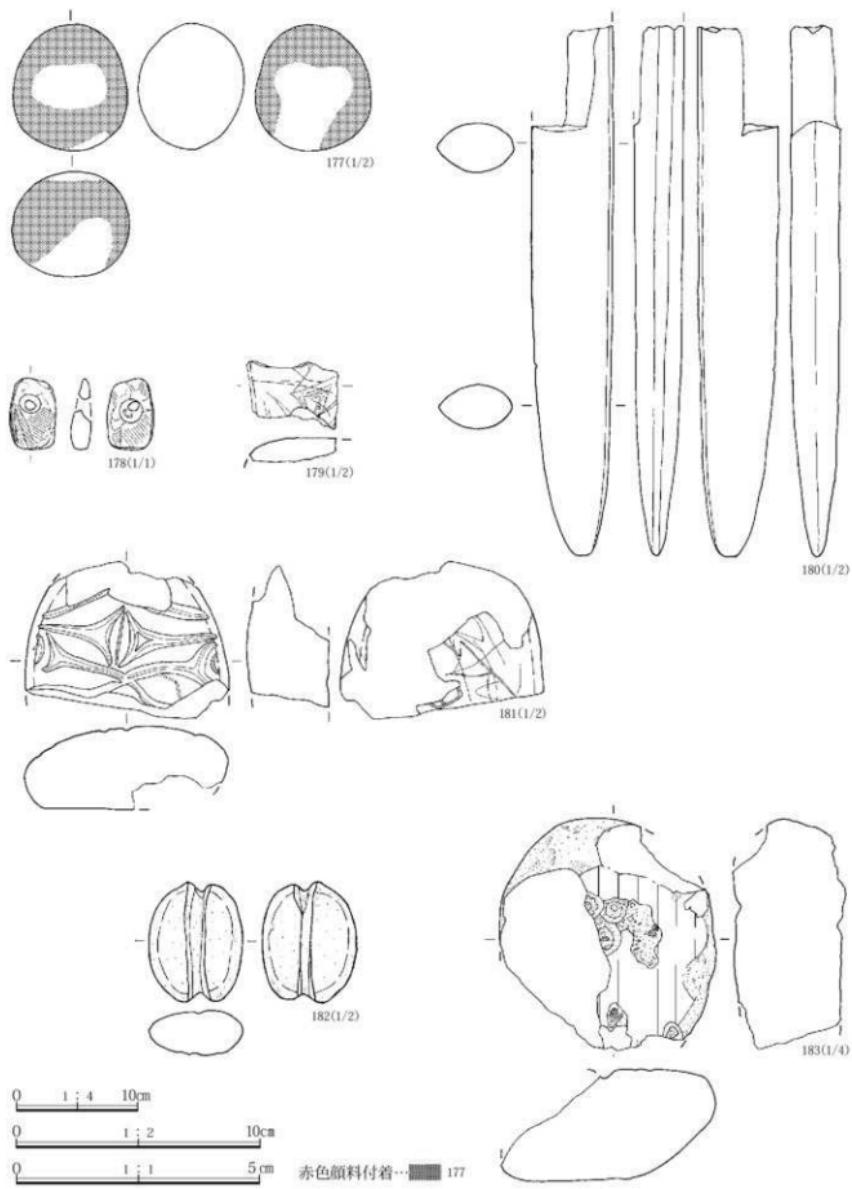


赤色顔料付着… ■ 167 0 1 : 4 10cm

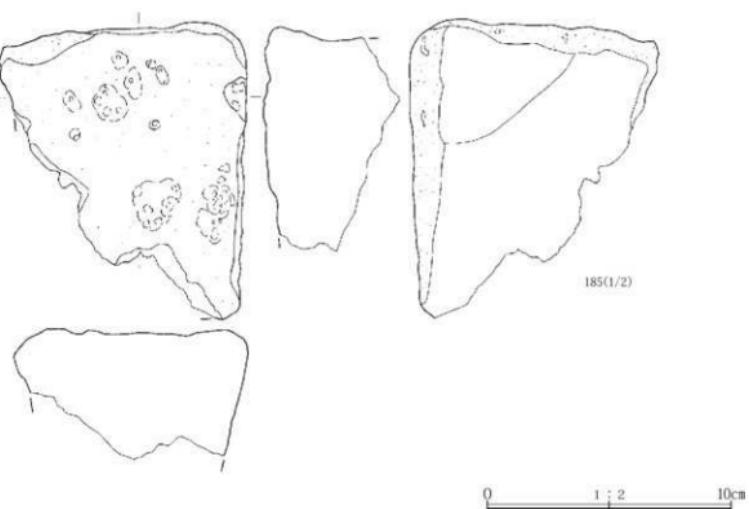
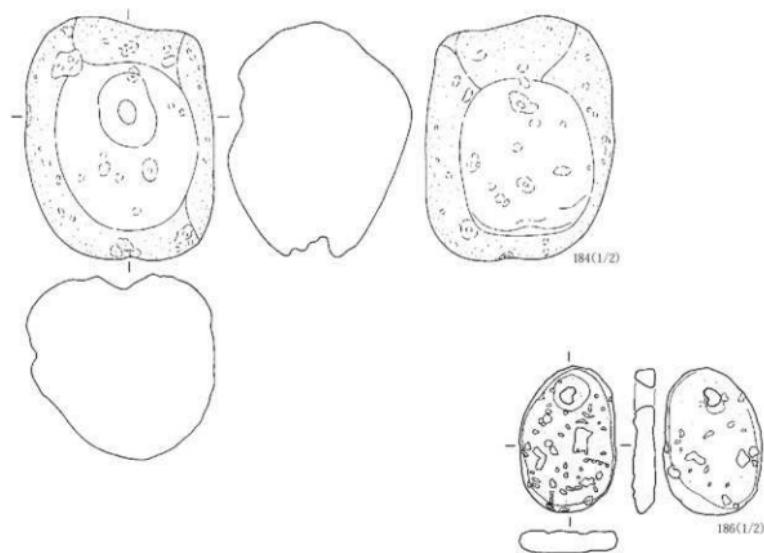
第21図 7号堅穴建物出土遺物 (13)



第22図 7号竪穴建物出土遺物 (14)



第23図 7号堅穴建物出土遺物 (15)



第24図 7号竪穴建物出土遺物 (16)

8号竪穴建物 (第25～27図 PL. 6・30・31)

位置 X=63,989～63,993・Y=-87,185～-87,186

平面形状 北東コーナー部と南東コーナー部が確認できる幅0.5～0.6mほどの範囲を調査した。方形状を呈すと思われるが定かではない。

規模 現存長軸4.42m 現存短軸0.57m 壁高0.15～0.34m

現存床面積 (1.49) m² 長軸方位 測定不能

埋没状況 横名二ツ岳渋川テフラ (Hir-FA) 下の水田土壤が厚く堆積する下位部分の粘質の暗褐色土が遺構確認面であり、埋没土は0.2～0.25mであった。白色・YP粒子と思われるテフラを含む暗褐色土を基本とし、小礫が混入し、鉄分の凝集が顕著である。

床面 床面はおおむね平坦であるが、中央部に向かってやや低くなる傾向があり、起伏も認められる。

柱穴 柱穴と認定できる顕著な傾向を持つビットはな

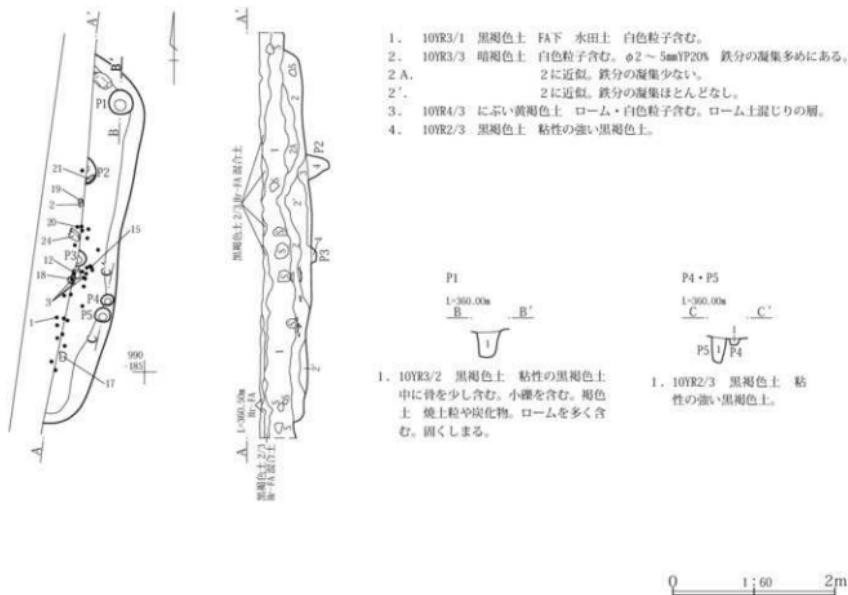
い。総計5基のビットを確認した。P3・P4はきわめて浅い掘り込みであった。計測値は一覧表(第4表)にある。

炉 調査範囲が少なため確認できなかった。

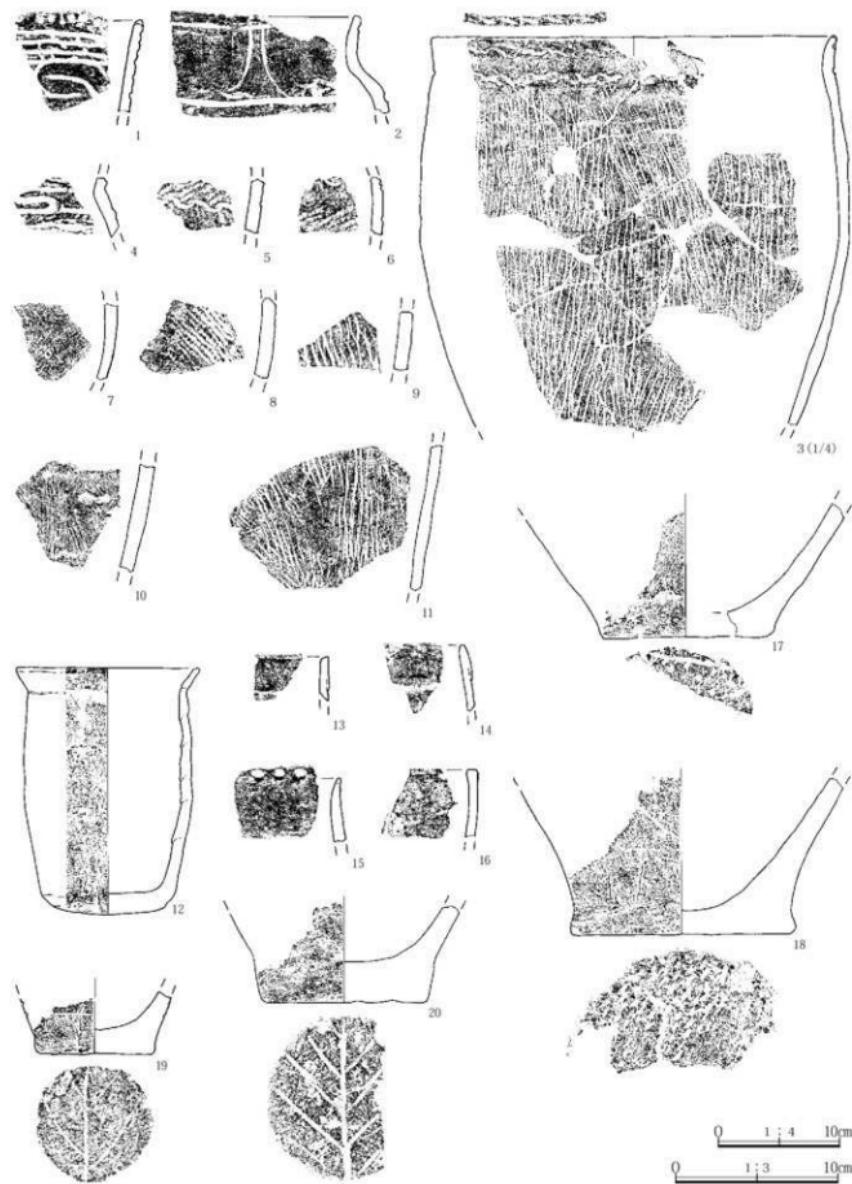
出土遺物 調査範囲が少なため、出土遺物は少ない。土器20点、石器5点を掲載する。土器は大半が深鉢で、精製土器が少ないため、時期判定に使える材料も乏しいが、概ね7号竪穴建物出土器と共通するものと思われる。

石器は、石錐未成品が1点、磨製石斧・磨石・石皿・台石が各1点のほかに、剥片類が16点出土している。

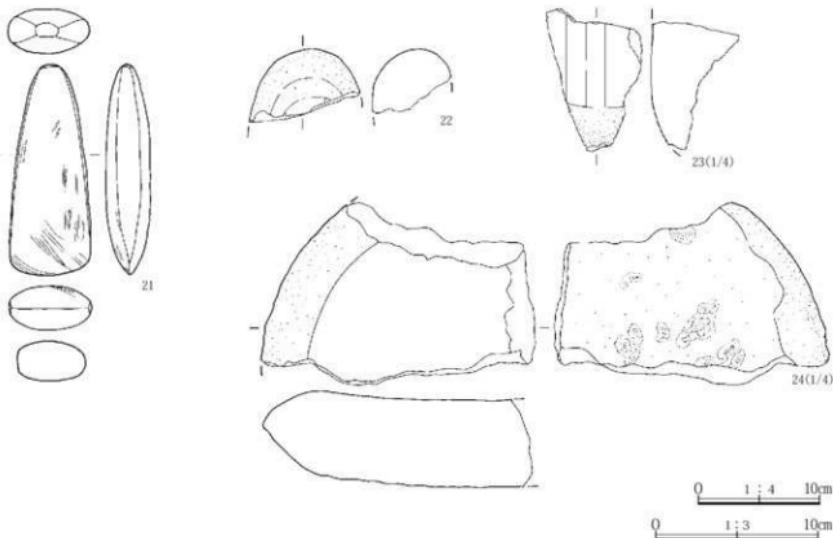
調査所見 竪穴建物の東側の一部の調査に留まるため内容は不明であるが、東壁の立ち上がりは直線的でしっかりしており、南北の壁とのコーナー部も概ね直行する形態であることから、7号竪穴建物と同様の方形の建物であったと想定したい。本竪穴建物の時期は、出土遺物から晚期前半期に比定されよう。



第25図 8号竪穴建物 (1)



第26図 8号竪穴建物出土遺物（2）



第27図 8号駅穴建物出土遺物（3）

2 石圓炉

2区4面南側調査区から1号石圓炉が発見されている。周辺から関連するピット・土坑等の遺構は発見できておらず、単独の遺構ということであった。以下詳細を記す。

1号石圓炉 (第28図 PL. 6・31)

位置 X=63,996 ~ 63,997 Y=-87,175 ~ -87,176
 平面形 石圓いの石組みは、南北に長軸を持つ長方形状を呈すと考えられる。炉の東辺部は用石が抜き取られ、南辺部についても用石が原位置を留めていないものと考えられる。炉の掘り方の平面形は隅丸方形を呈す。

調査時に関連遺構の発見に努めたが、石圓炉南側にピット等が発見されたものの、関係性は認められなかった。

長軸方位 (N-18° - E)

規模 石組み長軸外 (0.8m 短軸外0.7m) 深さ0.26m
 内 (0.5m 内0.45m)

掘り方長軸0.95m 短軸0.8m 深さ0.33m

埋没土 遺構確認面で用石の確認ができるが、石圓炉全

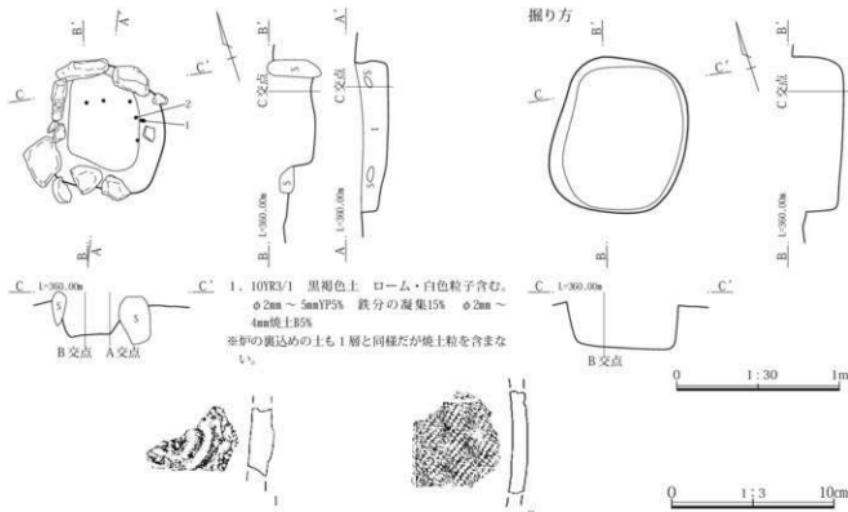
体を被覆する土層の確認はできなかった。炉内の覆土は、ローム粒子や鉄分の凝集粒子を含む黒褐色土であり、少量の焼土粒子が確認された。

特徴 用石は、そのほとんどが安山岩と思われ、北辺部は厚さ0.1 ~ 0.2mほどの方形状を呈した川原石が使われている。これらの用石の炉の内側及び上面にあたる部分は、被熱した痕跡が顕著であった。

出土遺物 出土遺物は炉内の覆土から、数点ほど出土した。1と2を図示した。1は2条の隆線による施文、2は2条の並行沈線が施されており、いずれも縄文時代中期加曾利E1式期に比定される。

調査所見 炉周辺から関連ピット・土坑等は発見されなかつたが、掘り込みが浅い場合などを考えると、必ずしも駅穴建物ではないと断言できるものではない。

炉の覆土中に少量の焼土粒子が確認され、炉石内側及び上面の強い被熱痕が確認できるため、炉としての使用は間違いないものと考えられる。出土遺物は縄文時代中期加曾利E1式期に比定される。単独の炉の可能性もあるが、ここでは断定できない。



第28図 1号石圓墳

3 土坑

発見された4面相当の土坑は、総計62基を数える。2区のほぼ全域にわたって発見されているが、規模・形状等は多様である。楕円形・円形を呈すものが多いが、不整形のものもある。

出土遺物は26基から発見されており、出土遺物量にも濃淡がある。ここでは、個々の土坑について詳述する。

2号土坑 (第29・35・36図 PL. 7・31・32)

位置 (X=64,030 ~ 64,032・Y=-87,162 ~ -87,163)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-12° - E)

規模 長軸1.50m 短軸1.30m 深さ0.06m

埋没土 YP粒子を含む暗褐色土が、多量の大小の円碟、石器・土器とともに認められた。

特徴 遺構確認面からの掘り込みは浅い。縄文土器・石器・円碟が一括廃棄された状況と考えられる。

出土遺物 出土遺物には、土器及び石器がある。1・3は、口縁部下に八字文・貼り付け押捺が施され、堀之内2式期に比定される。2・4・5は、縄文時代中期前半の所産で、加曾利E式期に比定される。石器には、くぼみ石6・多孔石7・脚付石皿10のほか、用途不明の9がある。

調査所見 出土土器については、年代幅が大きく断定できないものの、出土遺物そのものは、縄文時代中期後半から後期前半の所産と考えられる。

3号土坑 (第29・36図 PL.32)

位置 (X=64,032 ~ 64,033・Y=-87,161)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-81° - W)

規模 長軸0.53m 短軸0.48m 深さ0.11m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土を主体にする。

特徴 小規模で浅い掘り込み。人為的な遺構といえる。

出土遺物 覆土中から、1が出土した。堀之内1式期の所産か。

調査所見 出土遺物や遺構の形状からは、遺構の性格を限定できない。

4号土坑 (第29・36図 PL.32)

位置 (X=64,033・Y=-87,162 ~ -87,163)

平面形 円形 長軸方位 (N-9° - E)

規模 長軸0.45m 短軸0.44m 深さ0.15m

埋没土 粘性があるローム粒子を含む黒色土が主体。

特徴 小規模形状で掘り込みも深くない。

出土遺物 覆土中から、1点縄文土器が出土した。堀之内

第3章 発見された遺構と遺物

内2式期に比定される1を掲載した。

調査所見 規模・形状ともに安定した遺構ではない。何らかの作用が働いて、遺物が混在したものと考える。

5号土坑（第29・36図 PL. 7・32）

位置（X=64,032～64,033・Y=-87,167～-87,168）

平面形 円形 長軸方位（N-0°）

規模 長軸0.32m 短軸0.31m 深さ0.17m

埋没土 ローム粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 小規模な土坑である。土器を埋納もしくは廃棄することを目的に穿たれたと考えられる。

出土遺物 繩文土器の大破片3点が重なって出土した。いずれの破片も加曾利E2式期に比定される深鉢で、1は口縁から胴部上半部で凸帯文と沈線、胴部にR Lの縄文が施される。3は隆帶文がある頸部片、2は3条の沈線とR Lの縄文が施される胴部下半から底部までのものである。

調査所見 出土状況から、大破片土器を埋納することを目的に穿たれた土坑状の掘り込みといえる。

7号土坑（第29図）

位置（X=64,030～64,031・Y=-87,160～-87,161）

平面形（楕円形） 長軸方位（N-53°-E）

規模 長軸0.69m 短軸(0.23)m 深さ0.18m

埋没土 ローム粒・ロームブロックを多く含む黒褐色土。

特徴 遺構プランの大半が調査区外のため、詳細は不明。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 形状等不明な部分が多い。

8号土坑（第29図）

位置（X=64,028～64,029・Y=-87,163）

平面形 不整形 長軸方位（N-50°-E）

規模 長軸0.63m 短軸(0.57)m 深さ0.18m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 一部調査区外のため、全容は明らかでない。

出土遺物 出土遺物はないが、覆土中から長円形の川原石が確認されている。

調査所見 遺構の形状はやや不安定だが、人為的な掘り込みといえる。

9号土坑（第29・36図 PL.32）

位置（X=64,001・Y=-87,177）

平面形 楕円形 長軸方位（N-62°-E）

規模 長軸0.70m 短軸0.63m 深さ0.19m

埋没土 ローム粒子・白色粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 断面形が浅い逆円錐状を呈す。

出土遺物 繩文時代中期加曾利E4式期の土器片1が出土している。

調査所見 特徴的な逆円錐形状の断面を持つ。

10号土坑（第29図）

位置（X=64,001～64,002・Y=-87,176～-87,177）

平面形 円形 長軸方位（N-26°-W）

規模 長軸0.55m 短軸0.53m 深さ0.16m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土とロームブロックと黒褐色土混層の2層。

特徴 底面の形状はやや安定感がなく、丸底状を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 遺構の性格を特定できるものはない。

11号土坑（第29図）

位置（X=64,011～64,012・Y=-87,177～-87,178）

平面形 楕円形 長軸方位（N-39°-E）

規模 長軸0.71m 短軸0.57m 深さ0.16m

埋没土 ローム粒子・ブロックを含む黒褐色土主体。

特徴 底面形状が丸底を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 特徴的な底面の形状であるが、遺構の性格を特定できるものはない。

12号土坑（第29図）

位置（X=64,002～64,003・Y=-87,176～-87,178）

平面形 長方形 長軸方位（N-87°-W）

規模 長軸1.38m 短軸0.85m 深さ0.07m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土・暗褐色土。

特徴 不整形な長方形を呈す浅い掘り込みで、25号ピットと重複する。新:25号ピット←旧:12号土坑

出土遺物 出土遺物ではなく、小砾が数点認められた。

調査所見 安定感のない形状と掘り込みであり、遺構の性格を特定できるものはない。

13号土坑（第29・36図 PL.32）

位置（X=64,003～64,004・Y=-87,176）

平面形 楕円形 長軸方位（N-8°-E）

規模 長軸0.52m 短軸0.32m 深さ0.26m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 形状・掘り込み等安定感がない。

出土遺物 覆土中から、1の磨石が出土した。

調査所見 遺構の性格を特定できるものはない。

14号土坑（第29図）

位置（X=64,004～64,005・Y=-87,177）

平面形 楕円形 長軸方位（N-80°-E）

規模 長軸0.58m 短軸0.53m 深さ0.20m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 断面逆円錐形状を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 特徴的な逆円錐形状の断面を持つが、遺構の性格を特定できるものはない。

15号土坑（第30図）

位置（X=64,004・Y=-87,178）

平面形 楕円形 長軸方位（N-38°-E）

規模 長軸0.65m 短軸0.51m 深さ0.24m

埋没土 ローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土。

特徴 形状・掘り込み等安定感がない。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 遺構の性格を特定できるものはない。

16号土坑（第30図 PL. 7）

位置（X=64,002～64,003・Y=-87,181～-87,182）

平面形 楕円形 長軸方位（N-51°-E）

規模 長軸0.76m 短軸0.70m 深さ0.24m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 断面形U字状を呈し、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 形状・掘り込み等の状況から考えると、人為的に掘り込まれた可能性が高い。

17号土坑（第30・36図 PL.32）

位置（X=64,003～64,004・Y=-87,180～-87,181）

平面形 楕円形

長軸方位（N-51°-E）

規模 長軸1.01m 短軸0.93m 深さ0.22m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 断面形U字状を呈し、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 径0.3mほどの円碟と縄文土器2点と土製円盤が出土した。土器は、加曾利B2式期I・2に比定され、3の土製円盤は、加曾利B1式期の注口土器体部片を使用している。

調査所見 前掲の16号土坑に隣接する。両者には規模の違いが認められるが、形状・埋没土等非常に近似しているもので、類似性がある。人為的な掘り込みといえる。

18号土坑（第30・36図 PL.32）

位置（X=64,006・Y=-87,176～-87,177）

平面形 円形 長軸方位（N-34°-W）

規模 長軸0.80m 短軸0.77m 深さ0.19m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 断面形状・掘り込み等非常に安定している。

出土遺物 覆土中から、1の縄文時代後期加曾利B1式期の口縁部破片が出土した。

調査所見 形状・掘り込みの状況等から考えると、人為的に掘り込まれた可能性が高い。

19号土坑（第30図 PL. 7）

位置（X=64,007～64,008・Y=-87,175～-87,176）

平面形 楕円形か 長軸方位（N-4°-E）

規模 長軸1.13m 短軸(0.09)m 深さ0.46m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土とロームブロック主体の黄褐色土の互層の堆積が認められる。

特徴 試掘トレーンチで全貌は不明だが、楕円形か。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 形状・掘り込みの状況等安定している。

20号土坑（第30図）

位置（X=64,007～64,008・Y=-87,178～-87,179）

平面形 円形 長軸方位（N-7°-W）

規模 長軸0.62m 短軸0.61m 深さ0.22m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土。

特徴 断面形U字状を呈し、掘り込みも安定している。

出土遺物 出土遺物はない。

第3章 発見された遺構と遺物

調査所見 形状・掘り込み等の状況から考えると、人為的に掘り込まれた可能性が高い。

21号土坑（第30図）

位置（X=64,007～64,009・Y=-87,177～-87,178）

平面形 楕円形 長軸方位（N-79°-E）

規模 長軸1.05m 短軸0.98m 深さ0.16m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土及び暗褐色土。

特徴 断面U字状を呈し、掘り込みも安定している。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 形状・掘り込み等の状況から考えると、人為的に掘り込まれた可能性が高い。

22号土坑（第30図）

位置（X=64,008～64,009・Y=-87,176～-87,177）

平面形 楕円形 長軸方位（N-79°-E）

規模 長軸0.44m 短軸0.40m 深さ0.21m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 小規模だが、断面U字状を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 遺構の性格を特定できるものはない。

23号土坑（第30図）

位置（X=64,009・Y=-87,178～-87,179）

平面形 楕円形 長軸方位（N-14°-W）

規模 長軸0.52m 短軸0.47m 深さ0.23m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 小規模だが、断面U字状を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 遺構の性格を特定できるものはない。

24号土坑（第31図 PL. 7）

位置（X=64,008～64,009・Y=-87,179～-87,181）

平面形 楕円形 長軸方位（N-34°-W）

規模 長軸1.40m 短軸0.92m 深さ0.34m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土と暗褐色土。

特徴 ほぼ中央部に円形の掘り込みを持つ2段構成。

出土遺物 図示できる出土遺物はない。

調査所見 ピットとの重複の可能性あり。

25号土坑（第31図）

位置（X=64,033～64,034・Y=-87,176～-87,177）

平面形 楕円形 長軸方位（N-0°）

規模 長軸0.50m 短軸0.44m 深さ0.18m

埋没土 やや粘性のある黒色土。

特徴 底面が不安定。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 自然的作用による落ち込みの可能性がある。

26号土坑（第31・36図）

位置（X=64,010～64,011・Y=-87,177～-87,178）

平面形 楕円形 長軸方位（N-50°-W）

規模 長軸0.99m 短軸0.71m 深さ0.36m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土。

特徴 壊乱されるが、平面形状・掘り込みともに安定。

出土遺物 繩文時代中期の勝坂式期の土器片2点が出土した。1は降帯に沿って連続刺突文が施される。

調査所見 形状・掘り込みの状況から、人為的な遺構である可能性が高い。

27号土坑（第31図）

位置（X=64,004・Y=-87,179～-87,180）

平面形 円形 長軸方位（N-53°-E）

規模 長軸0.63m 短軸0.61m 深さ0.10m

埋没土 底面に焼土ブロック、黒褐色土が確認できた。

特徴 浅い掘り込みで、焼土が部分的に広がっている。

出土遺物 出土遺物ではなく、板状の礫が認められた。

調査所見 屋外炉の可能性はあるが、断定できない。

28号土坑（第31図）

位置（X=64,030・Y=-87,164）

平面形 楕円形 長軸方位（N-24°-E）

規模 長軸0.56m 短軸0.50m 深さ0.34m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土。

特徴 18号ピットと重複。新:28号土坑←旧:18号ピット 小規模だが、断面U字状を呈す。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な掘り込みと考えられる。

29号土坑（第31図）

位置 ($X = 64,028 \sim 64,029 \cdot Y = -87,164 \sim -87,165$)

平面形 楕円形 長軸方位 ($N - 24^\circ - E$)

規模 長軸0.81m 短軸0.68m 深さ0.23m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 19号ピットと重複。新:29号土坑←旧:19号ピット

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な掘り込みと考えられる。

30号土坑（第31・37図 PL.32）

位置 ($X = 64,029 \cdot Y = -87,171 \sim -87,172$)

平面形 楕円形 長軸方位 ($N - 84^\circ - E$)

規模 長軸0.61m 短軸0.47m 深さ0.46m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 断面逆円錐形を呈し、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 縄文時代後期壙之内1式期の土器片1が出土した。

調査所見 人為的な掘り込みと考えられる。

31号土坑（第31・37図 PL.32）

位置 ($X = 64,029 \sim 64,030 \cdot Y = -87,171 \sim -87,172$)

平面形 楕円形 長軸方位 ($N - 42^\circ - W$)

規模 長軸1.18m 短軸0.93m 深さ0.15m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 20号ピットと重複。新:31号土坑←旧:20号ピット やや浅いが、安定したU字状の断面を持つ。

出土遺物 加曾利E4式期の土器片1・2が出土した。

調査所見 底面に起伏が認められるが、形状・規模等から、人為的な掘り込みといえる。

32号土坑（第31・37図 PL.32）

位置 ($X = 64,033 \cdot Y = -87,173 \sim -87,174$)

平面形 円形 長軸方位 ($N - 0^\circ$)

規模 長軸0.64m 短軸0.63m 深さ0.53m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 断面U字状を呈し、深く掘り込まれている。

出土遺物 堀之内1式期の土器片1が出土した。

調査所見 人為的な掘り込みといえる。

33号土坑（第32図）

位置 ($X = 64,031 \cdot Y = -87,169 \sim -87,170$)

平面形 不整形 長軸方位 ($N - 20^\circ - W$)

規模 長軸0.75m 短軸0.50m 深さ0.27m

埋没土 ローム粒子等を含む黒色土と暗褐色土の2層が確認できた。

特徴 平面・断面形状も一定でない。

出土遺物 円環の出土を見るが遺物はない。

調査所見 自然的な作用による落ち込みの可能性が高い。

34号土坑（第32図）

位置 ($X = 64,034 \cdot Y = -87,168 \sim -87,169$)

平面形 (楕円形) 長軸方位 ($N - 90^\circ$)

規模 長軸0.50m 短軸(0.22)m 深さ0.21m

埋没土 ローム粒子等を含む黒色土。

特徴 底面の起伏が認められる。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 調査区外のため、全容は不明。人為的な遺構とする可能性は低い。

35号土坑（第32図）

位置 ($X = 64,017 \sim 64,018 \cdot Y = -87,181$)

平面形 楕円形 長軸方位 ($N - 5^\circ - W$)

規模 長軸0.49m 短軸0.40m 深さ0.24m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 径0.37mほどの礫が埋め込まれていた。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 矣の出土が認められるが、遺構の性格を特定できるものではない。

36号土坑（第32図）

位置 ($X = 64,015 \sim 64,016 \cdot Y = -87,178 \sim -87,179$)

平面形 円形 長軸方位 ($N - 90^\circ$)

規模 長軸0.68m 短軸0.65m 深さ0.10m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 丸底状の深い掘り込み。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

第3章 発見された遺構と遺物

37号土坑（第32図）

位置（X=64,018～64,019・Y=-87,176～-87,177）

平面形 楕円形 長軸方位（N-34°-W）

規模 長軸0.65m 短軸0.60m 深さ0.25m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 規模・形状ともに安定している。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

平面形 楕円形 長軸方位（N-42°-E）

規模 長軸0.67m 短軸0.54m 深さ0.34m

埋没土 ローム粒子を含む褐灰色土主体。

特徴 37号ピットと重複。新:41号土坑←旧:37号ピット
浅い掘り込みで、U字状の底面を呈す。

出土遺物 黒色頁岩製の完形の石鏡1が出土した。

調査所見 重複関係もあり、遺構の性格を特定できない
が、人為的な遺構の可能性がある。

38号土坑（第32図）

位置（X=64,015～64,016・Y=-87,174～-87,175）

平面形 楕円形 長軸方位（N-8°-E）

規模 長軸0.60m 短軸0.53m 深さ0.13m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土・暗褐色土及び黑色
土の3層が確認された。

特徴 丸底状の底面を持つ。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

42号土坑（第32・37図 PL.33）

位置（X=63,990～63,991・Y=-87,173～-87,174）

平面形 楕円形 長軸方位（N-84°-W）

規模 長軸0.92m 短軸(0.71)m 深さ0.23m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 39号ピットと重複。新:39号ピット←旧:42号土坑
残存する規模・形状は安定した掘り込みといえる。

出土遺物 黒色頁岩製の完形の石鏡1が出土した。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

39号土坑（第32図）

位置（X=63,997・Y=-87,181）

平面形 円形 長軸方位（N-83°-W）

規模 長軸0.43m 短軸0.41m 深さ0.07m

埋没土 白色粒子を含む暗褐色土。

特徴 32号ピットと重複。新:39号土坑←旧:32号ピット

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 規模が小さいが、人為的な掘り込みといえる。

43号土坑（第32図）

位置（X=63,991・Y=-87,178）

平面形 円形 長軸方位（N-83°-W）

規模 長軸0.52m 短軸0.51m 深さ0.31m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 小規模だが、丸底状の底面を持つ。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

40号土坑（第32図）

位置（X=63,984～63,985・Y=-87,183）

平面形 楕円形 長軸方位（N-90°）

規模 長軸0.60m 短軸0.50m 深さ0.40m

埋没土 ローム粒子を含む褐灰色土主体。

特徴 35号ピットと重複。新:35号ピット←旧:40号土坑
小規模だが安定した掘り込みといえる。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 規模が小さいが、人為的な遺構といえる。

44号土坑（第32図）

位置（X=63,994・Y=-87,175～-87,176）

平面形 楕円形 長軸方位（N-79°-W）

規模 長軸0.33m 短軸0.26m 深さ0.29m

埋没土 ローム粒子を含む黒褐色土主体。

特徴 45号土坑と重複。新:44号土坑←旧:45号土坑 極
めて小規模な形状であるが、深く掘り込まれている。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な掘り込みの可能性が高い。

41号土坑（第32・37図 PL.32）

位置（X=63,986・Y=-87,182）

45号土坑（第32図）

位置（X=63,994・Y=-87,175）

平面形 楕円形 **長軸方位** (N-25° - E)
規模 長軸0.56m 短軸0.33m 深さ0.44m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。
特徴 中央に径0.14mのピット状の落ち込みがある。
出土遺物 図示すべき出土遺物はない。
調査所見 遺構の性格については不明。

46号土坑 (第33・37図 PL.33)
位置 (X=63,993 ~ 63,994・Y=-87,174 ~ -87,175)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-10° - E)
規模 長軸0.70m 短軸0.67m 深さ0.23m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。
特徴 底面に起伏が認められるが、掘り込みは安定する。
出土遺物 覆土中から縄文時代後期の土器片が5点出土した。I・2は、加曾利B2式期に比定される。3~5は、55号土坑出土土器の加曾利B1式期に比定されるIと同一個体と思われる。
調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。55号土坑出土土器と同一個体の遺物が出土し、土坑の形状等が近似しており、加曾利B1式期と加曾利B2式期の土器が共伴する。

47号土坑 (第33図)
位置 (X=63,994・Y=-87,173)
平面形 (円形) **長軸方位** (N-8° - E)
規模 長軸0.45m 短軸(0.39)m 深さ0.16m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。
特徴 調査区外のため、全容は不明。断面U字状を呈す。
出土遺物 出土遺物はない。
調査所見 人為的な遺構と考えられる。

48号土坑 (第33・37図 PL.33)
位置 (X=63,996 ~ 63,997・Y=-87,178 ~ -87,179)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-75° - E)
規模 長軸0.98m 短軸0.74m 深さ0.21m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。暗褐色土・ロームがブロック状に混入する。
特徴 平面形状はやや乱れるが、断面形状は丸底を呈す。
出土遺物 加曾利B1式期の土器が出土した。
調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。

49号土坑 (第33・37図 PL.33)
位置 (X=63,993 ~ 63,994・Y=-87,179 ~ -87,180)
平面形 円形 **長軸方位** (N-6° - E)
規模 長軸0.59m 短軸0.58m 深さ0.14m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土。
特徴 小規模で浅い掘り込み、断面U字状を呈す。
出土遺物 純文土器片が3点出土した。加曾利B2式期の胴部片を図示した。
調査所見 小規模だが、人為的な遺構と考えられる。

50号土坑 (第33図)
位置 (X=63,992 ~ 63,993・Y=-87,179 ~ -87,180)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-65° - W)
規模 長軸0.91m 短軸0.69m 深さ0.35m
埋没土 白色粒子を含む黒褐色土主体。
特徴 断面U字状で、掘り込みも安定している。
出土遺物 円碟が認められるが、出土遺物はない。
調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。

51号土坑 (第33図)
位置 (X=63,990 ~ 63,991・Y=-87,178 ~ -87,179)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-77° - E)
規模 長軸0.36m 短軸0.28m 深さ0.29m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土。
特徴 小規模な形状で、深く掘り込まれる。
出土遺物 出土遺物はない。
調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。

52号土坑 (第33図 PL. 7)
位置 (X=63,995 ~ 63,996・Y=-87,179)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-7° - E)
規模 長軸0.54m 短軸0.50m 深さ0.17m
埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。
特徴 底面の形状がやや不安定。
出土遺物 出土遺物はない。
調査所見 人為的な遺構の可能性がある。

53号土坑 (第33・37・38図 PL. 7・33)
位置 (X=63,993・Y=-87,181 ~ -87,182)
平面形 楕円形 **長軸方位** (N-67° - W)

第3章 発見された遺構と遺物

規模 長軸0.52m 短軸0.32m 深さ0.29m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体。

特徴 小規模だが、深く掘り込まれている。

出土遺物 体部に沈線や隆線が施された土器片7点を回示した。いずれも称名寺2式期に比定される。

調査所見 小規模な形状ではあるが、出土遺物の状況等から、人為的な遺構と考えられる。

54号土坑 (第33・38図 PL. 7・33)

位置 (X=63,991 ~ 63,992・Y=-87,180 ~ -87,181)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-34° - E)

規模 長軸0.99m 短軸0.95m 深さ0.26m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土主体、崩落ロームブロックあり。

特徴 一部崩落による平面形状の乱れはあるが、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 覆土中から、称名寺式期の1と称名寺2式期の2が出土した。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

55号土坑 (第33・38図 PL. 7・34)

位置 (X=63,994 ~ 63,995・Y=-87,180 ~ -87,181)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-67° - W)

規模 長軸1.00m 短軸0.94m 深さ0.28m

埋没土 ローム粒子等を含む黒褐色土とローム粒子等を含む暗褐色土の2層が確認された。

特徴 平面形状にやや歪みが認められるが、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 覆土中から、縄文時代後期の加曾利B1式期1及び加曾利B2式期2~5の土器片が出土した。

調査所見 人為的な遺構と考えられる。

56号土坑 (第33・39図 PL. 7・34)

位置 (X=64,019 ~ 64,020・Y=-87,168 ~ -87,169)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-74° - W)

規模 長軸0.80m 短軸0.74m 深さ0.71m

埋没土 磁器や土器を多く含む暗褐色土。

特徴 2号竪穴建物と重複し、一部形状が不明。新:2号竪穴建物-旧:56号土坑 深い掘り込みで、覆土中には、磁器・石器・土器等が大量に遺棄されている。

出土遺物 石器9や打製石斧10をはじめ、称名寺式期4・5、堀之内1式期2・6・7、晚期前半の8など10点を回示した。

調査所見 縄文土器・石器・磁器などを大量に遺棄した人為的な遺構と考えられる。

57号土坑 (第33図)

位置 (X=64,025・Y=-87,167 ~ -87,168)

平面形 円形 長軸方位 (N-3° - W)

規模 長軸0.60m 短軸0.59m 深さ0.26m

埋没土 粘質土ブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土の2層が確認された。

特徴 平底の底面を有し、安定した掘り込みといえる。

出土遺物 円碟が確認できたが、出土遺物はない。

調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。

58号土坑 (第34図)

位置 (X=64,024 ~ 64,025・Y=-87,171 ~ -87,172)

平面形 円形 長軸方位 (N-5° - E)

規模 長軸0.81m 短軸0.79m 深さ0.42m

埋没土 暗褐色土とローム質土が互層状に堆積する。

特徴 自然的營為の可能性もあるが、堆積土層に特徴がある。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 規模・形状から、人為的な遺構と考えられる。

59号土坑 (第34図)

位置 (X=64,026 ~ 64,027・Y=-87,173 ~ -87,174)

平面形 不整形 長軸方位 (N-2° - E)

規模 長軸0.86m 短軸0.84m 深さ0.18m

埋没土 上層から、暗褐色土・褐色土・暗褐色土の3層が確認できた。

特徴 2号竪穴建物のP5と重複する。新:P5←旧:59号土坑 重複のため全容不明。残存部分も不整形である。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 人為的な遺構の可能性はある。

60号土坑 (第34・40図 PL. 7・34)

位置 (X=64,026 ~ 64,027・Y=-87,166 ~ -87,167)

平面形 楕円形 長軸方位 (N-37° - W)

規模 長軸1.16m 短軸0.97m 深さ0.34m

埋没土 少量のロームブロックを含む暗褐色土を主体とし、底面付近にロームブロックの薄層が堆積する。

特徴 底面がU字状を呈し、掘り込みは安定している。

出土遺物 3点の口縁部片を図示した。1と3は壙之内1式期、2は称名寺式期に比定される。

調査所見 規模・形状、出土遺物の状況等から、人為的な遺構と考えられる。

61号土坑（第34・39図 PL.34）

位置 (X=63,991 ~ 63,992・Y=-87,183 ~ -87,184)

平面形 楕円形 **長軸方位** (N-5°-E)

規模 長軸0.85m 短軸0.68m 深さ0.13m

埋没土 焼骨・黄色鉄石を含む暗褐色土主体。

特徴 掘り込みは浅く、底面は丸底状を呈す。

出土遺物 口縁部片・胴部片の計4点を図示した。いずれも加曾利B2式期に比定されるものである。

調査所見 掘り込みは浅いが、出土遺物の状況等から、人為的な遺構と考えられる。

62号土坑（第34・40図 PL.34）

位置 (X=63,990・Y=-87,184 ~ -87,185)

平面形 楕円形 **長軸方位** (N-15°-E)

規模 長軸0.43m 短軸0.39m 深さ0.15m

埋没土 小疊を含む黒褐色土。

特徴 小規模な形状である。

出土遺物 1が出土した。

調査所見 小規模だが、人為的な遺構の可能性がある。

63号土坑（第34・40図 PL. 7・34）

位置 (X=63,990・Y=-87,184 ~ -87,185)

平面形 楕円形 **長軸方位** (N-4°-E)

規模 長軸0.35m 短軸0.27m 深さ0.38m

埋没土 ロームブロック・骨片を含む黒褐色土。

特徴 小規模な形状だが、深く掘り込まれている。

出土遺物 土製円盤1と深鉢の胴部片が出土した。いずれも繩文時代晩期の所産と考えられる。

調査所見 小規模だが、人為的な遺構の可能性が高い。

64号土坑（第34・40図 PL. 7・34）

位置 (X=64,028 ~ 64,029・Y=-87,169 ~ -87,170)

平面形 楕円形 **長軸方位** (N-57°-W)

規模 長軸0.70m 短軸0.60m 深さ0.47m

埋没土 ローム粒子等を含む暗褐色土主体とロームブロックを含む褐色土の層が確認された。

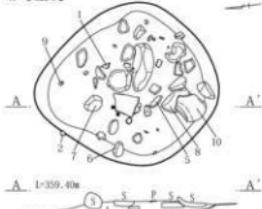
特徴 2号竪穴建物と重複。新：2号竪穴建物←旧：64号土坑 重複のため、全容は不明。残存部分の形状は安定し、深く掘り込まれている。

出土遺物 2点図示した。1は、深鉢型土器の把手部分で、称名寺2式期に比定される。2は、三十稻葉式期の胴部片と思われる。

調査所見 規模・形状、出土遺物の状況等から、人為的な遺構と考えられる。

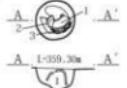
第3章 発見された遺構と遺物

2号土坑



1. 10YR3/4 暗褐色土・暗褐色土中
にYPを少し含む。固くしまる。

5号土坑



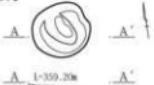
1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ
2mm～5mmYP10% φ3mm～6mm炭化物815%

3号土坑



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子
含む。φ3mm～5mmローム10%
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒
子含む。φ1mm～2mmYP10%

4号土坑



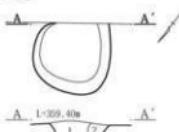
1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性少しあり。
ローム粒子含む。φ2mm～4mmYP5%

7号土坑



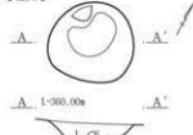
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 全体的にローム
土が混じっている。

8号土坑



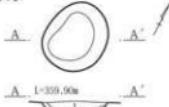
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。
φ1mm～2mmYP10%
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土 ローム・
白色粒子を含む。φ2mm～4mmYP15%

9号土坑



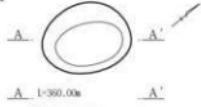
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白
色粒子含む。φ3mm～8mmYP5%

10号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒
子含む。φ2mm～8mmYP10%
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色土 白色粒子
を含む。黒褐色土とロームの混合土。

11号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。
φ2mm～4mmYP20% 一部にローム混合土あり。

12号土坑



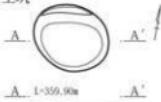
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。
φ3mm～5mmYP10% φ10mm～30mmローム85%
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子含む。φ2mm
～7mmYP15% ローム混合820%
3. 10YR7/4 にぶい黄褐色土 ローム土。

13号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白
色粒子含む。φ2mm～7mmYP20%

14号土坑

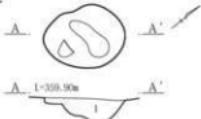


1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白
色粒子含む。φ2mm～7mmYP20%

0 1:40 1m

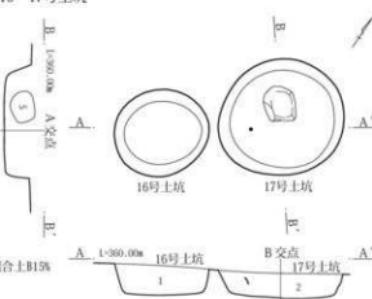
第29図 土坑（1）

15号土坑



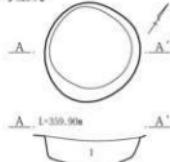
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。
φ 2mm ~ 7mmYP20% ローム混合土81% 褐色土
ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP20%

16・17号土坑



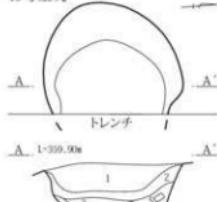
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。
φ 2mm ~ 7mmYP20% ローム混合土81%
2. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP20%

18号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 12mmYP20%

19号土坑



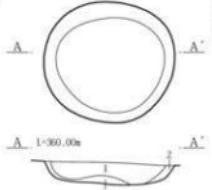
1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 6mmYP15%
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 φ 2mm ~ 4mmYP5% 黑褐色土とロームの混合土。
3. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子含む。粘性少しあり。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 5mmYP10%
黒褐色土とロームの混合土。

20号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 10mmYP30% 粘性少しあり。
φ 2mm ~ 4mmローム85%

21号土坑



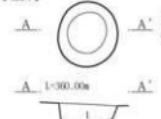
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP15% 粘性少しあり。
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 1mm ~ 6mmYP10% φ 1mm ~ 3mm以上85% 粘性より強めにあり。

22号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP15%
2. 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mm以上85% 粘性少しあり。

23号土坑



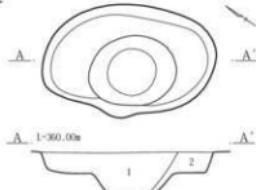
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 7mmYP20%
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。粘性少しあり。

0 1:40 1m

第30図 土坑（2）

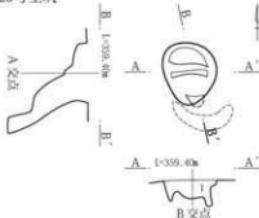
第3章 発見された遺構と遺物

24号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP30%
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP10% 南側に多く含む。

25号土坑



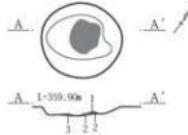
1. 10YR2/1 黒色土 φ 2mm ~ 3mmYP10% 黏性少しあり。下方に斜めの半円状の穴がある。

26号土坑



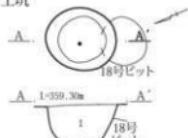
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 12mmYP20% 黏性少しあり。

27号土坑



1. 10YR4/6 褐色土 焼塊
2. 10YR3/1 黑褐色土 白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mm燒上 B15% φ 2mm ~ 4mmYP5%
3. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。地山の上。

28号土坑



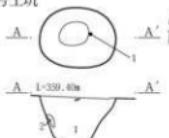
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP10% φ 2mm ~ 6mmロームB10% 黏性あり。

29号土坑



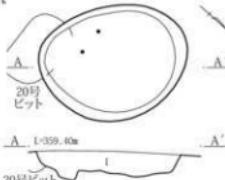
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP10% φ 10mm ~ 50mmロームB30%
2. 10YR4/2 灰黃褐色土 φ 2mm ~ 4mmYP15% 黑褐色土とロームの混土上。

30号土坑



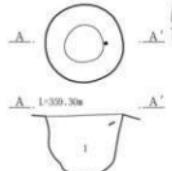
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 6mmYP10%
2. 10YR4/4 褐色土 黏性あり。

31号土坑



1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 10mmYP30% φ 2mm ~ 5mmロームB10% φ 2mm ~ 3mm燒土B5%

32号土坑

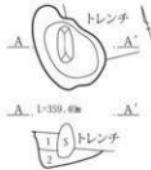


1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP15% 底面近くは φ 30mm ~ 50mmローム跡が少し混入している。

0 1:40 1m

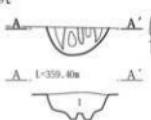
第31図 土坑 (3)

33号土坑



1. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。
φ 3mm ~ 10mmYP10% φ 4mm ~ 20mm黑色土B10%
2. 10YR2/2 黒色土 白色粒子含む。粘性あり。
下方にぶい黄褐色土が混入している。

34号土坑



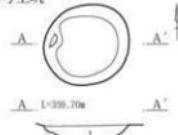
1. 10YR2/2 黒色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mmロームB10% 粘性少しあり。

35号土坑



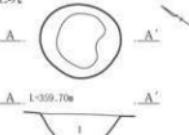
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP20% 粘性少しあり。

36号土坑



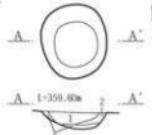
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP20%
φ 2mm ~ 4mm燒土B5% 粘性あり。

37号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 8mmYP20% ロームの混じりが多い部分がまだらにある。

38号土坑



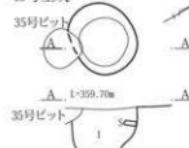
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP10% 粘性少しあり。φ 20mm ~ 40mmにぶい黄褐色粘土A3/E20%
2. 10YR3/4 暗褐色土 φ 2mm ~ 6mmYP5% 黑褐色土とロームの混じり上
3. 10YR2/1 黒色土 ローム粒子含む。粘性あり。

39号土坑



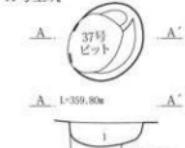
1. 10YR3/4 暗褐色土 白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP5% 粘性少しあり。鉄分の凝集あり。

40号土坑



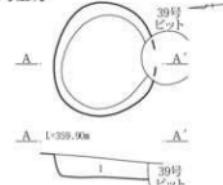
1. 10YR4/1 褐灰色土 ローム粒子含む。粘性少しあり。

41号土坑



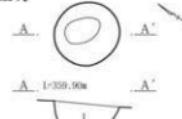
1. 10YR4/1 褐灰色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP20% 粘性少しあり。鉄分の凝集あり。

42号土坑



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP10% 鉄分の凝集あり。φ 15mm ~ 40mmロームE20%

43号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 10mmYP5% 鉄分の凝集あり。底面に硬質黒色土あり。

44・45号土坑



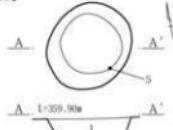
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。鉄分の凝集あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP5% φ 2mm ~ 3mmE20% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

0 1:40 1m

第32図 土坑 (4)

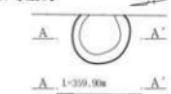
第3章 発見された遺構と遺物

46号土坑



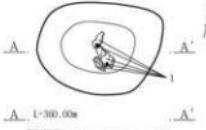
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP5% φ 2mm ~ 3mmロームB5% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

47号土坑



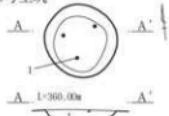
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP10% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

48号土坑



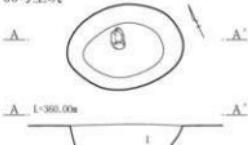
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5%
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色土 ロームB φ 3mm ~ 4mmYP5%
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性少しあり。
4. 10YR3/3 暗褐色土 鉄分の凝集あり。

49号土坑



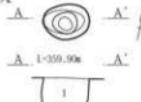
1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5% 鉄分の凝集あり。

50号土坑



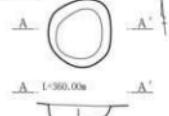
1. 10YR3/1 黒褐色土 白色粒子含む。φ 3mm ~ 7mmYP15% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

51号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 5mm ~ 30mmロームB30% φ 2mm ~ 4mmYP5% 鉄分の凝集あり。

52号土坑



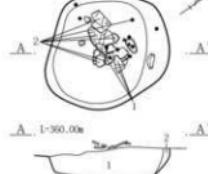
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP10% 部分的にロームの濃い所がある。

53号土坑



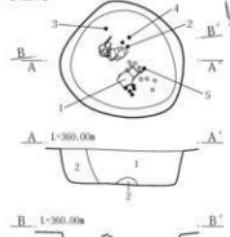
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP5% 鉄分の凝集あり。

54号土坑

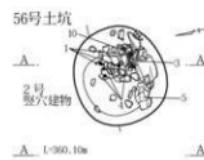


1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 5mmYP5% 粘性少しあり。
2. 10YR4/4 褐色土 ローム混合土。φ 2mmYP5% 地山との違いはロームの混じり具合による。

55号土坑



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP20% 鉄分の凝集あり。
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP10% 鉄分の凝集あり。



1. 10YR3/3 暗褐色土 覆土中に礫や土器を多く含む。

57号土坑

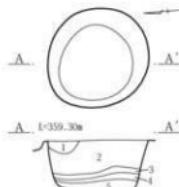


1. 10YR2/3 黒褐色土 チョコレート色のブロック土を少し含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 1層に似るが含まれるブロックが多い。

0 1:40 1m

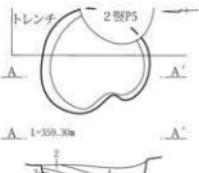
第33図 土坑 (5)

58号土坑



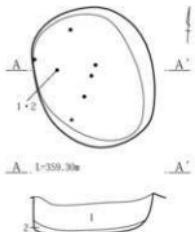
1. 10YR4/4 褐色上 チョコレート色のブロックと黄色軽石を含む。
2. 10YR3/4 暗褐色上 ロームと小礫を含む。しまりの弱い土。
3. 10YR4/6 褐色上 ロームブロックを主体とする。
4. 10YR3/4 暗褐色上 黄色軽石を少し含む。
5. 10YR4/6 褐色上 3層に似るが含まれるロームブロックが多い。

59号土坑



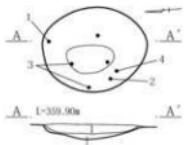
1. 10YR3/3 暗褐色上 黄色軽石を少し含む。
2. 10YR4/4 褐色上 チョコレート色のブロックを主体とする。
3. 10YR3/3 暗褐色上 1層に似るが礫を少し含む。

60号土坑



1. 10YR3/3 暗褐色上 ロームブロックを少し含む礫を少し含む。
2. 10YR4/4 褐色上 ロームブロックを主体とする。

61号土坑



1. 10YR3/3 暗褐色上 燃骨黄色軽石を含む。しまりつよい。
2. 10YR3/3 暗褐色上 1層に似る。ふくまれる軽石は少ない。

62号土坑



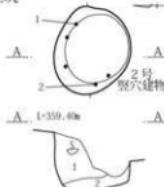
1. 10YR2/3 黒褐色土 小礫を含む。

63号土坑



1. 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロックと骨片を少し含む。

64号土坑

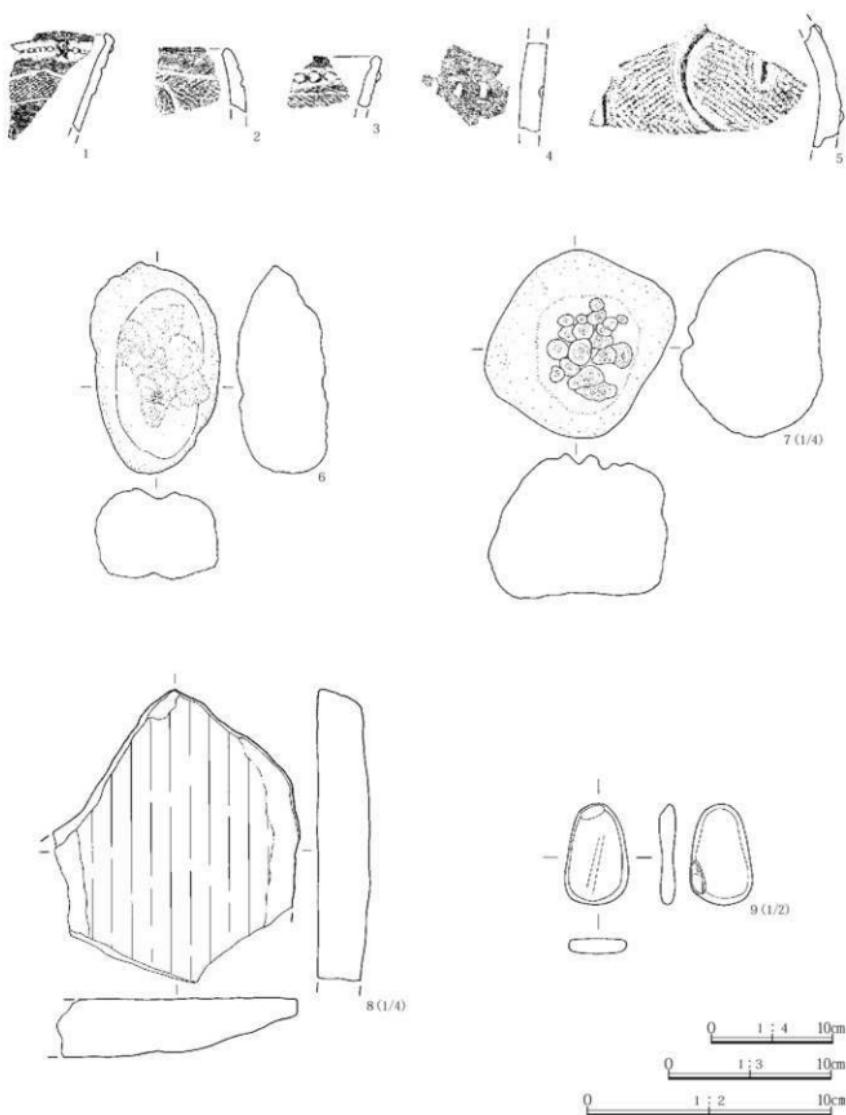


1. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。三十石場式陶器出土。
2. 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを含む。

0 1:40 1m

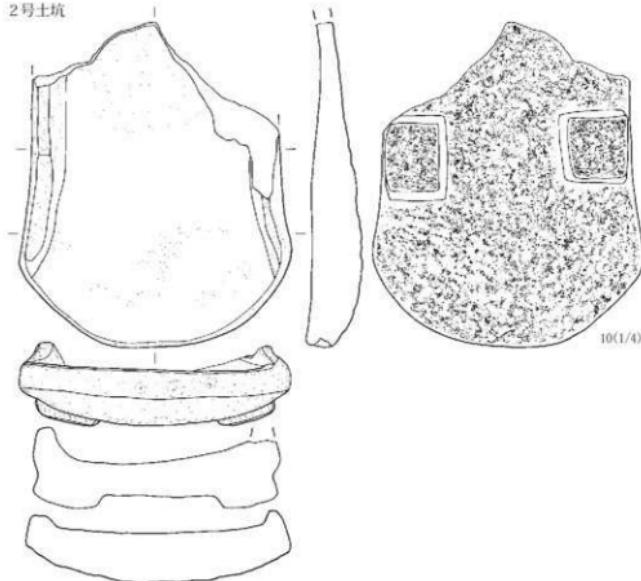
第34図 土坑（6）

2号土坑

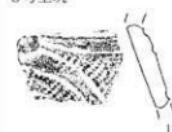


第35図 土坑出土遺物（7）

2号土坑



3号土坑



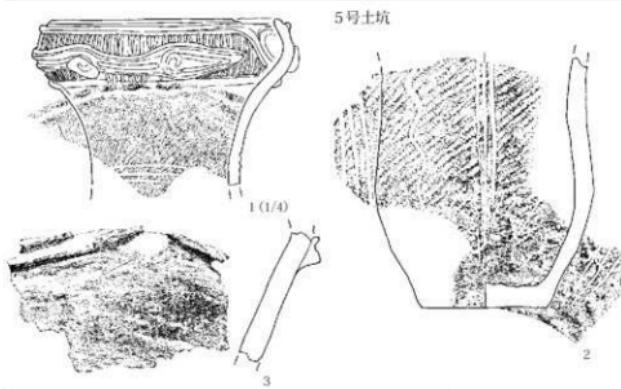
4号土坑



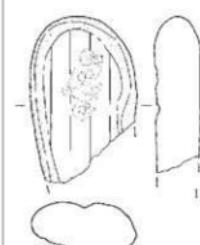
9号土坑



5号土坑



13号土坑



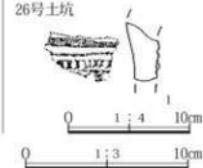
17号土坑



18号土坑



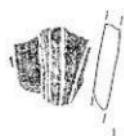
26号土坑



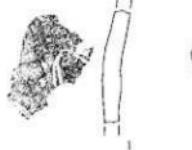
第36圖 土坑出土遺物（8）

第3章 発見された遺構と遺物

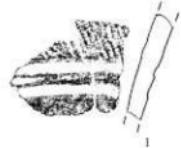
30号土坑



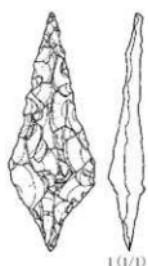
31号土坑



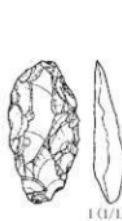
32号土坑



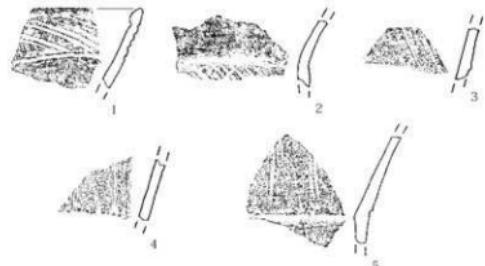
41号土坑



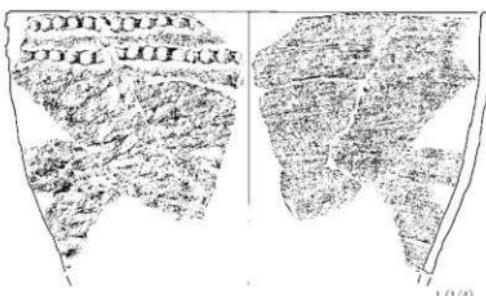
42号土坑



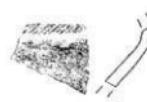
46号土坑



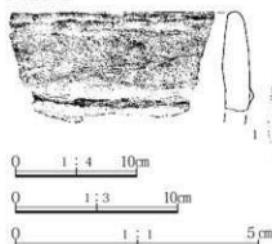
48号土坑



49号土坑

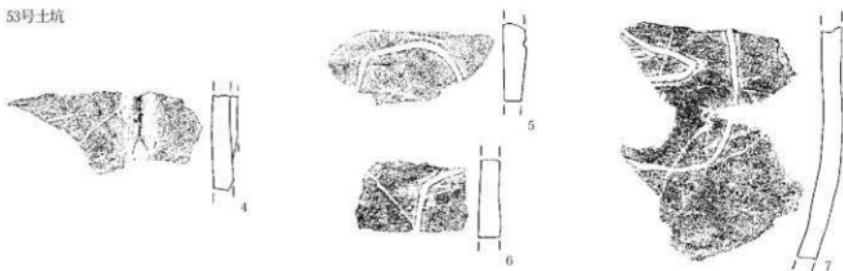


53号土坑

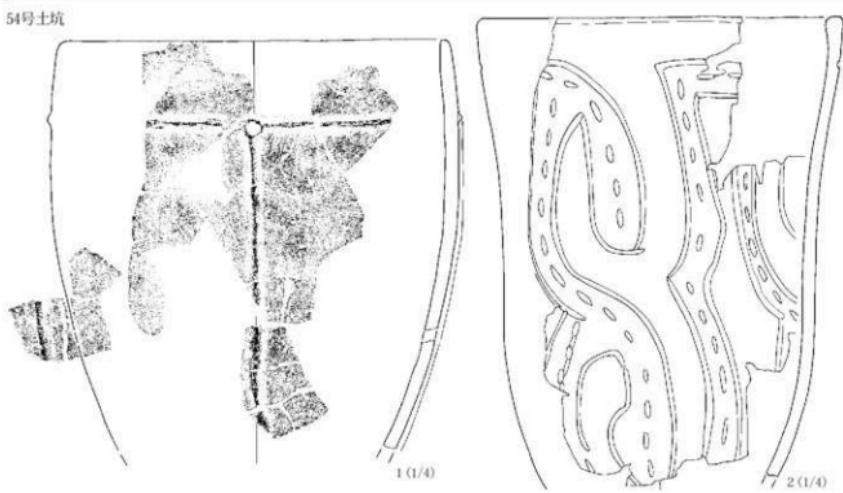


第37図 土坑出土遺物（9）

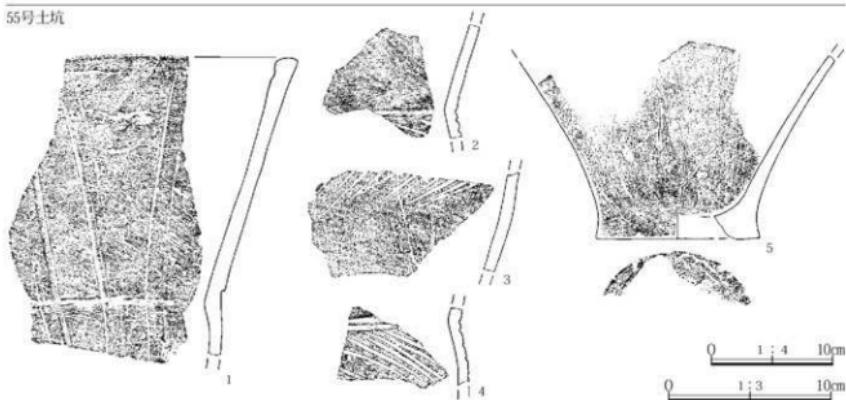
53号土坑



54号土坑

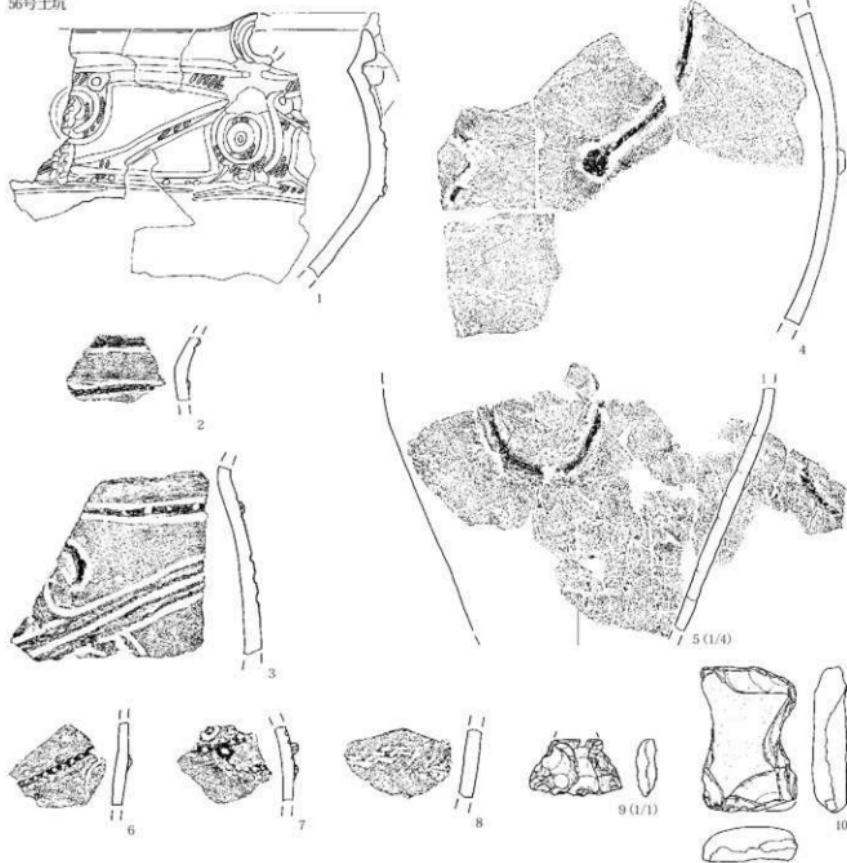


55号土坑

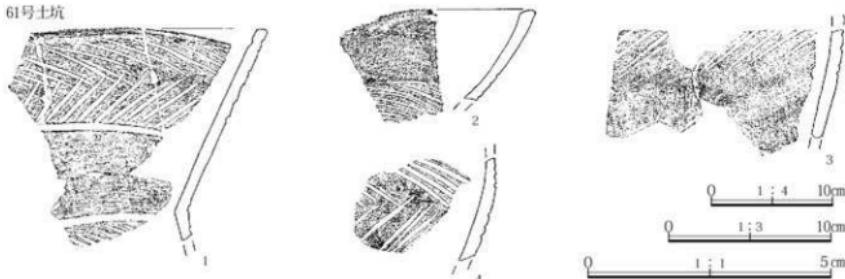


第38図 土坑出土遺物 (10)

56号土坑

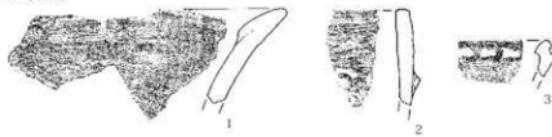


61号土坑

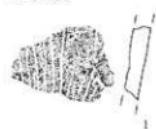


第39図 土坑出土遺物(11)

60号土坑



62号土坑



63号土坑



64号土坑



0 1:3 10cm

第40図 土坑出土遺物 (12)

4 ピット

4面相当のピットは、総計52基を数える。いずれのピットも調査2区から発見されたもので、調査区北辺部と7号堅穴建物北側に分布が集中する。ピットの形状は楕円形・円形のものが圧倒的に多く、わずかながら不整形のものがある。調査時には、柱穴列や建物構造物として、確認できたものはなかった。

出土遺物は、土坑から比べると少なく、11基のピットから発見された。詳細は一覧表（第4表）による。

5 遺構外の出土遺物

遺構外から、縄文時代及び弥生時代の土器・土製品や石器が出土している。ここでは、特徴的な遺物について取り上げ、図示しておきたい。詳細は一覧表（第3表）を参照する。

出土土器・土製品

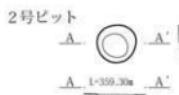
縄文時代中期から晩期にかけての土器・土製品及び弥生時代や4世紀代の古式土器についても掲載しておく。総数259点を数える。

出土石器・石製品

出土石器・石製品を掲載する。総数49点を数える。



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム
粒子含む。φ30mm ~ 40mm
黒褐色土とロームの混合85%



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子・
白色粒子を含む。φ1mm ~ 2mm 75%
φ30mm ~ 50mm ローム82%



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒
子含む。φ1mm ~ 2mm 75% φ
30mm 黒褐色土とローム混合85%

0 1:40 1m

第41図 ピット (1)

第3章 発見された遺構と遺物

4号ピット



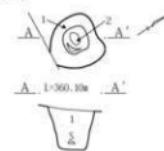
1. 10YR2/1 黒色土 ローム粒子含む。φ 1mm ~ 3mmYP10%

5号ピット



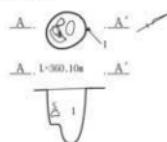
1. 10YR2/1 黒色土 ローム粒子含む。
φ 2mm ~ 5mmYP5% 粘性少しあり。

6号ピット



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子含む。
φ 2mm ~ 4mm YP10% 粘性少しあり。

7号ピット



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5%

8号ピット



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP5%

9・10号ピット



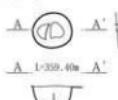
1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP5% 粘性少しあり。
2. 10YR2/1 黒色土 白色粒子含む。粘性少しあり。
3. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 7mmYP5%

11・12号ピット



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 6mmYP10% 粘性少しあり。
2. 10YR2/2 黑褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5%

13号ピット



1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5% 粘性少しあり。

14号ピット



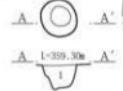
1. 10YR4/2 灰褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP10% 黑褐色土とロームの混在土。

15号ピット



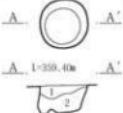
1. 10YR3/2 黑褐色土 ローム粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP10%
2. 10YR2/2 黑褐色土 ローム粒子含む。粘性少しあり。

16号ピット



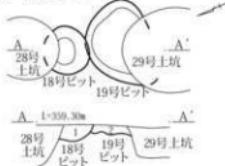
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5% 粘性少しあり。

17号ピット



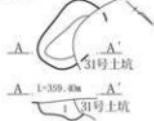
1. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 8mmYP15% 粘性少しあり。
2. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 4mmYP5% 粘性少しあり。

18・19号ピット



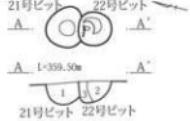
1. 10YR2/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5%
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム漸移層。φ 2mm ~ 3mmYP10%

20号ピット



1. 10YR2/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 3mm ~ 12mmYP20%

21・22号ピット



1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 8mmYP15% 粘性あり。φ 2mm ~ 3mm灰土35%
2. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ 2mm ~ 3mmYP5% 粘性少しあり。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘質土

0 1/40 1m

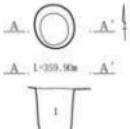
第42図 ピット (2)

23号ピット



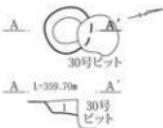
1. 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム・白色粒子含む。φ3mm
~ 5mmYP5%
2. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm
~ 4mmYP10%
3. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子含む。粘性少しあり。

26号ピット



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm
~ 10mmYP20% 左上部にローム混土(φ50mm)あり。

29号ピット



30号ピット



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm
~ 4mmYP10% φ2mm ~ 3mm以上B10% 粘性少しあり。

34号ピット



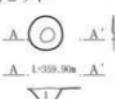
1. 10YR2/1 黒色土ローム粒子含む。粘性少しあり。

24号ピット



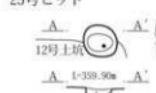
1. 10YR3/3 暗褐色土 ローム・白色粒子含む。φ3mm ~ 10mmYP10% φ4mm ~ 20mm黑色土B10%

27号ピット



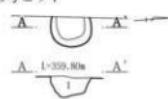
1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm ~ 3mmYP10%

25号ピット



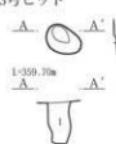
1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm ~ 5mmYP5% 耳飾り出土。

28号ピット



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm ~ 4mmYP15%

33号ピット



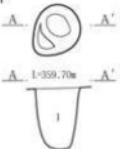
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム粒子含む。

35号ピット



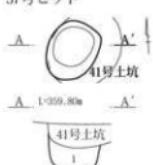
1. 10YR2/1 黑褐色土 ローム粒子含む。φ2mm ~ 4mmロームB10%
2. 10YR4/1 暗褐色土 ローム粒子含む。粘性少しあり。

36号ピット



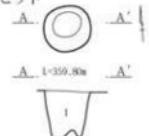
1. 10YR2/1 黑褐色土 ローム粒子含む。φ2mm ~ 4mmロームB10% 鉄分の凝集あり。

37号ピット



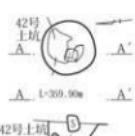
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム粒子含む。

38号ピット



1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm ~ 4mmYP10% 鉄分の凝集上部に多くあり。

39号ピット



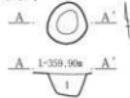
1. 10YR2/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm ~ 3mmYP5% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

0 1/40 1m

第43図 ピット (3)

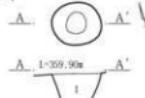
第3章 発見された遺構と遺物

40号ピット



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 1mm \sim 8mm$
YP5% 鉄分の凝集あり。

41号ピット



1. 10YR2/1 黒色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 10mm$ YP5% $\phi 2mm \sim 5mm$ ローム
YP5% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

42号ピット



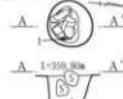
1. 10YR2/1 黒色土 ローム粒子含む。鉄の凝集あり。粘性少しあり。
非鉄分は上面が多めにある。

43号ピット



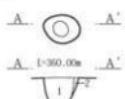
1. 10YR2/1 黒色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm$ YP5% 鉄分の凝集あり。
粘性少しあり。底面に硬質黒色土。

44号ピット



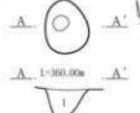
1. 10YR2/1 黒色土 ローム
粒子含む。粘性少しあり。

45号ピット



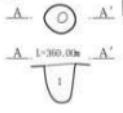
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 3mm$ YP5% $\phi 5mm \sim 8mm$ ローム
YP20% 鉄分の凝集あり。粘性少しあり。
2. 10YR3/3 暗褐色土 地山の上。

46号ピット



1. 10YR2/2 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 3mm$ YP10% 鉄分の凝集あり。

47号ピット



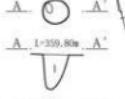
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子含む。鉄分の凝集あり。粘性少しあり。

48号ピット



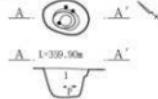
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。鉄分の凝集あり。粘性少しあり。47号ピットに近似。

49号ピット



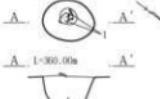
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。鉄分の凝集あり。粘性少しあり。
鉄分は西側に多い。48号ピットに近似。

50号ピット



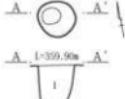
1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 3mm$ YP5% 鉄分の凝集あり。
粘性少しあり。48号ピットに近似。

51号ピット



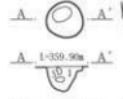
1. 10YR2/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 5mm \sim 8mm$ ローム
YP10% 鉄分の凝集あり。

52号ピット



1. 10YR3/1 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 3mm$ YP10% $\phi 20mm$ HR-FA
B 1個 鉄分の凝集あり。粘性あり。

53号ピット



1. 10YR2/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。 $\phi 2mm \sim 3mm$ YP5% 鉄分の凝集あり。

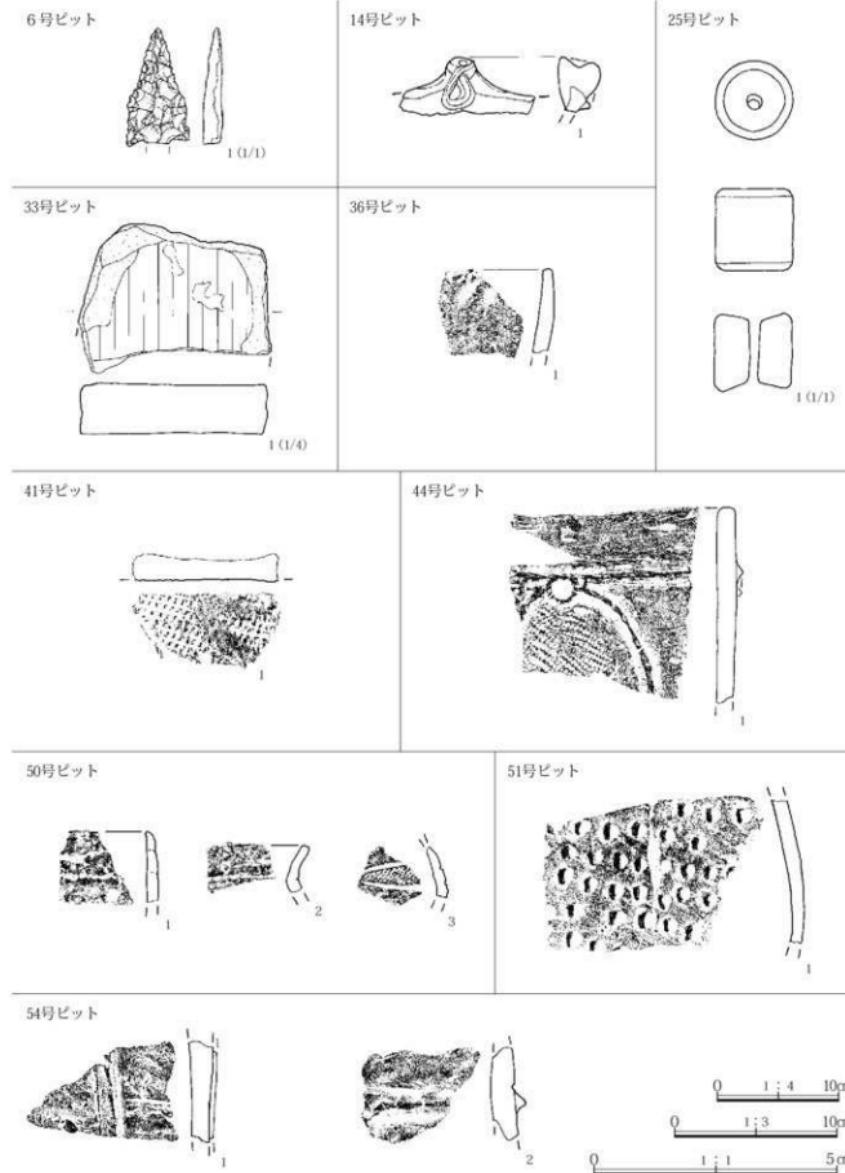
54号ピット



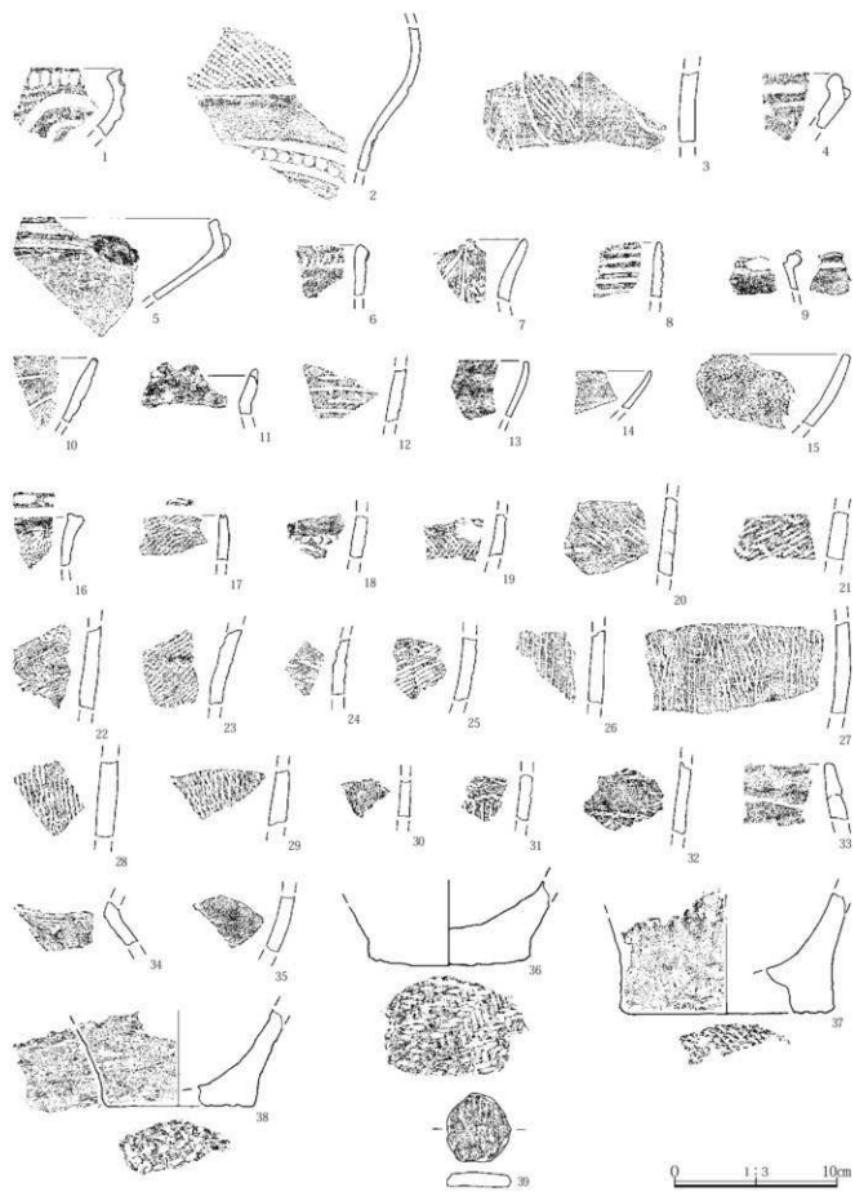
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性が強く暗褐色の上。

0 1/40 1m

第44図 ピット (4)



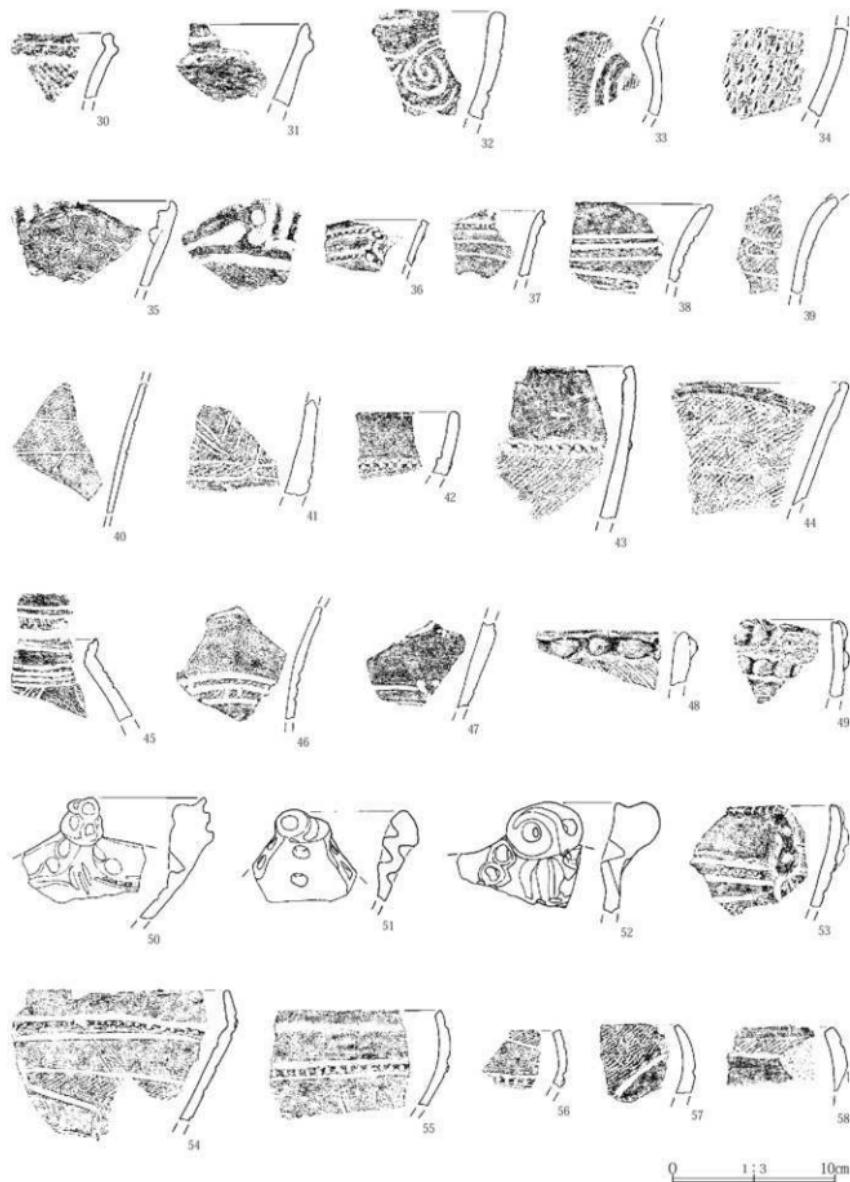
第45図 ピット出土遺物（5）



第46図 遺構外出土土器 1区



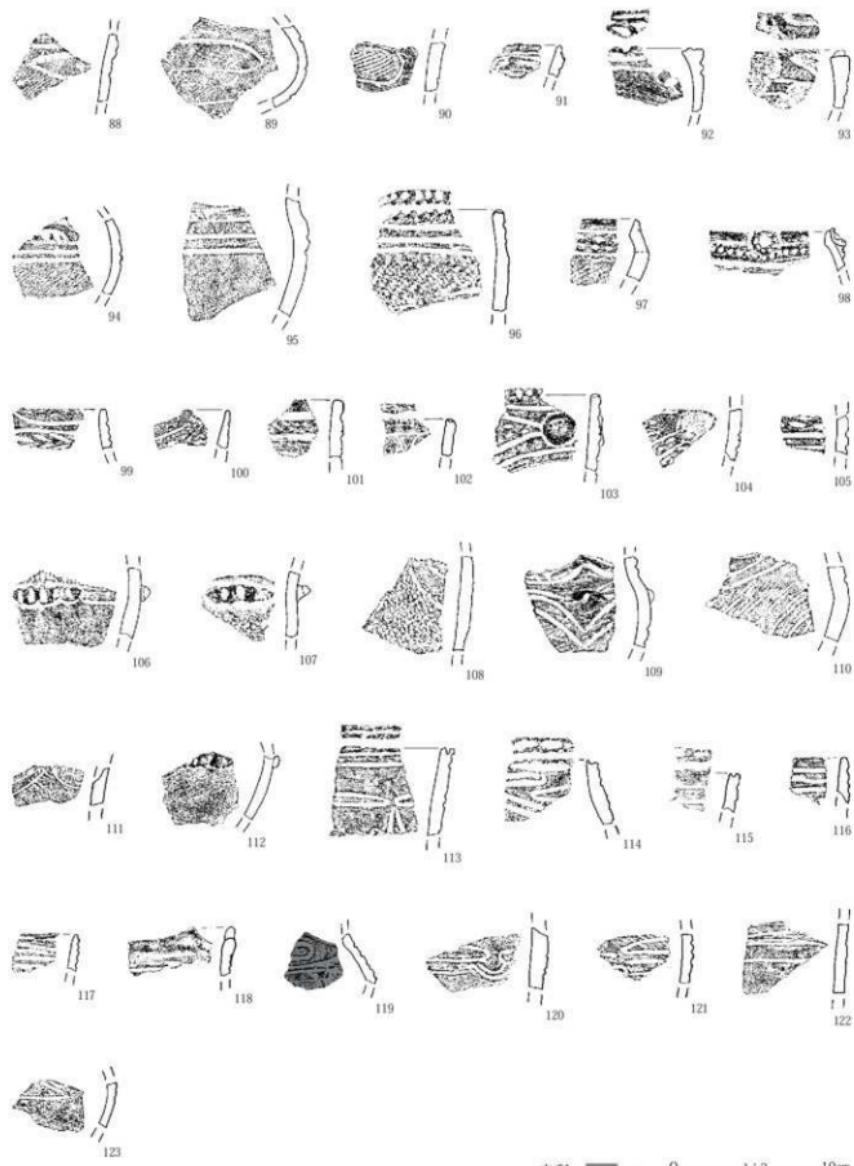
第47図 道構外出土土器2区(1)



第48図 遺構外出土土器2区(2)

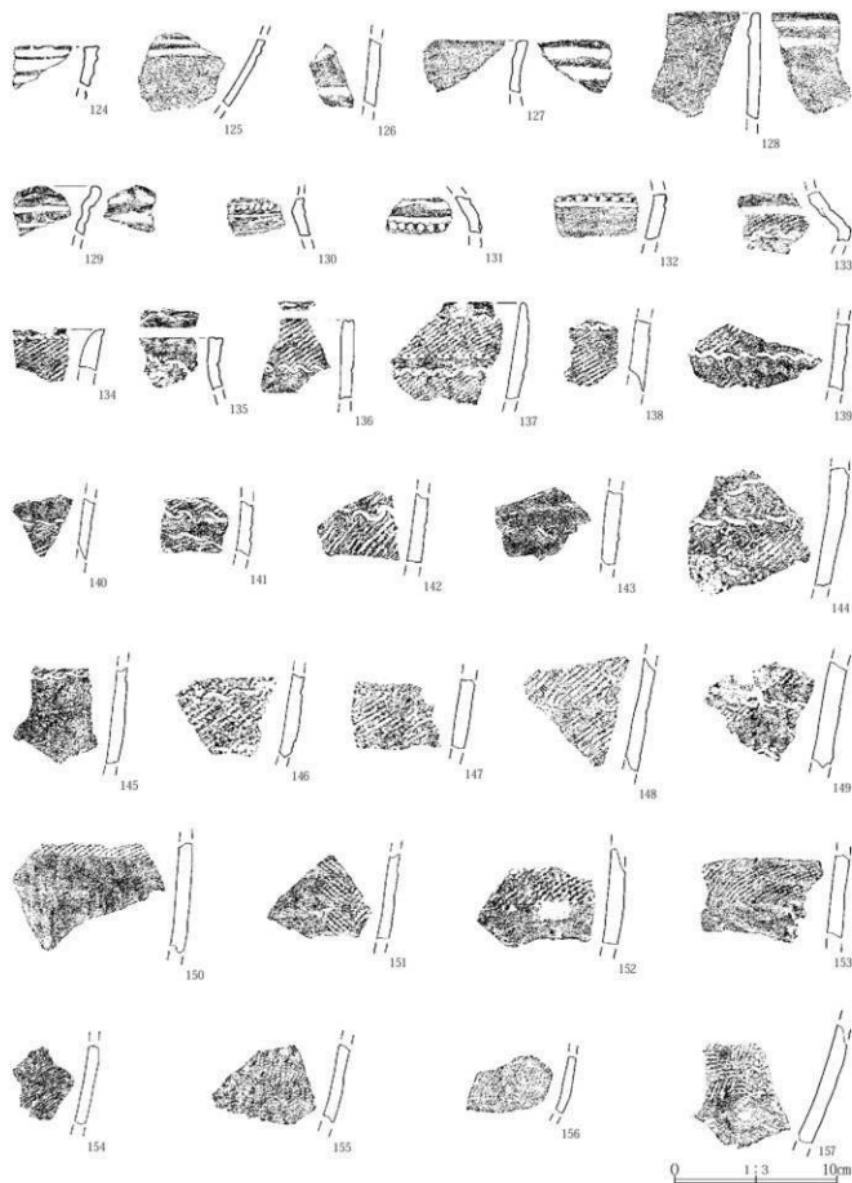


第49図 道標外出土土器2区 (3)

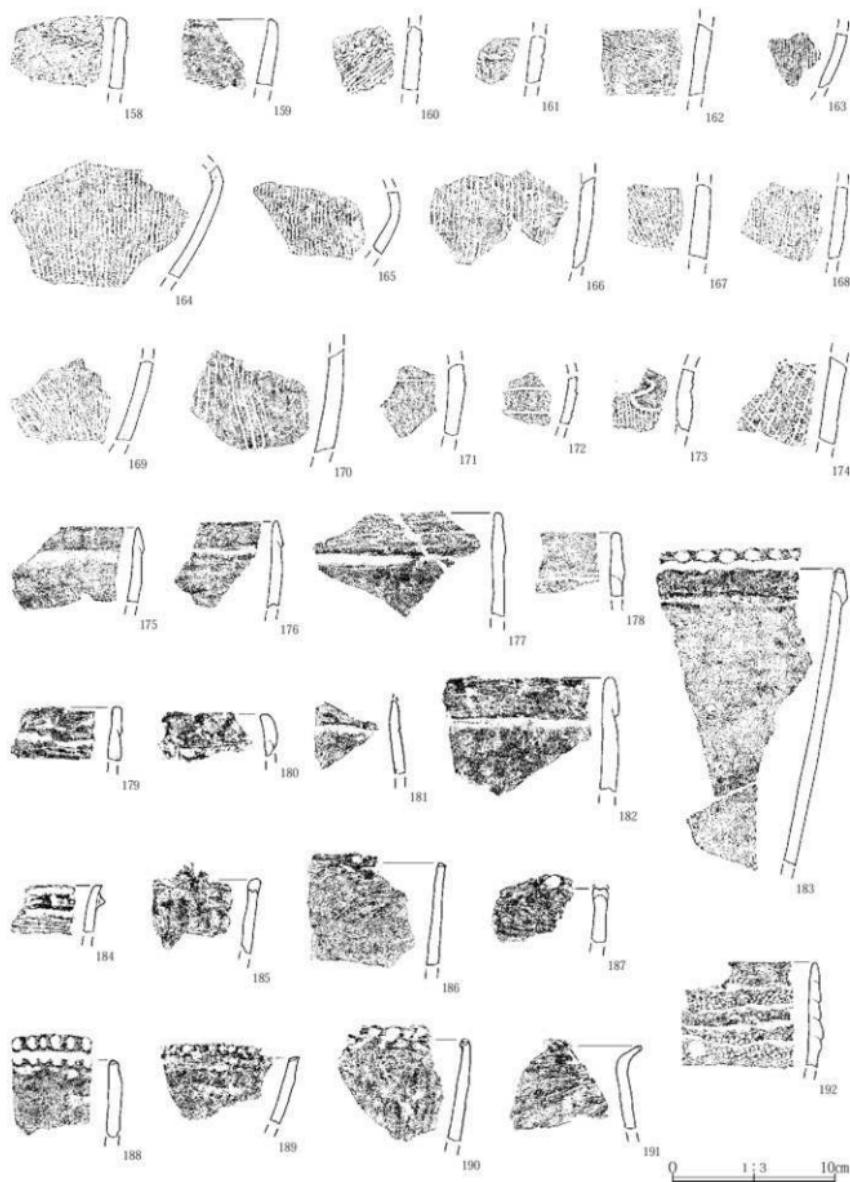


第50図 遺構外出土器 2区 (4)

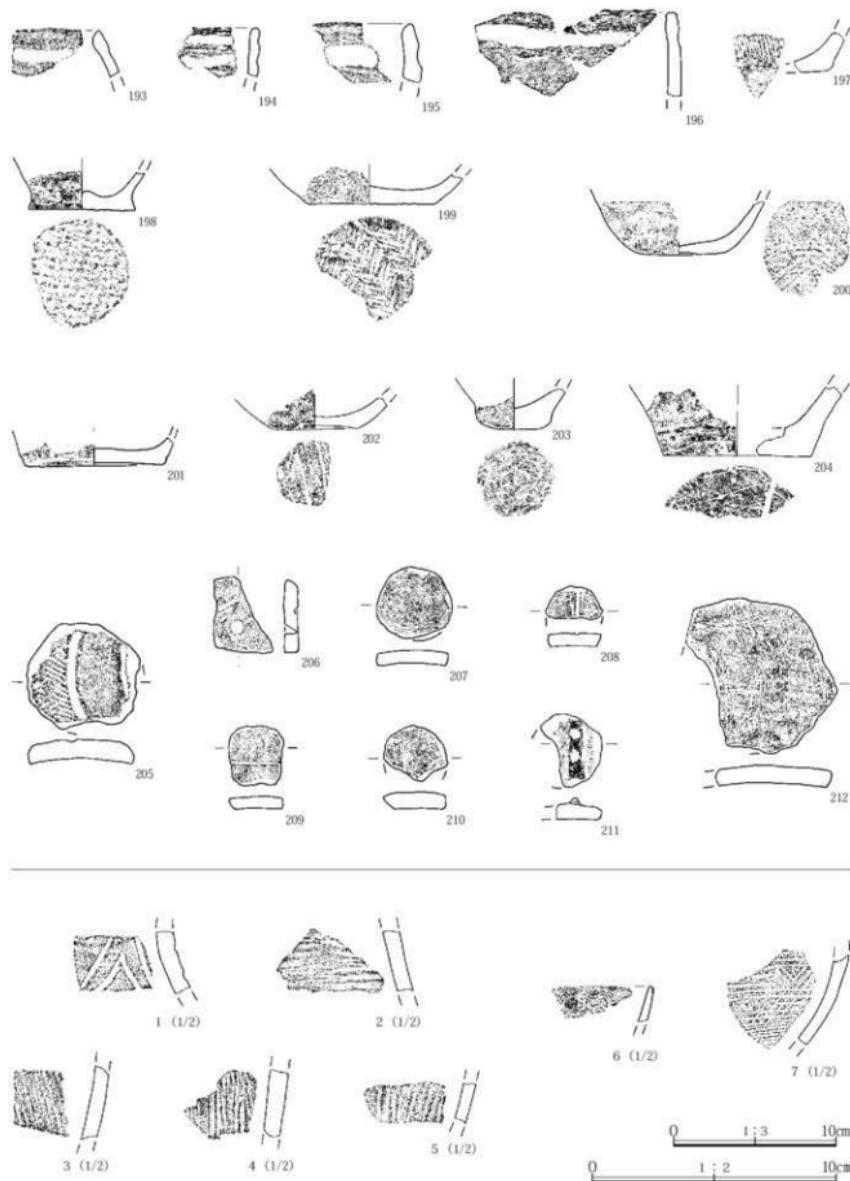
赤彩… ■ 119 0 1:3 10cm



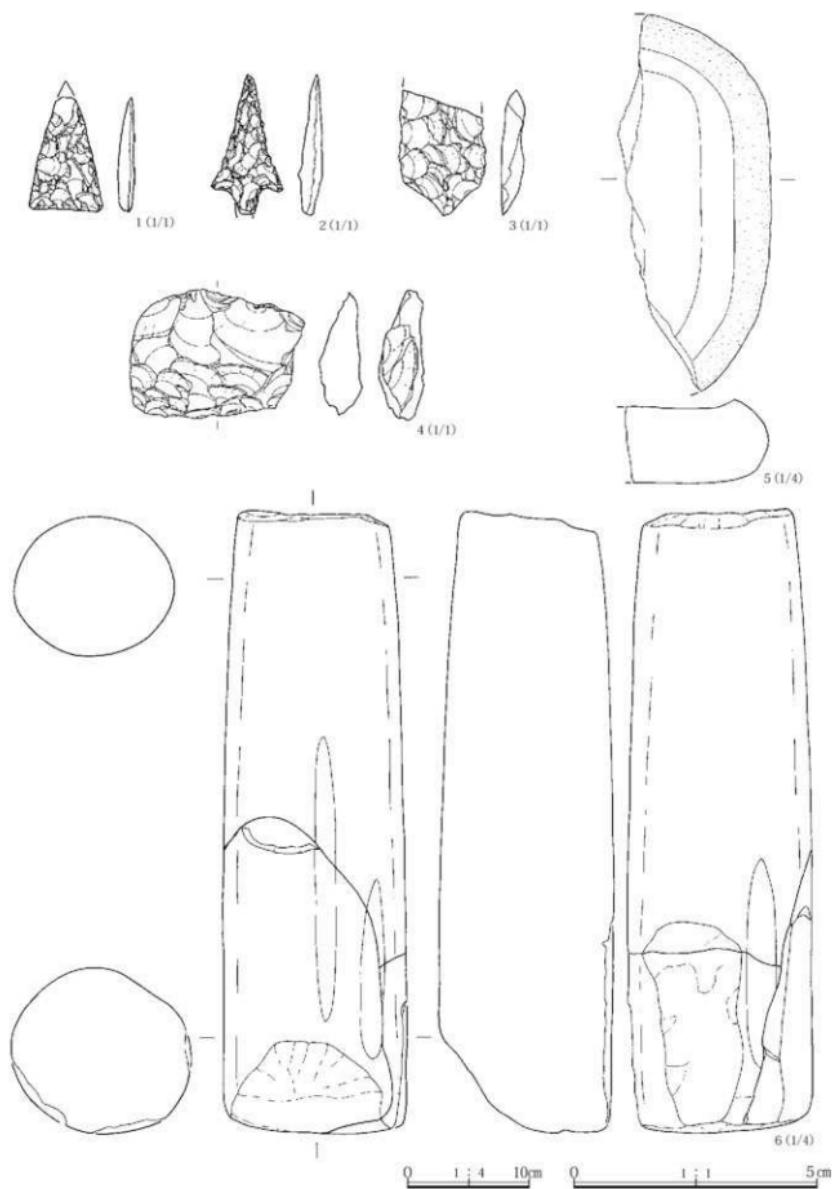
第51図 道標外出土器2区（5）



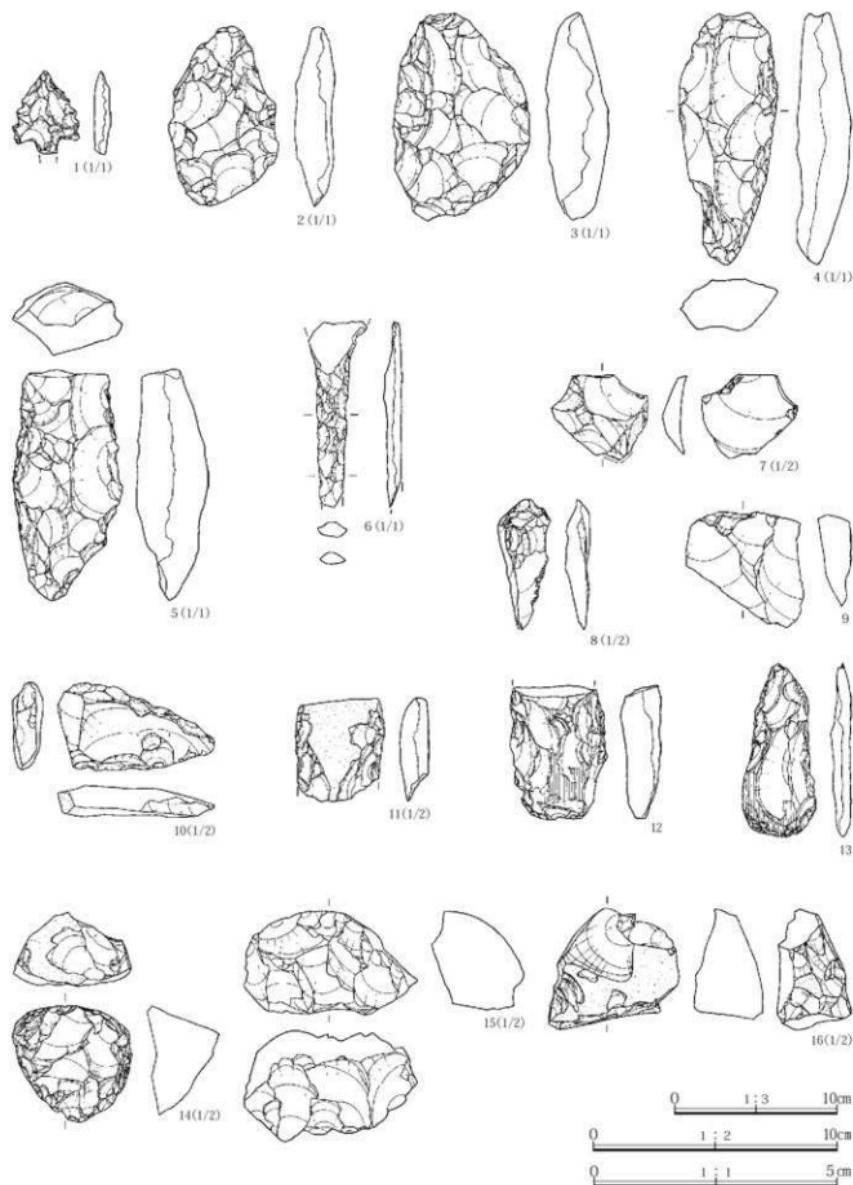
第52図 遺構外出土器 2区 (6)



第53図 道標外出土器2区(7)



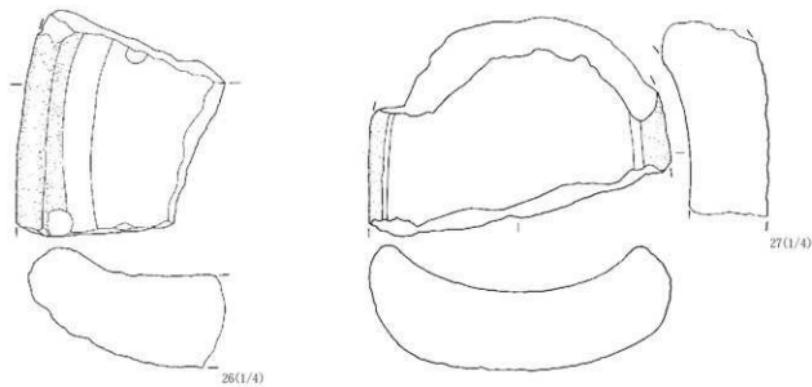
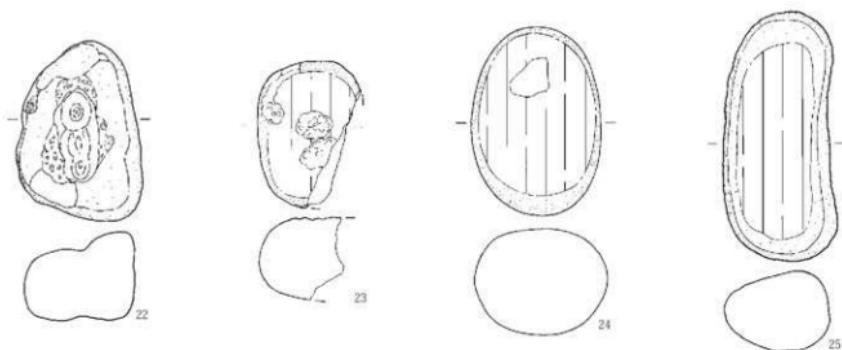
第54図 遺構外出土石器 1区



第55図 道標外出土石器2区（1）



第56図 遺構外出土石器2区（2）



0 1 : 4 10cm
0 1 : 3 10cm

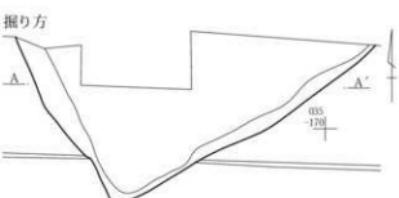
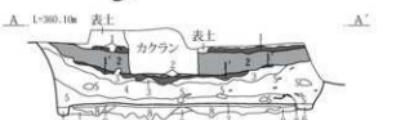
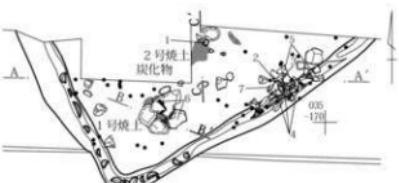
第57図 道構外出土石器2区(3)

第4節 古墳時代

古墳時代の遺構の認定は、降下テフラや出土遺物から判断されたもので、第3面扱いとする。第3面の遺構は竪穴建物6棟（覆土中に榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）の堆積あり：以降Hr-FAと省略する）、土坑2基、ピット2基、遺物集中（1号）、Hr-FA下の水田区画及びそれに伴う溝3条がある。遺構ごとに項立てて詳述したい。

1 竪穴建物

2区3面より6棟の竪穴建物が発見された。竪穴建物プラン全域が明らかにされた竪穴建物ではなく、部分的に調査未了かほとんどが調査区外に及ぶ竪穴建物もあり、一様でない。また、炉を持つ竪穴建物とカマドを持つ竪穴建物、双方を持つ可能性のある竪穴建物がある。これらほとんどの竪穴建物において、覆土中からHr-FAの1次又は2次堆積土層が確認されている。堆積のあり様は様々で、Hr-FA下から床面までの間層の層厚はそれぞれ異にしている。そうした堆積状況の中で、カマドを持つ竪穴建物と炉を持つ竪穴建物があり注目される。



1号竪穴建物 (第58・60図 PL. 9・43)

位置 X=64,034 ~ 64,036 · Y=-87,169 ~ -87,173

平面形状 南西コーナー部のみ調査 長方形状か。

規模 確認西壁長 (2.38) m 確認南壁長 (3.77) m

壁高0.76m

現存床面積 (2.87) m² 長軸方位 測定不能

埋没状況 床面から0.4mほど黒褐色土（4・5層）が堆積し、その上層にHr-FAが中央部分にかけて厚く堆積する。およそ0.2~0.4mのレンズ状の堆積である。Hr-FAは、4層（1・1'・2層、3層はHr-FAと黒褐色土の混土層）に分層できる。1・1'層は、1次堆積層の可能性が高いが、2層はラミナ状の堆積であり、水成堆積土といえる。この水成堆積土（火山泥流堆積物）は、シルト及び細砂で構成され、硬化がすすんでいる。3層のHr-FA混土層のHr-FA粒子・ブロックは1次堆積の可能性がある。

床面より、0.05~0.07m上位に焼土及び炭化物の分布が2カ所認められた。焼土及び炭化物は、床面直上でなく、5層の堆積後の分布であり、竪穴建物廃絶後から5層が堆積するまでの時間的な経過が存在する。

床面 床面の確認範囲が少少で、竪穴建物周縁部のため、

1号焼土

L=360.10m
B-B'

1. 5YR4/6 赤褐色土 焼土粒と炭化物。灰を主体とする。しまりなし。

2号焼土

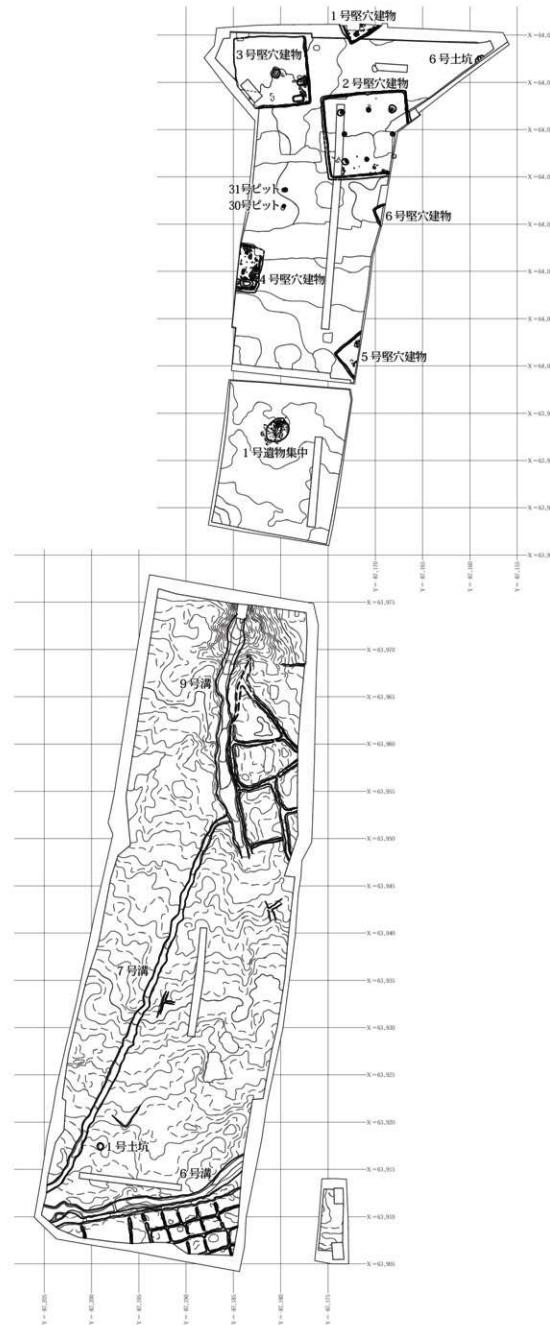
L=359.30m
C-C'

1. 5YR4/6 赤褐色土 焼土
は上層に集中している。

1. 10Y8/2 灰白色土 Hr-FA 1次堆積層 鉄分の凝縮を少量含む。
- 1'. 10Y8/2 灰白色土 1に近似。鉄分の凝縮がぼぼし。
2. 10Y8/3 浅赤褐色土 Hr-FA 2次堆積層 タブを含む、ラミナ構造。
3. 10Y4/1 黒褐色土 Hr-FAと黒褐色土の混合土。
4. 10Y3/1 黑褐色土 粘性はほとんどなし。φ2mm~3mmローム粒子含む。φ30mm~50mmローム15% φ3mm~5mm焼土粒子を東側に5%含む。
5. 10Y3/1 黑褐色土 粘性はほとんどなし。φ5mm~8mm燒土10% φローム粒子含む。4に比べ少し硬い。
6. 10Y2/2 黑褐色土 堤防溝の上層。ローム・白色粒子含む。断面にはないが大型黄色結晶も含んでいた。
7. 貼床の上層。
8. 10Y3/2 黑褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm~4mmYP20% 西側が多い。φ10mm~50mmローム30%
9. 10Y3/4 地山の上・白色粒子を含む。φ2mm~3mmYP10% しっかりとしたまっている。

第58図 1号竪穴建物 (1)

0 1:60 2m



第59図 3面全体図

顕著な硬化面等は認められなかった。厚さ0.05mの貼床が断面で確認された。ロームブロック及びローム粒子を含む黒褐色土を貼床の基底とし、平坦面を構成している。

柱穴 柱穴は確認できなかった。

カマド カマド及び炉等の痕跡は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

壁際溝 幅0.16～0.39m、深さ0.05mの壁際溝が確認された。ローム粒子・ブロック等を含む黒褐色土が充填され、長さ0.1～0.2mの三日月状の掘削痕が認められた。U字形鋤先による掘削痕跡と推定される。

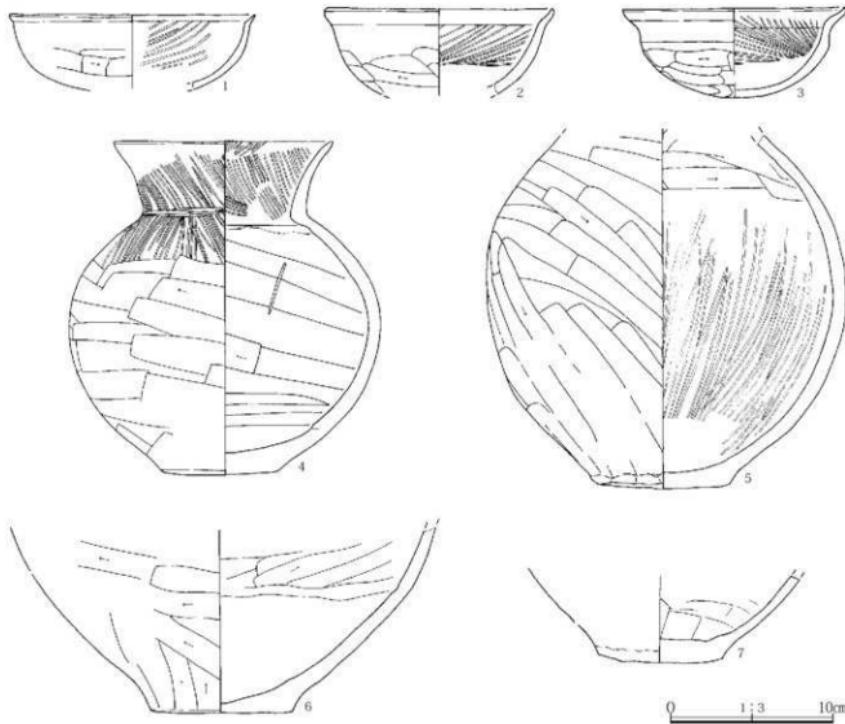
出土遺物 床面直上の遺物はないが、焼土及び炭化物の分布範囲（床上0.05m）と同水準の位置からの出土である。1・2・3は所謂内斜口縁部を持つ土師器杯で、内面に放射状ヘラ磨きが施される。2と3は口唇部が摘み

上げられている。4・5・6はいずれも土師器甕で、4は1/4を欠損する。

掘り方 地山面に凹凸があるものの、遺構・掘削痕等の顕著な傾向は認められなかった。

所見 穴室建物の平面形状の一部南西コーナー部分のみの調査のため、きわめて情報量が少ない。穴室建物と認定した根拠は、覆土の堆積状況・壁際溝の存在・遺物の出土状況等からである。本穴室建物は、穴室建物廃絶後に5層の黒褐色土が堆積し、その後遺物や焼土・炭化物の人為的な混入がある。4層の堆積後も平坦ではなく、くぼんでいたものと考えられるが、1層から3層のBr-FAの降下火山灰や火山泥流（洪水堆積）によって、ほぼ埋没が完了し、平坦化した可能性が高い。

出土遺物は、5世紀中葉の所産と考えられる。



第60図 1号竪穴建物出土遺物（2）

第3章 発見された遺構と遺物

2号竪穴建物（第61～66図 PL.10・11・44）

位置 X=64,019～64,029・Y=-87,166～-87,175

平面形状 長方形

規模 西壁長9.34m 北壁長9.05m 壁高0.74m

現存床面積 (62.60) m² 長軸方位 N-85° -E

埋没状況 広範囲な擾乱や試掘トレンチの掘削及び調査区外の部分もあって、堆積状況の全的把握はできなかつた。残存する壁高は、0.76mあり、上層から1層はHr-FA混土の暗褐色土、2～6層はHr-FA由来の土層で、3・4・6層はHr-FA 1次堆積土、5層はHr-FAの2次堆積土で、ラミナ状の堆積を呈し、水成堆積土（火山泥流堆積物）と思われる。7層及び10層の黒褐色土の下位が床面となる。本竪穴建物では、埋没過程でHr-FAの降下や噴火に伴うと考えられる火山泥流（洪水堆積物）の流入を確認した。

床面 現存する床面は、耕作による削平・擾乱・試掘トレンチ等によって確認できなかつた部分が多い。竪穴建物南側の4割程度が現存する。現存部分では、多少の起伏はあるものの概ね平坦面が保たれていた。床面付近から焼土の分布が認められた。

柱穴 推定8基の柱穴が確認された。P1については調査区外のため未確認である。P2～P8のピットは、いずれも柱痕が確認できるもので、竪穴建物廃棄後に埋まりきらずに空洞を伴うものである。柱痕は、Hr-FA粒子やHr-FAがブロック状に混入しているもの（P1～P6）が多く、すべてにおいてしまりのないふかふかした（調査時所見）土層であった。Hr-FA降下時には、埋まりきらずに柱材そのものが存在していた可能性が高い。柱痕の形状は、径約0.15～0.2mの円形状を呈していた。竪穴建物の各コーナー部にある柱穴（P3・P5・P7）は、その掘り方の規模が大きく、深く掘り込まれ、位置関係からみても主柱穴と言つてよい。主柱穴間にある柱穴（P2・P4・P6・P8）は、掘り方の規模がやや小さめで、掘り込みもやや浅い。

炉・カマド 炉及びカマド等の施設は確認できなかつた。小規模な焼上面が2カ所で確認された。カマドは、東側未調査区にあつた可能性が高い。

貯蔵穴 調査時には確認できなかつたが、4号床下土坑を貯蔵穴と認定することとした。東西方向に長い長円形を呈し、深く掘り込まれている。

壁際溝 調査範囲内すべてにわたって確認できた。幅0.16～0.5m、床面からの深さは、約0.3mを計る。

出土遺物 出土遺物は、土師器杯・高杯・甕・須恵器蓋、石製品管玉を示した。土師器杯の1・2・3・4は口縁部が内湾するもので、5・6は所謂内斜口縁部をもち、7は括れ杯と呼称されるものである。2は、貯蔵穴からの出土である。1・3・4・5・6・7・8は内面に放射状へラ磨きが施されている。8は土師器高杯、9・10・11・12・13はいずれも土師器甕で、9は1/3欠失する。10・11・13は胴部から底部、12は口縁部から胴部下半部の破片である。14は須恵器蓋のつまみ部分である。15は蛇紋岩製の青玉で一部欠損する。

掘り方 掘り方の調査では、床下から土坑3基、ピット3基の他、床面小溝の痕跡と思わせる溝4条、竪穴建物の拡張と考えられる壁際溝が2カ所で確認された。また、床の全面からU字形鏽先と推定される三日月状の掘削痕（幅0.15～0.25m）や赤色顔料のベンガラと考えられる素材が出土した。土坑・ピットの計測値を一覧表（第4表）に掲げておく。

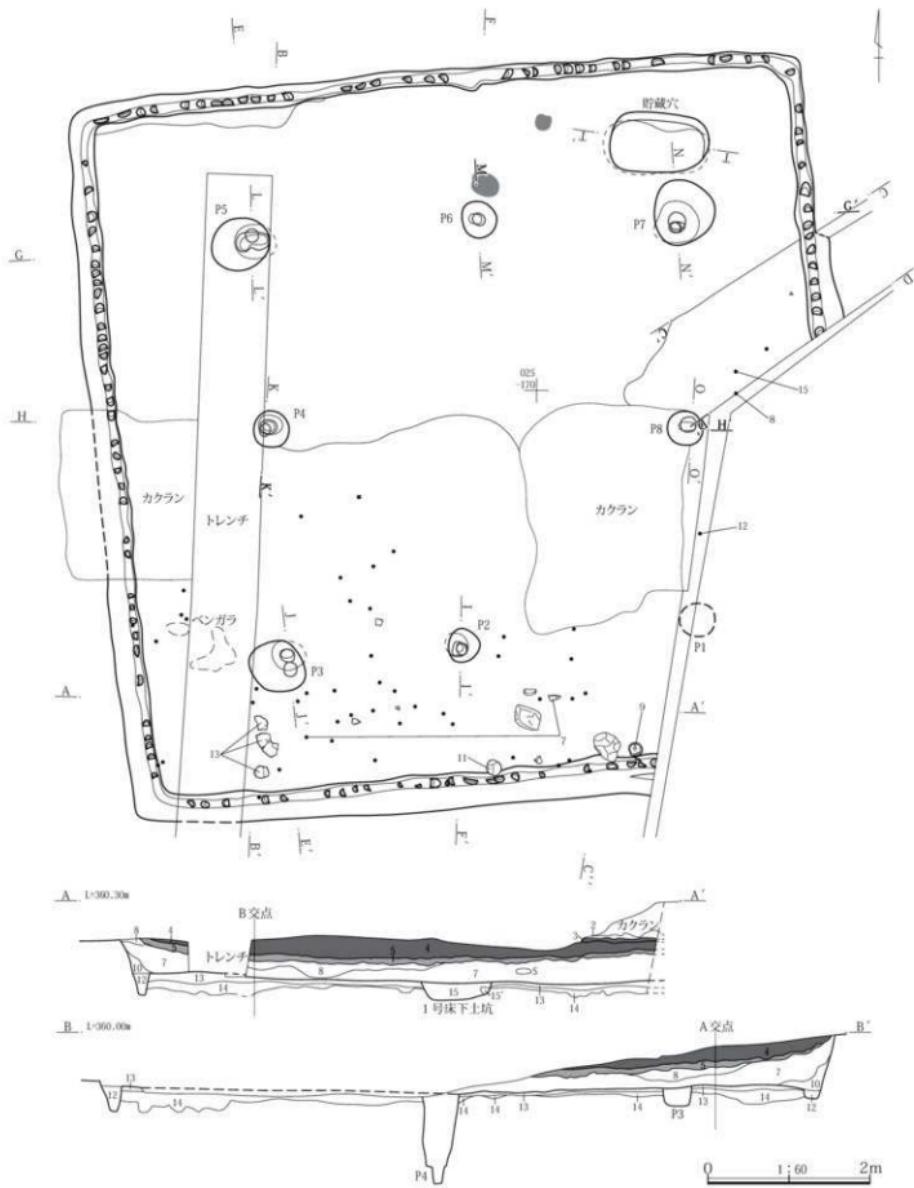
床面小溝は北辺部と南辺部でそれぞれ1カ所、西辺部で2カ所確認された。竪穴建物の壁に直行する形状で、幅0.2～0.25m、長さ1.0m、深さ0.03～0.1mを計る。

壁・壁際溝に並行して周溝状の溝が北東コーナー部と北辺部の2カ所で確認された。幅0.2～0.25m、深さ0.1～0.15mであった。

出土赤色顔料の分析結果は、報告の通りである。

所見 長軸長及び短軸長が9mを超える、柱穴数も推定8基を数えることから、大型竪穴建物であるといえる。炉及びカマドの存在を確認できなかつたが、炉であったとすれば擾乱等で欠失したものと考えられ、カマドならば調査区外にその存在の可能性がある。炉からカマドへの転換期とも重なるので、どちらとも断定できない。また、これだけの規模の竪穴建物であるにもかかわらず、貯蔵穴の存在が明らかでないが、調査時の段階でも4号床下土坑を貯蔵穴の可能性ありとしている。整理段階において、堆積土層及び形状等吟味してみた結果、改めて4号床下土坑を貯蔵穴と認定することとした。

本竪穴建物は、その覆土中にHr-FAの1次堆積が認められるものであり、その堆積のあり様が先にも述べた通り、Hr-FAの降下時にHr-FA由来の火山泥流（洪水堆積物）

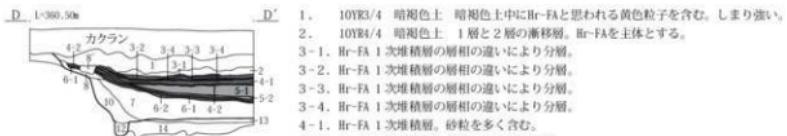


第61図 2号整穴建物(1)

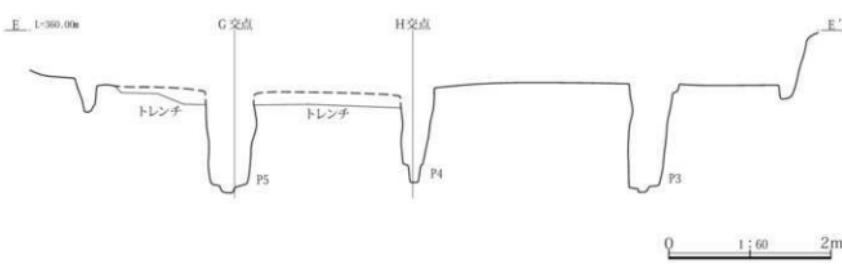
第3章 発見された遺構と遺物



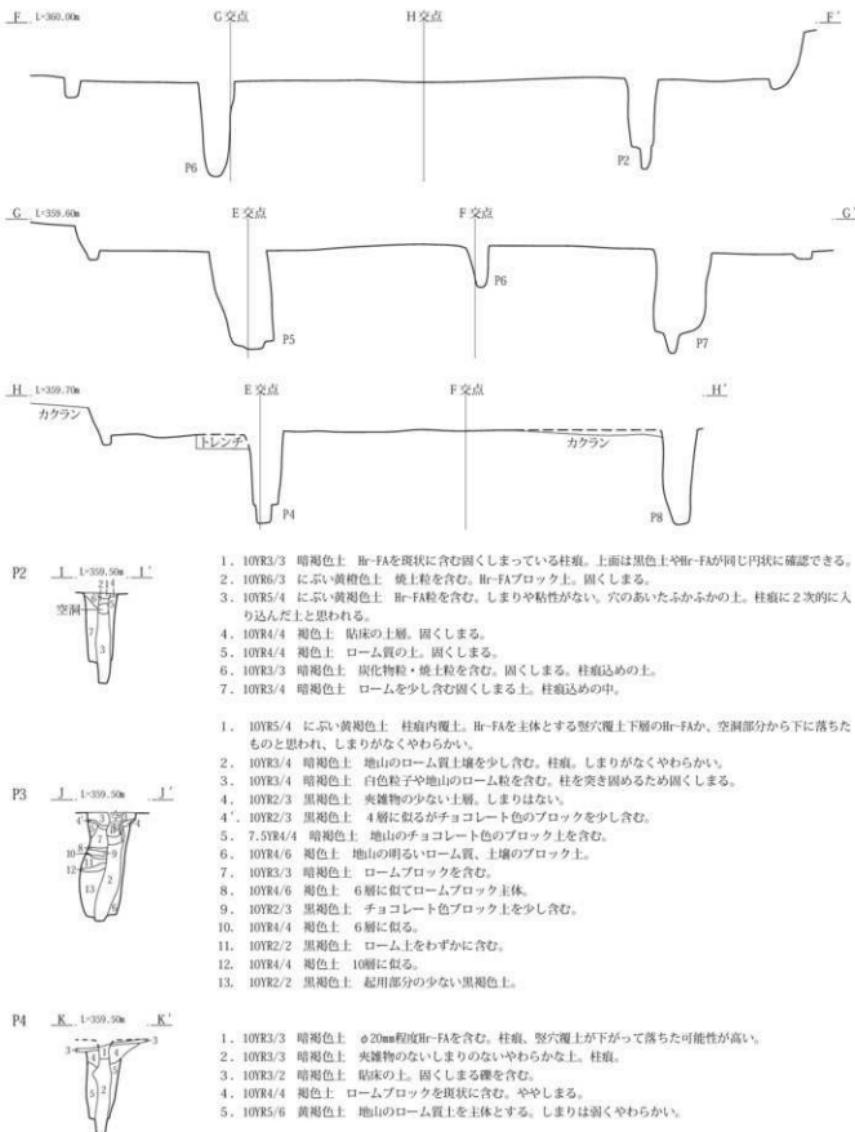
1. 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土中にHr-FAと思われる黄色粒子を含む。しまり強い。
2. 10YR4/4 暗褐色土 1層と2層の漸移層。Hr-FAを主体とする。
3. 10YR6/6 明褐色土 Hr-FA 1次堆積層と思われる。白色粒子を少し含む。
4. 10YR8/3 浅褐色土 Hr-FA 1次堆積層と思われる。砂粒状の土層が2層含まれる。
5. 10YR6/3 にぶい黃褐色土 Hr-FA 2次堆積層と思われる。下層に砂粒を含むラミナ構造がみられる。下層に植物化石を含む。
6. 10YR8/2 黄褐色土 Hr-FA 2次堆積層と思われる。きめ細かな層間に白色粒子を少し含む。植物化石を含む。
7. 10YR3/2 黒褐色土 YPやチョコレート色のブロック上、燒土粒を少し含む。
- 7'. 10YR2/3 黑褐色土 7層に似るが、チョコレート色のブロック土を含まない。
8. 10YR3/3 暗褐色土 Hr-FAと思われる土を斑状に含む。
9. 10YR6/3 にぶい黃褐色土 Hr-FAのブロック上。
10. 10YR2/2 黑褐色土 しまりのないばそぼとした土。ローム粒と燒土粒を含む。
11. 10YR2/2 黑褐色土 ローム粒を含む。しまりは弱い。
12. 10YR3/2 黑褐色土 壁際溝の覆土YP軽石やチョコレート色のブロックを含む。掘削痕が残る。
13. 10YR3/4 暗褐色土 貼床の土層。黄色軽石やロームを含み固くしまる。
14. 10YR4/4 褐色土 挖り方の土層。ロームブロックや黒色土を斑状に含む。固くしまる。
15. 10YR2/3 黑褐色土 2号竪穴建物1号床下土坑内上黄色軽石を斑状に含む。
- 15'. 10YR3/3 暗褐色土 15層と同様だがチョコレート色のブロック上。



- 貯蔵穴**
-
1. 10YR4/4 褐色土 貼床に似た土層。固くしまる。ロームブロックと焼土を少し含む。
 2. 10YR2/3 黑褐色土 しまりのないばそぼとした土。
 3. 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを斑状に含む。焼土ブロックも含む。
 4. 10YR3/3 黑褐色土 ロームを少し含む。粘性強い。しまりなし。
 1. 10YR3/4 暗褐色土 貼床の上層。黄色軽石やロームを含み固くしまる。
 2. 10YR2/2 黑褐色土 しまりのないばそぼとした土。ローム粒と焼土粒を含む。
 2. 10YR3/2 黑褐色土 壁際溝の覆土YP軽石やチョコレート色のブロックを含む。掘削痕が残る。
 3. 10YR3/3 暗褐色土 Hr-FAと思われる土を斑状に含む。
 4. 10YR4/4 褐色土 挖り方の土層。ロームブロックや黒色土を斑状に含み固くしまる。



第62図 2号竪穴建物（2）



第63図 2号豊穴建物（3）

第3章 発見された遺構と遺物

P5 L-359.30m M'



1. 10YR5/3 にぶい暗褐色土 しまりのない上。Hr-FAを斑状に含む。柱痕。
2. 10YR4/4 褐色土 7層にローム質土が崩れて入ったものと思われる。しまりなし。柱痕。
3. 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまりなし。柱痕。
4. 10YR3/3 暗褐色土 地山のチョコレート色の土をブロック状に含む。固くしまる。
5. 10YR2/3 黒褐色土 夾雜物のない黒色土。しまりない。
6. 10YR4/4 褐色土 ロームブロック。
7. 7.5YR3/4 褐色土 チョコレート色の地山。ブロック上。
8. 7.5YR2/3 黒褐色土 5層に似るがロームブロックを含む。しまりない。
9. 7.5YR3/4 褐色土 チョコレート色の地山のブロック上。
10. 10YR2/3 黑褐色土 夾雜物の少ない黒色土。

P6 M- L-359.30m M'



1. 10YR4/4 褐色土 Hr-FAをロームブロック状に含む。しまりは弱い。
2. 10YR3/3 暗褐色土 しまりの弱いHr-FAを主体とした上。
- 1・2層は柱痕でHr-FAが下に落ちたものと思われる。
3. 10YR3/3 暗褐色土 ロームと燒土粒を含み固くしまる。
4. 10YR3/3 暗褐色土 ロームを含む。しまり弱い。
5. 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを主体とする。

P7 N- L-359.30m N'



1. 10YR2/3 黒褐色土 柱痕の上層。ローム質の土を少し含む。粘性はなく、しまりも弱い。とてもやわらかなふかふかした土。
2. 10YR4/4 褐色土 貼床の上層。ロームブロックを多く含む。固くしまる。
- 2'. 10YR3/4 暗褐色土 2層に似ているが含まれるロームブロックが少ない。
3. 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土中にチョコレート色のブロック土を少し含む。しまりは弱い。
4. 7.5YR3/4 暗褐色土 チョコレート色のブロック土を多く含む。しまりは弱い。
5. 10YR2/3 黒褐色土 夾雜物の少ない黒色土層。
6. 10YR3/3 暗褐色土 黒色土中にチョコレート色のブロック土をわずかに斑状に含む。

P8 Q- L-359.30m Q'



1. 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム質のあるしまりのない土。炭化粒少し含む。柱痕。
2. 10YR4/4 褐色土 ローム質土壌に黒色土を含む。しまりなし。柱痕。
- 2'. 10YR3/4 暗褐色土 2層に似るが含まれる黒色土の割合が多い。
3. 10YR4/4 褐色土 地山のローム質土壌を主体とする。しまりなし。柱痕。
4. 10YR3/4 暗褐色土 ロームを斑状に含む。固くしまる。
5. 10YR2/3 黒褐色土 ロームと黒色土が斑状となる。
6. 10YR4/6 褐色土 地山のローム質土壌を主体とする。しまりなし。

P9 2号床下土坑



1. 10YR3/3 暗褐色土 床下調査の際に検出。ロームを斑状に含む。炭化物含む粘性強い。底面が北側に傾斜することから出入口設置の可能性が高い。2号床下土坑と重複し、2号床下土坑をさる。
2. 10YR2/3 黑褐色土 ロームブロックを斑状に含む。粘性強い。
3. 10YR4/4 褐色土 チョコレート色の地山の土を主体としロームを含む。粘性強い。

P10 L-359.30m Q'



1. 10YR3/3 暗褐色土 チョコレート色のブロック土を斑状に含む。ローム粒も含む。粘性強い。

P11 R- L-359.30m R'



1. 10YR3/3 暗褐色土 ローム質の土。粘性なくしまり弱い。燒土粒含む。
2. 10YR2/3 黑褐色土 ロームブロックを黒色土と斑状に含む。固くしまる。

3号床下土坑 S- L-359.30m S'



1. 2.5YR3/4 暗赤褐色 チョコレート色の土層中に焼土や粘土を多く含む。要の剥離部破片が出土。ブロック。
2. 2.5YR3/5 褐色土 1層に似るが含まれる焼土が少ない。
3. 10YR3/3 暗褐色土 チョコレート色の地山の土をブロック状に含む。

0 1:60 2m

第64図 2号堅穴建物(4)

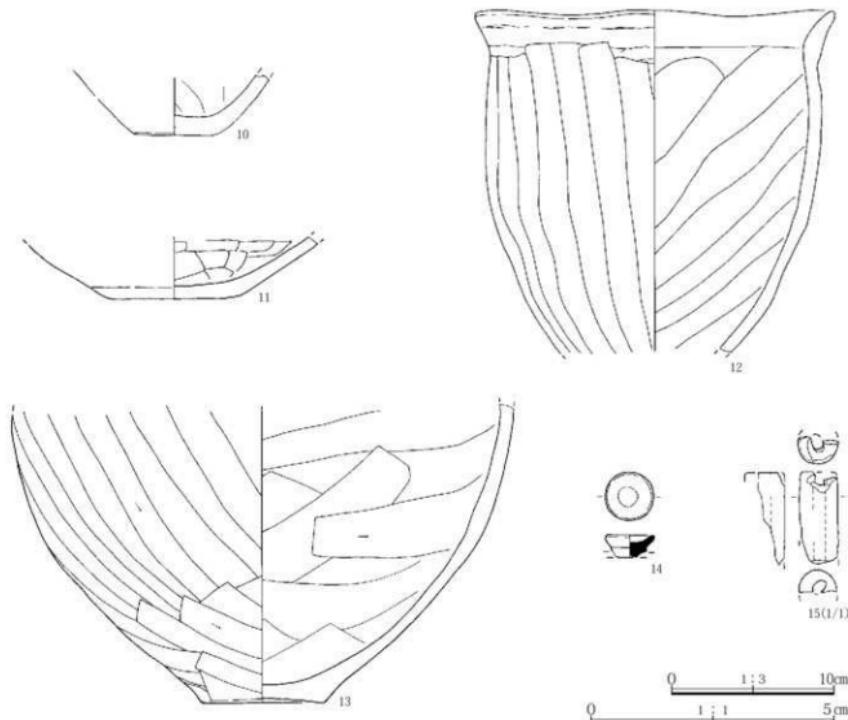
が流れ込んでいる状況を示していた。また、柱穴の柱痕に空洞が認められたという事象や床下から出土した赤色

顔料のベンガラなど、注目される遺構である。

出土遺物は、5世紀の第2四半期の様相を持つ。

掘り方





第66図 2号竖穴建物出土遺物（6）

3号竖穴建物（第67～70図 PL.11・12・44・45）

位置 X=64,027～64,034・Y=-87,176～-87,184

平面形状 方形

規模 東壁長7.70m 北壁長7.58m 壁高0.26m

現存床面積 (52.61) m² 長軸方位 N-87° - E

埋没状況 平面形状確認面が床面とほぼ同一のため、顕著な傾向を確認できなかった。調査区外にかかる断面図(C-C')によると、上層に焼土粒子や小礫を含む暗褐色土、下層に炭化物粒子を含む黒褐色土が充填される。

床面 撹乱や近年の耕作などによって、確認できた床面部分は多くはない。残存する床面は、竖穴建物の南側のみで、床面積にして3割程度の面積が確認されている。多少の起伏はあるが、ほぼ平坦面を保っている。焼土や炭化物の分布が床面及び床面直上で確認され、炉やカマド付近からの発見であるためこうした遺構との関連が考

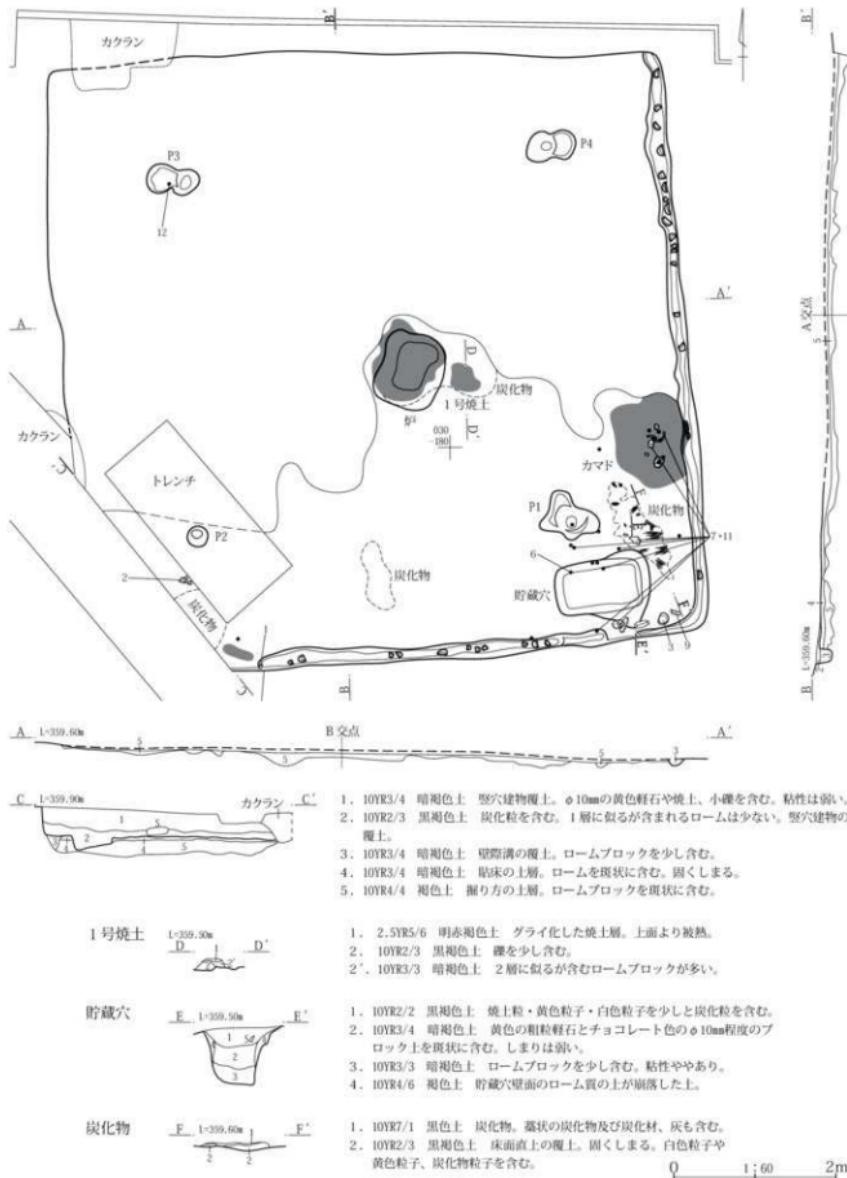
えられる。1号焼土や炭化物分布状況は、床面との間に間層が認められる。

柱穴 床面精査の段階では、床面の荒れもあって柱穴と考えられるピットは発見できなかったが、掘り方調査の段階でP1～P4の柱穴の発見に至った。P1・P4からは柱痕状の断面が確認された。

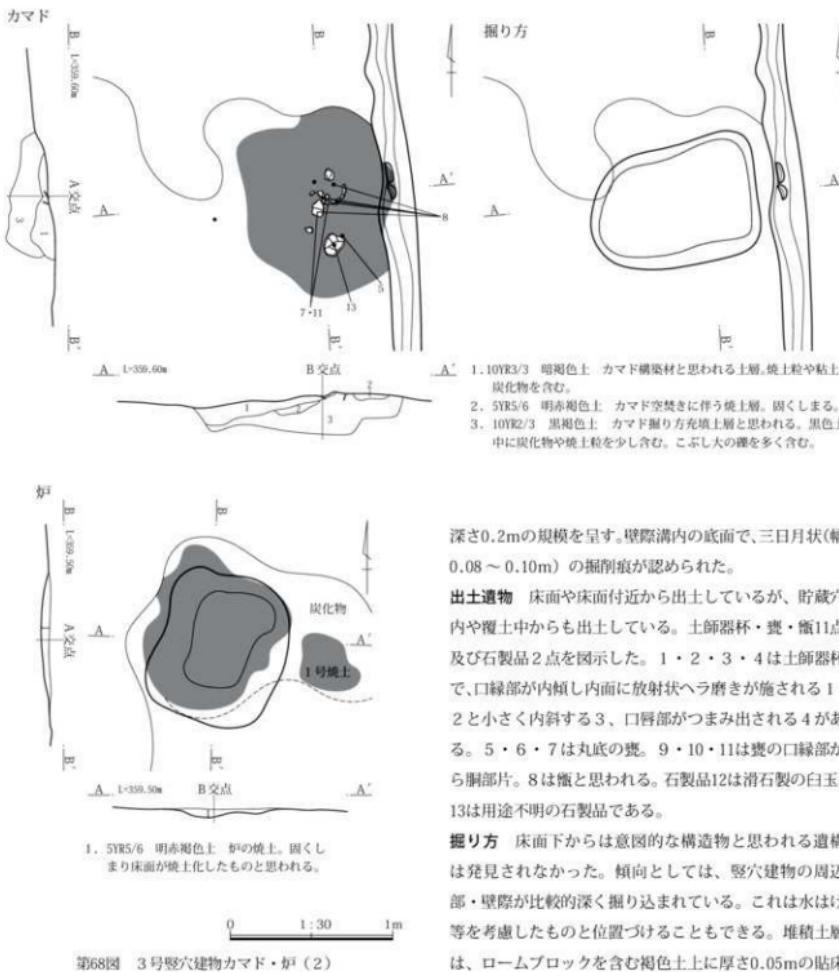
炉・カマド 炉及びカマド双方が発見された。

炉は長辺1.10m、短辺0.8mの長方形形状の範囲の床面が焼土化したもので、いわゆる地床炉といわれるものであり、枕石等の用石は認められなかった。炉周辺部では、炭化物の分布が確認されている。

カマドは、東壁の中央より南寄りに確認された。カマドの残存状態は極めて悪く、燃焼部下で掘り方の確認にとどまる。カマド掘り方の規模・形状は、長軸1.05m、短軸0.74m、深さ0.22mほどで、カマド構築材と思われ



第67図 3号竪穴建物（1）



第68図 3号竪穴建物カマド・炉(2)

る粘土及び炭化物や焼土粒子が混入する暗褐色土や、焼土ブロックに被覆されていた。

貯蔵穴 南東コーナー付近に確認された。長方形状を呈し、断面は箱型の安定した掘り込みである。

壁際溝 東辺部と南辺部にかけて確認された。貯蔵穴付近では、壁際溝が一旦途切れている。幅0.13～0.28m、

深さ0.2mの規模を呈す。壁際溝内の底面で、三日月状(幅0.08～0.10m)の掘削痕が認められた。

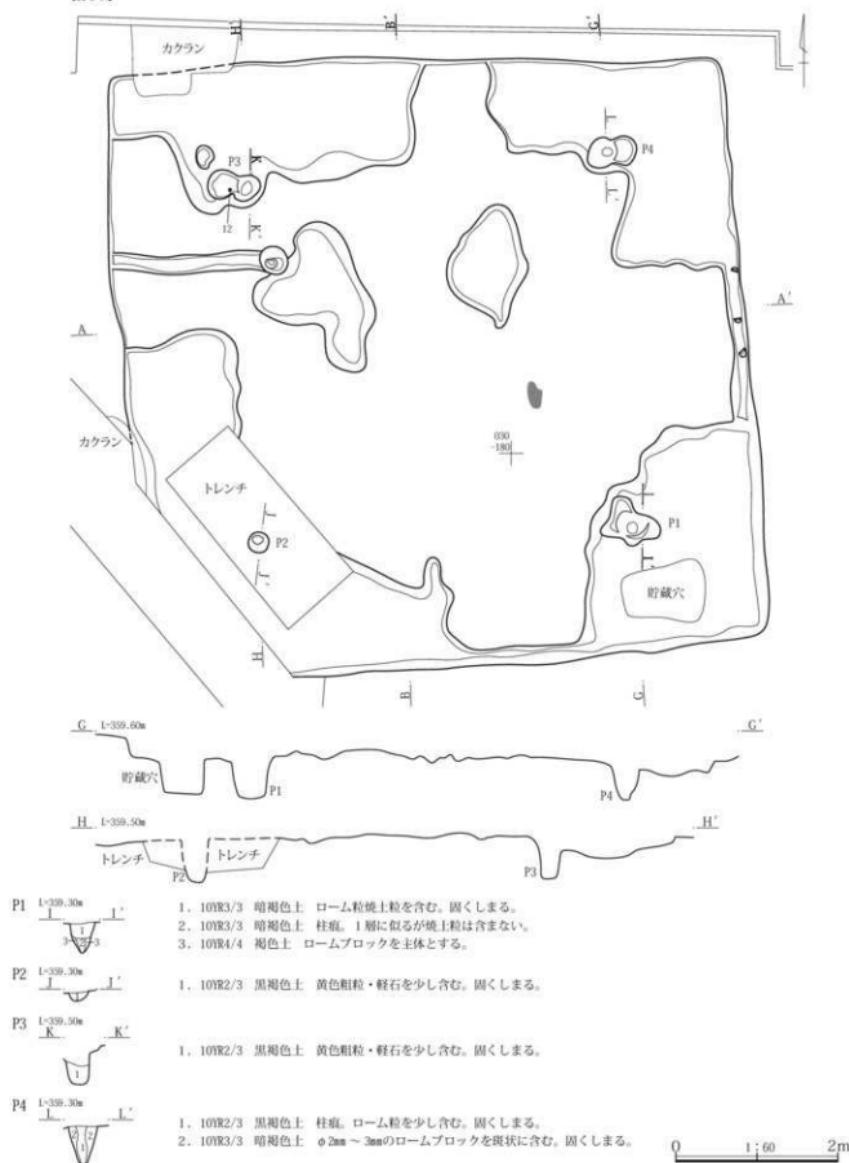
出土遺物 床面や床面付近から出土しているが、貯蔵穴内や覆土中からも出土している。土師器杯・甕・瓶11点及び石製品2点を図示した。1・2・3・4は土師器杯で、口縁部が内傾し内面に放射状ヘラ磨きが施される1・2と小さく内斜する3、口唇部がつまみ出される4がある。5・6・7は丸底の甕。9・10・11は甕の口縁部から胴部片。8は瓶と思われる。石製品12は滑石製の白玉、13は用途不明の石製品である。

掘り方 床面下からは意図的な構造物と思われる遺構は発見されなかった。傾向としては、竪穴建物の周辺部・壁際が比較的深く掘り込まれている。これは水はけ等を考慮したものと位置づけることができる。堆積土層は、ロームブロックを含む褐色土上に厚さ0.05mの貼床(ロームブロックを含む)が施されていた。

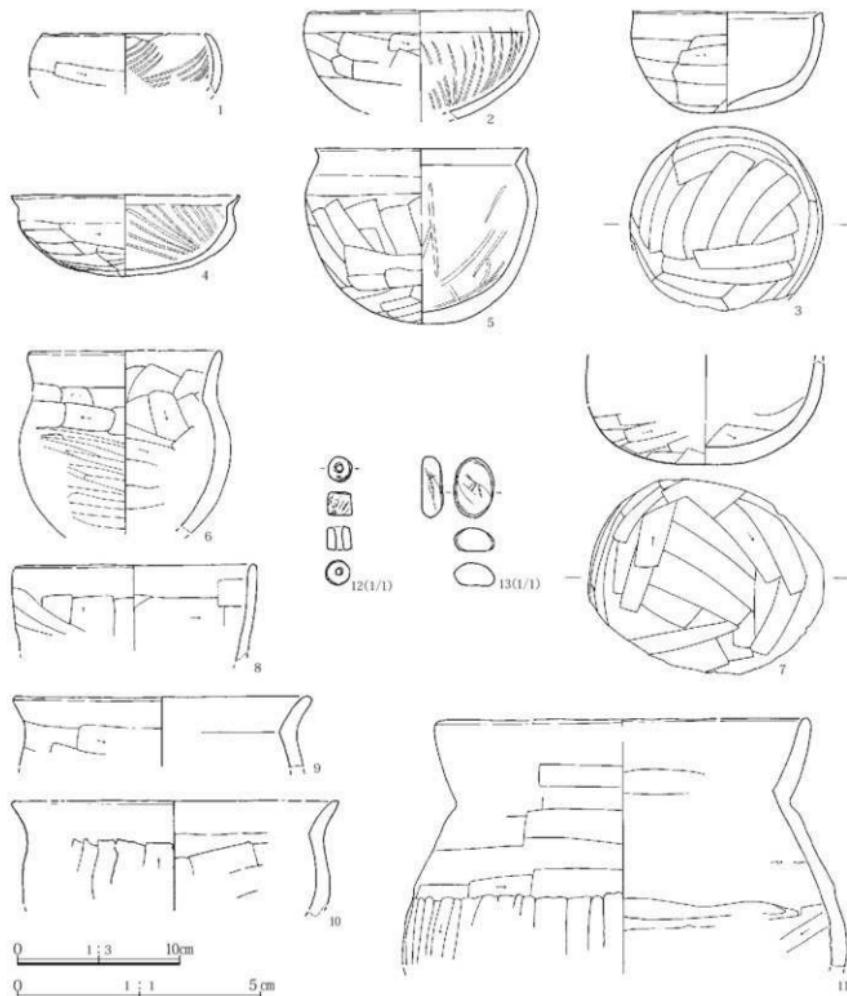
所見 削平等によって、竪穴建物の残存状況が悪く、不明な部分が多い。炉やカマドも残りが悪く、使用時の痕跡をわずかに残すのみであった。カマドは意図的に使用状況を残さないことがあるが、本竪穴建物もそうした事情による可能性がある。貯蔵穴については、掘り込みも深く、良好な状態であった。

出土遺物は、5世紀の第2四半期の様相を持つ。

掘り方



第69図 3号竪穴建物掘り方 (3)



第70図 3号竖穴建物出土遺物（4）

4号竖穴建物（第71～78図 PL.13・14・45～47）

位置 X=64,007～64,012・Y=-87,181～-87,184

平面形状 調査区外におよんでいるため詳細は不明だが、確認された範囲は方形状を呈す。

規模 南北長5.05m 東西長（2.53）m 壁高0.70m

現存床面積（8.39）m² 長軸方位 N-10° - E

埋没状況 表土下およそ1mにおよぶ土層の堆積状況を確認できた。上位層から2・3層は、Hr-FA混土の暗褐色土または褐色土が認められる。4～7層はHr-FAを主体とした土層で、硬化がすんでいる。4・5層（層厚

0.15～0.20m)についてはHr-FAの1次堆積土の降下火山灰層と考えられ、植物化石が認められる。その下位にある6層(層厚0.3～0.4m)はHr-FAの2次堆積土で洪水堆積物と考えられる。この6層には、8層の炭化材(調査時には重木炭化材もしくは棒状痕としている)が挟在し、流入した痕跡といえる。第72図をみると、3本の棒状痕があり、壁際に南北に2本、南東方向に斜行するものが1本ある。壁際のものは、長さ0.85m・幅(太さ)0.03～0.05mと長さ0.45m・幅(太さ)0.03m、南東方向に斜行するものは長さ0.83m・幅(太さ)0.03～0.05mを計る。7層のHr-FAは、層厚が0.07～0.15mと薄いものの、Hr-FAの1次堆積土の可能性が高い。9・10層は、Hr-FAブロック等が混入する黒褐色土で、ほぼその下位が床面となる。Hr-FAは竪穴建物中央部付近では、床面より0.05m上位までせまり、カマドに据えられたまま遺棄された土師器甕では頸部まで灰層が充填していた。Hr-FA由来の土層の堆積状況については、火山泥流堆積物(洪水准積土)がHr-FA降下火山灰に挟在する傾向が見て取れる。

床面 厚さ0.05mの貼床がめぐらされており、とりわけカマド前や竪穴建物の中央部付近では、硬化面が確認できた。カマドより北側では、概ね平坦面が形成されているが、竪穴建物南側では、掘り方土の堆積がやや厚く、床面沈下がわずかながら認められた。床面及び床面付近では、炭化物等の分布がみられるが、Hr-FAとの関連性は認められない。

柱穴 柱穴とみられるP1とP2の他に貯蔵穴の西側からピット状の掘り込み(P3)が発見された。P1・P2はいずれも柱痕が確認され、深く掘り込まれている。P3の覆土は、ロームブロックを主体とするもので、床下のピットの可能性もある。

カマド Hr-FAに被覆されたこともあって、残存状態は良好であった。煩雑にならないように、本体構造の部分ごとに詳述する。

焚口部 天井の用石はやや崩れながらも袖石に乗っていた。天井と向かって右の袖石は被熱した安山岩であるのに対し、左の袖石は被熱してもろくなった凝灰岩であった。焚口部の底面は、カマド手前床面から緩やかに傾斜しながら燃焼部底面へと続いている。

燃焼部 2点の土師器甕が完形の状態で出土した。並列

しての出土ではないが、カマドに据えられた状態での出土である。支脚は2石が並列して発見され、据えられた甕とは位置がされていた。また、据えられた甕の内部にはHr-FAの灰が堆積していた。燃焼部下面是焼土及び炭化物(灰)層が薄く堆積し、その下位の焼土面が使用面と認められ、焚口部よりもさらに窪んでいる。燃焼部壁は黄褐色土のカマド構築材が確認でき、厚く焼土化する部分が認められた。燃焼部から煙道部にかけてはゆるやかな傾斜で登っていく。

煙道部 竪穴建物の上端から0.45mほどで煙り出し部分が確認された。煙道天井部は、燃焼部と同様にカマド構築材の黄褐色土の焼土化したものであった。煙道部の覆土は焼土粒子を含んだ褐色土を主体とし、直径0.1mほどであった。

カマド掘り方 カマドの掘り方は、竪穴建物構築時に一連の工程の中で掘り込まれていると思われる。カマド周辺の掘り方は、竪穴建物の中央部より掘り込みが深く、カマド部分以外の掘り方土は、ローム主体の褐色土となっている。カマド部の掘り方土には焼土や粘土を含む暗褐色土が確認されるが、カマドが再構築された可能性がある。

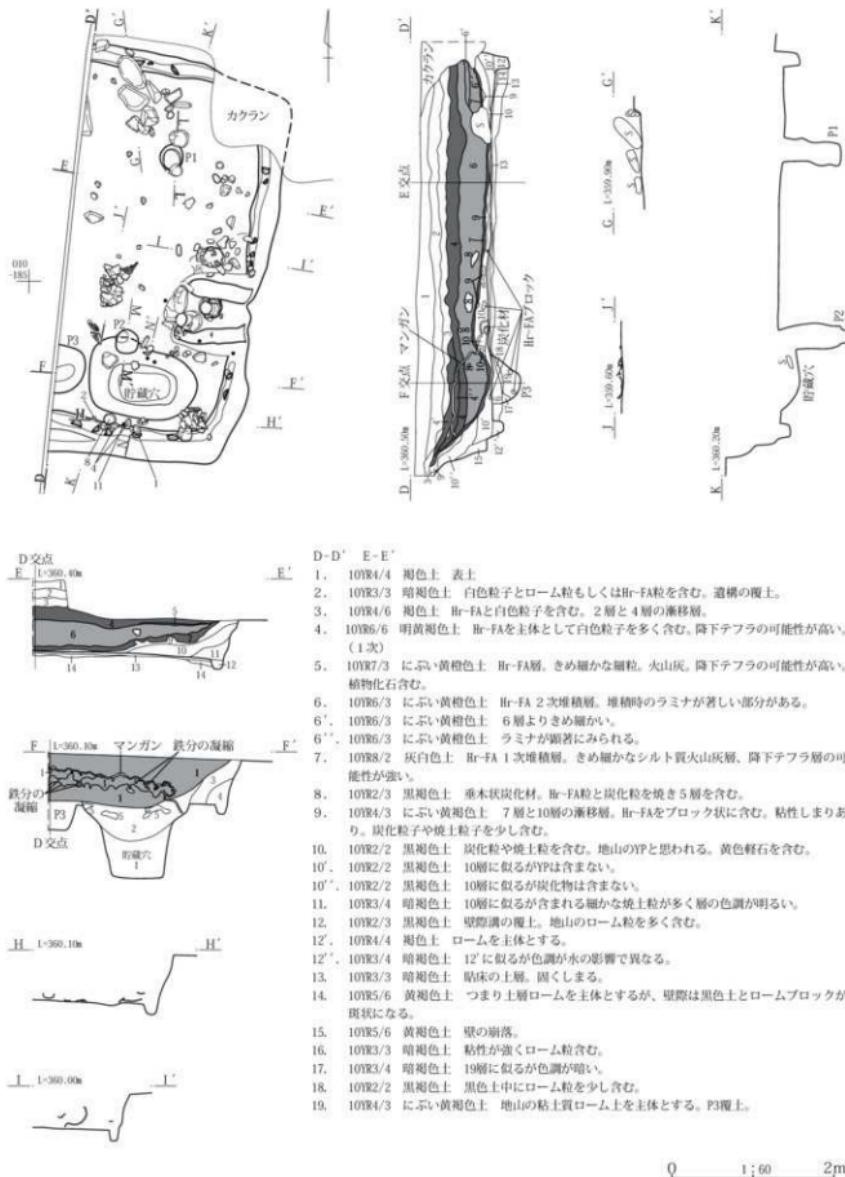
貯蔵穴 調査時には、1号土坑とされたものを貯蔵穴と呼称することとした。規模・形状は最上端部が長軸1.33m、短軸0.94mのやや不整形な形状であるが、中段部では長軸0.82m、短軸0.50mの長方形形状を呈す。

壁際溝 カマド部分以外で確認できた。幅0.16～0.35m、深さ0.1～0.12mを計り、長さ0.1mほどの三日月状の掘削痕が確認できた。

掘り方 竪穴建物の壁周縁部が深く掘り込まれる傾向にある。顕著な遺構等は確認されなかったが、南東コーナー付近で、長さ0.1mの三日月状の掘削痕が確認できた。

出土遺物 カマドに甕が据えられたまま遺棄されたことでもわかるように、出土遺物は多い傾向にある。土師器甕・壺・杯などを18点、勾玉1点、カマドの支脚用石2点を図示した。出土遺物は、カマド付近を中心床面や床面付近から出土している。また、用途が不明であるが大小の礫の出土もあった。

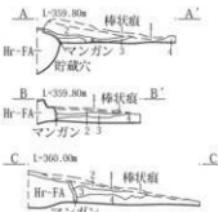
1・2・3・4は口縁部が内湾する土師器杯で、内面に放射状ヘラ磨きが施される。5・6・7は所謂内斜口縁の杯で、いずれも放射状ヘラ磨きが施されている。8・



第71図 4号窓穴建物（1）

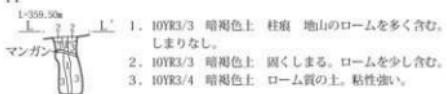
F-F'

1. 10YR7/3 にぶい黄褐色土 穴穴建物の覆土4~7層のHr-FA層。途中に厚さ1cmのこぶ状を呈する鉄分の凝縮層がある。当初こぶ状の由来不明のため硬度等を測量したが水とHr-FAがたまりやすい状態で鉄分層が複数凝縮したものと判断した。Hr-FAの色調は下層ほど還元色を呈する。Hr-FAは分崩可能だが鉄分凝縮が著しいため分離はできなかった。
2. 10YR4/2 にぶい黄褐色土 覆土9層と同じ。7層と10層の漸移層。Hr-FAをブロック状に含む。粘性しまりあり。炭化粒子や焼土粒子を少し含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 覆土10層と同じ。炭化粒や焼土粒子を含む。地山のYPと思われる。黄色軽石を含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 覆土10層に似るが壁面のロームをブロック状に含む。
5. 10YR3/4 暗褐色土 Hr-FA堆積中に混入した穴穴建物覆土と思われる。3層に似る。



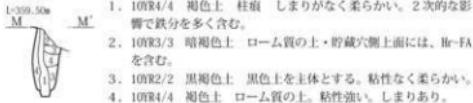
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Hr-FA粒中に炭化物φ 1cmや焼土粒を含む。B-B'のみ外側が明瞭炭化したことが伺える。
2. 10YR8/3 浅黄褐色土 Hr-FA 2次堆積土。ラミナ状に堆積している。
3. 10YR8/2 灰褐色土 Hr-FA 1次堆積層。粘性あり。下面に炭化物がわずかにみられる。
4. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒や炭化物を含む。地山のYPと思われる。黄色軽石を含む。

P1



1. 10YR3/3 暗褐色土 柱痕 地山のロームを多く含む。しまりなし。
2. 10YR3/3 暗褐色土 固くしまる。ロームを少し含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 ローム質の土。粘性強い。
4. 10YR4/4 暗褐色土 柱痕 しまりがなく柔らかい。2次的な鉄分を多く含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 ローム質の土。貯藏穴側上面には、Hr-FAを含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 黒色土を主体とする。粘性なく柔らかい。
7. 10YR4/4 暗褐色土 ローム質の土。粘性強い。しまりあり。

P2

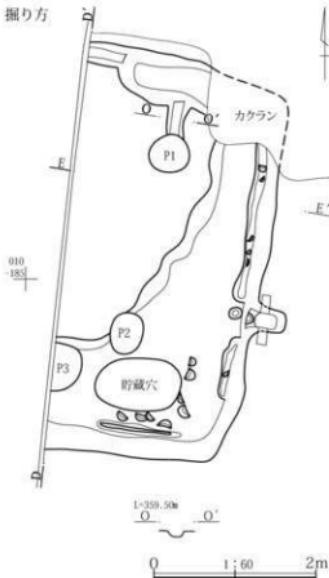


1. 10YR3/3 黒褐色土 粘性の強い暗褐色土。夾雜物を含まない。

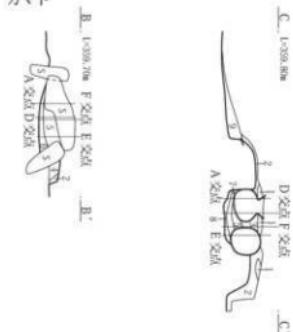
貯藏穴



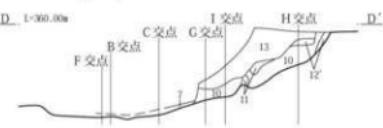
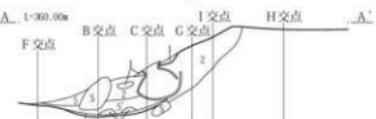
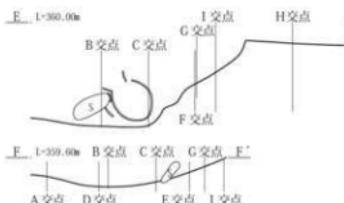
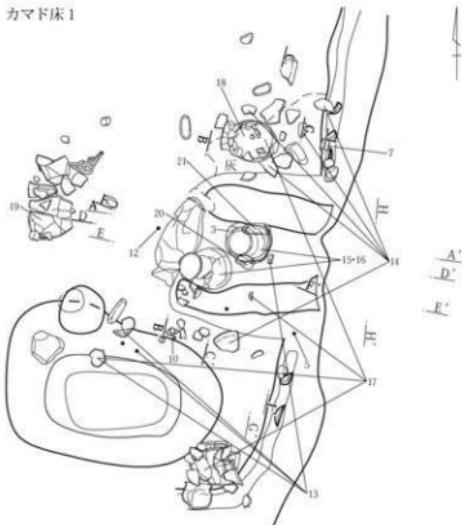
第72図 4号竪穴建物Hr-FA面・掘り方（2）



カマド



カマド床 1



1. 10YR6/3 に似い黄褐色土 FAブロック
2. 10YR3/4 暗褐色土 白色粒子や黄色粒子を多く含む。固くしまる。
3. 10YR5/3 に似い黄褐色土 カマド材。粘性強い。
4. 10YR5/6 黄褐色土 カマド補材粘土白色粒子を多く含み、固くしまる。
5. 10YR3/4 暗褐色土 烧土粒、炭化粒、FAが斑状に含む。
- 5'. 10YR3/4 暗褐色土 5層に似るがFAは含まない。カマド材由来の土層と思われる。
6. 10YR3/4 暗褐色土 烧土粒、粘土粒、炭化粒を含む。
7. 2.5YR4/6 赤褐色土 烧土ブロック 7層上面が使用時灰床上面1mm～2mmに使用時の灰層がある。
8. 10YR6/2 灰黄褐色土 白色の土に空焼きに伴う灰層、炭化粒を少し含む。白色は粘土化した灰層と思われる。
9. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物や焼土を多く含む。カマド左袖に堆積している。
10. 10YR4/6 褐色土 煙道の覆土。燒土粒やカマド材も含んでいる。φ5mm程度の白色軽石含む。
11. 2.5YR4/6 赤褐色土 煙道をつくるために充填した焼土ブロック。
12. 2.5YR5/7 明赤褐色土 烧土出口。被熱によりグライ化する。
13. 10YR4/6 褐色土 カマド構造材。白色軽石多く含む。

0 1:30 1m

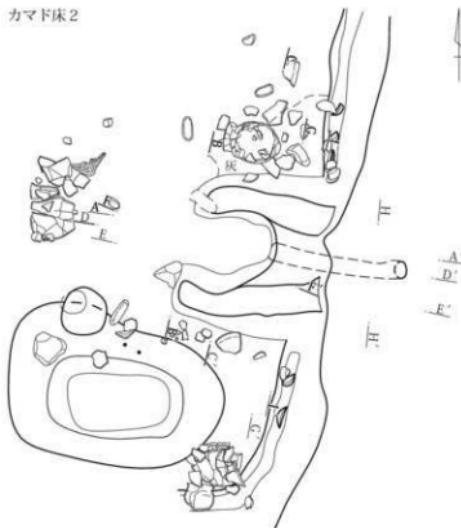
第73図 4号堅穴建物カマド(3)

9・10は所謂模倣杯と呼ばれる土師器杯である。11の勾玉は、土製品で完形である。

12・13・14・15・16・17・18はいずれも土師器甕で、

15と16はカマドの左右に据えられていたもので、一部欠損するがほぼ完形といってよい。17は丸底を呈し、18はほぼ完形で、カマドに向かって左側からの出土である。

カマド床2



カマド床3



0 1:30 1m

第74図 4号竪穴建物カマド(4)

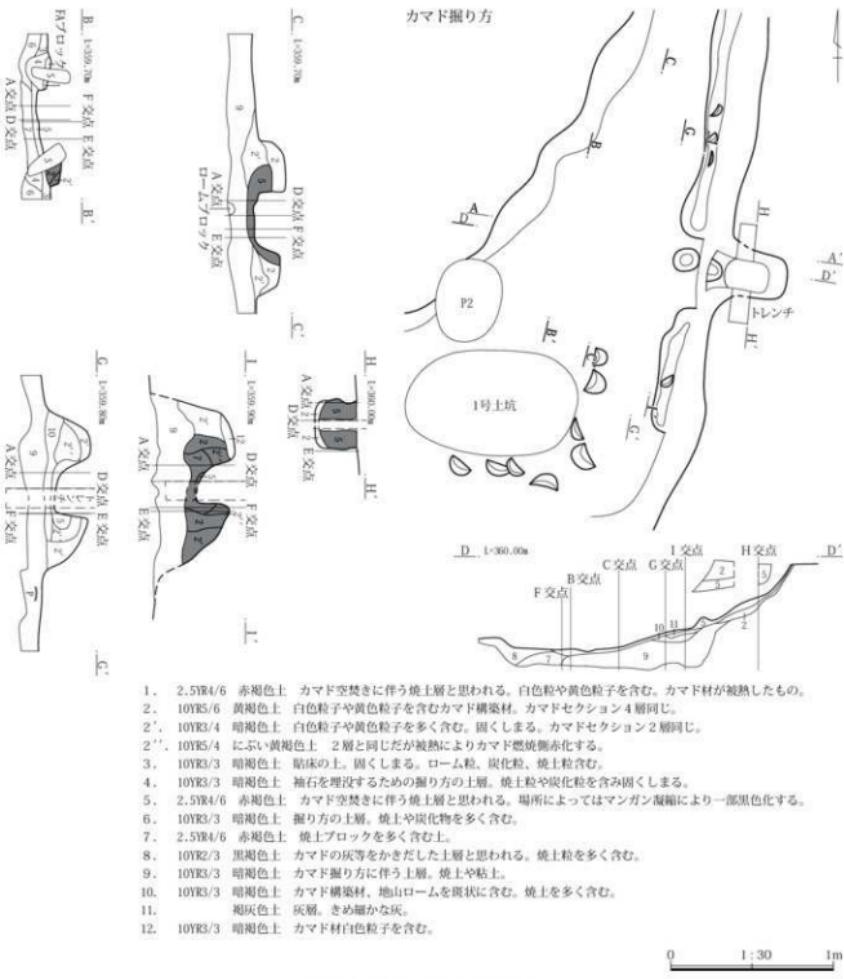
12はほぼ完形の小ぶりの甕で、カマド前より出土した。

13と14は口縁部から胴下半部にかけてと底部片である。

19は土師器瓶で、カマドの前から出土している。20と21

は被熱し一部欠損が認められる支脚である。

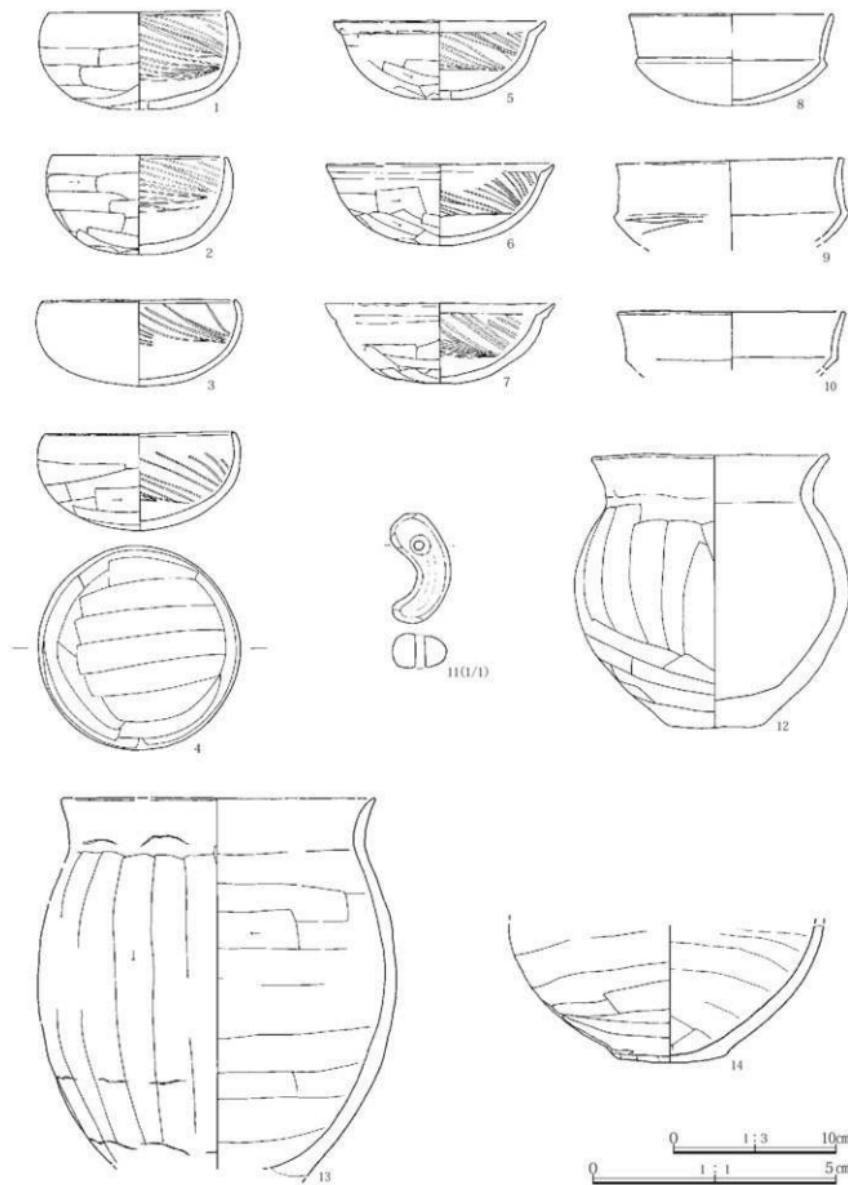
所見 本竪穴建物は、Hr-FA由来のテフラが厚く堆積し、カマドや遺物を含め良好な残存状態であった。大半が調査区外のため、全面調査には至らなかったが、その情報量の多さは目を見張るものがある。



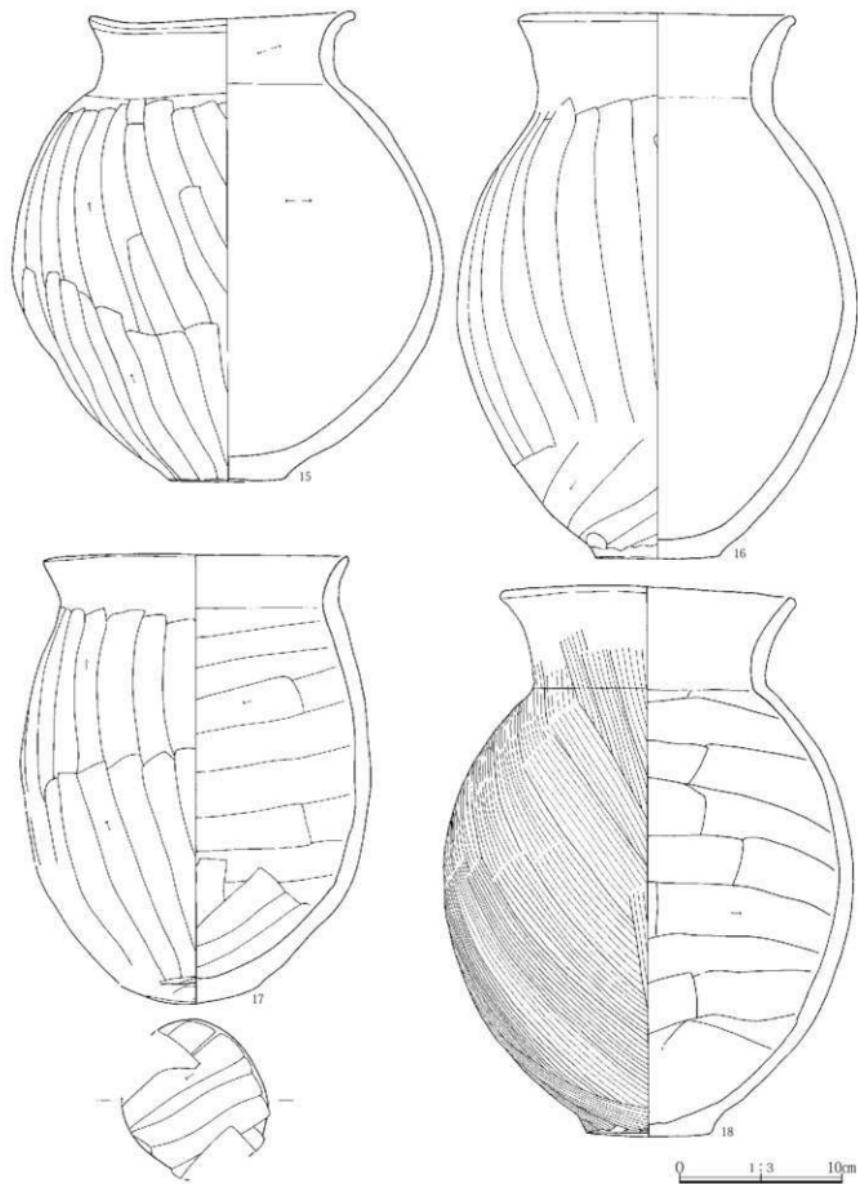
第75図 4号窓穴建物カマド（5）

本竪穴建物は、築造時に掘り方面に平坦な床面を構築した上で、カマド口部の用石・燃焼部及び煙道部等の本体をカマド構築材の黄褐色土（ローム質土）によって築いていることが判明した。カマドには二つの甌が原位置から多少ずれながらも支脚とともに出土し、カマドの構造的理解や使用法を理解する上で、有用な資料提供が

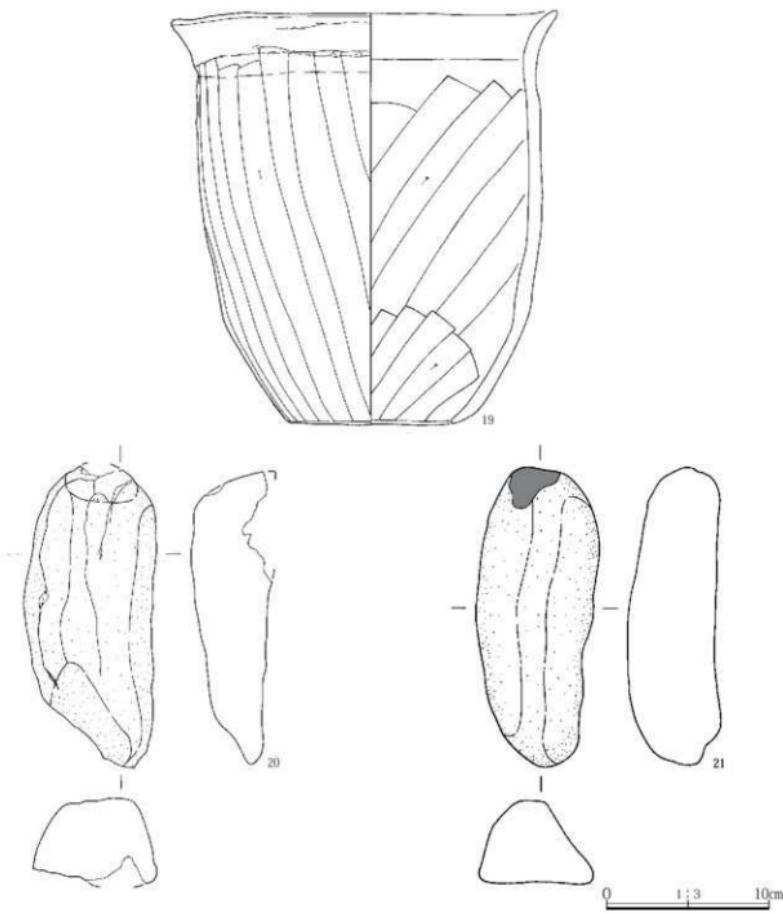
できるものと考えている。また、Hr-FAの降下年代と土器の年代観を考えるうえでも、その資料的な価値は高く、吾妻川中流域の地域的な特色を理解する大きな手掛かりになると考えられる。出土遺物は、5世紀後半の様相を示す。



第76圖 4號竪穴建物出土遺物（6）



第77図 4号竪穴建物出土遺物（7）



第78図 4号竖穴建物出土遺物（8）

5号竖穴建物（第79図 PL.15・47）

位置 X=63,998 ~ 64,003・Y=-87,171 ~ -87,174

平面形状 方形状と思われる

規模 北西壁長（3.53）m 南西壁長（3.34）m 壁高
0.70m現存床面積（5.41）m² 長軸方位 測定不能埋没状況 上位の1から3層までがHr-FA由来の堆積物
で、1・2層はラミナ状の堆積が認められ、2次堆積の

洪水堆植物と考えられる。3層は下面で凹凸が認められ、色調等の傾向はHr-FAの1次堆積土の可能性が高い。Hr-FA（3層）下の4層の黒褐色土は、3層とともに竖穴建物の壁の外側まで堆積しており、Hr-FA降下時の生活面や本竖穴建物の埋没状況が理解できる。6層下面が床面となる。6層中には、炭化物・炭化材が含まれているが、床面直上ではない。

床面 断面図では、中央部での沈下が認められ、起伏が

ある。貼床土は、硬化がすすみ厚さは0.05～0.08mほどである。

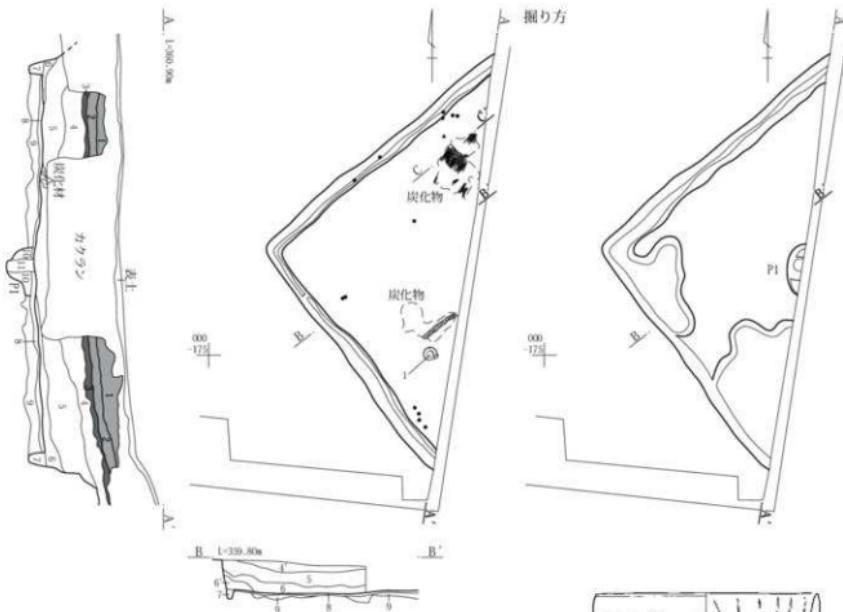
柱穴 PIが柱痕を確認できるので、柱穴の可能性があるが、確定的でない。

炉・カマド 炉及びカマドは確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

壁際溝 確認した竪穴建物の範囲では、全域に認められた。幅0.12～0.25m、深さ0.21mを計る。

掘り方 掘り方は、0.1～0.15m掘り込まれているが、南北壁際がやや深く掘り込まれている部分がある。



1. 10YR7/6 明黄褐色土 Hr-FA 2次堆積の可能性が強い。雨変化が部分的に思われる。
2. 10YR7/6 明黄褐色土 Hr-FA 2次堆積層。ラミナ状に堆積する。
3. 10YR7/6 明黄褐色土 Hr-FA 1次堆積層と思われる。下層は部分的に凹凸が認められる。
4. 10YR2/2 黒褐色土 竪穴壁外まで堆積している。白色粒子を少し含む。φ10mm程度の円錐を少し含む。粘性の強い土。竪穴壁外にも堆積している。
- 4'. 5YR3/3 暗赤褐色土 4層に似るが鉄分の凝縮が著しい。
5. 10YR3/3 暗褐色土 焼土や炭化粒、穿孔石（φ1cm程度）を含む。粘性強い。
6. 10YR2/2 黒褐色土 灰を主体とし、燒土粒も含む。粘性が強い土。
- 6'. 10YR3/3 暗褐色土 6層に似るがロームブロック含む。
7. 10YR3/3 暗褐色土 チョコレート色のブロック土を含む。壁際溝の覆土。
8. 10YR2/3 黑褐色土 贼床の上層。固くしまる。チョコレート色のブロック土を少し含む。
9. 10YR3/4 暗褐色土 掘り方の上層。チョコレート色のブロック土を主体とし固くしまる。
10. 10YR3/4 暗褐色土 PIの掘り方。チョコレート色のブロック土を斑状に含む。
11. 10YR2/3 黑褐色土 PIの覆土。粘性が強い。

1-39.50m
C-C' 1. 炭化物 C-C' 1. 10YR1-7/1 黒色土 木材炭化物
2. 10YR3/3 暗褐色土 φ2mm～3mmYP% φ2mm～5mm燒土B10%
2. 2. 木材の下に茎が散かれた状態で炭化した様子がある。

0 1:60 2m

第79図 5号竪穴建物

0 1:3 10cm

出土遺物 出土遺物は少なく、土師器杯1点を図示する。1はほぼ直立する口縁部をもち、内面に放射状ヘラ磨き、外面上にヘラ削り調整が施される。6層中の炭化物・炭化材は、本竪穴建物の廃棄前後の分布とは認められず、竪穴建物の廃棄から一定の時間的経過を考えておく必要がある。

所見 調査区外に至るため、調査面積及び出土遺物も少ないため、不明な部分が多い。壁際溝・床面・柱穴と思われるビットの存在が竪穴建物としての要件を満たしている。出土遺物は5世紀後半の様相を持つ。

6号竪穴建物 (第80図 PL.15・47)

位置 X=64,014 ~ 64,017 Y=-87,168 ~ -87,170

平面形状 方形状と思われる

規模 西壁長(1.85)m 北壁長(1.37)m 壁高0.92

m

現存床面積(0.82)m² 長軸方位 測定不能

埋没状況 捣乱が深くまで及んでいるが、一部Hr-FAが上層で確認された。Hr-FA下位は、およそ0.5mほど4・5層のローム粒子等を含む黒褐色土が堆積し、床面に至る。

床面 頗著な傾向は認められないが、概ね平坦面を維持している。

柱穴 確認できなかった。

カマド 確認できなかった。

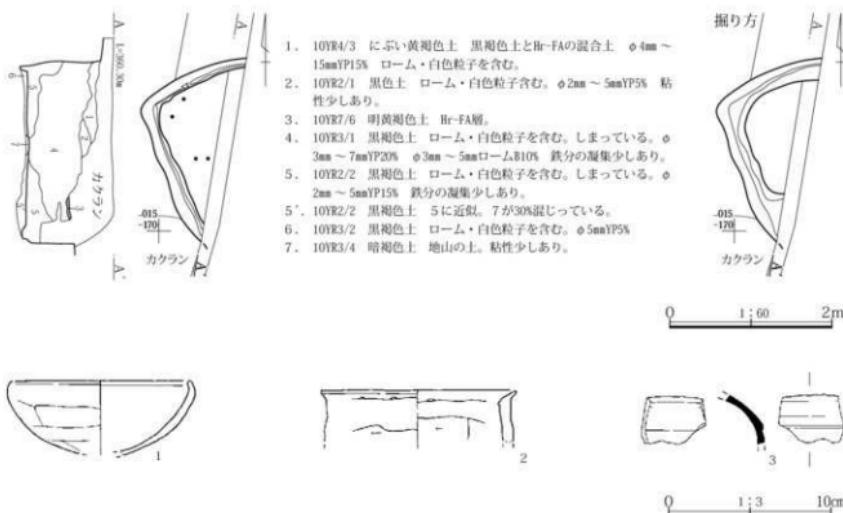
貯蔵穴 確認できなかった。

壁際溝 調査範囲内すべてで確認できた。幅0.11~0.23m、深さ0.08~0.10mほどであった。

掘り方 竪穴建物の壁際が深く掘り込まれる傾向にある。深さ0.05~0.12mを計り、ローム粒子等を含む黒褐色土が充填されていた。

出土遺物 土師器杯1点と鉢1点と須恵器蓋1点を図示した。1は口縁部が内傾し、2は口唇部がつまみ出される小型の鉢。3には自然釉が認められる。いずれも覆土中からの出土である。

所見 北西コーナー部分のみが調査されているが、調査範囲が少少で、不明な部分が多い。平坦な床面及び壁際溝の存在が、竪穴建物の要件を満たしている。出土遺物も覆土中からのものであり、本竪穴建物の時期決定の手掛かりは、Hr-FAの堆積が認められることであり、Hr-FA降下前5世紀後半の所産と位置づけられる。



第80図 6号竪穴建物

2 土坑・ピット

1・2区からそれぞれ1基(計2基)の土坑と、2区から2基のピットが発見された。

土坑(1・6号)は、それぞれHr-FA降下以前の掘り込みであり、ピット(30・31号)は、Hr-FA降下前後の所産と考えられる。詳細は一覧表(第4表)に提示する。

1号土坑(第81図)

位置(X=63,917・Y=-87,198～-87,199)

平面形 楕円形

長軸方位(N-7°-E)

規模 長軸0.74m 短軸0.66m 深さ0.15m

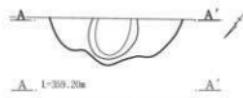
埋没土 底面付近にHr-FA1次堆積土が認められ、褐灰色土が上位層となる。

特徴 底面U字状を呈す浅い掘り込み。Hr-FA降下前に穿たれる。



1. 10YR4/1 褐灰色土 FA水田覆土に似るがFAとφ5cmの礫を少し含む。
2. 7.5GY6/1 緑灰色土 FAの1次堆積層と思われる。

6号土坑



1. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ3mm～6mmローム84%
2. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ2mm～4mmYP10% 粘性少しあり。
3. 10YR4/2 灰褐色土 ローム粒子含む。φ3mm～10mmローム82%
4. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子含む。φ2mm～4mmローム81%

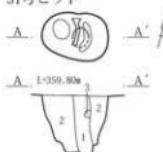


30号ピット



1. 10YR5/3 に似る黄褐色土 Hr-FA B带 1は柱穴。
2. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm～3mmYP10% φ2mm純土85%

31号ピット



1. 10YR4/2 灰褐色土 白色粒子含む。φ2mm～4mmYP10% 上部の方が多い。上方がHr-FAが多く下方にいくほど黒褐色土が多くなっているHr-FAと黒褐色土の混ざった上部1は柱穴。
2. 10YR3/1 黒褐色土 ローム・白色粒子含む。φ2mm～3mmYP5% φ2mm鉄分の凝集85% 粘性少しあり。
3. 10YR3/1 黒褐色土 2に近似。YP・鉄分の凝集はほとんどなくφ2mm～4mmHr-FA 85%がある。



第81図 土坑・ピット

3 遺物集中

2区南側の調査区で、1号遺物集中が確認された。

1号遺物集中(第82図 PL.21・47)

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 浅い掘り込みだが、形状等から人為的な掘り込みといえる。

6号土坑(第81図 PL.47)

位置(X=64,032・Y=-87,158～-87,159)

平面形 不整形

長軸方位(N-51°-E)

規模 長軸1.08m 短軸(0.37)m 深さ0.28m

埋没土 3層の黒褐色土及び灰黃褐色土1層が確認された。上面にHr-FAが被覆する。

特徴 ピットとの重複が考えられるが、調査時は一連の遺構として扱った。

出土遺物 称名寺式期の土器片(口縁部)1が出土した。

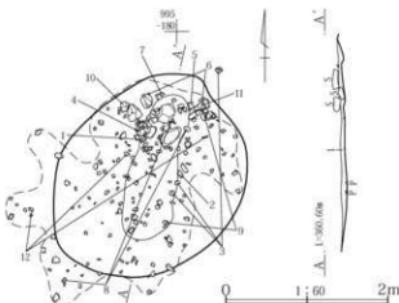
調査所見 上面にHr-FAが認められることから、埋没過程でHr-FAの降下によって埋没が完了したといえる。

た。

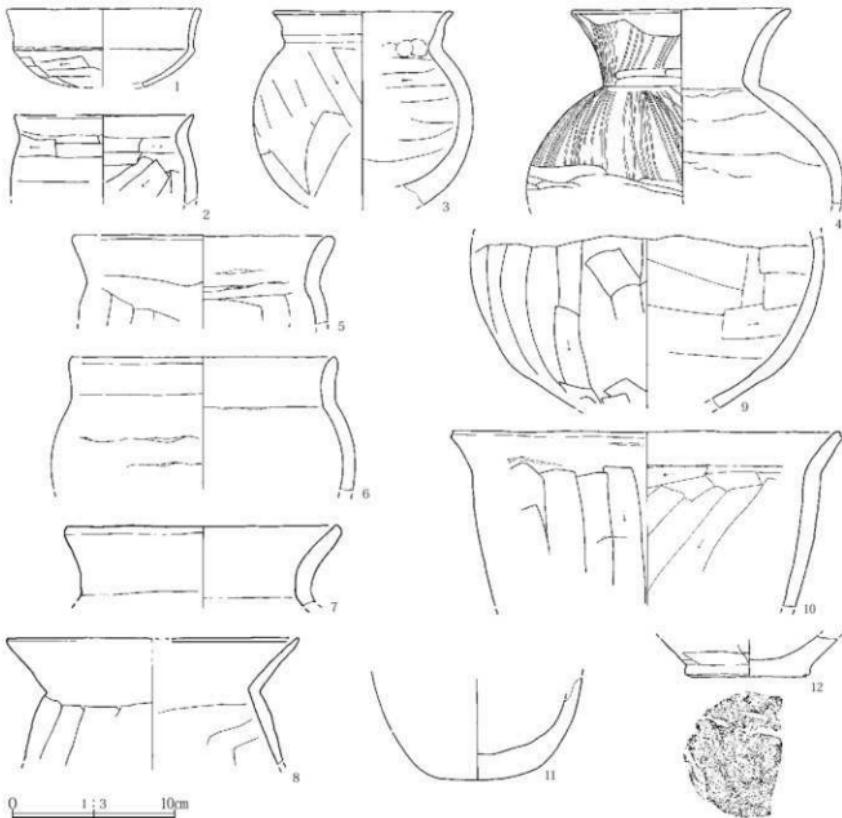
特徴 挖り込みはなく、黒褐色土上面に遺棄された遺物をHr-FAが覆っている。

出土遺物 土師器杯1点、土師器鉢1点、土師器甕10点、総計12点を図示した。1は模倣杯、2は鉢、他はすべて土師器甕である。3は小型の甕で、他は口縁部から底部にかけての破片である。

調査所見 Hr-FA下前の地表面に遺棄されたものと考えられる。土師器杯が1点と少なく、ほとんどの遺物が甕である。



1. SBG7/1 明瞭灰色土 Hr-FA 1次堆積層と思われる。きめ細かな火山灰層。部分的に雨変化によって褐色となっている。



第82図 1号遺物集中

4 水田・溝

1区から水田面2カ所と3条の溝が発見された。水田面と溝は、水田跡としての一連の遺構と考えられる。調査区の南と北側で確認された畦畔状の遺構は、調査区中央部分では確認することが出来なかった。これは、何らかの理由によって流失したと思われるが、火山泥流堆積物（洪水堆積物）等の流下による流失がその起因として最も可能性が高い。Hr-FA降下テフラ下までの埋没状況は、表土及び土地改良による客土下に浅間鉢川テフラ（As-Kk）及びAs-B主体のI''層、その下位にAs-B水田土壤（粘性の強い黒褐色土：VI層）、Hr-FP由来と思われるシルト質の洪水層（XI層）と続く。その下位層から、Hr-FA由来の土層となるHr-FAの1次堆積土（XI-1層）、Hr-FA泥流堆積物（径0.01～1mの礫を多量に含む：XI-2層）、緑灰色のHr-FAの1次堆積土（XI-3層）となり、水田面（水田土壤：XII層）におよぶ。この水田土壤は、黒褐色を呈し、粘性の強い土壤であった。

また、水田面からの出土遺物はなかった。

第4章第4節植物珪酸体分析の結果は、Hr-FA下小区画水田土壤のイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料あたり3,900個という結果であった。稲作が行われた数値的目安を超えており、稲作が行われていたと考えることができた。

ここでは、2カ所におよぶ水田面と溝を詳述し、水田跡全体について概観したい。

北側水田面

比較的に広い面積の水田面である。水田面の規格は、現地形に即して形作られたと考えられるが、そのため水田面の形状は画一的ではない。6枚の水田面が確認されるが、形状は一様でなく、全貌が明らかになったのは3枚の水田面に過ぎない。南側になるにしたがって、水田区画が広がるような形状に思えるが断定できるものではない。

この水田面の西側には9号溝が北に流下している。この9号溝は、北側水田面の用水路の役割を果たしていたと考えられる。また、9号溝には7号溝が流入する。

水口は、2号水田から1号水田、4号水田から2号水田へは明瞭にとらえることができたが、他の水田間では明瞭ではなかった。オーバーフローさせて水流を確保し

たと考えると、3号水田から4号水田へ、5号水田から4号水田へ、6号水田から5号水田へと比高差では想定できる。

計測値は第4表に提示しておく。

南側水田面

6号溝の南側に19枚の水田面が確認された。一部を除いて小さく狭い水田面である。7号～9号水田、14・19号水田は他の区画水田と比べて規模が大きく広いものであるが、畦畔の流失等に起因する可能性もある。比高差を見ると、西から東へと流下していることがわかり、南北方向では、北側の水田区画より南側が低くなっている。現地形は、基本的に北に向かって下がる勾配であるのに對し、この水田区画においては、逆の勾配を持たせて水田面を維持している。6号溝からの用水確保や排水を考えたうえでの造作の可能性が考えられ、6号溝との一体化の表れと捉えることができる。

水口は、北側の水田区画7号から14号水田（北側の東西1列目）においては、9・10号水田間の水口を除いて、北寄りに設けられている。2列目（9号・15号～19号水田）では、15号は不明だが、南側や中央であつたりしてばらつきがある。3列目の21号・22号では、北側に設けられており、列ごとに水口の位置が1列目北側、2列目南側、3列目北側と変化している。これは、貯水のあり方や水流の方向性とかかわるものと思われるが全容が明らかでないため、断定できない。

計測値は第4表に提示しておく。

溝

6号溝（第83・85図 PL.16～18）

位置（X=63,909～63,916・Y=-87,183～-87,205）

規模（22.3m、幅0.7～1.7m、深さ0.2m）

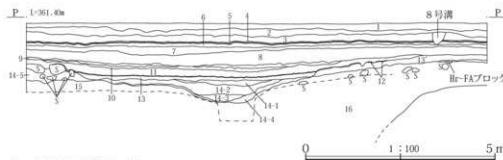
走行 南西から北東方向へ湾曲しながら東流する。

埋没土 緑灰色土 磯（径0.01～0.15m）を含むHr-FA層。

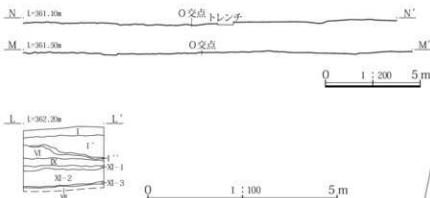
特徴 溝の幅が0.45～0.95mと一定性がなく、自然流路の可能性を否定できないが、小区画水田（南側水田面）との位置関係や全体の残存状況など総合的に考えると、小区画水田面に伴う溝である可能性が高い。火山泥流堆積物（洪水堆積物）の流入・浸食によって、本来の形状でなくなった可能性が高い。

出土遺物 出土遺物はない。

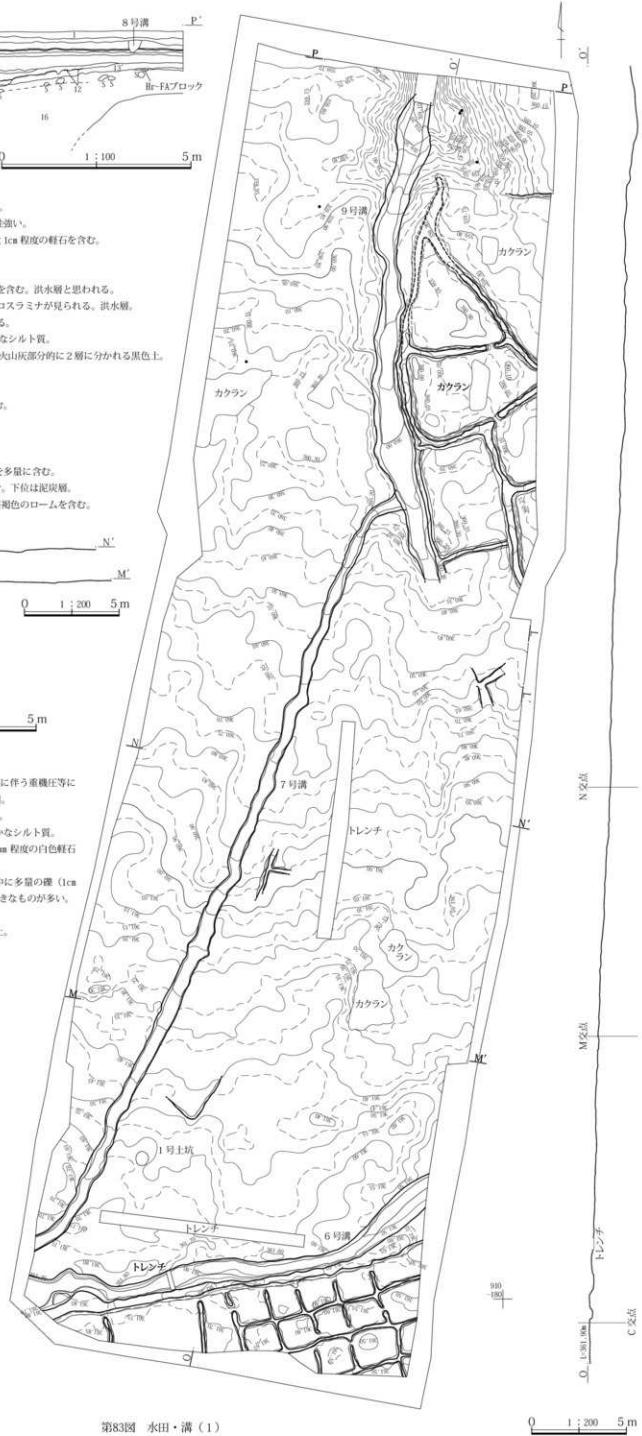
9号溝



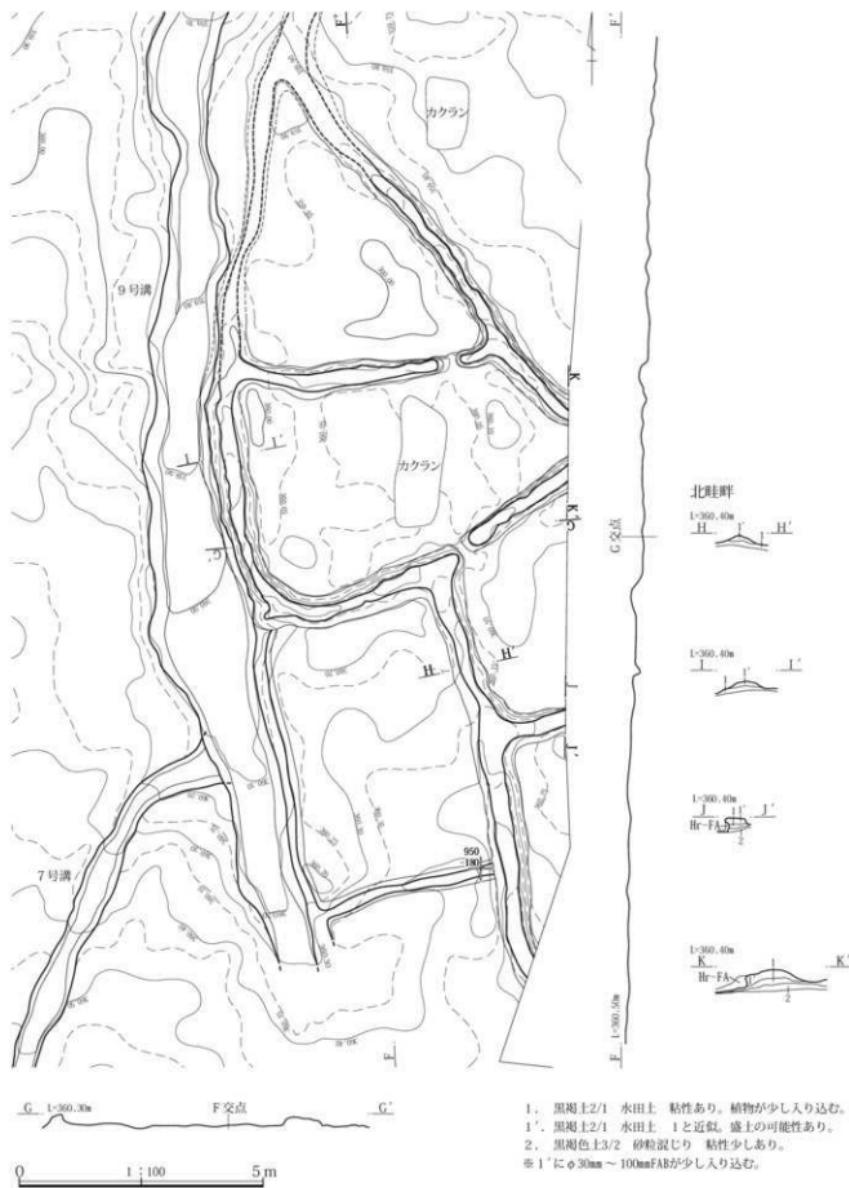
1. 10YR3/4 暗褐色土 表土
2. 10YR3/4 暗褐色土 中耕作土上. As-Kk 含む。
3. 10YR4/2 灰黃褐色土 As-Kk1 次堆積層. φ 1mm ~ 5mm の軽石層。
4. 10YR3/1 黒褐色土 As-Kk と As-B の間の黒色土きめ細かで粘性強い。
5. 10YR3/1 褐灰色土 As-B1 次堆積層。きめ細かな粘土層に最大 1cm 程度の軽石を含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 As-B 水田耕土上。きめ細かな粘性の強い。
7. 10YR4/2 灰褐色土 砂粒を主体とする洪れ土。
8. 10YR4/1 灰褐色土 土中に黒色土ブロック (φ 5cm ~ 15cm) を含む。洪れ土と思われる。
9. 5YR6/2 灰褐色土 砂粒を主体とし細かな黄色軽石も含む。クロスラミナが見られる。洪れ土。
10. 5YR4/1 褐灰色土 きめ細かなシルト質土層。洪れ土と思われる。
11. 5YR4/2 灰褐色土 FF 由来する洪れ土層と思われる。きめ細かなシルト質。
12. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 FF 思われる。テフラ層きめ細かな火山灰分層に 2 層に分かれる黒色土。
13. 10YR3/1 黒褐色土 きめ細かな FP 下の黒色土。
14. 10YR4/2 灰褐色土 洪れ土層と 13 層の堆積層。小礫を含む。
- 14-1. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 Hr-FA 層きめ細かな纖維に砂粒を含む。
- 14-2. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 きめ細かな纖維。
- 14-3. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 砂粒を多く含む。
- 14-4. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 小礫を多く含む。
- 14-5. 5G5/1 オリーブ灰褐色土 Hr-FA 上石高 50mm ~ 60mm 程度の理量を多量に含む。
15. 10YR2/1 黒褐色土 黒色土中に藻や少量の礫文時代の遺物を含む。下位は泥炭層。
16. 10YR3/1 黑褐色土 堆積のロームを含む。粘質土。部分的に茶褐色のロームを含む。



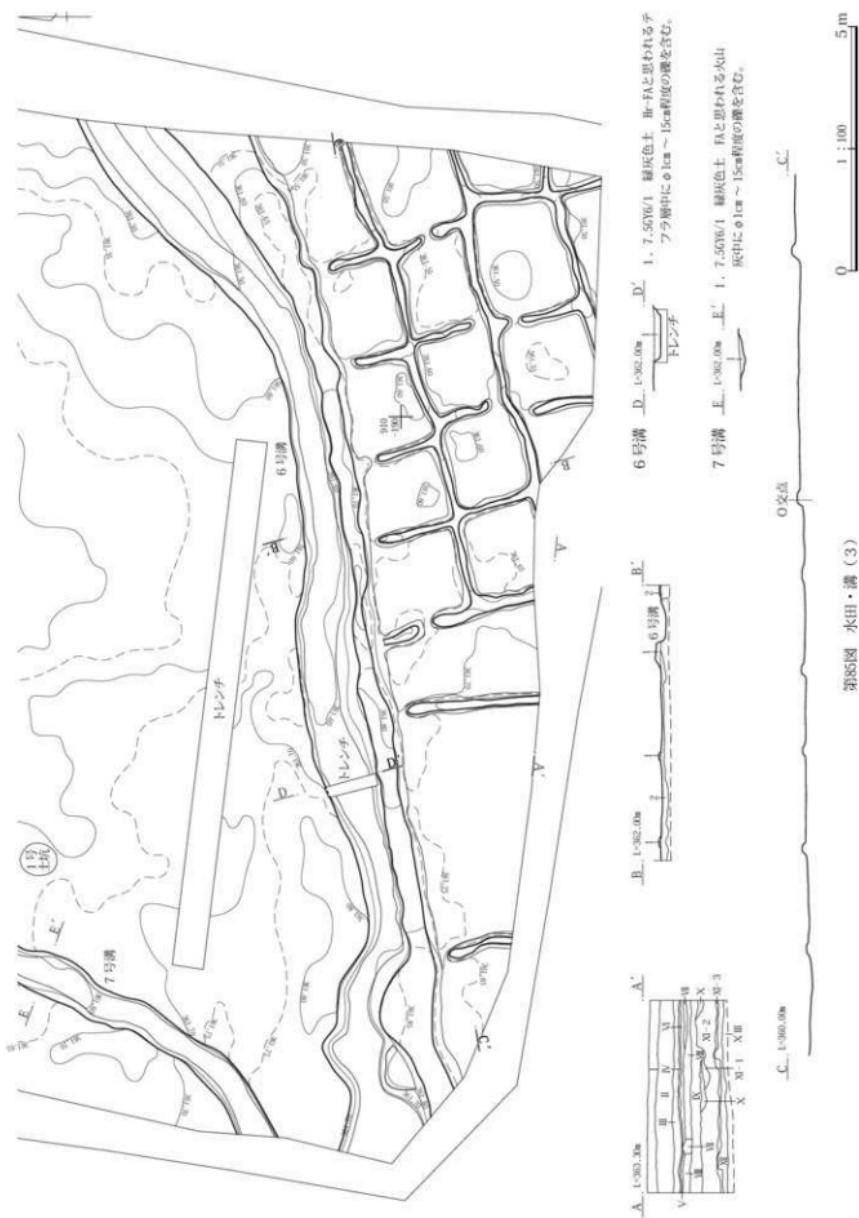
1. 10YR3/4 暗褐色土 表土
- 1'. 10YR3/4 暗褐色土 土地改良に伴う客土. As-Kk や礫を含む。
- 1''. 10YR4/2 灰黃褐色土 As-Kk' や As-B を主体とするが土地改良に伴う機械運搬によって土質混じり土層が変形している。大きく搅乱された土壌。
- 1''. 10YR3/1 黑褐色土 As-B 水田耕土. きめ細かなシルト層。
- XI-1. 5YR6/2 灰褐色土 FF 由来する洪れ土層と思われる。きめ細かなシルト層。
- XI-2. 7.5G5/1 緑褐色土 FA1 次堆積土。きめ細かな粘土層中に φ 2mm 程度の白色軽石を少し含む。
- XI-2. 7.5G4/1 緑褐色土 Hr-FA 泥流と思われる。Hr-FA 灰層中に多くの理 (1cm ~ 100cm) を含む。複数地層によって差があり北側にかけて大きなものが多い。
- XI-3. 7.5G6/1 緑褐色土 きめ細かな FA1 次堆積層。
- XII-3. 10YR3/1 黑褐色土 Hr-FA 下のきめ細かな粘性の強い水田耕土。



第83図 水田・溝 (1)



第84図 水田・溝(2)



調査所見 本溝に沿う形で、南側水田面（小区画水田）が認められ、比高差から見た水流の方向・埋没土層の状況等からもこの小区画水田の耕作に利用された可能性は極めて高く、人為的な遺構と考えたい。また、本

溝の北側から北流する7号溝は、その位置関係からみて、西側で1本の溝が6号・7号溝として分岐したものと思われる。7号溝は北流後、北側水田面に用水を供給する。

A-A'

- I. 10YR3/4 暗褐色土 表土
- II. 10YR3/4 暗褐色土 中近世耕作土。As-Kk含む。
- III. 10YR4/2 灰褐色土 As-Kk 1次堆積層。φ1mm～5mmの軽石層。
- IV. 10YR3/1 黒褐色土 As-KkとAs-Bの間の黒色土きめ細かで粘性強い。
- V. 10YR5/1 褐灰色土 As-B 1次堆積層。きめ細かな灰層中に最大10mm程度の軽石を含む。
- VI. 10YR3/1 黒褐色土 As-B水田耕土。きめ細かな粘性の強い土。
- VII. 10YR4/2 灰褐色土 砂粒を主体とする洪積層。
- VIII. 5YR4/1 灰色土 灰色土中に、黒色土ブロック（φ5cm～15cm）を含む。洪積層と思われる。
- IX. 5YR3/1 オリーブ黒色土 φ5mmの小礫及び植物片混入を含む。
- X. 7.5GY4/1 噴縞灰色土 9層と11層の漸移層。Hr-FAを多く含む。
- XI. 7.5GY6/1 緑灰色土 FA 1次堆積層。きめ細かな灰層中にφ2mm程度の白色軽石を少し含む。
- XI-2. 7.5GY4/1 噴縞灰色土 Hr-FA泥流と思われる。Hr-FA灰層中に多量の礫（1cm～100cm）を含む。礫は地点によって差があり北西にかけて、大きなものが多い。
- XI-3. 7.5GY6/1 緑灰色土 きめ細かなFA 1次堆積層。
- XII. 10YR3/1 黒褐色土 Hr-FA下のきめ細かな粘性の強い水田耕土。
- XIII. 10YR4/1 褐灰色土 きめ細かな砂粒を多く含む。φ2mmの黄色土を少し含む。

B-B'

1. 10YR3/1 黒褐色土 XIに近似。盛土の可能性あり。Hr-FA下のきめ細かな粘性の強い水田耕土。
2. 10YR3/1 黒褐色土 XIIに相当。盛土の可能性あり。Hr-FA下のきめ細かな粘性の強い水田耕土。
3. 10YR4/1 褐灰色土 XIIに近似。φ2mmの黄色土ではなく、黄色粒子を少し含む。



第86図 水田・溝(4)

第3章 発見された遺構と遺物

7号溝（第83～86図 PL.16・18）

位置 $(X=63,912 \sim 63,952, Y=-87,185 \sim -87,204)$

規模 全長（44.5）m、幅0.4～1.0m、深さ0.1m

走行 調査区南西から北東に向かって北流する。南西部の調査区外あたりで、6号溝と7号溝が分岐していると考えられ、7号溝は9号溝に流下する。

埋没土 緑灰色土 磨（径0.01～0.15m）を含むHr-FA層。

特徴 南西調査区外から、わずかに左折しながら9号溝の直前まで直線的に流下し、30度ほど右に折れて9号溝に流入する。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 9号溝に流入する本溝は、形状や走行方向等の溝のあり様全般を考えたとき、人為的な遺構と考えられる。本溝が北流する東側の水田面の確認できなかった部分には、水田・溝の冒頭でも述べたように水田面が存在した可能性が高く、こうした区画水田にも本溝が用水の供給源になったと考えることができよう。

9号溝（第83・84図 PL.18）

位置 $(X=63,948 \sim 63,973, Y=-87,183 \sim -87,186)$

規模 (25.6) m、幅0.5～1.8m、深さ0.2m

走行 調査区北側で確認されるが、本溝の南側は火山泥流堆積物（洪水堆積物）による浸食によって、流失したと考えられ、確認できなかった。

埋没土 オリーブ灰色土 細砂・砂粒・礫（径0.05～0.06m）を含むHr-FA層で、3層が確認された。

特徴 平面形状は若干蛇行して不規則で、南側は流失している。

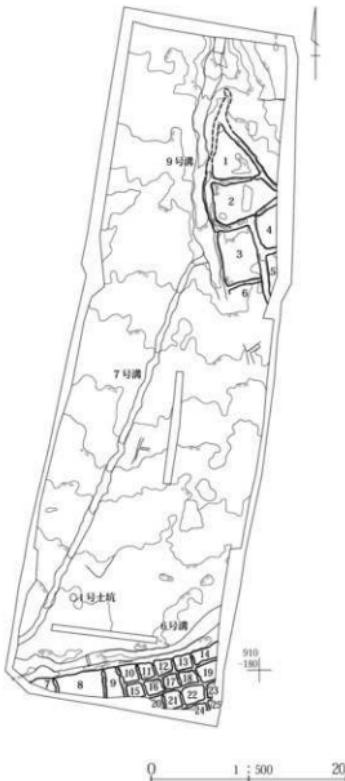
出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 東側にやや規模の大きい面積を持つ区画水田面が広がり、位置関係からみても、北側水田面に伴う人為的な溝と考えることができる。また、7号溝からの用水の流入は、広域に広がる水田機能の一翼を担う存在でもあることが理解される。

1区3面水田面概観

1区3面水田跡全体を概観すると、南側に比較的規模の狭く小さい区画水田があり、北側はやや規模の広い区画水田に大別される。火山泥流堆積物（洪水堆積物）

による水田面の流失が広範囲に及び、全容が明らかにできなかったものの、想定できることを考えていきたい。南北に残された区画水田を7号溝が結ぶものとなっている。7号溝は、上流部（南西部：調査区外）で6号溝と分岐するものと考えられ、分水の機能を持つ。6・7・9号溝はいずれも、用水の取り込みや排水の手立てなど不明な部分もあるが、6号溝は南側の小区画水田の用水の供給および排水を担うものと考えられる。7号溝は、流失した水田の用水の給排水を担いながら、北側の水田区画の9号溝に用水を流入させるもので、9号溝は北側水田の給排水及び北側への送水機能を持つものと考えることができる。

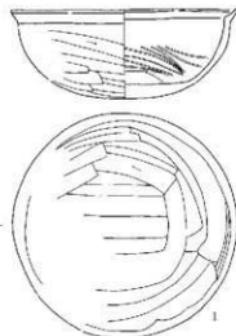


第87図 水田面

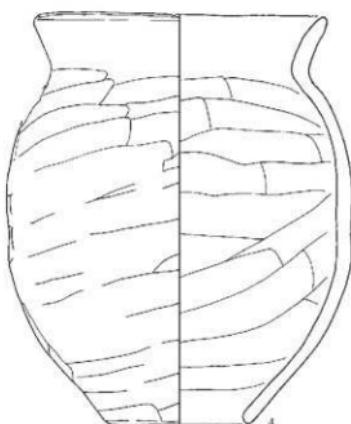
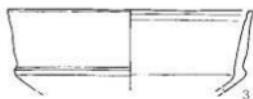
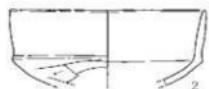
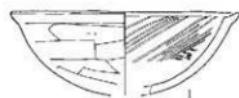
5 遺構外の出土遺物（古墳時代以降）

遺構外から出土した第3面所属の遺物類を図示しておく。特徴的なものや完形に近いものなどが中心である。詳細は観察表による。（第3表）

1区



2区



0 1:3 10cm

第88図 遺構外出土遺物

第5節 奈良・平安時代

奈良・平安時代に比定される2面相当の遺構・遺物は少ない。遺物は、遺構外からの出土が主であった。遺構は、浅間柏川テフラ(As-Kk)及び浅間Bテフラ(As-B)(以降As-Kk・As-Bと省略する)下面で確認された水田面の畦畔状の高まりや段差、水流を思わせる溝状の遺構である。この水田面は、近世以降の水田耕作や最近の土地改良工事等によって削平が認められ、良好な発見状態ではなかった。

令和2年度調査区(R2年調査区)と令和3年度調査1区から水田面は確認された。調査区ごとに詳述したい。

R2年調査区

調査区は、現道を挟んで東西に分かれるが、現道東側のほとんどと現道西側の南側が土地改良工事等の搅乱が及んでいて面の確認には至らなかった。耕作土及び土地改良工事に伴う客土下層は、As-Kk・As-B混土層の堆積があり、直下にAs-Kk・As-Bの1次堆積的な層が認められた。As-Kk・As-Bの1次堆積的な層の下面是、黒色粘質土となっており、水田の耕作土と思われる。この水田面は、起伏に富み畦畔状の高まりや段差、水流の影響と思われる溝状の落ち込みが確認されている。また、水流の影響を受けた窪みや溝によって分断されてはいるものの、平坦な面の広がりが認められる部分が3カ所ある。

残存する水田面は、地形に沿った区画性が一部で確認できるものの、全体としての区画性や水田利用の明確な痕跡を把握できる状態ではなかった。近世以降、最近に至るまで水田として活用されてきた痕跡として、土地改良前の大畠・碎石を充填した暗渠・竹管を用いた暗渠と思われる溝などが地層断面や水田面で多く確認されていることから、長期にわたる耕作が影響していると考えられる。また、As-Kk・As-B下面の水田の降下前の状況や調査区南側にある丘陵からの洪水堆積物も水田の残存状態に影響している可能性がある。

畦畔等の断ち割りセクション図をもとに概観するとともに、平坦面についても着目したい。畦畔等の認定は、比較高差や土層表面の色調差等に基づいている。

1号トレンチ(東側調査区)

3条の畦畔状の高まりを確認した。西側の1号畦畔は、

南東に突き出た形状。2号畦畔は、南東方向に走行し、安定している。3号畦畔は高まりも低く、方向も安定しない。

1号畦畔 全長1.0m 幅0.24m 高さ0.01m

2号畦畔 全長2.9m 幅0.3～0.45m 高さ0.05m

3号畦畔 全長0.9m 幅(0.35)m 高さ0.03m

2・3号トレンチ

段差(1号)・4号畦畔と竹管の暗渠が確認された。

1号段差 およそ0.03mの段差があり、3号トレンチへと続き、東西方向に屈折して認められた。4号畦畔は、南北方向に湾曲する。暗渠は近世以降の所産と思われる。

4号畦畔 全長3.7m 幅(0.3～0.4)m 高さ0.06m

4号トレンチ

竹管が伴う溝状の暗渠と段差状の高まりが確認された。段差は0.05mほどで、1.0m幅の確認にとまる。

5号トレンチ

南北に長い不整形の窪み(1号)が確認された。長径2.0m×幅0.3～0.6mを計る。

6号トレンチ

5号トレンチで確認した1号窪みの他、3条の短い畦畔状の高まりが認められた。

5号畦畔 全長(1.9)m 幅0.42m 高さ0.12m

6号畦畔 全長2.3m 幅0.40m 高さ0.13m

7号畦畔 全長1.7m 幅0.42m 高さ0.10m

7・8号トレンチ

畦畔状の高まりが2もしくは3条認められ、東側は2号平坦面へと続く。畦畔状の高まりについては、平坦面(水田土壤)の流失した痕跡の可能性が高い。

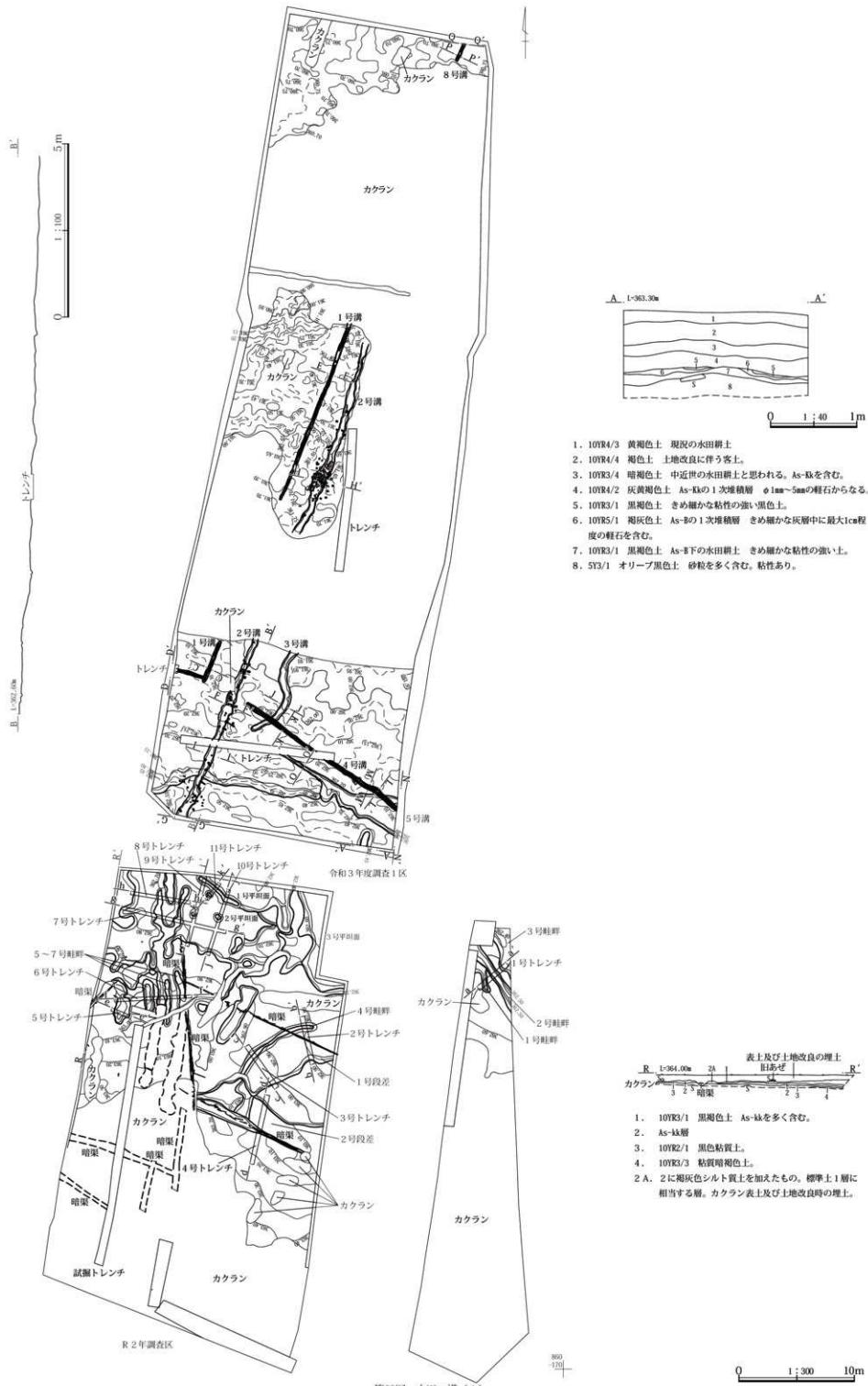
9・10・11号トレンチ

いずれのトレンチも1・2号平坦面の断面図である。畦畔状の高まりが認められる。

平坦面

水田土壤の流失が認められるが、1～3号までの平坦面を認定した。1号及び2号平坦面の間には、一部分ではあるが畦畔状の高まりが認められ、1・2号平坦面と3号平坦面の間は、段差が認められた。

平坦面での水流は、基本的に南から北への勾配を持つが、3号平坦面への水流は、西から東へと流れている。また、水田面全体では、南から北への勾配を持っており、地形の勾配と同じである。



第89図 水田・溝(1)

1号トレンチ



1. A帯鮮状高まりAs-Kk下
3. 10YR2/1 黒褐色粘質土 標準上
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土 ϕ 2mm～5mmの灰白色粒を含む。 ϕ 10mm粒の少額含有。

2号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土 標準上
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。
4 B. 4に砂粒(ϕ 2mm～3mm)を加入了したもの。

3号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土 標準上
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。
4 B. 4に細砂粒を加入了したもの。

4号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土 標準上
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。

5号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。
4 B. 4に細砂粒を加入了したもの。

6号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土
4 B. 4に細砂粒を加入了もの。

7号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。

8号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土
4 A. 3に多量の砂粒(ϕ 1mm～5mm)が混じる。

9号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土

10号トレンチ



3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土

11号トレンチ



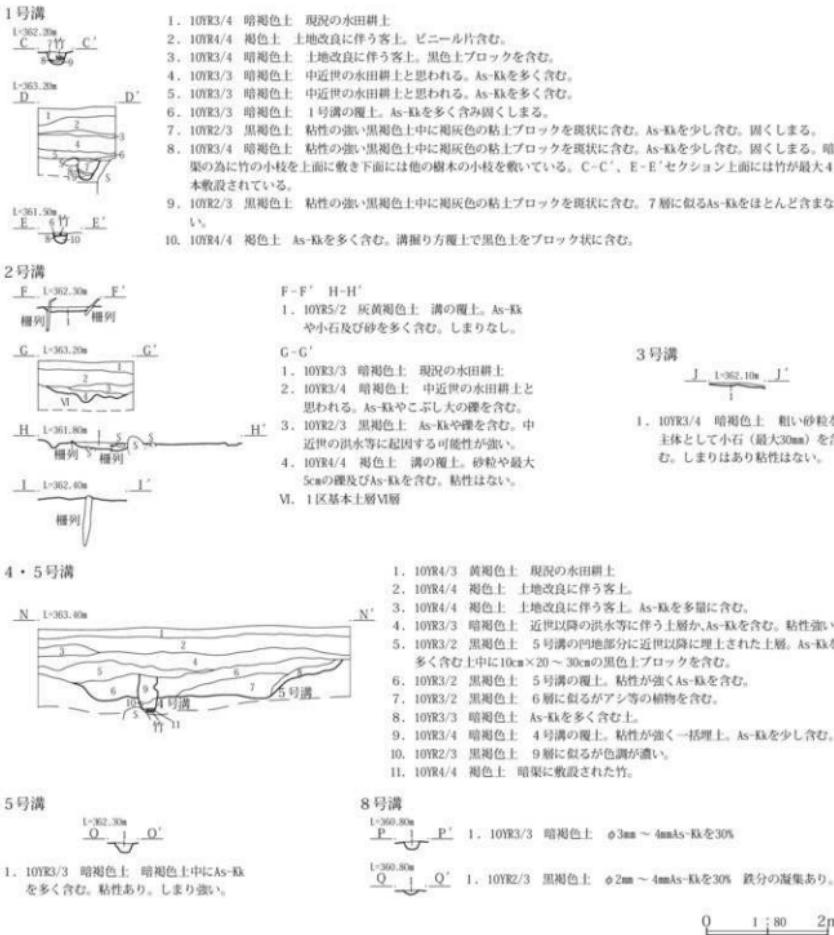
3. 10YR2/1 黒褐色粘質土
4. 10YR3/3 粘質暗褐色土

0 1:80 2m

第90図 水田・溝(2)



第91回 水田・溝(3)



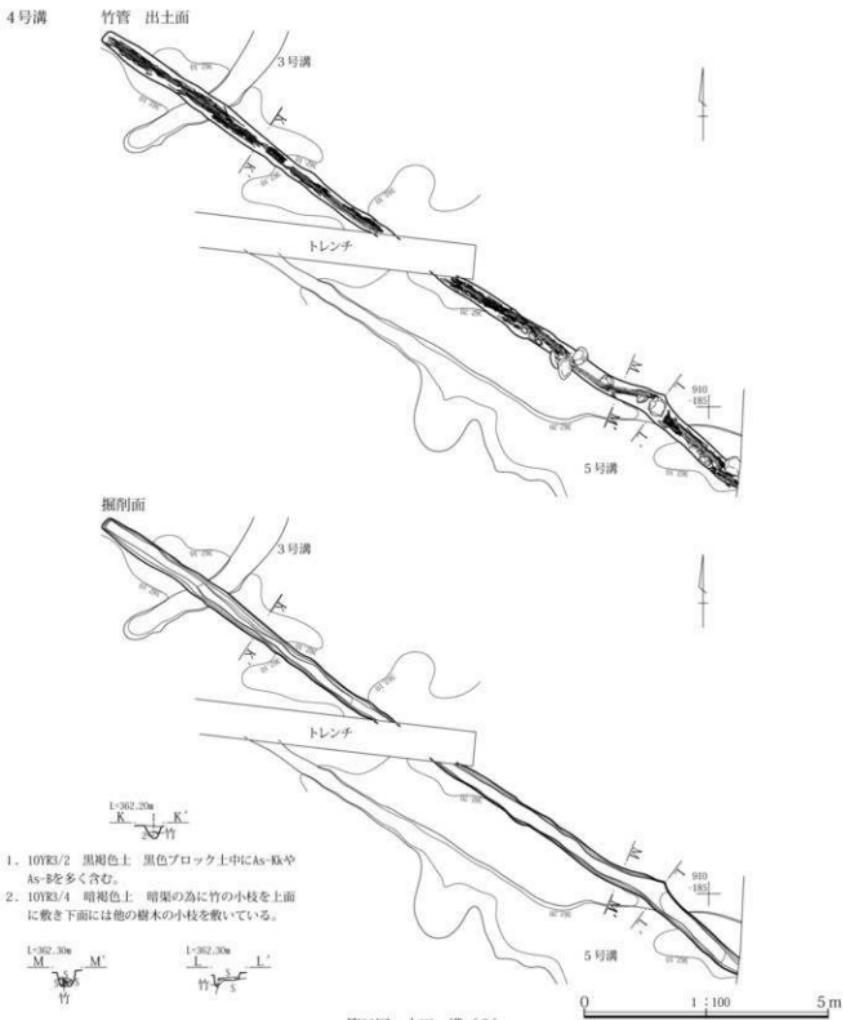
第92図 水田・溝(4)

令和3年度調査 1区

令和3年度調査1区も土地改良時の攪乱が広範囲に及んでいた。そのため、R2年調査区と同様に水田面の起伏や畦畔状の高まり等の確認にとどまる。残存する水田面は、北に向かって緩やかな傾斜を持つ。1区南側で畦畔状の高まりが確認できた。長さ1.5m、幅1.25m、高さ0.11mを計る。

6条の溝が水田面とともに確認されたが、いずれの溝も覆土がAs-Kk・As-B混土層であり、As-Kk・As-Bの1次堆積は認められなかった。出土遺物等からも中・近世以降の遺構の可能性が高い。そのため、これらの溝は次節の第6節中・近世の項で取り扱うものとする。

1区での植物珪酸体分析の結果は、第4章第4節に詳しいが、それによると1,800個/gという結果であった。



第93図 水田・溝(5)

5,000個/gが稲作の数値的目安とされるが、それには至らないものの、耕作期間や生産量等の関連性もあるので、完全に稲作を否定するものではない。

第6節 中・近世

当該期に比定される遺構は、溝がある。ここで報告する遺構は、すべて令和3年度調査の1区で発見された溝である。令和2年度でも同様の溝の他、碎石が充填され

た溝などが認められたが、詳細な調査を実施しておらず平面図や写真のみの報告となる。6条の溝は、1面扱いの遺構である。

1号溝 (第89・92図 PL.20)

位置 (X=63,919 ~ 63,950・Y=-87,188 ~ -87,201)

(X=63,919 ~ 63,920・Y=-87,201 ~ -87,203)

規模 南北長 (33.6) m、東西長 (2.4) m、幅0.2 ~ 0.4 m、深さ0.2m

長軸方位 南北N-22°-E、東西N-74°-W

走行 東西方向からほぼ直角に折れて北へ流下

埋没土層 As-Kkを少量含む黒褐色粘質土

出土遺物 長さ1.5 ~ 2.1mの竹管が4 ~ 5本埋設されていた。陶磁器等の出土遺物はない。

調査所見 調査区南側で西から東に走行し、直角に折れて北流するもので、竹管による排水機能を持たせた暗渠排水遺構と考えられる。水田縁辺部に巡らせたものか。

2号溝 (第89・92図 PL.20)

位置 (X=63,907 ~ 63,948・Y=-87,186 ~ -87,203)

規模 全長 (44.0) m、幅0.2 ~ 1.0m、深さ0.1m

長軸方位 N-21°-E

走行 南西から北東に流下

埋没土層 小礫及び砂粒を多く含む褐色・灰黃褐色土でAs-Kkを含む。

出土遺物 溝の上端部分から木製の杭が出土した。木杭は長さ0.8m、径0.1mほどで、列をなしていた部分が確認された。近世以降の陶磁器片が出土した。

調査所見 捣乱等で一部不明部分があるが、杭列を伴う溝で水田に伴う用水路と考えられる。また、本溝は、1号溝とほぼ並行しており、1号溝と関連性が高い遺構と考えられる。

3号溝 (第89・92図 PL.21)

位置 (X=63,915 ~ 63,922・Y=-87,192 ~ -87,196)

規模 全長 (7.7) m、幅0.4 ~ 0.7m、深さ0.1m

長軸方位 N-30°-E

走行 南西から北東方向へ蛇行する

埋没土層 小礫・砂粒を主体とした暗褐色土、洪水層が被覆する。

出土遺物 近世以降の陶磁器片が出土した。

調査所見 大小の礫が認められ、蛇行する形状から洪水に伴う自然流路の可能性が高い。4号溝と重複し、本溝が4号溝にきられている。

4号溝 (第89・92・93図 PL.21)

位置 (X=63,908 ~ 63,917・Y=-87,184 ~ -87,197)

規模 全長 (16.0) m、幅0.2 ~ 0.5m、深さ0.3m

長軸方位 N-55°-W

走行 南東から北西に走行

埋没土層 粘性の強い暗褐色土、As-Kkを少量含む。下位面に複数の竹管・篠竹を敷き詰めてある。上位の覆土は一括埋填された土層。

出土遺物 溝底面に竹管・篠竹を敷き込んでいる。近世以降の陶磁器片が出土した。

調査所見 5号溝と重複し、5号溝が本溝にきられている。底面に竹管・篠竹を敷き込んでいることから、暗渠排水遺構と考えられる。

5号溝 (第89・92図 PL.21)

位置 (X=63,906 ~ 63,913・Y=-87,184 ~ -87,194)

規模 全長 (12.0) m、幅0.3 ~ 3.0m、深さ0.3m

長軸方位 N-58°-W

走行 北西から南東方向へ走行

埋没土層 粘性の強い黒褐色土、As-Kkを含む、植物遺体あり。

出土遺物 近世以降の陶磁器片が出土した。

調査所見 4号溝と重複。本溝が4号溝にきられている。北西部分では幅が小さいが、南東方向に進むにしたがつて幅が大きくなる。自然流路の可能性がある。

8号溝 (第89・92図 PL.21)

位置 (X=63,973 ~ 67,974・Y=-87,178 ~ -87,179)

規模 全長 (1.6) m、幅0.2m、深さ0.1m

長軸方位 N-23°-E

走行 南西から北東

埋没土層 As-Kkを断面の面積30%含む暗褐色土。

出土遺物 出土遺物はない。

調査所見 位置及び方向的には1号溝に連結する可能性もあるが、竹管が埋設されていないことや、覆土の様相から別遺構とした。

遺物觀察表

第3表 遺物觀察表

7号櫛穴遺物

種 別 No.	種 類 種	埋 置 位 置	埋 置 率	計測値(cm. g)	胎土/燒成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1294 PL.22	1 磨文土器 深鉢	113・155 口縁・側部1/5	高 底	21.6 -	砂粒少/良/暗灰	内外面焼し、黒化。研磨、光沢。縄文IL。二次被熱で変色。	後期山葉 安行式
第1295 PL.22	2 磨文土器 深鉢	307・312・375・508・ 516・675・700・742・ 861・履・口縁 口縁・側部1/3	高 底	(17.3) -	砂粒少/良/灰黑	内外面ナデ。内面に輪郭みを残す。	後期山葉 天神 原式古墳
第1296 PL.22	3 磨文土器 壺	248・覆 866・壺 口縁・側部上半2/3	高 底	- 10.6 -	砂粒多/良/白 砂粒多/良/白	内外面焼し、黒化。内面にいよいよ横ナデ。外面研磨。縄文IL。二次被熱で変色、劣化。	後期前半 佐野1a式
第1297 PL.22	4 磨文土器 壺	33・37・436・437・ 452・453・456・23K3面 口縁・側部上半2/3	高 底	- 10.6 -	砂粒多/良/白	外面あらい研磨。内面ナデ。	後期前半
第1298 PL.22	5 磨文土器 壺	9・555・履 脚部下1/2	高 底	- -	砂粒多/良/灰白	内面ナデ。縄文IL。二次被熱で変色、劣化。	後期山葉 安行式
第1299 PL.22	6 磨文土器 壺	5・8・62・64・65・71・ 180・414・447・448・ 432・453・456・23K3面 頭・脚部1/2	高 底	- -	砂粒少/良/灰黑	内外面焼し、黒化。研磨、光沢。外面と頭部内面に赤色焼跡。	後期前半 大糸系
第1300 PL.22	7 磨文土器 壺	715・716 脚部1/2	高 底	- -	砂粒少/良/灰黑	内外面焼し、黒化。内面にいよいよナデ。底面からいよいよ。外面研磨、光沢。縄文IL。一部、二次被熱で変色。口部下に製作中の跡が残る。	後期前半
第1301 PL.22	8 磨文土器 壺	26・196・292・460・ 555・606・717・履・2 脚部1/2	高 底 (7.8)	- -	砂粒少/良/白 砂粒少/良/白	軽質。内面ナデ。外見ややあらい研磨充満。	後期前半
第1302 PL.22	9 磨文土器 深鉢	322 口縁部	高 底	- -	砂粒少/良/黒	軽質。内外面ナデ。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1303 PL.22	10 磨文土器 深鉢	1・2・履 口縁部	高 底	- -	砂粒多/良/灰白	内外面焼し、黒化。外面研磨、光沢。内面ナデ。縄文IL。	後期前半 佐野1a式
第1304 PL.22	11 磨文土器 深鉢	968 口縁部	高 底	- -	砂粒多/良/灰黄黒	軽質。外面研磨。赤色塗料。内面、かるい研磨。縄文IL。	後期前半
第1305 PL.22	12 磨文土器 深鉢	198・199・200・608 口縁部	高 底	- -	砂粒少・石英少/良 暗灰	内面焼し、黒化。あらい研磨。口縁部内面充満。縄文IL。	後期末葉 中期末葉 土器第1形
第1306 PL.22	13 磨文土器 深鉢	352 口縁部	高 底	- -	砂粒少/良/灰	軽質。内面ナデ。縄文IL。	後期山葉 天神 原式古墳
第1307 PL.22	14 磨文土器 深鉢	7 口縁部	高 底	- -	砂粒少/良/灰黃	砂粒多/良/灰黃	後期末葉 中期末葉 土器第2形
第1308 PL.22	15 磨文土器 深鉢	479 口縁部	高 底	- -	砂粒多/良/灰	内外面焼し、黒化。外面研磨。内面ナデ。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1309 PL.22	16 磨文土器 深鉢	840 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/灰黃	縄文IL。二次被熱で変色、劣化。	後期山葉 天神 原式古墳
第1310 PL.22	17 磨文土器 壺	10・81 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/浅黃	内ナデ。外面に縄文IL。	後期山葉 安行式
第1311 PL.22	18 磨文土器 深鉢	650 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/灰黃	内面ナデ。外面研磨。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1312 PL.22	19 磨文土器 壺	542・履 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/白 砂粒少/良/白	内面にいよいよナデ。外見研磨、光沢。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1313 PL.22	20 磨文土器 深鉢	847 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/黒	硬質。内外面焼し、黒化。内面かるい研磨。外面研磨、光沢。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1314 PL.22	21 磨文土器 深鉢	94 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/黒	内外面焼し、黒化。内面ナデ。外面研磨、光沢。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1315 PL.22	22 磨文土器 深鉢	27 脚部	高 底	- -	砂粒少・石英多/良 灰黃	軽質。内外面ナデ。外面に沈底区画内に刻文突。縄文IL。	後期山葉 天神 原式古墳
第1316 PL.22	23 磨文土器 壺	937 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/黒	内外面焼し、黒化。内面あらうナデ。外面研磨、光沢。縄文IL。	後期山葉 天神 原式古墳
第1317 PL.22	24 磨文土器 台付壺	597 台付	高 底	- -	砂粒多/良/灰	縄文IL。内面ややあらうナデ。外見無部研磨。	後期山葉 安行式
第1318 PL.22	25 磨文土器 台付壺	227 台付1/3	高 底	- -	砂粒多/良/黑	内外面および底部外面焼し、黒化。研磨、光沢。縄文IL。	後期山葉 安行式古墳
第1319 PL.22	26 磨文土器 台付壺	369 台付	高 底 (11.0)	- -	砂粒多/良/灰	内外面焼し、黒化。外面研磨、光沢。内面ナデ。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1320 PL.22	27 磨文土器 台付壺	27 台付	高 底	- -	砂粒多・石英多/良 灰 黃	砂粒多/良/黒	後期山葉 天神 原式古墳
第1321 PL.22	28 磨文土器 台付壺	597 台付	高 底	- -	砂粒多/良/黒	内外面焼し、黒化。二又状の透かし文様。縄文IL。無文部研磨、光沢。安行式	後期山葉 天神 原式古墳
第1322 PL.22	29 磨文土器 台付壺	604・605・履・213面 台付	高 底 (14.0)	- -	砂粒多/良/灰	縄文IL。円形。三角形の透かし文あり。二次被熱で変色、劣化。	後期山葉 安行式
第1323 PL.22	30 磨文土器 深鉢	866 口縁部	高 底	- -	砂粒多/良/灰	内面にいよいよナデ。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1324 PL.22	31 磨文土器 深鉢	680 口縁部	高 底	- -	砂粒少/良/灰	軽質。内外面焼し、黒化。内面研磨。縄文IL。	後期山葉 安行式
第1325 PL.22	32 磨文土器 壺	31 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/灰	縄文IL。口縁部に刻文突。縄文IL。内面焼し、黒化。研磨、光沢。後期後半 高井 式古墳	後期山葉 天神 原式古墳
第1326 PL.22	33 磨文土器 深鉢	419 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/白	軽質。内面焼し、黒化。内面研磨、光沢。縄文IL。口部に小突起。	後期末葉 中期第1形 人跡式古墳
第1327 PL.22	34 磨文土器 深鉢	576 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/灰	内外面焼し、黒化。研磨、光沢。内面に刺突。	後期山葉 天神 原式古墳
第1328 PL.22	35 磨文土器 深鉢	925 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/白	砂粒少/良/白/コリ状。内面ナデ。	後期山葉 天神 原式古墳
第1329 PL.22	36 磨文土器 深鉢	7 脚部	高 底	- -	砂粒多/良/黒	硬質。内面ナデ。外面に沈底区画文様と刻文突。	後期末葉 中期第1形 土器第1形
第1330 PL.22	37 磨文土器 深鉢	347 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/黒	外見に沈底区画内に刺突。	後期山葉 天神 原式古墳
第1331 PL.22	38 磨文土器 深鉢	626 脚部	高 底	12.0	砂粒少/良/灰	外見に赤色焼跡。底はうろこに丸い透かし穴。外見かるい研磨。内面ナデ。	後期山葉 天神 原式古墳
第1332 PL.22	39 磨文土器 深鉢	326 脚部	高 底	- -	砂粒少/良/灰	軽質。内外面ナデ。外面に沈底区画内に刺突。	後期山葉 天神 原式古墳

種 類 No.	種 類 名	出土位置	計測値(cm. g)	断土・被成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第14回 PL.23	40 磨文土器 深鉢	584 鉢部	口 底	高 砂粒多/良/黒闇	被成。内面ナデ。外面部に沈刷式画文様と刻文。	施明小中 天神 原式(鉢)
第14回 PL.23	41 磨文土器 深鉢	741. 頂 底	口 底	砂粒多/石英多/良 灰闇	被成。内外面ナデ。外面部に沈刷式画文様と刻文。	施明小中 天神 原式(鉢)
第14回 PL.23	42 磨文土器 深鉢	741. 頂 底	口 底	砂粒多/石英多/良 灰闇	被成。内外面ナデ。外面部に沈刷式画文様と刻文。	施明小中 天神 原式(鉢)
第14回 PL.23	43 磨文土器 深鉢	741. 頂 底	口 底	砂粒多/良/黒闇	被成。内面ナデ。外面部に沈刷式画文様と刻文。	施明小中 天神 原式(鉢)
第14回 PL.23	44 磨文土器 鉢	741. 頂 底	口 底	砂粒多/良/灰黄闇	外面部磨。内面ナデ。	施明前半
第14回 PL.23	45 磨文土器 鉢	741. 頂 底	口 底	砂粒多/良/灰黄闇	内外面から研磨。外面部赤色彩。	施明前半
第14回 PL.23	46 磨文土器 深鉢	897 鉢部	口 底	砂粒多/石英多/良 黒闇	被成。内外面でいねいナデ。	施明前半
第14回 PL.23	47 磨文土器 深鉢	930 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/黃 闇	内面ナデ。口縁部に凹の突起がつく。その突起下に同形の施付文を有す。口縁部に2条の浅い凹痕を施す。	施明後半 高井 東式古墳期
第14回 PL.23	48 磨文土器 鉢	684 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/相 持	88と同側。	施明前半
第14回 PL.23	49 磨文土器 鉢	373 鉢部	口 底	砂粒少/良/黒	被成。外面部磨し、黒色。内面ナデ。外面部磨。火沢。判部に手面状文。人頭式。	施明前半 高井 東式
第14回 PL.23	50 磨文土器 鉢	696 鉢部	口 底	砂粒多/石英+雲母 片岩多/良/灰闇	外面部磨し、黒色。研磨。火沢。	施明前半 野佐山人式
第14回 PL.23	51 磨文土器 鉢	68 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/黃 闇	内面ナデ。口縁部に凹の突起がつく。その突起下に同形の施付文を有す。口縁部に2条の浅い凹痕を施す。	施明中葉 中尾式
第14回 PL.23	52 磨文土器 深鉢	477 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/赤 闇	外面部から研磨。内面あわ。	施明前半
第14回 PL.23	53 磨文土器 深鉢	431 鉢部	口 底	砂粒多/良/黒闇	被成。内面からいの研磨。外面部に施文は被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	54 磨文土器 深鉢	330 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/黃 闇	被成。内面からいの研磨。外面部に施文は被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	55 磨文土器 深鉢	595 鉢部	口 底	砂粒多/石英多/良 にひ/黒	内面入念ナデ。外面部に棘より廣文様位施文。口縁部に斜位の斜目。	施明前半
第14回 PL.23	56 磨文土器 深鉢	611 鉢部	口 底	砂粒多/良/明赤闇	内面入念ナデ。外面部に燃系を被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	57 磨文土器 深鉢	612 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/赤 闇	内面入念ナデ。外面部に燃系を被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	58 磨文土器 深鉢	62 鉢部	口 底	砂粒多/良/灰黄闇	内面入念ナデ。外面部に燃系を被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	59 磨文土器 深鉢	63 鉢部	口 底	砂粒多/石英+片岩 合/白黄闇	内面入念ナデ。外面部に燃系を被位施文。	施明前半
第14回 PL.23	60 磨文土器 深鉢	635・638・832・833 口縁~側部	口 底	砂粒多/良/灰黄闇 口縁~側部	棘りし口縁。口縁部にあらう斜位を施した施位の施付文が伴う。内面に横位のあらう斜位。外面部ナデ。	施明前半
第14回 PL.23	61 磨文土器 深鉢	102 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/黒 闇	内面ナデ。	施明初期 高井人式
第14回 PL.23	62 磨文土器 深鉢	394 鉢部	口 底	砂粒少/石英+片岩 合/にひ/赤	外面部から研磨。	施明中期 高井人式
第14回 PL.23	63 磨文土器 深鉢	119 鉢部	口 底	砂粒多/石英+雲母 片岩多/良/黒闇	外面部磨し、黒色。研磨。火沢。口縁部内面に浅い沈刷。	施明後半 高井 東式古墳期
第14回 PL.23	64 磨文土器 深鉢	714 口縁~側部	口 底	砂粒多/良/黒闇	内面ナデ。	施明初期 高井人式
第14回 PL.23	65 磨文土器 深鉢	564 鉢部	口 底	砂粒多/良/にひ/黒 闇	内面ナデ。	施明前半
第14回 PL.23	66 磨文土器 深鉢	931 鉢部	口 底	砂粒多/良/褐闇	内面ナデ。内面感じ。黒色。	施明初期 高井人式
第15回 PL.23	67 磨文土器 深鉢	714 口縁~側部	口 底	砂粒少/良/黒	口縁部に押縫。口縁部下に浅い凹版。体部外面に斜位のナデ痕。内面に棘りし口縁。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.23	68 磨文土器 深鉢	473 口縁~側部	口 底	高 砂粒少/良/黄褐	内面でいねいナデ。口縁部に輪積み組。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.23	69 磨文土器 深鉢	723 口縁	口 底	高 砂粒少/良/にひ/黄 闇	被成。内面ナデ。外面部に輪積み組を残す。	施明前半
第15回 PL.23	70 磨文土器 深鉢	219・226 口縁	口 底	高 砂粒少/良/にひ/相 持	砂粒少/良/白地内面ナデ。口縁部の輪積み組肥厚部に指添の押縫文。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.24	71 磨文土器 深鉢	293・284・289・290 291・667・670. 頂 口縁~側部	口 底	(25.0) 高 砂粒少/良/にひ/相 持	砂粒少/良/にひ/相 持内面ナデ。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.24	72 磨文土器 深鉢	256 口縁	口 底	高 砂粒少/良/灰白	内面でいねいナデ。	施明前半
第15回 PL.24	73 磨文土器 深鉢	668・734・735. 頂 口縁~側部	口 底	高 砂粒少/良/相	内面ナデ。口縁部折り返し状肥厚。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.24	74 磨文土器 深鉢	39・40・94・96・138・ 139・140・149・150・157・ 158・159・160・161 口縁~側部	口 底	高 砂粒多/良/赤褐	被成。内面ナデ。口縁部折り返し状肥厚。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.24	75 磨文土器 深鉢	75 口縁	口 底	高 砂粒少/良/にひ/黄 闇	内面でいねいナデ。	施明中葉 前り足人式
第15回 PL.24	76 磨文土器 深鉢	584 口縁	口 底	高 砂粒少/良/にひ/黄 闇	内面でいねいナデ。	施明前半 前り足人式
第15回 PL.24	77 磨文土器 深鉢	192 口縁	口 底	高 砂粒少/良/灰黄闇	内面あらいナデ。口縁部に輪積み組を残す。	施明前半

遺物観察表

種別	No.	種類	出土位置	現存状態	計測値(cm, g)	断面・横成形・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15回 PL.24	78	陶文土器 深鉢	682 口縁部	口底 高	砂粒多/良/相	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	79	陶文土器 深鉢	826 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰白	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	80	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒少/良/灰白	内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	81	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい相	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭中量 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	82	陶文土器 深鉢	58 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい灰 白	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	83	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰黄褐	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	84	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒少/良/灰白	内外面ていねいナデ。		美昭前半 折り返し口縫 粗製土器
第15回 PL.24	85	陶文土器 深鉢	691 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰黄褐	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半
第15回 PL.24	86	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい相	内外面ていねいナデ。口唇部に押捺文。		美昭前半
第15回 PL.24	87	陶文土器 深鉢	276 口縁部	口底 高	砂粒多/良/にぶい黄 白	外面上輪積み底。内面ていねいナデ。口唇部に押捺文。		美昭前半
第15回 PL.24	88	陶文土器 深鉢	578 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい相	内外面ていねいナデ。口唇部に押捺文。		美昭前半
第15回 PL.24	89	陶文土器 深鉢	67 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰黄褐	内外面ていねいナデ。口唇部に割目。		美昭前半
第15回 PL.24	90	陶文土器 深鉢	979 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰白	内外面ていねいナデ。口唇部上面に1条の浅線。		美昭系 北陸系
第15回 PL.24	91	陶文土器 深鉢	111 口縁部	口底 高	砂粒少/良/灰白	内外面ていねいナデ。山形の突起上面に削目。		美昭初段～前 段 高井東式系
第15回 PL.24	92	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒多/良/相	内外面ナデ。口唇部に剥突。		美昭前半
第15回 PL.24	93	陶文土器 深鉢	74 口縁部	口底 高	砂粒多/良/にぶい黄 白	破綻多/良/にぶい黄 白	成化口縫。外面上面ナデ。	美昭前半
第15回 PL.24	94	陶文土器 深鉢	911 口縁部	口底 高	砂粒多/良/にぶい黄 白	砂粒多/良/にぶい黄 白	外面上面かるい剥離。	後期末葉 高井 東式切削
第15回 PL.24	95	陶文土器 深鉢	852 口縁部	口底 高	砂粒少/良/黒褐	内外面ていねいナデ。		美昭前半
第15回 PL.24	96	陶文土器 深鉢	694 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰白	内外面垂れ。黑色。刷毛。光沢。		美昭前半
第15回 PL.24	97	陶文土器 深鉢	73 口縁部	口底 高	砂粒多/石英・雲母 片岩多合/良/黒褐	砂粒多/石英・雲母 片岩多合/良/黒褐	内外面ていねいナデ。口縁部内面に浅い削痕。	美昭前半
第15回 PL.24	98	陶文土器 深鉢	590 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰白	粗造。内外面ナデ。		美昭前半
第15回 PL.24	99	陶文土器 深鉢	331 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰黄褐	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半
第16回 PL.24	100	陶文土器 深鉢	476 口縁部	口底 高	砂粒多/良/灰黄褐	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半
第16回 PL.24	101	陶文土器 深鉢	641 口縁部	口底 高	砂粒少/良/黒褐	粗造。内外面ていねいナデ。		美昭前半
第16回 PL.24	102	陶文土器 深鉢	310 + 512 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい黄 白	砂粒少/良/にぶい黄 白	口縁部に指擦状の押捺文。	美昭前半
第16回 PL.24	103	陶文土器 深鉢	712 口縁部	口底 高	砂粒少/良/にぶい黄 白	砂粒少/良/にぶい黄 白	内外面ていねいナデ。	美昭前半
第16回 PL.24	104	陶文土器 深鉢	648 + 649 + 666 + 701 737 ～脚部	口底 30.0 高	砂粒少/良/にぶい相	砂粒少/良/にぶい相	内外面ナデ。	美昭中量 折り返し口縫 粗製土器
第16回 PL.24	105	陶文土器 深鉢	32 + 61 + 63 + 126 + 130 + 131 + 133 + 135 + 136 + 137 + 139 + 142 + 153 + 154 + 156 + 158 + 160 + 452 + 469 + 510 + 621 + 830 + 929 口縫～脚部1/2	口底 33.0 高	砂粒多/石英・金雲 母合/良/相	砂粒多/石英・金雲 母合/良/相	外面上輪積みナデ。内面かるい剥離。	美昭後半
第17回 PL.24	106	陶文土器 深鉢	302 + 494 + 541 ～脚部	口底 29.8 高	砂粒少/良/にぶい黄 白	砂粒少/良/にぶい黄 白	粗造。被熱。ゆがみあり。外面上輪積みナデ。内面あらいナデ。	美昭前半
第17回 PL.24	107	陶文土器 深鉢	634 口縫部	口底 高	砂粒少/良/相	砂粒少/良/相	内外面ていねいナデ。	美昭前半
第17回 PL.24	108	陶文土器 深鉢	206 口縫部	口底 高	砂粒多/良/にぶい黄 白	砂粒多/良/にぶい黄 白	粗造。内外面ていねいナデ。	美昭前半
第17回 PL.24	109	陶文土器 深鉢	637 口縫部	口底 高	砂粒少/良/相	砂粒少/良/相	粗造。外面上輪積み。内面ナデ。	美昭前半
第17回 PL.24	110	陶文土器 深鉢	356 + 367 + 368 + 531 ～脚部	口底 高	砂粒多/良/黒褐	砂粒多/良/黒褐	外面上輪積みナデ。内面ていねいな横ナデ。	美昭中量 折り返し口縫 粗製土器
第17回 PL.24	111	陶文土器 深鉢	668 口縫部	口底 高	砂粒多/良/にぶい黄 白	砂粒多/良/にぶい黄 白	粗造。内面横粒。外面上輪積み位の強いナデ。	美昭前半
第17回 PL.24	112	陶文土器 深鉢	164 + 165 + 166 + 167 + 168 + 169 + 170 + 171 + 463 + 473 + 484 + 628 + 629 + 642 + 643 + 645 + 646 + 734 + 737 + 837 + 838, 腹 脚部上平4/5	口底 (25.0) 高	砂粒少/良/にぶい黄 白	砂粒少/良/にぶい黄 白	内外面ナデ。内面に輪積み底。口縁部に浅い凹痕と押捺を列状に施す。	美昭前半

種類	No.	種類	出土位置	残存率	計測値(cm. g)	断面・横断面	成形・整形の特徴	備考	
第17回 PL.25	113	陶文土器 深鉢	454 脚部1/4	口 底	高 高	砂粒少/良/にぶい相 内外面ナデ、外面部半下でないナデ。		表面削平	
第17回 PL.25	114	陶文土器 深鉢	90 脚部	口 底	高 高	砂粒少/良/にぶい相 内面人念ナデ。外面に輪縞みを強調した複位沈線。		表面削平	
第17回 PL.25	115	陶文土器 深鉢	769 底部完全	口 底	(3.7) 高	砂粒少/良/灰白 内外面ナデ。		表面削平	
第17回 PL.25	116	陶文土器 深鉢	103 底部1/4	口 底	6.0 高	砂粒多/良/明黄色 内面かるい削痕。外底と底面でないナデ。		表面削平	
第17回 PL.25	117	陶文土器 底部	103 底部	口 底	10.0 高	砂粒多/良/灰黄褐色 硬直。底部外縁の削痕を有して削痕。		表面削平	
第17回 PL.25	118	陶文土器 底部	54.5 - 55.121 底部	口 底	7.0 高	砂粒多/良/灰褐色 硬直。内外面人念ナデ。底部外縁でないナデ。		表面削平	
第17回 PL.25	119	陶文土器 底部	134 - 266 + 473 - 923 底部	口 底	(7.2) 高	砂粒少/良/灰白 輕直。内外面人念ナデ。底部外縁でないナデ。		表面削平	
第17回 PL.25	120	陶文土器 底部	740 - 838 + 859 - 902 底部1/2	口 底	10.0 高	砂粒多/良/相 内外面ナデ。底部内部に灰化物付着。外面に木變斑。		表面削平	
第17回 PL.25	121	陶文土器 底部	114 底部4/5	口 底	9.0 高	砂粒少/良/にぶい黃褐色 輕直。底部外縁に木變斑。		表面削平	
第17回 PL.25	122	陶文土器 底部	327 底部	口 底	9.0 高	砂粒少/良/にぶい黃褐色 輕直。底部外縁に灰化物付着。外面に削除斑。		表面削平	
第17回 PL.25	123	陶文土器 底部	522 底部	口 底	(9.0) 高	砂粒多/良/にぶい相 内外面ナデ。底部外縁に木變斑。		表面削平	
第18回 PL.25	124	陶文土器 深鉢	211 - 269 + 495 底部2/3	口 底	10.4 高	砂粒多/良/灰白 輕直。外縁子。底部外縁に木變斑重複。		表面削平	
第18回 PL.25	125	陶文土器 深鉢	676 底部完全	口 底	12.0 高	砂粒少/良/相 内外面ナデ。底部外縁にマコモの葉を並べた動物の縞を残す。内面に灰化物付着。		表面削平	
第18回 PL.25	126	陶文土器 底部	718 - 906 底部	口 底	10.5 高	砂粒少/良/にぶい黃褐色 輕直。内外面ナデ。底部内部に灰化物付着。外面に削除斑。		表面削平	
第18回 PL.25	127	陶文土器 底部	300 底部	口 底	10.0 高	砂粒多/良/相 外縁と底部外縁に削り。ナデ。内面あらいナデ。底部内部に灰化物付着。底部外縁に白色土付着。		表面削平	
第18回 PL.25	128	陶文土器 脚部	691 脚部	口 底	高 高	砂粒多/良/にぶい相 輕直。内面ていねナデ。外面に削痕。		表面削平	
第18回 PL.25	129	陶文土器 底部	564 底部	口 底	高 高	砂粒少/良/黒褐色 内外面削痕。黒色。外面部削痕。光沢。赤色変斑。内面ナデ。		表面削平	
第18回 PL.25	130	陶文土器 口口子	588 口口子	口 底	高 高	砂粒少/良/にぶい相 二枚板然で変色。劣化。		表面削平	
第18回 PL.25	131	陶文土器 ミニチュニア土器	797 完形	口 底	4.4 高	砂粒多/良/にぶい相 手づけで作成。内外面に輪縞や凹凸あり。		表面削平	
第18回 PL.25	132	陶文土器 ミニチュニア土器	798 完形	口 底	2.0 高	砂粒多/良/灰黃褐色 内面ていねナデ。口縁部に深い削痕がめぐり、脚部に燃焼文を輪状に残す。二次削除で底部を丸める。		表面削平	
第19回 PL.25	133	洞石右筋 一部欠損	720 脚部	口 脚	(2.1) 0.9 厚 厚	厚 0.4 黑色斑点 未完成。部分切削加工比べ、右辺側は鋸、左辺側加工の跡で先端部を削除。製作と切削痕を示すもの。		基盤無基盤	
第19回 PL.25	134	洞石右筋 一部欠損	720 脚部	口 脚	(1.0) 0.3 (1.4) 0.7	厚 0.3 厚 0.7	チャート 完成度7% 表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。左辺側で削痕が奥に入りこむ削痕を数枚。		基盤無基盤
第19回 PL.25	135	洞石右筋 脚部	720 完形	口 脚	2.4 1.4 厚 厚	厚 0.5 厚 0.5	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。脚部は直角的で、三角形状の凹溝が取付く。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	136	洞石右筋 脚部欠損	720 脚部	口 脚	(2.3) 1.3 厚 厚	厚 0.4 厚 0.9	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。脚部は直角的で、裏部は部分的に鋸とアクリル片付着。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	137	洞石右筋 脚部欠損	720 脚部	口 脚	(2.0) 1.4 厚 厚	厚 0.4 厚 0.8	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。脚部は直角的で、裏部は大きくなる。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	138	洞石右筋 脚部	720 脚部	口 脚	(2.0) 1.7 厚 厚	厚 0.5 厚 1.4	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。先端部および脚部を大きいながら、全体としては薄手の複数で、製作時折合間に織続した機械性		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	139	洞石右筋 脚部欠損	720 脚部	口 脚	(2.5) 1.3 厚 厚	厚 0.5 厚 1.3	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。先端部を欠損。左辺の変形と右辺の削痕に押圧凹溝がある。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	140	洞石右筋 一部欠損	720 脚部	口 脚	2.1 1.2 厚 厚	厚 0.6 厚 1.5	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。本体に比べ、大きな多孔状から、先端部を欠損。左辺の変形と右辺の削痕に押圧凹溝がある。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	141	洞石右筋 一部欠損	720 脚部	口 脚	(2.6) 1.4 厚 厚	厚 0.6 厚 1.8	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。先端部および脚部を大きいながら、脚部は削痕状を示す完璧度は高い。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	142	洞石右筋 弓型等付脚部	720 脚部	口 脚	3.8 1.3 厚 厚	厚 0.6 厚 0.6	桂質質目 完成度7%、表裏面とも押圧凹溝が全面を覆う。脚部は直角的である。裏部にアクリル片付着。		凸基盤有基盤
第19回 PL.25	143	洞石右筋 ほぼ完形	887 脚部	口 脚	(4.4) 1.5 厚 厚	厚 0.8 厚 0.8	桂質質目 未完成。脚部は丸く、圓形を整える程度。革の作用も不十分。先端部は削痕と脚部は丸く削痕。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	144	洞石右筋 脚部	886 脚部	口 脚	4.2 1.9 厚 厚	厚 0.6 厚 0.6	桂質質目 完成度7%、表裏面とも加工はあらかじめ、圓形の舟型凹削で製作を放棄している。裏部は黒色質目。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	145	洞石右筋 定形	721 定形	口 脚	3.8 2.0 厚 厚	厚 0.9 厚 0.9	桂質質目 完成度7% 表裏面の先端側削痕と裏部基部左側の加工はあらかじめ、頭部的に削痕を進めることができる。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	146	洞石右筋 ほぼ完形	721 定形	口 脚	4.2 2.5 厚 厚	厚 0.8 厚 0.8	桂質質目 未完成。加工は粗く、裏部は削痕を整えたのみ。裏部削痕には糸状物が残り、脚部削痕に埋めいることがある。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	147	洞石右筋 脚部	720 脚部	口 脚	3.8 2.1 厚 厚	厚 0.8 厚 0.8	桂質質目 未完成。裏面と脚部は丸く、圓形を整える程度。革の品目で、裏部の穴開き度は高い。やや内凹突起の無縫に大きな革を取り付く。アズワルトナーベルト。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	148	洞石右筋 定形	721 定形	口 脚	2.5 0.7 厚 厚	厚 0.5 厚 0.5	桂質質目 表裏面とも脚部は丸く、加工初期で画面を呈する。裏部は削痕が散在している。先端部から8mm程度で削痕を持ります。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	149	洞石右筋 脚部	721 脚部	口 脚	(3.8) 2.6 厚 厚	厚 1.1 厚 0.8	桂質質目 未完成。表裏面とも脚部は丸く、加工初期で製作を放棄している。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	150	洞石右筋 脚部	721 脚部	口 脚	(2.5) 2.2 厚 厚	厚 0.8 厚 0.8	桂質質目 未完成。アズワルトナーベルト。脚部は丸く、削痕は直角で深く奥まで入り込む。セイズイに右脚とすることは大抵である。右脚となる可能性も残る。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	151	洞石右筋 脚部	721 脚部	口 脚	(2.5) 2.5 厚 厚	厚 0.7 厚 0.8	桂質質目 未完成。脚部は丸く、裏部は削痕を整えたのみ。裏部削痕には糸状物が残り、脚部削痕に埋めいることがある。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	152	洞石右筋 脚部	721 脚部	口 脚	3.3 2.1 厚 厚	厚 0.6 厚 0.6	桂質質目 小中幅に脚部を用いて、表裏面とも両脚を加工して、器具の形状を整える。全体的に薄く加工しているが、裏部削痕は直角的である。		凸基盤有基盤
第19回 PL.26	153	洞石右筋 脚部	721 脚部	口 脚	3.7 1.8 厚 厚	厚 0.5 厚 0.5	桂質質目 小中幅に脚部を用いて、表裏面とも両脚を加工して、器具の形状を整える。全体的に薄く加工しているが、裏部削痕は直角的である。		凸基盤有基盤

遺物觀察表

種 国 No.	種 類 種	出土位置 層	計測値(cm. g)	胎土質感/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1904 PL. 26	154 磨石器 磨製石斧	792 1/2	長 (14.1) 厚 (2.8) 幅 (7.4) 重 (333.6)	粗粒輝石安山岩/灰 基部と画面を大きく欠損。刃部附近は使用により光沢を帯びる。		
第1905 PL. 26	155 磨石器 くぼみ石	埋 定形	長 8.5 幅 6.4 厚 0.5 重 312.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面ともに鋸刃痕があり、岩石としても使用したもの。		
第1906 PL. 26	156 磨石器 磨石	埋 一部欠損	長 9.2 幅 6.8 厚 0.8 重 348.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に鋸り面と敲打痕がある。磨石を岩石に転用したものの、上下の刃端に明瞭な敲打痕あり。		
第1907 PL. 26	157 磨石器 磨石	埋 定形	長 11.7 幅 8.0 厚 0.8 重 390.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に鋸り面。敲打痕無し。		
第1908 PL. 26	158 磨石器 磨石	埋 定形	長 12.4 幅 8.9 厚 0.8 重 310.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に鋸り面。敲打痕無し。		
第1909 PL. 26	159 磨石器 磨石	891 定形	長 8.8 幅 7.7 厚 0.5 重 360.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に鋸り面とむずかな敲打痕。二次被熱により変色。		
第1910 PL. 26	160 磨石器 磨石	889 定形	長 10.5 幅 8.0 厚 0.8 重 324.0	粗粒輝石安山岩/灰 直方体状。表面、内側面、上下面に削り面があり、表面にだけ敲打痕が認められる。		6出露石
第1911 PL. 26	161 磨石器 磨石	899 定形	長 9.9 幅 7.0 厚 0.8 重 390.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に削り面とむずかな敲打痕。		
第1912 PL. 26	162 磨石器 磨石	900 定形	長 10.3 幅 5.5 厚 0.8 重 314.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に削り面。敲打痕無し。二次被熱により変色。		
第1913 PL. 26	163 磨石器 磨石	894 2/3	長 (10.6) 幅 4.6 幅 6.6 厚 0.8 重 428.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面裏面に削り面と敲打痕あり。下辺は欠損しているが、一部に欠損後の敲打痕が残っており、岩石として転用した可能性あり。被熱により変色。		
第1914 PL. 27	164 磨石器 鏡片	782 石	長 (13.6) 幅 6.6 幅 (12.7) 重 1000.0	粗粒輝石安山岩/黄 表面裏面に削り面。良好。		
第1915 PL. 27	165 磨石器 石盤	783 石盤	長 (12.5) 幅 5.7 幅 (10.6) 重 980.0	粗粒輝石安山岩/灰 削り面に研削・良好。		
第1916 PL. 27	166 磨石器 石盤	784 石盤	長 (13.0) 幅 7.8 幅 (10.6) 重 910.0	粗粒輝石安山岩/灰 左上部分残存。鏡盤部は使用した刃溝の自然面を使用。		
第1917 PL. 27	167 磨石器 石盤	785 石盤	長 13.5 幅 9.0 厚 0.8 重 1770.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面の平田部に削り面。表面全体にベンガラ付着。裏面黒熱・黑色。鏡盤の一部に削り面あり。		
第1918 PL. 27	168 磨石器 石盤	786 一部欠損	長 (15.8) 幅 3.9 幅 (13.3) 重 1160.0	粗粒輝石安山岩/灰 片面の平田部に削り面。右辺に新しい欠損部認められるが、縁辺に衝つた時の剥落が認められる。		
第1919 PL. 27	169 磨石器 石盤	787 石盤	長 20.1 幅 17.2 厚 0.8 重 3890.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面の平田部に削り面。全体に被熱による変色・割れ。		
第1920 PL. 27	170 磨石器 石盤	788 石盤	長 (12.6) 幅 3.4 幅 (10.6) 重 380.0	粗粒輝石安山岩/灰 片面の平田部に削り面。		
第1921 PL. 27	171 磨石器 石盤	789 石盤	長 (11.2) 幅 3.0 幅 11.3 厚 0.8 重 375.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面の研磨面にベンガラ付着。裏面もやや研磨されており、一部にベンガラ付着。		
第1922 PL. 27	172 磨石器 石盤	790 石盤	長 (7.1) 幅 3.0 幅 (10.6) 重 345.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面の平田部に明瞭な削り面。表面全体にベンガラ付着。裏面黒熱・黑色。右辺に削り面あり。		
第1923 PL. 27	173 磨石器 石盤	791 ほぼ定形	長 7.6 幅 (5.6) 重 80.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面の平田部に削り面。裏面に溝状模様。		
第1924 PL. 27	174 磨石器 石盤	793 欠損	長 (6.5) 幅 (1.1) 重 59.0 幅 (5.7) 重 59.0	粗粒輝石安山岩/灰 右辺に明瞭な研磨面。裏面中央平田面に右目に沿った削り面あり。二次被熱により剥落・変色。		
第1925 PL. 27	175 磨石器 石盤	795 一部欠損	長 11.5 幅 4.8 厚 0.8 重 91.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面に削り面。表面に深い溝状模。		
第1926 PL. 28	176 磨石器 石盤	796 欠損	長 (25.9) 幅 (4.0) 重 305.0 幅 (24.6) 重 302.0	粗粒輝石安山岩/灰 表したした面と右辺と異なって滑らかな平田面があり。右辺としらす。やや鐵色な石材を選んでおり、自然面にはあらい凹凸が認められる。ベントナイトを含む粘土質の鉱脈。直径5mmほどの球形をした小形鉱脈。表面のほとんどが白色化しており、この部分でベンガラを研磨して使っていた可能性がある。		
第1927 PL. 28	177 磨石器 石盤	797 定形	長 5.2 幅 4.8 厚 0.8 重 160.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面に削り面。裏面に溝状模。		
第1928 PL. 28	178 石製品 玉	719 定形	長 1.5 幅 1.0 厚 0.9	要るう石 板状は板状に近い。全面研磨面。上端側に径 4 mmの孔を斜面穿孔する。		
第1929 PL. 28	179 石製品 平板	720 鏡片	長 (2.5) 幅 (1.0) 重 59.0 幅 (3.5) 重 12.0	要るう石 平田面にスケッチャ様の縫・削跡あり。裏面か、1面に比べて右面が硬質。		
第1930 PL. 28	180 石製品 石盤	793 柄部端/2次欠	長 (21.7) 幅 2.0 幅 3.5 厚 23.0	要るう石 二次被熱で黒熱・剥離。全部を研磨で仕上げたではない作りで、刃部等を正確に作り出している。		
第1931 PL. 28	181 石製品 石盤	802 石盤	長 (5.6) 幅 3.3 幅 5.3 厚 1.3	要るう石 表面に二又式の文刺印。裏面に削り面。		
第1932 PL. 28	182 磨石器 石盤	803 定形	長 5.0 幅 3.0 厚 0.8 重 120.0	粗粒輝石安山岩/灰 荷円形のやや扁平な円盤を加工。		
第1933 PL. 28	183 磨石器 石盤	805 一部欠損	長 (10.9) 幅 6.0 幅 (17.6) 重 320.0	粗粒輝石安山岩/灰 表面全面に削り面。裏面裏面に削り面とくぼみ穴あり。		
第1934 PL. 28	184 磨石器 石盤	806 定形	長 9.6 幅 7.6 厚 0.8 重 188.0	粗粒輝石安山岩/灰 荷円形をなし、裏面中央より上方寄りに荷円形の凹みあり。		
第1935 PL. 29	185 磨石器 石盤	807 一部欠損	長 12.2 幅 10.4 厚 0.8 重 152.0	粗粒輝石安山岩/灰 直方体状に切りそろえたような平田面をもつ。素材か。		
第1936 PL. 29	186 石製品 軽石製品	808 定形	長 6.0 幅 3.9 厚 0.8 重 60.0	粗粒輝石安山岩/灰 荷円形で上方に円孔。		
PL. 29	187 油石器 石油	809 定形	長 5.0 幅 3.0 厚 0.8 重 90.0	完成度? 表裏面とも押圧剥離を施すが、調整があらく、形状が整ってない。先端丸頭。	凸基有半繩	
PL. 29	188 油石器 石油	810 ほぼ定形	長 1.1 幅 0.9 厚 0.8 重 40.0	完成度。側面一部欠損。裏面に押圧剥離を施している途中で無端に一部が欠損したものの欠損部。	凸基有半繩	
PL. 29	189 油石器 石油	811 一部欠損	長 1.6 幅 1.3 厚 2.0 重 40.0	完成度。先端部欠損。裏面の縫隙に調整剝離を加入して形状を調整中に欠損か。	凸基有半繩	
PL. 29	190 油石器 石油	812 2/3	長 1.1 幅 0.9 厚 0.7 重 40.0	完成度。先端部欠損。裏面に押圧剥離を施すが、剥離があらく、形状の厚さの調整ができない。	凸基有半繩	
PL. 29	191 油石器 石油	813 ほぼ定形	長 1.4 幅 1.3 厚 1.3 重 40.0	完成度。裏面に押圧剥離を施すが、片面の厚さが調整できていない。	凸基有半繩	
PL. 29	192 油石器 石油	814 一部欠損	長 1.4 幅 1.3 厚 0.9 重 30.0	完成度。裏面にわずかな調整剝離を施すのみ。	凸基有半繩	
PL. 29	193 油石器 石油	815 2/3	長 (1.8) 幅 0.5 幅 1.4 厚 1.2 重 40.0	完成度。先端部欠損。裏面に押圧剥離を施すが、剥離があらく、片面の厚さの調整ができない。	凸基有半繩	
PL. 29	194 油石器 石油	816 一部欠損	長 (2.0) 幅 0.6 幅 1.4 厚 0.7 重 40.0	完成度? 表裏面とも押圧剥離に覆われており、形状も整っていない。	凸基有半繩	
PL. 29	195 油石器 石油	817 一部欠損	長 (1.6) 幅 0.3 幅 1.3 厚 0.7 重 40.0	完成度。先端部欠損。裏面とも押圧剥離に覆われておらず、形状も整っていないが、片面が大きくな調節している。	凸基有半繩	
PL. 29	196 油石器 石油素材片	818 埋	長 3.8 幅 2.7 厚 1.3 重 137.0	裏面に調整剝離を加える。		

遺物観察表

種	回	No.	種	類	出	土位置	残存率	計測値(cm, g)	歴土・積成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PJ.	29	197	湖内石器	磨	長	(3.5) 幅(1.9)	厚0.9 重6.0	鉄紋岩	片面に調整削面を加える。			
PJ.	29	198	湖内石器	磨	長	(2.0) 幅1.2	厚0.5 重1.2	鉄紋岩	未完成。先端部欠損。表裏面とも押江剥離を加えるが、片面の摩耗の調整ができない。	凸基有茎縁		
PJ.	29	199	湖内石器	削成	長	(3.0) 幅(1.8)	厚0.9 重1.2	黒色頁岩	横長片の片側長辺に調整削面を施して刃部としている。			
PJ.	29	200	磨石器	磨	長	(17.4) 幅(1.5)	厚5.1 重3.3	鉄紋岩	鉛粒輝石安山岩 1/2欠刻。表面平田面に磨り面。			
PJ.	29	201	磨石器	磨	長	(7.5) 幅6.3	厚4.3 重258.2	鉄紋岩	完成。小型品で、表面平田面に弱い磨り跡と敲打痕あり。側縁の一部にも敲打痕。			
PJ.	29	202	磨石器	磨	長	(8.6) 幅7.3	厚5.7 重327.2	鉄紋岩	完成。小型品で、表面平田面に弱い磨り面。片側の平田面に被熱崩跡あり。			
PJ.	29	203	磨石器	磨	長	(9.6) 幅6.8	厚5.3 重313.3	鉄紋岩	完成。表面平田面に弱い磨り面。			
PJ.	30	204	磨石器	磨	長	(10.6) 幅7.6	厚6.6 重805.2	鉄紋岩	鉛粒輝石安山岩 完品。表面平田面に磨り面。平田面の片面と側辺に弱い敲打痕。			
PJ.	30	205	磨石器	磨	長	(14.7) 幅(13.7)	厚3.9 重1255.3	鉄紋岩	鉛粒輝石安山岩 片側の平田面に磨り面。被熱崩跡あり。			
8号窓穴骨物												
種	回	No.	種	類	出	土位置	残存率	計測値(cm, g)	歴土・積成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PJ.	30	1	湖内土器	深鉢	39	口	底	高	砂粒多。石英質/灰 黒斑	内外面擦し、黑色、研磨、光沢。口縁部に小突起が付く。口凹部に斜刃。	直周前半	
PJ.	30	2	湖内土器	深鉢	2	口	底	高	砂粒多/灰黒斑	内面かるい研磨。肩部に無頭鍔くり文。	直周前半	
PJ.	30	3	湖内土器	深鉢	18・34・48、 底	口縁 ~斜刃下1/5	高	33.0	砂粒多。石英・片岩 質/灰/木ぶい跡	口外ナデ。口縁部に斜刃の切れ。口縁部に棘突文2箇。胸部に擦条文及び足紋。	直周前半	
PJ.	30	4	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒少/灰/木ぶい 痕	内面かるい研磨。	直周前半	
PJ.	30	5	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒少/灰/浅黄斑	内面ナデ。外面に棘突文と棘突文を施文。	直周前半	
PJ.	30	6	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/灰白	内面ナデ。外面に棘突文と棘突文を施文。	直周前半	
PJ.	30	7	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/槽	内面ナデ。外面に棘突文と棘突文を施文。	直周前半	
PJ.	30	8	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/灰白	内面ナデ。外面に棘突文と棘突文を施文。	直周前半	
PJ.	30	9	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/灰/黒斑	内外面ナデ。外面に無頭鍔系文を複数に施文。	直周前半	
PJ.	30	10	湖内土器	深鉢	9	口	底	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。外面に棘突文を複数に施文。	直周前半	
PJ.	30	11	湖内土器	深鉢	8	口	底	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。外面に無頭鍔系文を複数に施文。	直周前半	
PJ.	30	12	湖内土器	深鉢	35	口	底	11.0 7.0	高 15.0	砂粒多/良/相 互	一次焼成で危険。劣化。奇想かみがあり。外面あらいナデ。内面に輪筋条文が残す。	直周前半
PJ.	30	13	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒少/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。	直周前半	
PJ.	30	14	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。	直周前半	
PJ.	30	15	湖内土器	深鉢	15	口	底	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。口縁部に押捺。	直周前半	
PJ.	30	16	湖内土器	深鉢	6	口	底	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。	直周前半	
PJ.	30	17	湖内土器	深鉢	4	口	底	高	砂粒少/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。内面かるい研磨。底面の瘤、不明。	直周前半	
PJ.	30	18	湖内土器	深鉢	1/5	底	(10.0)	高	砂粒少/良/木ぶい 痕	内外面ナデ。内面かるい研磨。底面に代官瘤。	直周前半	
PJ.	30	19	湖内土器	深鉢	1/3	口	底	14.0	高	砂粒多/良/木ぶい 痕	内面していくナデ。底面に代官瘤。	直周前半
PJ.	30	20	湖内土器	深鉢	2	口	底	高	砂粒多/良/灰白	外縁に棘突文の標準文と沈没式無頭鍔文を施文。内面研磨。底面に木 葉型。	直周前半	
PJ.	30	21	湖内土器	深鉢	32	底	7.4	高	砂粒多/良/相 互	砂粒多/良/灰白	直周前半	
PJ.	30	22	湖内土器	深鉢	30	底	10.0	高	砂粒多/良/相 互	内面ナデ。底面に木葉型。	直周前半	
PJ.	30	23	湖内土器	深鉢	21	底	12.8	高 8.8	2.8 24.1	鉛質貝殻/灰	内面、整った形の模形の刃で、方こぼれも認められないことから。未使用品 と想われる。	直周前半
PJ.	30	24	湖内土器	深鉢	22	底	14.4	高 7.0	1.6 134.2	鉛質貝殻/安山岩/黄 欠刻部	鉛質貝殻/安山岩/黄 欠刻部。底面に磨り面。	直周前半
PJ.	30	25	湖内土器	深鉢	23	底	11.7	高 7.2	2.8 165.3	鉛質貝殻/灰	内面、整った形の模形の刃で、方こぼれも認められないことから。未使用品 と想われる。	直周前半
PJ.	30	26	湖内土器	深鉢	24	底	14.8	高 21.5	7.5 355.0	鉛質貝殻/安山岩/灰 欠刻部	鉛質貝殻/安山岩/灰 欠刻部。大型の円錐形を使用。裏面に敲打痕あり。	直周前半
PJ.	31	27	湖内石器	磨	長	(2.5)	厚0.7	鉛質貝殻	未成品。先端部欠損。表裏面にあらい押江剥離を施すが、中達で斷念か。	凸基有茎縁		
PJ.	31	28	湖内石器	磨	長	2.0	重3.4	鉛質貝殻	未成品。先端部欠損。表裏面にあらい押江剥離を施すが、中達で断念か。	凸基有茎縁		
1号石門類												
種	回	No.	種	類	出	土位置	残存率	計測値(cm, g)	歴土・積成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PJ.	31	1	湖内土器	深鉢	5	口	底	高	砂粒多/灰/灰斑	2条の脚輪で文様を施す。文様Kを施文。	加削利E式	
PJ.	31	2	湖内土器	深鉢	4	口	底	高	砂粒多/良/灰斑	2条の脚輪で文様を構成。文様Kを施文。	加削利E式	
PJ.	31	3	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/灰斑	内面かるい研磨。文様K。	加削利E式	
土塊												
種	回	No.	種	類	出	土位置	残存率	計測値(cm, g)	歴土・積成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
PJ.	31	2上	湖内土器	深鉢	24	口	底	高	砂粒多/良/灰斑	内面研磨、光沢。圓文E。	瓶之内2式	
PJ.	31	2下	湖内土器	深鉢	1	口	底	高	砂粒多/良/灰斑	内面かるい研磨。圓文E。	加削利E式	

造物觀察表

種	固	相	類	出上位置	残存率	計測値(cm. g)	削土被膜/色 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第3504	2土	國文土器	埋	口縁部	口底	口高	砂粒多/良にぶい黃	織文無頭部。二次被熱。	縦之内式
PL.31	3	深鉢							
第3505	2土	國文土器	埋	脚部	底	口高	砂粒多/良にぶい黃	外面に刺突穴。二次被熱劣化。	加賀利E式
PL.31	4	深鉢							
第3506	2土	國文土器	埋	6	底	口高	砂粒多/良・黒褐	内面かるい研磨。縄文E.	加賀利E式
PL.31	5	深鉢							
第3507	2土	國文土器	埋	3	底	口12.9 厚5.5 幅3.6 重0.9	砂粒多/良・白山形/灰 黄風呂	砂粒舞石・白山形/灰 片面に磨り面と敲打面あり。	
PL.31	6	片口形							
第3508	2土	石製品	埋	口縁	口底	口13.0 厚12.3 幅3.9 重1.9	砂粒舞石・白山形/灰 黄風呂	砂粒舞石・白山形/灰 表面に刺突穴あり。下方の3方に新しい打ち欠き痕があり欠損している。	
PL.31	7	參孔石	平形						
第3509	2土	礫石器	埋	8	底	口19.7 厚4.2 幅2.6 重0.4	砂粒舞石・白山形/灰 黄風呂	表示した面に磨り面あり。下方の3方に新しい打ち欠き痕があり欠損して いる。大きめや形を調整した可能性もある。	
PL.31	8	石臼							
第3510	2土	石製品	19	脚部	口底	口4.1 厚0.7 幅2.6 重0.6	波紋口輪灰岩/浅黃 砂	表面にもかるい研磨。表面の平田部に褐色の駆削2本あり。平田部被熱。 黒化色。上方のカット面は發達したもののようか不明。	
PL.31	9	不明	波紋口						
第3511	2土	石器	20	脚部	口底	口26.7 厚6.9 幅22.6 重238.0	砂粒舞石・白山形/灰 灰	砂粒舞石・白山形/灰 1/4欠損。底面に縦にさがった右側で、底面には4個の脚が付く。	
PL.32	10	石器	3/4	脚部					
第3512	3土	國文土器	埋	1	底	口口	砂粒多/良・白	内面ナヂ。縄文E.	縦之内式
PL.32	1	脚部							
第3513	4土	國文土器	埋	2	底	口口	砂粒多/良・片口 灰/白にぶい調	内面ナヂ。縄文E.	縦之内式
PL.32	1	脚部							
第3514	5土	國文土器	埋	3	脚部	口(18.4) 厚 底	砂粒多/良/赤褐色	砂粒多/良/赤褐色	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3515	5土	國文土器	埋	4	脚部~脚部1/3	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3516	5土	國文土器	埋	5	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3517	5土	國文土器	埋	6	脚部	口7.6	砂粒多/良/灰	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3518	5土	國文土器	埋	7	脚部	口口	砂粒多/良/灰	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3519	5土	國文土器	埋	8	脚部	口口	砂粒多/良/灰	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3520	5土	國文土器	埋	9	脚部	口口	砂粒多/良/灰	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	2	深鉢							
第3521	5土	國文土器	埋	10	脚部	口口	砂粒多/良/灰	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	10	石器	3/4	脚部					
第3522	6土	國文土器	埋	11	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	脚部							
第3523	6土	國文土器	埋	12	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3524	6土	國文土器	埋	13	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3525	6土	國文土器	埋	14	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3526	6土	國文土器	埋	15	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3527	6土	國文土器	埋	16	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面ナヂ。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3528	6土	國文土器	埋	17	脚部	口口	砂粒少/良/白にぶい 灰	内面無頭部。外面部研磨。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	3	土器円盤	平形						
第3529	6土	國文土器	埋	18	脚部	口口	砂粒少/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3530	6土	國文土器	埋	19	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3531	6土	國文土器	埋	20	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3532	6土	國文土器	埋	21	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3533	6土	國文土器	埋	22	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3534	6土	國文土器	埋	23	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3535	7土	國文土器	埋	24	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3536	7土	國文土器	埋	25	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3537	7土	國文土器	埋	26	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3538	7土	國文土器	埋	27	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3539	7土	國文土器	埋	28	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3540	7土	國文土器	埋	29	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3541	7土	國文土器	埋	30	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3542	7土	國文土器	埋	31	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3543	7土	國文土器	埋	32	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3544	7土	國文土器	埋	33	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3545	7土	國文土器	埋	34	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3546	7土	國文土器	埋	35	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3547	7土	國文土器	埋	36	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3548	7土	國文土器	埋	37	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3549	7土	國文土器	埋	38	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3550	7土	國文土器	埋	39	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3551	7土	國文土器	埋	40	脚部	口口	砂粒多/良/白	内面に斜めの削り面。内面に横ナデ痕。口縁部に2条の押捺跡痕。	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3552	7土	國文土器	埋	41	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3553	7土	國文土器	埋	42	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3554	7土	國文土器	埋	43	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3555	7土	國文土器	埋	44	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3556	7土	國文土器	埋	45	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3557	7土	國文土器	埋	46	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3558	7土	國文土器	埋	47	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3559	7土	國文土器	埋	48	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3560	7土	國文土器	埋	49	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3561	7土	國文土器	埋	50	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3562	7土	國文土器	埋	51	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3563	7土	國文土器	埋	52	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3564	7土	國文土器	埋	53	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3565	7土	國文土器	埋	54	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3566	7土	國文土器	埋	55	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3567	7土	國文土器	埋	56	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3568	7土	國文土器	埋	57	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3569	7土	國文土器	埋	58	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3570	7土	國文土器	埋	59	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3571	7土	國文土器	埋	60	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3572	7土	國文土器	埋	61	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3573	7土	國文土器	埋	62	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3574	7土	國文土器	埋	63	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3575	7土	國文土器	埋	64	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3576	7土	國文土器	埋	65	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3577	7土	國文土器	埋	66	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3578	7土	國文土器	埋	67	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3579	7土	國文土器	埋	68	脚部	口口	砂粒少/良/灰	内面無頭部。光沢。縄文E.	加賀利E式
PL.32	1	深鉢							
第3580	7土	國文土器	埋	69	脚				

植物加味者

遺物觀察表

通稱矢土器之区

排	回	No.	種	類	種	出土位置	殘存率	計測値(cm. g)	歴史・構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	筆 者	
第66回	1	通文土器 深鉢	1	1区2面 口縁部	高	砂多/良・暗赤	織文。		加曾利E式 (新)			
第66回	2	通文土器 深鉢	2	1区2面 口縁部	高	砂多/良・暗赤	内外面かうい痕。織文は、		加曾利E式 (新)			
第66回	3	通文土器 深鉢	3	1区2面 口縁部	高	砂多・石英・雲母含 良・高・暗	砂多・良・暗赤	内外面かうい痕。外面部。織文は、	加曾利E式 (新)			
第66回	4	通文土器 深鉢	4	1区2面 口縁部	高	砂多・良・暗赤	砂多・良・にい・黄 砂	砂多・良・にい・黄 砂	二次被熱で白化。	尾之内式		
第66回	5	通文土器 深鉢	5	1区2面 口縁部・側面部	高	砂多・良・無鉻	砂多・良・無鉻	内外面擦し、研磨、光沢。	高井並式			
第66回	6	通文土器 深鉢	6	1区2面 口縁部	高	砂多・良・灰黃色	砂多・良・灰黃色	粗削深跡。	堀明前半			
第66回	7	通文土器 深鉢	7	1区2面 口縁部	高	砂多/良・にい・黄 砂	砂多/良・にい・黄 砂	織文。	堀明前半			
第66回	8	通文土器 深鉢	8	1区2面 口縁部	高	砂多/良・灰灰	砂多/良・灰灰	小切深跡、内面強いナデ。	堀明前半			
第66回	9	通文土器 深鉢	9	1区2面 口縁部	高	砂少・良・無鉻	砂少・良・無鉻	内外面研磨、光沢。	堀明前半			
第66回	10	通文土器 深鉢	10	1区2面 口縁部	高	砂多・良・灰黃色	砂多・良・灰黃色	口縫部欠損。目似あり。外面かうい痕。織文は、三文。	堀明前半			
第66回	11	通文土器 深鉢	11	1区2面 口縁部	高	砂多・良・灰黃色	砂多・良・灰黃色	口縫部に山形の削付文・内外面ナデ。	堀明前半			
第66回	12	通文土器 深鉢	12	1区2面 口縁部	高	砂多/良・灰灰	砂多/良・灰灰	織痕。	堀明前半			
第66回	13	通文土器 深鉢	13	1区2面 口縁部	高	砂少・良・にい・黄 砂	砂少・良・にい・黄 砂	内外面ナデ。	堀明前半			
第66回	14	通文土器 深鉢	14	1区2面 口縁部	高	砂少・良・無鉻	砂少・良・無鉻	内外面赤色焼。後に内入研磨、光沢。	堀明前半			
第66回	15	通文土器 深鉢	15	1区2面 口縁部	高	砂少・良・高	砂少・良・高	内外面入玄ナデ。	堀明前半			
第66回	16	通文土器 深鉢	16	1区2面 口縁部	高	砂多・石英・雲母含 良・高・暗	砂多・石英・雲母含 良・高・暗	口縫部上面に浅い凹凸状紋文。口縫部内面に浅い幅広凹痕。外面部に織文と内面から深い痕跡。	堀明前半			
第66回	17	通文土器 深鉢	17	1区2面 口縁部	高	砂少/良/にい・相 砂	砂少/良/にい・相 砂	口縫部に交叉。外面部に織文は、内面ナデ。	堀明前半			
第66回	18	通文土器 深鉢	18	1区2面 口縁部	高	砂少/良・灰灰	砂少/良・灰灰	外面部・結節織文。内面あらい痕痕。	堀明前半			
第66回	19	通文土器 深鉢	19	1区2面 口縁部	高	砂粒多・良・灰黃色	砂粒多・良・灰黃色	内外面ナデ。外面部に織文。	堀明前半			
第66回	20	通文土器 深鉢	20	1区2面 口縁部	高	砂粒多・良・相 砂	砂粒多・良・相 砂	内外面ナデ。外面部に織文。口縫部内面に浅い細緻織文1条。	堀明前半			
染66回	21	通文土器 深鉢	21	1区2面 口縁部	高	砂少多/良/にい・黄 砂	砂少多/良/にい・黄 砂	外面部に結節織文。内面ナデ。	堀明前半			
染66回	22	通文土器 深鉢	22	1区2面 口縁部	高	砂少/良/にい・相 砂	砂少/良/にい・相 砂	外面部に結節織文。内面あらいい痕痕。	堀明前半			
染66回	23	通文土器 深鉢	23	1区2面 口縁部	高	砂少/良/にい・相 砂	砂少/良/にい・相 砂	口縫部内面に浅い幅広凹痕。外面部に結節織文は、内面から深い胡麻。	堀明前半			
染66回	24	通文土器 深鉢	24	1区2面 口縁部	高	砂少・良・高	砂少・良・高	織痕。口縫部内面に2条の浅い幅広凹痕。外面部に結節織文は、内面から深い胡麻。	堀明前半			
第66回	25	通文土器 深鉢	25	1区2面 口縁部	高	砂少多/良・灰灰	砂少多/良・灰灰	外面部に結節織文。内面ナデ。	堀明前半			
第66回	26	通文土器 深鉢	26	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良・相 砂	砂粒多/良・相 砂	内外面ナデ。外面部に織文を結節織文。	堀明前半			
第66回	27	通文土器 深鉢	27	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良/にい・相 砂	砂粒多/良/にい・相 砂	内外面ナデ。外面部に織文を結節織文。	堀明前半			
第66回	28	通文土器 深鉢	28	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良・赤鉄 砂	砂粒多/良・赤鉄 砂	内外面ナデ。外面部に織文を被微施文。	堀明前半			
第66回	29	通文土器 深鉢	29	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良・黑鉄 砂	砂粒多/良・黑鉄 砂	内外面ナデ。外面部に織文を被微施文。	堀明前半			
第66回	30	通文土器 深鉢	30	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良/にい・黄 砂	砂粒多/良/にい・黄 砂	内外面ナデ。外面部に織文を被微施文。	堀明前半			
第66回	31	通文土器 深鉢	31	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良・相 砂	砂粒多/良・相 砂	内外面ナデ。外面部に斜行糸文と結節織文で横模に無文帶を形成。	堀明前半			
第66回	32	通文土器 深鉢	32	1区2面 口縁部	高	砂粒多/良/にい・相 砂	砂粒多/良/にい・相 砂	内外面ナデ。外面部に斜行糸文と結節織文で横模に無文帶を形成。	堀明前半			
第66回	33	通文土器 深鉢	33	1区2面 口縁部	高	砂多/良/にい・相 砂	砂多/良/にい・相 砂	外面部に被微施文残す。内面にいよいナデ。	堀明前半			
染66回	34	通文土器 深鉢	34	1区2面 口縁部	高	砂少・良・無鉻	砂少・良・無鉻	内外面擦し、ナデ。	堀明前半			
染66回	35	通文土器 深鉢	35	1区2面 口縁部	高	砂少多/良/にい・黄 砂	砂少多/良/にい・黄 砂	外面部・赤色焼痕。内面ナデ。	堀明前半			
染66回	36	通文土器 深鉢	36	1区2面 口縁部1/2	高	砂粒多・石英・片岩 砂多・良・高・灰	砂粒多・石英・片岩 砂多・良・高・灰	硬質。内外面ナデ。底部外面部に削除前。	後期～堀明			
染66回	37	通文土器 底部	37	1区2面 底部	13.0	高	砂粒少/良・相 砂	砂粒少/良・相 砂	内外面ナデ。底部外面部に織文。	後期～堀明		
染66回	38	通文土器 底部	38	1区2面 底部	9.0	高	砂粒多/良/にい・相 砂	砂粒多/良/にい・相 砂	内外面ナデ。底部外面部に織文。	後期～堀明		
染66回	39	通文土器 土製輪盤	39	1区2面 土製輪盤	ほぼ完形	高	砂粒多/良/にい・相 砂	砂粒多/良/にい・相 砂	織文施文の深刻片を使用。	後期～堀明		

通稱矢土器之区

排	回	No.	種	類	種	出土位置	殘存率	計測値(cm. g)	歴史・構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	筆 者
第67回	1	通文土器 深鉢	25	1号穴・建物裏	高	砂粒多・石英・片岩 砂多・良・高・灰	砂粒多・石英・片岩 砂多・良・高・灰	内出ナデ。織文は。	織文式		
第67回	2	通文土器 深鉢	65号穴・建物裏	高	砂粒少/良/にい・相 砂	砂粒少/良/にい・相 砂	内面かうい痕。	織文式			

種別	No.	種類	出土位置	出土位置(cm. g)	断面・被覆/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48回 PL.36	3	陶文土器 深鉢	2区カクラン 胴部	口 底	高 砂粒多・石英 多介(及)にぶい 黒	内面ナデ。	横板式
第48回 PL.36	4	陶文土器 深鉢	7号窯穴建物4H 底	口 底	高 砂粒多/赤褐色	内面ナデ。	横町土器
第48回 PL.36	5	陶文土器 深鉢	2号表採 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/明赤褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	6	陶文土器 深鉢	2号カクラン 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	7	陶文土器 深鉢	2号カクラン 胴部	口 底	高 砂粒多/良/褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	8	陶文土器 深鉢	2号S面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	9	陶文土器 深鉢	6号窯穴建物腹 底	口 底	高 砂粒多/良/灰褐色	内面ナデ。	加賀利口式
第48回 PL.36	10	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	11	陶文土器 深鉢	2号カクラン 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/明赤褐色	内面研磨。光沢。	加賀利口式
第48回 PL.36	12	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/褐色	内面かるい研磨。	加賀利口式
第48回 PL.36	13	陶文土器 深鉢	2号S面 胴部	口 底	高 砂粒多/良/灰褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	14	陶文土器 深鉢	2号C面 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内面かるい研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	15	陶文土器 深鉢	6号窯穴建物腹 底	口 底	高 砂粒多/良/明赤褐色	内面かるい研磨。	加賀利口式
第48回 PL.36	16	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹 底	口 底	高 砂粒少/良/にぶい 赤褐色	内面ナデ。	加賀利口式
第48回 PL.36	17	陶文土器 深鉢	3号窯穴建物腹り方 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 黄褐色	内面ナデ。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	18	陶文土器 深鉢	2号C面 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内面研磨。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	19	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹底六櫻 口縁部	口 底	高 砂粒少/良/にぶい 相	内外面ナデ。縦文L。	加賀利口式
第48回 PL.36	20	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/黒褐色	内外面研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	21	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/相	波状口縁。内外面かるい研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	22	陶文土器 深鉢	2号C面 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	波状口縁。内外面かるい研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	23	陶文土器 深鉢	2号S面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/明赤褐色	内外面研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	24	陶文土器 深鉢	2号表採 胴部	口 底	高 砂粒少/良/相	内外面かるい研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	25	陶文土器 深鉢	2号表採 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/灰黃褐色	内外面かるい研磨。口縁部に焼成前の印穴あり。	称名寺式
第48回 PL.36	26	陶文土器 深鉢	4号窯穴建物腹 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 黄褐色	内外面かるい研磨。	称名寺式
第48回 PL.36	27	陶文土器 深鉢	2号表採 胴部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 相	外表面かるい研磨。	称名寺式
第48回 PL.36	28	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 相	外表面かるい研磨。	称名寺式
第48回 PL.36	29	陶文土器 深鉢	2号窯穴建物腹り方 口縁部	口 底	高 砂粒少/良/灰黃褐色	内面かるい研磨。縦文L。	称名寺式
第48回 PL.36	30	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒少/良/にぶい 相	内面かるい研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	31	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物15 口縁部	口 底	高 砂粒少/良/黒褐色	内面研磨。	瓶之内口式
第48回 PL.36	32	陶文土器 深鉢	7号窯穴建物7B6 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 黄褐色	内外面ナデ。瓶之内口式	瓶之内口式
第48回 PL.36	33	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物14 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/黒褐色	内外面かるい研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	34	陶文土器 深鉢	2号窯穴建物腹 胴部	口 底	高 砂粒少/良/灰褐色	内面研磨。外表面研磨。外ナデ。	瓶之内口式
第48回 PL.36	35	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/相	内面焦し、黒化。内外面研磨。光沢。	瓶之内口式
第48回 PL.36	36	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/黒褐色	波状口縁。内外面研磨。口縁部内面に沈線。	瓶之内口式
第48回 PL.36	37	陶文土器 深鉢	2号表採 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/灰黃褐色	内外面研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	38	陶文土器 深鉢	2号表採 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 赤褐色	内面かるい研磨。内面あわい。	瓶之内口式
第48回 PL.36	39	陶文土器 深鉢	2号窯穴建物腹 胴部	口 底	高 砂粒多/良/明褐色	内面研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	40	陶文土器 深鉢	2号窯穴建物腹り方 胴部	口 底	高 砂粒多/良/黒褐色	内面焦し。黑色。研磨。光沢。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	41	陶文土器 深鉢	2号C面 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/相	内面あらいナデ。外面かるい研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	42	陶文土器 深鉢	4号窯穴建物腹 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/灰褐色	内面焦し、黒化。内外面研磨。口縁部内面に段差と凹線。	瓶之内口式
第48回 PL.36	43	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹 口縁部	口 底	高 砂粒少/良/相	硬質。外表面研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	44	陶文土器 深鉢	1号窯穴建物腹り方 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 相	波状口縁。口縁部内面に2条の凹線。内面あらいい研磨。縦文L。	瓶之内口式
第48回 PL.36	45	陶文土器 江戸土器	1号窯穴建物腹り方 口縁部	口 底	高 砂粒多/良/にぶい 相	口縁部内面と外表面研磨。内面ナデ。	瓶之内口式

遺物觀察表

種 国	No.	種類	出土位置	出土年	計測値(cm. g)	断面或成色/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第68回 PL. 37	46	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内外面研磨、光沢。縄文L.	加賀利B1式
第68回 PL. 37	47	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良/灰	内外面研磨、光沢。縄文L.	加賀利B1式
第68回 PL. 37	48	陶文土器 輪鉢	6号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい黄褐色	内面ていねいナデ。	加賀利B1式
第68回 PL. 37	49	陶文土器 輪鉢	4号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内面ナデ。	加賀利B1式
第68回 PL. 37	50	陶文土器 輪鉢	25X面 窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	波状口縁。内外面擦し。黒色。研磨、光沢。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	51	陶文土器 輪鉢	25X面 窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	波状口縁。内外面研磨。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	52	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい赤褐色	内外面からい研磨。口縁部に大きな把手が付く。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	53	陶文土器 輪鉢	35号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい赤褐色	内外面研磨、光沢。縄文L. 口縁部に削り目。口縁部に弧状の貼付文。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	54	陶文土器 輪鉢	5号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良/灰/褐	内外面擦し、黑色。削痕、光沢。縄文L. 口縁部内面に2条の凹線。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	55	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多。石英・片岩 石英・良にぶい褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	56	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい黄褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	57	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多。石英・片岩 石英・良にぶい褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	58	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	59	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	内面からい研磨。口縁部内面に1条の凹線。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	60	陶文土器 輪鉢	1号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	61	陶文土器 輪鉢	4号窓穴建物P3 口縁部	口 底	高	砂粒多。石英・片岩 石英・良にぶい褐色	大波状口縁。内外面研磨、光沢。	加賀利B2式
第68回 PL. 37	62	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多。石英質/良に 良にぶい褐色	内外面研磨。縄文L.	加賀利B2式
第68回 PL. 37	63	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内面ナデ。	加賀利B3式
第68回 PL. 37	64	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	内面擦し。黒色。内外面研磨、光沢。	加賀利B3式
第68回 PL. 37	65	陶文土器 輪鉢	25Xカクラン 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良/褐	内面からい研磨。	加賀利B3式
第68回 PL. 37	66	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	内外面からい研磨。縄文L.	後期後半
第68回 PL. 37	67	陶文土器 輪鉢	25号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	内面研磨。光沢。外面ナデ。	後期後半
第68回 PL. 37	68	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/黒褐色	砂粒少/良/黒褐色	後期後半
第68回 PL. 37	69	陶文土器 輪鉢	25号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒少/良にぶい褐色	内外面からい研磨。	後期後半
第68回 PL. 37	70	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい黄褐色	大波状口縁。外面からい研磨。内面ナデ。	後期後半
第68回 PL. 37	71	陶文土器 輪鉢	25号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	外面研磨。内面ナデ。	後期後半
第68回 PL. 37	72	陶文土器 輪鉢	25号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒少/良にぶい褐色	波状口縁。	後期後半
第68回 PL. 37	73	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/黒褐色	外面擦し。黒色。内外面からい研磨。	後期後半
第68回 PL. 37	74	陶文土器 輪鉢	5号窓穴建物腰 口縁・側脚	口 底	高	砂粒多/良にぶい黄褐色	内面ナデ。	後期後半
第68回 PL. 37	75	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良にぶい黄褐色	内面ナデ。	後期後半
第68回 PL. 37	76	陶文土器 輪鉢	25号窓穴建物P3 口縁部	口 底	高	砂粒多/良/暗褐色	内面からい研磨。	後期後半
第68回 PL. 37	77	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良にぶい黄褐色	内外面研磨。縄文L. 二次被熱で変色。	範例 3
第68回 PL. 37	78	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/褐	内面擦し。黒色。研磨。光沢。縄文L.	範例 1
第68回 PL. 37	79	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/黒褐色	内面擦し。黒色。研磨。光沢。縄文L.	範例 1
第68回 PL. 37	80	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/黒	内面擦し。黒色。研磨。光沢。縄文L.	範例 1
第68回 PL. 37	81	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒多/良/灰白	内面でいねナデ。縄文L.	範例 2
第68回 PL. 37	82	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/黒褐色	内面擦し。黒色。研磨。光沢。縄文L.	範例 1
第68回 PL. 37	83	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良にぶい黄褐色	内面ナデ。	範例 2
第68回 PL. 37	84	陶文土器 輪鉢	5号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良/黒褐色	内面ナデ。	範例 1
第68回 PL. 37	85	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/灰黃褐色	内面からい研磨。縄文L.	範例 2
第68回 PL. 37	86	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良/褐	縄文L. 内部、内面、三叉の組合せ文あり。二次被熱で変色。劣化。	範例 1
第68回 PL. 37	87	陶文土器 輪鉢	25X面 輪鉢部	口 底	高	砂粒少/良にぶい褐色	内面ナデ。剥離あれ。	範例 4
第68回 PL. 37	88	陶文土器 輪鉢	3号窓穴建物腰 口縁部	口 底	高	砂粒多/良にぶい褐色	内面入ナデ。外面からい研磨。縄文L. 二次被熱で変色。	範例 3

種類	No.	種類	出土位置	計測値(cm. g)	断面・被覆材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106回 PL. 37	89	陶文土器 腕部	2号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒多/良/灰黃灰	内面でいねいナデ。外面部研磨。縦文LR。	昭和2
第106回 PL. 37	90	陶文土器 腕部	1号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒少/良/粗	内外面部研磨、光沢。縦文LR。	昭和1
第106回 PL. 37	91	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/灰白	内面かるい研磨。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 37	92	陶文土器 底	3号窓穴建物裏 口縁部	口 高	砂粒多/良/相灰	外面部研磨、黒色。内外面部研磨、光沢。縦文LR。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 37	93	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/いわ一枚	内外面部研磨。縦文LR。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 37	94	陶文土器 腕部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/灰白	内外面部かるい研磨。縦文LR。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 37	95	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/黒闇	内外面部ナデ。縦文LR。	昭和1
第106回 PL. 37	96	陶文土器 口縁部	5号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒多/石英+長石 多/良/暗赤褐	外面部研磨、黒色。内面入念ナデ。縦文LR。口脣部に削目。	昭和前半
第106回 PL. 37	97	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒少/良/明褐	内外面部いねいナデ。縦文LR。	昭和5
第106回 PL. 37	98	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒少/良/黒闇	外面部研磨、黒色。内外面部研磨、光沢。	昭和5
第106回 PL. 38	99	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒少/良/黒闇	外面部かるい研磨。	昭和5
第106回 PL. 38	100	陶文土器 底	1号窓穴建物裏 口縁部	口 高	砂粒少/良/相灰	口脣部に削目。	昭和5
第106回 PL. 38	101	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/黒闇	内面でいねいナデ。	昭和5
第106回 PL. 38	102	陶文土器 口縁部	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/暗赤褐	内外面部いねいナデ。口脣部に削目。	昭和前半
第106回 PL. 38	103	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/相灰	内面でいねいナデ。口脣部に削目。	昭和5
第106回 PL. 38	104	陶文土器 腕部	5号窓穴トレンチ 腕部	口 高	砂粒多/良/灰黃褐	内面でいねいナデ。	昭和5
第106回 PL. 38	105	陶文土器 底	2号窓 底	口 高	砂粒多/良/黒闇	内面でいねいナデ。	昭和5
第106回 PL. 38	106	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/黒闇	内面でいねいナデ。	昭和5
第106回 PL. 38	107	陶文土器 底	2号窓カラン 底	口 高	砂粒多/良/相灰	内面でいねいナデ。腕部に削突。	昭和5
第106回 PL. 38	108	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/いわ一枚	内面でいねいナデ。	昭和5
第106回 PL. 38	109	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒少/良/黒闇	内面あらい横ナデ。外面部に黒色があるが不明瞭。	昭和1
第106回 PL. 38	110	陶文土器 腕部	5号窓穴トレンチ 腕部	口 高	砂粒少/良/黒闇	外面部に縦文。内面ナデ。	昭和1
第106回 PL. 38	111	陶文土器 底	2号窓 底	口 高	砂粒多/良/相灰	外面部に横条文。	昭和4
第106回 PL. 38	112	陶文土器 腕部	2号窓 底	口 高	砂粒少/良/黒闇	内面かるい研磨。縦文LR。	昭和1
第106回 PL. 38	113	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/灰黃褐	内外面部入念ナデ。口脣部に削突文。	昭和1
第106回 PL. 38	114	陶文土器 底	3号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒多/良/黒闇	内外面部いねいナデ。二次被熱で変色。劣化。口脣部に削突。	昭和前半
第106回 PL. 38	115	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/石英多/良 いわ一枚	内外面部かるい研磨。口脣部に削突。	昭和前半
第106回 PL. 38	116	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/浅黃褐	内面ナデ。	昭和4
第106回 PL. 38	117	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒少/良/黄灰	内面でいねいナデ。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 38	118	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒少/良/相灰	被熱。内外面部ナデ。	昭和4
第106回 PL. 38	119	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒少/良/灰白	内面押さえナデ。外面部かるい研磨。外面に赤色塗料。二次被熱で変色。	昭和3
第106回 PL. 38	120	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/いわ一枚	内面ナデ。	昭和4
第106回 PL. 38	121	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/相灰	内面ナデ。	昭和4
第106回 PL. 38	122	陶文土器 底	2号窓 底	口 高	砂粒多/良/相灰	被熱。内面あらい削痕。	昭和4
第106回 PL. 38	123	陶文土器 底	4号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒多/石英多/良 相灰	内面入念ナデ。	昭和4
第106回 PL. 38	124	陶文土器 底	2号窓穴建物裏 底	口 高	砂粒多/良/相灰	被熱。内外面部研磨、光沢。	昭和4
第106回 PL. 38	125	陶文土器 底	2号窓 底	口 高	砂粒多/石英多/良 相灰	内面入念ナデ。124と直感近似。	昭和4
第106回 PL. 38	126	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/相灰	被熱。内外面部研磨。	昭和4
第106回 PL. 38	127	陶文土器 底	2号窓 口縁部	口 高	砂粒多/良/灰黃褐	内面でいねいナデ。	昭和6
第106回 PL. 38	128	陶文土器 底	5号窓穴トレンチ 口縁一部	口 高	砂粒多/良/相灰	外面部かるい研磨。	昭和6
第106回 PL. 38	129	陶文土器 底	3号窓穴建物裏 口縁部	口 高	砂粒少/良/いわ一枚	内外面部ナデ。	昭和6
第106回 PL. 38	130	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/石英多/良 相灰	内面かるい研磨。縦文LR。	昭和6
第106回 PL. 38	131	陶文土器 底	2号窓 腕部	口 高	砂粒多/良/相灰	内面でいねいナデ。外面に赤色塗料。	昭和6

遺物觀察表

種 国 PL No.	種 類 器 物	出土位置 層 面	出土位置 層 面	計測値(cm. g)	断面成形/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	内外面でいねいナデ。	美術 6
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区3面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/褐	硬質。陶文と粘結陶文を模位に施文。内面かるいナデ。外面赤色沾染。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	外面部に端部輪郭を伴う陶文は模位に施文。内面でいねいナデ。口脚部に刻文。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	内面曲し、黒色。口脚部上面と外面部に粘結陶文を施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	34号六建物覆 脚部	口 底	高	砂粒少/良/赤褐色	外面部に端部輪郭を伴う陶文は模位に施文。内面でいねいナデ。口脚部に刻文。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	外面部に端部輪郭を模位に施文。内面入念ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	E31と同じ個体。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	硬質。外面部に純文ほど粘結陶文を模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒少/良/にぶい 相思	外面部に粘結陶文を模位に施文。内面入念ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	4号六建物覆 脚部	口 底	高	砂粒少/良/にぶい 相思	外面部に粘結陶文を模位に施文。内面入念ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	陶文と粘結陶文を模位に施文。内面でいねいナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/相思	外面部に粘結陶文を模位に施文。内面入念ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	5号六建物覆り方 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	外面部に粘結陶文を模位に施文。内面入念ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	5号六建物1 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	陶文と粘結陶文を模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	5号六建物2 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	陶文と粘結陶文を模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	147 2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒少/良/相思	硬質。外面部に陶文は模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 黄褐色	硬質。外面部に陶文は模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	148 2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	硬質。外面部に陶文は模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	149 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	硬質。外面部に陶文は模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	150 2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒少. 石英含/良/黑褐色	外面部から少量。陶文は帶状に模位に施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	151 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	外面部ナデ。外面部に陶文は模位に帶状に施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	152 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/黑褐色	陶文を帶状に模位に施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	153 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	硬質。外面部に陶文は模位に施文。内面ナデ。	美術 8
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	154 2号六建物覆 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	外面部に陶文は模位に施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	155 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	外面部に陶文を斜位に施文して縦位にする。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	156 2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	外面部に陶文をランダムに施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	157 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	外面部ナデ。陶文は帶状に模位に施文。	美術前半
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	158 5号試掘トレンチ 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	外面部に陶文と粘結陶文を模位に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	159 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/にぶい 相思	口縫部無文下に縦りく織文、以下に斜位の懸垂文を施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	160 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	硬質。外面部に斜突列。縦りく織文。張り戻しの懸垂文を帶状に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	161 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	縦りく織文を模位に施文。懸垂文を模位に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	162 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	硬質。内面でいねいナデ。外面部に張り戻しの懸垂文を斜位に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	163 2区表探 脚部	口 底	高	砂粒多. 石英-企雲 母多含/良/黑褐色	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面擦し。黒色。内面研磨。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	164 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多. 石英-企雲 母多含/良/相思	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面擦し。黒色。内面研磨。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	165 2区2面 脚部	口 底	高	砂粒多. 石英-企雲 母多含/良/黑褐色	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面擦し。黒色。内面研磨。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	166 2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面でいねいナデ。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	167 2区3面 脚部	口 底	高	砂粒少/良/灰褐色	硬質。外面部に陶文を斜位に施文。内面ナデ。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	168 2号六建物覆 脚部	口 底	高	砂粒少/良/相思	硬質。外面部に陶文を斜位に施文。内面ナデ。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	169 2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多. 石英-企雲 母多含/良/相思	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面擦し。黒色。内面研磨。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	170 2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	硬質。内面入念ナデ。懸垂文を斜位に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	171 2区3面 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	硬質。内面入念ナデ。懸垂文を斜位に施文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	172 2号六建物蓋 脚部	口 底	高	砂粒多/良/にぶい 相思	内面かるい研磨。懸垂文。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	173 2区カラン 脚部	口 底	高	砂粒多/良/相思	内面に懸垂文を斜位に施文。内外面でいねいナデ。	美術 10
第1104 PL.38	陶文土器 深鉢	174 5号試掘トレンチ 脚部	口 底	高	砂粒多/良/灰褐色	内面擦し。黒色。研磨。光沢。外面部に懸垂文を施文。	美術 10

種 類 PL No.	No.	種 類 器 具	出土位置 現 存 率	計測値(cm. g)	断 面 材 質 色調 石 材 ・ 素 材 等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第3294 PL. 39	175	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/良/相	内面入念ナヂ。口縁部折り返し状に肥厚。	美術11
第3295 PL. 39	176	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/良/に凹/相	内面入念ナヂ。口縁部折り返し状に肥厚。	美術11
第3296 PL. 39	177	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/灰黃褐色	内面ナヂ。折り返し状に凹。	美術12
第3297 PL. 39	178	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/良/相	内面入念ナヂ。口縁部折り返し状に肥厚。	美術11
第3298 PL. 39	179	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/相	内面ナヂ。口縁部に輪積み痕。	美術12
第3299 PL. 39	180	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	内面ナヂ。口縁部に輪積み痕。	美術12
第3300 PL. 39	181	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	内面ナヂ。	美術13
第3301 PL. 39	182	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/相	内面ナヂ。	美術12
第3302 PL. 39	183	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/石英多/良 褐色	内面入念ナヂ。口縁部折り返し状に肥厚。口部に押捺文。	美術11
第3303 PL. 39	184	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/石英多/金雲 母多/良/灰黃褐色	内面ナヂ。外側に凹痕。	美術12
第3304 PL. 39	185	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/灰/相	内面かたい痕跡。口縁部に山形の突起が付く。口部に斜位の削目。	美術12
第3305 PL. 39	186	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/相	口縁部に押捺。	美術12
第3306 PL. 39	187	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/相	内外面ナヂ。口縁部に山形の突起が付く。	美術12
第3307 PL. 39	188	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/良/灰/相	内外面かたいナヂ。口部に削目。	美術前半
第3308 PL. 39	189	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/石英多/良 灰黃褐色	内面ナヂ。口部に削目。	美術12
第3309 PL. 39	190	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒多/良/に凹/相	内外面ナヂ。口部に斜位の押捺。	美術12
第3310 PL. 39	191	陶文土器 深鉢	口 底 縁 部	高	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	内面かたい痕跡。外側に浅いナヂ。口縁部に斜位の削目。	美術12
第3311 PL. 39	192	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒多/石英多/良/に 凹/相	内面入念ナヂ。外側に輪積み痕を残す。そこに筒文を模倣したかのよう	美術11
第3312 PL. 39	193	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/灰/相	内面かたいナヂ。二次熟成で変色、劣化。	美術6
第3313 PL. 39	194	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/灰黃褐色	内外面ナヂ。	美術4
第3314 PL. 39	195	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/相	内外面ナヂ。	美術4
第3315 PL. 39	196	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/相	内外面ナヂ。	美術4
第3316 PL. 39	197	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒多/石英多/金雲 母多/良/灰/相	外側に擦れ条文を複数に施す。内外面擦し、黒色。内面剥離。	美術10
第3317 PL. 39	198	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	内面かたい痕跡。外側削痕。光沢。底部外側に崩れ穴。	後期-美術
第3318 PL. 39	199	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/に凹/黄 褐色	内面かたい痕跡。底部外側に崩れ穴。	後期-美術
第3319 PL. 39	200	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	(6.0)	砂多/良/灰/相	丸底状底部。内面ナヂ。外側削痕。光沢。	後期-美術
第3320 PL. 39	201	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	8.4	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	内面ナヂ。底部外側に凹痕。	後期-美術
第3321 PL. 39	202	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	5.0	砂粒少/良/灰黃褐色	硬質。内外面擦し、黒色。内外面と底部外側に削痕、光沢。	美術
第3322 PL. 39	203	陶文土器 深鉢	口 底 縊 部	4.4	砂粒少/良/に凹/相	丸底状底部。内面ナヂ。底部外側に木堀条。	後期-美術
第3323 PL. 39	204	円筒形 建物觸 底部元存	口 底 縊 部	9.0	砂粒少/良/相	硬質。底部外側に木堀条。	後期-美術
第3324 PL. 39	205	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/に凹/相	称名寺1号の深刻脚部分を使用。	後期-美術
第3325 PL. 39	206	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/に凹/相	未完成品。称名寺前半の深刻脚部分を使用。裏面に円穴。	後期-美術
第3326 PL. 39	207	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/黑褐色	奥羽前半の深刻脚部分を使用。周縁部研磨。	後期-美術
第3327 PL. 39	208	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/灰/相	奥羽前半の深刻脚部分を使用。	後期-美術
第3328 PL. 39	209	陶文土器 土割内盤 長方形一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/に凹/相	奥羽前半の深刻脚部分を使用。周縁部研磨。	後期-美術
第3329 PL. 39	210	陶文土器 土割内盤 破裂片	口 底 縊 部	高	砂粒少/良/に凹/黄 褐色	奥羽前半の深刻脚部分を使用。周縁部研磨。	後期-美術
第3330 PL. 39	211	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/相	奥羽前半の深刻脚部分を使用。周縁部研磨。	後期-美術
第3331 PL. 39	212	陶文土器 土割内盤 一部欠損	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/に凹/相	奥羽前半、孫和文施文の深刻脚部分を使用。	後期-美術
第3332 PL. 39	213	陶文土器 把手	口 底 縊 部	高	砂粒多/石英多/金雲 母多/良/灰/相	硬質。削先状の押捺文を施文。	阿玉台1b式
第3333 PL. 40	214	余生土器 甕	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/石英多/良/灰/相	2条の沈底で山形の文様。外側に横位条痕。内面ナヂ。	
第3334 PL. 40	215	余生土器 甕	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/石英多/良/灰/相	外側に横位条痕。内面かいいナヂ。	
第3335 PL. 40	216	余生土器 甕	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/石英多/良/灰/相	外側に横位条痕。内面ナヂ。	
第3336 PL. 40	217	余生土器 甕	口 底 縊 部	高	砂粒多/良/石英多/良/灰/相	外側に横位条痕。内面かいいナヂ。	

遺物觀察表

種 国	No.	種 類	出土位置	計測値(cm. g.)	断土/被成/色調 石材・木材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第53回 PL. 40	5	骨生土器	2区 裏	口 高 幅 1.5 厚 1.1	粗砂多/良/灰白	外面部に縫合跡。内面部に凹部。	
第53回 PL. 40	6	骨生土器	2区2面 口端部	口 高 幅 1.5 厚 1.0	砂粒少/良好/灰白	外面部にハケヌの波状紋。内面部に凹部。	樹式土器。
第53回 PL. 40	7	古式土器	2区3面 裏	口 高 幅 1.5 厚 0.8	粗砂多/良/灰白	外面部下に縫合および斜行するハケヌを有す。内面部に凹部。	4世紀
高岡右石器1区							
種 国	No.	種 類	出土位置	計測値(cm. g.)	断土/被成/色調 石材・木材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第54回 PL. 40	1	削片右器	1区2面 石端	口 (2.4) 厚 0.4 幅 1.5 重 1.1	粗質頁岩	完成形態。表面と底面が押圧磨擦で覆われる。内面部に先端部を大きく削る。	平基無手造
第54回 PL. 40	2	削片右器	1区2面 石端	口 (2.0) 厚 0.5 幅 1.5 重 1.0	粗質頁岩	完成形態。表面と底面が押圧磨擦で覆われる。側面は細胞状を呈し、外面部に凹部。右側面部は抉り込まれたようであるが、左辺部は平基となる。平基有手造？	
第54回 PL. 40	3	削片右器	1区2面 石端 2/3	口 (2.6) 厚 0.5 幅 1.8 重 2.2	粗質頁岩	未完成形態。長身のままにさく痕が付く。表面側と底面が押圧磨擦で覆われているが、全体として割れがある。器底も対称性に欠ける。	凸基有手造
第54回 PL. 40	4	削片右器	1区2面 削端	口 1.7 幅 3.6 重 11.3	重質安山岩	両側面部を大きく削りして対称とする。当時は複形の底面とみて配置したが、側面と底面のエッジが削られた状態がなく、削端とした。両端の欠損は製作時か。	
第54回 PL. 40	5	削片右器	1区2面 石端	口 (30.8) 厚 6.8 幅 (12.6) 重 3490.0	粗粒輝石安山岩/灰	相円形の内側の平坦面に削り面を加工。	
第54回 PL. 40	6	石器品 右棒	1区2面 ほぼ完形	口 58.8 厚 13.5 幅 15.0 重 17500	デイサイト/灰質闊 岩	無孔のもので、両端面は削れ程度の削り面。側面は研磨良好で、光沢をもつて分割する。側面の一辺に鋸齒状・切歯状の研磨痕が3カ所あり、いずれもむしろ正面削面を呈する。研磨の状況も著しく、あるいは硬石と軟石との差がある。この右棒は下方で3つに削れていが、側面と削り面の位置が合せており、意図的に削り切って磨錠された可能性がある。	
PL. 40	7	削片右器	1区2面 石端	口 3.1 厚 0.3 幅 1.4 重 1.0	黑色頁岩	完成形態。完形品。表面と底面とも押圧磨擦で覆われており、形状も整っている。	凸基有手造
PL. 40	8	削片右器	1区2面 一部欠損 石端	口 (2.6) 厚 0.7 幅 (1.8) 重 2.1	黑色頁岩	未完成形態。先端部と側面の一部を欠損。表面側にあらう押圧磨擦を施すが、完成形には至っていない。	凸基有手造
PL. 40	9	削片右器	1区2面 石端素材	口 3.0 厚 6.8	黑色頁岩	側面の内側に調整削面を加えているが、中途で欠損した可能性が高い。	
PL. 40	10	削片右器	1区2面 石端素材削端	口 (1.8) 厚 0.7 幅 (2.5) 重 3.2	重質頁岩	欠損部。表面側に押圧磨擦が認められる。	
PL. 40	11	削片右器	1区2面 石端素材削端	口 (9.6) 厚 (1.4) 幅 (6.8) 重 36.9	黑色頁岩	1/4欠損。半円形の大型削片の側面部に細かな調整削面を加えている。使用板あり	
高岡右石器2区							
種 国	No.	種 類	出土位置	計測値(cm. g.)	断土/被成/色調 石材・木材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第55回 PL. 41	1	削片右器	2区3面 一部欠損	口 (1.7) 厚 0.4 幅 1.4 重 0.7	粗質頁岩	完成形態。表面と底面が薄い削面が全面を被る。先端部が丸く気味で、側面側は腹状部を呈する。	凸基有手造
第55回 PL. 41	2	削片右器	2区3面	口 3.7 厚 0.8 幅 2.3 重 7.0	黑色頁岩	未完成形態。表面と底面が全面を被る。先端部の加工は「寧だが」その他の加工はあって、底面側を放送。	
第55回 PL. 41	3	削片右器	2区2面	口 4.3 厚 1.3 幅 2.8 重 17.6	黑色頁岩	未完成形態。表面と底面が全面を被る。側面はあらく、完成度は低い。	
第55回 PL. 41	4	削片右器	2区カクラン 右端	口 5.1 厚 1.1 幅 2.0 重 11.3	黑色頁岩	加工は表面側に集中。裏面側加工は見られない。形状は柳葉形状だが、削面加工はさしかからしない。	
第55回 PL. 41	5	削片右器	2区2面	口 4.7 厚 1.5 幅 2.3 重 14.5	黑色頁岩	未完成形態。あらうとして両端面が平行するよう形態を整える。形状は柳葉形に近づき、断面側に削面を呈する。	
第55回 PL. 41	6	削片右器	6号窓穴建物物 一部欠損	口 (13.8) 厚 (0.4) 幅 (1.2) 重 1.1	粗粒輝石安山岩	上端部分が丸があり、側面部分は半円状のタイプ。裏面側には半円な石材面が残り、機能的削面はその形状を呈する。	
第55回 PL. 41	7	削片右器 左片	2区2面 ほぼ完形	口 3.5 厚 1.0 幅 4.0 重 10.5	重質頁岩	削片は小形で、矩形に近く、左辺側無線の直線部分が側面に對比ぼぼれる。	
第55回 PL. 41	8	削片右器	2区2面 削端	口 5.3 厚 1.0 幅 2.2 重 1.8	重質頁岩	右側面中央にあらうの削痕がある。左側縁裏面に薄く剥離して、削片の形をよくする。	
第55回 PL. 41	9	削片右器	2区3面 1/2.	口 7.1 厚 2.0 幅 7.2 重 59.2	黑色頁岩	素面な人形で形状が呈する左端削片。右端は削片端部の長いエッジにあり、加工ははっきりと削面を整めることを目指している。	
第55回 PL. 41	10	削片右器	3号窓穴建物削り方	口 3.6 厚 1.3 幅 6.5 重 34.0	黑色頁岩	幅広の左端削片を丸く削りして、右端を削出する。左辺側の角部は厚く、便用の右端側としてならば、十分に使用が可能。	
第55回 PL. 41	11	削片右器	2区2面 打製作右	口 (4.3) 厚 1.2 幅 3.7 重 25.6	黑色頁岩	完成度良好。右端頭部削片。右端縁エッジに摩耗痕あり。左側縁エッジはシャープで、再生の可能性はある。	
第55回 PL. 41	12	削片右器	2区2面 打製作右	口 (8.2) 厚 1.2 幅 5.9 重 144.2	粗粒輝石安山岩	完成度良好。右端側に丸みを帯びる。内側側は新削で、両端上部削出しの可能性が高い。	
第55回 PL. 41	13	削片右器	2区カクラン 左片	口 10.7 厚 1.2 幅 6.6 重 59.3	黑色頁岩	完成度良好。側端は圓く開きやすい。刃端摩耗がある。左辺側の裏面削痕は新削で、両端が丸われている。	
第55回 PL. 41	14	削片右器	2区2面	口 4.8 厚 3.1 幅 4.9 重 74.1	粗粒輝石安山岩	右端縁裏面では心の丸跡になり小削片を削離。裏面側の2面の作業面では輪郭を打てて移動させた小型削片を削離する。右端の状況は齊次状に近く。	
第55回 PL. 41	15	削片右器	2区カクラン	口 4.2 厚 3.8 幅 7.2 重 149.0	重質頁岩	裏面側に削痕を大きく残す。作業面を固定し、重心の削離によって小型削片を削離したことが分かること。	
第55回 PL. 41	16	削片右器	2区カクラン	口 5.0 厚 3.0 幅 5.4 重 76.0	重質頁岩	正面に小形削片1枚の削離面を残す以外、丸化した削離面で覆われる。削離面は試し削りにて伴う。	
第55回 PL. 41	17	削片右器	2区カクラン 左片	口 (4.5) 厚 1.1 幅 3.7 重 31.0	重質頁岩/灰	欠けの多い斜面から削出。刃部に刃面痕あり。	
第55回 PL. 41	18	削片右器	6号窓穴建物53 左片	口 8.1 厚 2.4 幅 8.1 重 100.0	粗粒輝石安山岩/灰	小分け分割した鉛筆の片面に削り面。	
第55回 PL. 41	19	削片右器	2区3面 一部欠損	口 (10.5) 厚 1.0 幅 6.8 重 110.0	重質頁岩/灰	右側側削面が尖る。右側側削面が尖る。	
第55回 PL. 41	20	削片右器	3号窓穴建物削 台右	口 24.8 厚 6.5 幅 77.2 重 790.0	粗粒輝石安山岩/灰	表面に一定幅の同方向削面。	
第55回 PL. 42	21	削片右器	4号窓穴建物カマド削 左片	口 20.2 厚 4.9 幅 12.6 重 3520.0	粗粒輝石安山岩/灰	大型の窓の一部を長方形に切り取って台右したもの。底部に刃面痕あり。右側側削面が尖る。	
第55回 PL. 42	22	削片右器 くぼみ右	4号窓穴建物カマド削 ほぼ完形	口 11.1 厚 5.4 幅 7.8 重 585.0	粗粒輝石安山岩/灰 裏面	表面裏面に大きな最終窟あり。左裏面にも最終窟あり。	

遺物観察表

種	回	番	種	種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土・焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第6回	23	礫石器	25号竪穴建物裏 1/2	長 9.0 幅 (6.5) 厚 280.0	重 5.2 重 6.5	鉛粒輝石安山岩/灰	表面全面に磨り面、表面に細目有り。			
第6回	24	礫石器	25号竪穴建物裏 ほぼ完形	長 11.6 幅 8.0	重 6.5 重 900.0	鉛粒輝石安山岩/灰	表面全面に磨り面あり。最打削無し。二次被削により変色。			
第6回	25	礫石器	25号竪穴建物54 殆ど	長 15.2 幅 7.0	重 4.8 重 825.0	鉛粒輝石安山岩/灰	表面に磨り面。裏面は不明瞭。			
第6回	26	礫石器	4号竪穴建物16下 石器	長 118.0 幅 17.0	重 8.0 重 160.0	鉛粒輝石安山岩/灰	表面に磨り面。裏面は不明瞭。			
第6回	27	骨器	2号カクラン 石器	長 17.9 幅 (2.4) 厚 1.3	重 6.4 重 609.0	鉛粒輝石安山岩/灰	表面に磨り面。裏面は不明瞭。			
PL-42	28	洞内石器	25号竪穴建物裏 一部欠損	長 (2.3) 幅 (1.7)	重 0.3 重 1.4	珪質頁岩	未確認か? ? 鉛粒輝石。表裏ともややあらい押圧痕面に覆われており。鉛粒輝石はぼつってあるが、表面面に込みがある。	凸基無手縫		
PL-42	29	洞内石器	25号竪穴建物裏 ほぼ完形	長 11.4 幅 (1.3)	重 0.4 重 0.7	黒墨石	未確認か? 裏面はあらかじめ圧痕面に覆われているが、もう片面は大半が鉛粒輝石を残している。	凸基無手縫		
PL-42	30	洞内石器	25号竪穴建物裏 一部欠損	長 1.6	重 1.8	板状岩	完成品。先端部/2次尖。表裏面とも押圧痕面に覆われている。	凸基有手縫		
PL-42	31	洞内石器	1号竪穴建物裏 石器	長 1.8 幅 (1.5)	重 0.3 重 0.8	玉髓	完成品。先端部と片側の押圧痕。表裏面とも押圧痕面に覆われている。	凸基無手縫		
PL-42	32	洞内石器	25号竪穴建物裏 石器	長 (3.8) 幅 (2.0)	重 1.0 重 8.0	珪質頁岩	片面を調整削離で整える。			
HL-43	33	洞内石器	6号竪穴建物裏 石器	長 (3.5) 幅 (1.8)	重 0.7 重 1.5	貴賀安山岩	片面を調整削離で整える。			
HL-43	34	洞内石器	25号竪穴建物裏 石器	長 (2.1) 幅 (2.3)	重 0.5 重 2.8	黑色頁岩	未確認。先端部(?)と茎部を欠損。あらい押圧痕を残す。	凸基有手縫		
PL-42	35	洞内石器	5号竪穴建物裏 石器	長 (5.2) 幅 (3.5)	重 0.9 重 13.3	黑色頁岩	洞内両面に調整削離を加える。			
PL-43	36	洞内石器	25号竪穴建物裏 石器	長 (3.5) 幅 (3.2)	重 0.9 重 9.5	珪質頁岩	洞内両面に調整削離を加える。			
PL-43	37	洞内石器	25号竪穴建物裏 ほぼ完形	長 9.2 幅 4.6	重 1.5 重 73.0	黑色頁岩	両端部か? 中央部がよくぼむ状態。底辺の一部に刃状の刃根が認められる。			
PL-43	38	洞内石器	25号竪穴建物裏 白碧石	長 12.3 幅 6.3	重 2.1 重 220.2	貴賀安山岩	刃状部がやや広がる形状。柄部に刃頂が認められる。			
1号竪穴建物										
種	回	番	種	種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土・焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第6回	1	土師器	47	口縁	口 (15.0)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	2	土師器	42	口縁～脚部	口 (14.0)	高 底	陶化/粗	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。内面は底面から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	3	土師器	62	口縁	口 (13.6)	高 5.5 底	陶化/浅黃褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はナデ。内面は底面から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	4	土師器	28・42・56 腹	口 (13.4) 幅 3/4	高 20.4	陶化/粗	口縁部は横ナデ。内面は底面から口縁部に左側の斜放射状へくべき。			
第6回	5	土師器	61・68・74 腹	口 (6.8)	高 底	陶化/明赤褐	体部表面はナラナデ。内面もナラナデ。底面もナラナデ。口縁部は右側に斜放射状へくべき。			
第6回	6	土師器	17・55・74 腹	口 (8.8)	高 底	陶化/に深い黒褐色	体部表面はナラナデ。内面もナラナデ。底面もナラナデ。外側にヘラナデ。底面はヘラナデ。			
第6回	7	土師器	41	底部	口 (7.6)	高 底	陶化/粗	外側はナデ。内面は黒いヘラナデ。底面はヘラナデ。		
2号竪穴建物										
種	回	番	種	種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土・焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第6回	1	土師器	68	口縁	口 (11.3)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はヘラナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	2	土師器	52	口縁～脚部	口 (12.0)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はヘラナデ。内面も横ナデ。ヘラ崩きは認められない。		
第6回	3	土師器	74	口縁	口 (13.0)	高 底	陶化/浅黃褐	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。底部はヘラ崩き。内面は底部から口縁部に右側の斜放射状へくべき。		
第6回	4	土師器	25号竪穴建物56 腹	口 (12.0)	高 4.8 底	陶化/粗	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。底部はヘラ崩き。内面は底部から口縁部に右側の斜放射状へくべき。			
第6回	5	土師器	74	口縁	口 (13.3)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はヘラナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	6	土師器	25号竪穴建物56 腹	口 (15.0)	高 5.0 底 1/2	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はヘラナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。			
第6回	7	土師器	9・25	口縁	口 (14.5)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はヘラナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	8	土師器	57	口縁	口 (18.0)	高 底	陶化/に深い黒褐色	内面外端とも横ナデ。		
第6回	9	土師器	96	口縁	口 (13.6)	高 10.5 底 2/3	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。底部はヘラ崩き。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。		
第6回	10	土師器	25号竪穴建物56 腹	口 (6.6)	高 底	陶化/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底面はヘラナデ。内面は底部から口縁部に左側の斜放射状へくべき。			
第6回	11	土師器	6	口縁	口 (3.0)	高 底	陶化/に深い黒褐色	内面外端とも横ナデ。		
第6回	12	土師器	74	縦り方 口縁	口 (22.0)	高 底	陶化/に深い黒褐色	口縁部は横ナデ。外端は縦にヘラナデ。内面は斜削して部分があり。底辺のあらいナデが認められる。		
第6回	13	土師器	33・34・35・24号竪穴建物 腹	口 (7.4)	高 底	陶化/に深い黒褐色	内面外端とも横ナデ。底部はヘラナデ。			
第6回	14	土師器	68	つまみ部	口 (3.0)	高 1.5	砂岩・闊葉岩/黄灰	焼き締まっていて硬質。上面に自然崩かれる。		
第6回	15	石製品	59	底	口 (1.9)	重 1.0	板状岩/明赤褐	外側は鏡面に研削され。明瞭な光沢をもつ。上方底部は斜めにカットされており、中心の穿孔部の両側は作んだりと/orなっている。		

遺物觀察表

3号堅穴建物

拂 国 Pl. No.	種類 種	出土位置 地	出土位置 残存率	計測値(cm. g)	陶土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第0094 Pl. 44	1 土師器 杯	13 口縁部	口 (10.1) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。内面は底部から口縁部に右斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 44	2 土師器 杯	15 口縁～底部	口 (13.6) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はあらい朝毛目による斜行するナデ。下半はヒラ削。		
第0094 Pl. 44	3 土師器 杯	20 口縁 底	口 (11.6) 高 6.2 底 底	高化/浅黄粗	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラナデ。内面には縦位のヘラ削。		
第0094 Pl. 44	4 土師器 杯	34.9 3号堅穴建物の藏六櫛 口縁～底部	口 (14.0) 高 6.9 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 44	5 土師器 甕	37 口縁～底部	口 (13.0) 高 10.7 底 底	高化/浅黄粗	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラナデ後に軽く研磨。光沢ある。内面のナデ後に縦位のあらいヘラ削。		
第0094 Pl. 44	6 土師器 小型甕	37.1 3号堅穴建物の藏六櫛 口縁～底部	口 (11.8) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、頭部から直位に斜位のあらい朝毛目。胸部には横位のヘラ削。内面に横ナデ。内面頭部にも斜位のあらい朝毛目が残る。		
第0094 Pl. 45	7 土師器 甕	1~10~11~16~22~23~28. 3号堅穴建物の藏六櫛 カマド、割り方、覆 制～底部	口 (底) 底 底	高	高化/に深い槽	内外面ともナデ。	
第0094 Pl. 44	8 土師器 甕	1~4~5~6~18. カマド、 覆 口縁部	口 (14.6) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ。体部にヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。		
第0094 Pl. 44	9 土師器 甕	22 口縁 底部	口 (18.0) 高 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。胸部および内面に横位のヘラナデ。		
第0094 Pl. 44	10 土師器 甕	割り方、覆 口縁部	口 (20.0) 高 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。胸部に縦位のヘラナデ。内面にも横位のヘラナデ。		
第0094 Pl. 45	11 土師器 甕	1~10~11~16~22~23~28. 3号堅穴建物の藏六櫛 カマド、割り方、覆 制～底部	口 (23.0) 高 底 底	高化/に深い槽	口縁部から底部は横ナデ、胸部は縦位のナデ。内面は横ナデ。		
第0094 Pl. 44	12 石製品 臼玉	19 内形	長 0.5 厚 0.5 幅 0.5 重 0.2	滑石/灰	小型の玉五で、表面に研磨した際の粗糲の痕状痕が残る。		
第0094 Pl. 44	13 石製品 粒状謹	17内 内形	長 1.2 厚 0.5 幅 0.8 重 0.05	赤滑	大玉ほど小さな粒状の自然石で、表面は光沢をもつ。		

4号堅穴建物

拂 国 Pl. No.	種類 種	出土位置 地	出土位置 残存率	計測値(cm. g)	陶土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第0094 Pl. 45	1 土師器 杯	14 口縁	口 (11.0) 高 5.9 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削り。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	2 土師器 杯	17. カマド割り方、覆 口縁～底部	口 (10.8) 高 6.0 底 底	高化/明赤粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	3 土師器 杯	50. お盆六彫。覆 ほぼ完全	口 (11.8) 高 5.3 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削り。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	4 土師器 杯	12~15 ほぼ完全	口 (11.6) 高 6.0 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	5 土師器 杯	5 口縁～底部	口 (13.0) 高 4.8 底 底	高化/赤	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	6 土師器 杯	50. お盆六彫。覆 ほぼ完全	口 (14.0) 高 5.0 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	7 土師器 杯	14. 振り方 口縁～底部	口 (14.0) 高 6.9 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ、体部上半はナデ。下から底部はヘラ削。内面は底部から口縫部に左斜側射(ヒラ削)。		
第0094 Pl. 45	8 土師器 杯	13 2/3	口 (12.5) 高 5.6 底 底	高化/明赤粗	口縁部は横ナデ。体部下位は横位のヘラ削。内面は赤。		
第0094 Pl. 45	9 土師器 杯	14 口縁～脚部	口 (14.0) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ。体部下位は横位のヘラ削。内面はナデ。		
第0094 Pl. 45	10 土師器 杯	24 口縁部	口 (14.0) 高 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ。体部下位は横位のヘラ削。内面はナデ。		
第0094 Pl. 45	11 土製品 甕	65 内形	口 (2.3) 高 0.7 幅 1.2	高化/褐紅褐色	外表面は精選した刷毛を使用。底底も良好で、軽く研磨を施す。		
第0094 Pl. 45	12 土師器 甕	3. カマド 底	口 (4.5) 高 16.7 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。内面は横位ナデ。		
第0094 Pl. 45	13 土師器 甕	29~30~31. 覆 1/4	口 (19.0) 高 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。内面は横位ナデ。		
第0094 Pl. 45	14 土師器 甕	23~35~52~53 一部欠損	口 (6.9) 高 底 底	高化/に深い槽	外表面は横位のヘラ削。底底もヘラ削。内面は上半部が横ナデ。下半部はヘラ削。		
第0094 Pl. 45	15 土師器 甕	49~50. カマド 底	口 (16.3) 高 28.5 底 底	高化/灰	口縁部は横ナデ。体部外表面は横位の入念ナデ。底底はヘラ削り後、ナデ。		
第0094 Pl. 45	16 土師器 甕	49~50. カマド 一部欠損	口 (16.7) 高 33.3 底 底	高化/灰	口縁部は横ナデ。体部上半は入念ナデ。下半はナデ。内面ナデ。底部はヘラ削。		
第0094 Pl. 45	17 土師器 甕	10~30~31~40. カマド。 一部欠損	口 (18.6) 高 27.5 底 底	高化/粗	口縁部は横ナデ。体部は縦位へラ削り後にナデ。内面はナデ。丸底状の底底は体部外表面と同様。		
第0094 Pl. 45	18 土師器 甕	36 ほぼ完全	口 (18.0) 高 33.7 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。内面は柔い朝毛目工具による斜行するナデ。内面は横ナデ。		
第0094 Pl. 45	19 土師器 甕	37 ほぼ完全	口 (18.6) 高 25.0 底 底	高化/浅黄粗	口縁部は横ナデ。体部外表面は横位の入念ナデ。内面は斜行するナデ。		
第0094 Pl. 45	20 磁 文鏡	カマド55 1/2.	口 (18.0) 厚 (5.0) 幅 (7.8) 重 880.0	和粘石舞石安山岩/白 青い赤系	カマドの支脚。体部外表面は横位の入念ナデ。被熱で赤色に変色。ヒビ割れがある。		
第0094 Pl. 45	21 磁 文鏡	カマド56 1/2.	口 (18.2) 厚 5.7 幅 7.5 重 990.0	和粘石舞石安山岩/灰 青系	棒状のU型鏡を使用。上端部に付けた粘土付着。被熱で半赤色に変色。		

5号堅穴建物

拂 国 Pl. No.	種類 種	出土位置 地	出土位置 残存率	計測値(cm. g)	陶土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第0094 Pl. 47	1 土師器 杯	15 口縁～底部	口 (13.6) 高 5.9 底 底	高化/に深い槽	口縁部は横ナデ。体部は丁寧なナデ。底底に軽くヘラ削り。内面には縦位のヘラ削。		

6号墳穴遺物

種 国 P.L.No.	No.	種類 材種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	耐土焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第8009 PL.47	1	土師器 杯	壇 口縁部	□ (11.0) 高 底	焼成/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部にヘラナデ。内面には底部から口縁部に右斜の斜削仕へ焼きを施すが、劣化ではほとんど見えない。	
第8009 PL.47	2	土師器 杯	壇 口縁部	□ (12.0) 高	焼成/に赤褐色	口縁部は横ナデ。内面もナデ。	
第8009 PL.47	3	土師器 碗	壇、カクラン 破片	□ 2 底	赤	細砂粒多/壇元塗/黄 灰	細砂粒多/壇元塗/黄 灰
第8009 PL.47	4	土師器 碗	壇 口縁部	□ 2 底	赤	クロロ成形。薄手のつくりで、よく焼き跡が残っている。外側に自然触か かる。	

1号墳遺物集中

種 国 P.L.No.	No.	種類 材種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	耐土焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第8014 PL.47	6-1	圓文土器 深鉢	壇 口縁部	□ 2 底	赤	砂粒多/良・黒斑	内外面から研磨。
第8014 PL.47	7	圓文土器 深鉢	壇 口縁部	□ 2 底	赤	砂粒多/良・黒斑	称名式
第8029 PL.47	1	土師器 杯	7. 壺 1/4	□ 12.0 高	焼成/橙	口縁部は横ナデ。体部段下はヘラナデ。内面劣化。	
第8029 PL.47	2	土師器 杯	38 口縁部	□ (11.0) 高 底	焼成/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部に横位のヘラナデ。内面も横位のヘラナデ。	
第8029 PL.47	3	土師器 小型壺	36・37・49. 扉 口縁部	□ 11.0 高 底	焼成/に赤褐色	口縁部は横ナデ。体部は斜位のヘラナデ。内面は横位のナデ。	
第8029 PL.47	4	土師器 壺	1 口縁・脚部	□ (13.2) 高 底	焼成/赤褐色	口縁部と体部上半は焼きで剥離があり。その上に向左方向のヘラ焼きを施す。体部下部には横位のヘラ研磨を施す。内面はナデ。	
第8029 PL.47	5	土師器 壺	44 口縁部	□ (15.6) 高	焼成/灰褐色	口縁部は横ナデ。体部にはあらいナデ後に研磨。内面は横位のヘラナデ。	
第8029 PL.47	6	土師器 壺	29・43・50. 扉 口縁・脚部	□ (16.0) 高 底	焼成/に赤褐色	口縁部は横ナデ。体部はヘラ研磨。光沢。内面はナデ。	
第8029 PL.47	7	土師器 壺	49. 扉 口縁部	□ 16.8 高 底	焼成/浅黄褐色	口縁部は横ナデ。	
第8029 PL.47	8	土師器 壺	23・42・47. 扉 口縁・脚部	□ (18.0) 高 底	焼成/に赤褐色	口縁部は横ナデ。体部に窓位のヘラナデ。内面に窓位のヘラナデ。	
第8029 PL.47	9	土師器 脚部	29・43・50. 扉 脚部	□ 2 底	焼成/に赤褐色	体部外面に窓位のヘラナデ。内面に窓位のヘラナデ。	
第8029 PL.47	10	土師器 壺	4-45. 扉 口縁部	□ (23.8) 高 底	焼成/灰褐色	口縁部は横ナデ。体部に窓位のヘラナデ。内面に窓位のヘラナデ。	
第8029 PL.47	11	土師器 壺	28-43-50. 扉 透底	□ 7.4 高 底	焼成/に赤褐色	内外面ともナデ。内外面に白色の星云様の着物あり。	
第8029 PL.47	12	土師器 壺	12-19-41 透底	□ 7.6 高 底	焼成/に赤褐色	体部にヘラ削り。内面はヘラナデ。底部はヘラ削り。	

遺物外1区

種 国 P.L.No.	No.	種類 材種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	耐土焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第8040 PL.47	1	土師器 杯	15区2面. 扉 4/5	□ 13.8 高 底	5.4 焼成/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部はヘラ研磨。内面は底部から口縁部に左斜の斜削仕へ焼きを施す。	
第8040 PL.47	2	土師器 杯	15区4面土 脚部片	□ 2 底	赤	細砂粒少/壇元塗/灰 白	焼成/に赤褐色
第8040 PL.47	3	土師器 壺	15区1面 脚部片	□ 2 底	高	細砂粒少/壇元塗/灰 白	外表面に平行叩き痕が残る。内面にアゲ具痕はない。
第8040 PL.47	4	土師器 杯	15区1面 脚部片	□ 2 底	高	砂粒微/壇元塗/灰 白	クロロ整形。やや軽質。内外面にロクロ目が残る。
第8040 PL.47	5	土師器 壺	15区1面 脚部片	□ 2 底	高	細砂粒少/壇元塗/灰 白	クロロ整形。脚部は叩き跡め。外表面に平行叩き痕。内面に同心円状アゲ 具痕がある。

遺物外2区

種 国 P.L.No.	No.	種類 材種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	耐土焼成/色調 石材・木材等	成形・整形の特徴	備考
第8040 PL.47	1	土師器 杯	252面 口縁・脚部	□ 14.0 高 底	5.0 焼成/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。底部はヘラ削り。内面は底部から口縁部に左斜の斜削仕へ焼きを施す。	
第8040 PL.47	2	土師器 杯	252面 口縁・底部	□ (12.0) 高 底	焼成/に赤褐色	口縁部は横ナデ。体部下は窓位のヘラ削り。内面はナデ。口縁部に平 面削を作り出している。	
第8040 PL.47	3	土師器 杯	252カクラン 口縁部	□ (15.0) 高 底	焼成/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部下は窓位のヘラ削り。内面はナデ。口縁部に平 面削を作り出している。	
第8040 PL.47	4	土師器 壺	7号トレンチ 口縁・脚部	□ 17.6 高 底	25.2 8.5 焼成/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部に窓位のヘラナデ。内面に横位から斜位のヘラナデ。 既次火候品たる円形部に研磨・調整しており。堆などに転用した可能性 がある。	

造構計測表

第4表 造構計測表

堅穴建物

区面	番号	位置	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	現存床面積 (m)	長軸方位	既溝(m)		掘回番号	PL.	備考		
								幅	深さ					
2 3 1	X-64,034 ~ 64,036	Y= -87,169 ~ -87,173	(3.77)	(2.38)	0.76	(2.87)	-	0.16 ~ 0.39	0.05	第58回	PL.9			
2 3 2	X-64,019 ~ 64,029	Y= -87,166 ~ -87,175	9.34	9.05	0.74	(62.60)	N-85° -E	0.16 ~ 0.50	0.30	第61 ~ 65回	PL.10~11			
		番号 長軸長×短軸長×深さ (m)												
	P1	0.43×0.41× -	P2	0.41×0.38×1.14	P3	0.64×0.62×1.34	P4	0.44×0.43×1.16						
	P5	0.73×0.64×1.06	P6	0.46×0.42×1.15	P7	0.80×0.75×1.23	P8	0.43×0.41×1.17						
	P9	0.47×0.39×0.27	P10	0.35×0.33×0.17	P11	0.74×0.38×1.00								
	1号床下上坑	0.83×0.75×0.23	2号床下上坑	0.86×0.59×0.58	3号床下上坑	0.79×0.50×0.36								
2 3 3	X-64,027 ~ 64,034	Y= -87,176 ~ -87,184	7.70	5.58	0.26	(52.61)	N-87° -E	0.13 ~ 0.28	0.20	第67 ~ 69回	PL.11~12			
	番号 長軸長×短軸長×深さ (m)													
	P1	0.72×0.55×0.56	P2	0.25×0.25×0.56	P3	0.65×0.36×0.53	P4	0.62×0.36×0.53						
	貯藏穴	1.18×0.96×0.66		カマド	1.05×0.74×0.22									
2 3 4	X-64,007 ~ 64,012	Y= -87,181 ~ -87,184	5.05	(2.53)	0.70	(8.39)	N-10° -E	0.16 ~ 0.35	0.10 ~ 0.12	第71 ~ 75回	PL.13~14			
	番号 長軸長×短軸長×深さ (m)													
	P1	0.32×0.28×0.75	P2	0.29×0.27×0.89	P3	0.60×(0.35)×0.42	P4	1.33×0.94×1.00						
2 3 5	X-63,998 ~ 64,003	Y= -87,171 ~ -87,174	(3.33)	(3.34)	0.70	(5.41)	-	0.12 ~ 0.25	0.21	第79回	PL.15			
	番号 長軸長×短軸長×深さ (m)													
	P1	0.63×(0.18)×0.26												
2 3 6	X-64,014 ~ 64,017	Y= -87,168 ~ -87,170	(1.85)	(1.37)	0.92	(0.82)	-	0.11 ~ 0.23	0.08 ~ 0.10	第80回	PL.15			
2 4 7	X-63,984 ~ 64,991	Y= -87,173 ~ -87,180	6.22	5.94	0.32	(14.36)	N-27° -W	-	-	第9 ~ 11回	PL.4 ~ 6			
	番号 長軸長×短軸長×深さ (m)													
	P1	0.39×(0.35)×1.07	P2	0.23×0.19×0.71	P3	0.38×0.33×1.05								
	P4	0.29×0.27×1.00	P5	0.61×0.45×0.91	P6	0.61×0.39×0.90	P7	0.48×0.46×0.71						
2 4 8	X-63,989 ~ 63,993	Y= -87,185 ~ -87,186	(4.42)	(0.57)	0.34	(1.49)	-	-	-	第25回	PL.6			
	番号 長軸長×短軸長×深さ (m)													
	P1	0.30×0.30×0.30	P2	0.32×(0.12)×0.29	P3	0.19×(0.11)×0.11								
	P4	0.15×0.13×0.06	P5	0.19×0.17×0.29										

土坑

区面	番号	位置	平面形	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	長軸方位	神図 番号	PL.	備考		
1 3 1	X-63,917	Y= -87,198 ~ -87,199	楕円形	0.74	0.66	0.15	N-7° -E	第81回		底面付近にHr-F1 次堆積土が認められる。底面U字状を呈し、Hr-F4 陣下前に穿たれる。人為的な掘り込み。		
2 4 2	X-64,030 ~ 64,032	Y= -87,162 ~ -87,163	楕円形	1.50	1.30	0.06	N-12° -E	第29回	PL.7			
2 4 3	X-64,032 ~ 64,033	Y= -87,161	楕円形	0.53	0.48	0.11	N-81° -W	第29回				
2 4 4	X-64,033	Y= -87,162 ~ -87,163	円形	0.45	0.44	0.15	N-9° -E	第29回				
2 4 5	X-64,032 ~ 64,033	Y= -87,167 ~ -87,168	円形	0.32	0.31	0.17	N-0°	第29回	PL.7			
2 3 6	X-64,032	Y= -87,158 ~ -87,159	不整形	1.08	(0.37)	0.28	N-51° -E	第81回		3層の黒褐色土及び灰黃褐色土1層が確認された。上面にHr-F4が被覆する。ピットと重複の可能性。		
2 4 7	X-64,030 ~ 64,031	Y= -87,160 ~ -87,161	(楕円形)	0.69	(0.23)	0.18	N-53° -E	第29回				
2 4 8	X-64,028 ~ 64,029	Y= -87,163	不整形	0.63	(0.57)	0.18	N-50° -E	第29回				
2 4 9	X-64,001	Y= -87,177	楕円形	0.70	0.63	0.19	N-62° -E	第29回				
2 4 10	X-64,001 ~ 64,002	Y= -87,176 ~ -87,177	円形	0.55	0.53	0.16	N-26° -W	第29回				
2 4 11	X-64,011 ~ 64,012	Y= -87,177 ~ -87,178	楕円形	0.71	0.57	0.16	N-39° -E	第29回				
2 4 12	X-64,002 ~ 64,003	Y= -87,176 ~ -87,178	ほぼ長方形	1.38	0.85	0.07	N-87° -W	第29回				
2 4 13	X-64,003 ~ 64,004	Y= -87,176	楕円形	0.52	0.32	0.26	N-8° -E	第29回				
2 4 14	X-64,004 ~ 64,005	Y= -87,177	楕円形	0.58	0.53	0.20	N-80° -E	第29回				
2 4 15	X-64,004	Y= -87,178	楕円形	0.65	0.51	0.24	N-38° -E	第30回				
2 4 16	X-64,002 ~ 64,003	Y= -87,181 ~ -87,182	楕円形	0.76	0.70	0.24	N-51° -E	第30回	PL.7			
2 4 17	X-64,003 ~ 64,004	Y= -87,180 ~ -87,181	楕円形	1.01	0.93	0.22	N-51° -E	第30回				
2 4 18	X-64,006	Y= -87,176 ~ -87,177	円形	0.80	0.77	0.19	N-34° -W	第30回				
2 4 19	X-64,007 ~ 64,008	Y= -87,175 ~ -87,176	楕円形か	1.13	(0.90)	0.46	N-4° -E	第30回	PL.7			
2 4 20	X-64,007 ~ 64,008	Y= -87,178 ~ -87,179	円形	0.62	0.61	0.22	N-7° -W	第30回				
2 4 21	X-64,007 ~ 64,009	Y= -87,177 ~ -87,178	楕円形	1.05	0.98	0.16	N-79° -E	第30回				
2 4 22	X-64,008 ~ 64,009	Y= -87,176 ~ -87,177	楕円形	0.44	0.40	0.21	N-79° -E	第30回				
2 4 23	X-64,009	Y= -87,178 ~ -87,179	楕円形	0.52	0.47	0.23	N-14° -W	第30回				
2 4 24	X-64,008 ~ 64,009	Y= -87,179 ~ -87,181	楕円形	1.40	0.92	0.34	N-34° -W	第31回	PL.7			
2 4 25	X-64,033 ~ 64,034	Y= -87,176 ~ -87,177	楕円形	0.50	0.44	0.18	N-0°	第31回				
2 4 26	X-64,010 ~ 64,011	Y= -87,177 ~ -87,178	楕円形	0.99	0.71	0.36	N-50° -W	第31回				
2 4 27	X-64,004	Y= -87,179 ~ -87,180	円形	0.63	0.61	0.10	N-53° -E	第31回				
2 4 28	X-64,030	Y= -87,164	楕円形	0.56	0.50	0.34	N-24° -E	第31回				
2 4 29	X-64,028 ~ 64,029	Y= -87,164 ~ -87,165	楕円形	0.81	0.68	0.23	N-24° -E	第31回				
2 4 30	X-64,029	Y= -87,171 ~ -87,172	楕円形	0.61	0.47	0.46	N-84° -E	第31回				

区	面	番号	位置	平面形	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	長軸方位	跡番号	PL.	備考
2	4	31	X=64.029 ~ 64.030	Y=87.171 ~ 87.172	楕円形	1.18	0.93	0.15	N=42° -W	第31回	
2	4	32	X=64.033	Y=87.173 ~ 87.174	円形	0.64	0.63	0.53	N=0°	第31回	
2	4	33	X=64.031	Y=87.169 ~ 87.170	不整形	0.75	0.50	0.27	N=20° -W	第32回	
2	4	34	X=64.034	Y=87.168 ~ 87.169	(楕円形)	0.50	(0.22)	0.21	N=90°	第32回	
2	4	35	X=64.017 ~ 64.018	Y=87.181	楕円形	0.49	0.49	0.24	N=5° -W	第32回	
2	4	36	X=64.015 ~ 64.016	Y=87.178 ~ 87.179	円形	0.68	0.65	0.10	N=90°	第32回	
2	4	37	X=64.018 ~ 64.019	Y=87.176 ~ 87.177	楕円形	0.65	0.60	0.25	N=34° -W	第32回	
2	4	38	X=64.015 ~ 64.016	Y=87.174 ~ 87.175	楕円形	0.60	0.53	0.13	N=8° -E	第32回	
2	4	39	X=63.997	Y=87.181	円形	0.43	0.41	0.07	N=83° -W	第32回	
2	4	40	X=63.984 ~ 63.985	Y=87.183	楕円形	0.60	0.50	0.40	N=90°	第32回	
2	4	41	X=63.986	Y=87.181	楕円形	0.67	0.54	0.34	N=42° -E	第32回	
2	4	42	X=63.990 ~ 63.991	Y=87.173 ~ 87.174	楕円形	0.92	(0.71)	0.23	N=84° -W	第32回	
2	4	43	X=63.991	Y=87.178	円形	0.52	0.51	0.31	N=83° -W	第32回	
2	4	44	X=63.994	Y=87.175 ~ 87.176	楕円形	0.33	0.26	0.29	N=79° -N	第32回	
2	4	45	X=63.994	Y=87.175	楕円形	0.56	0.33	0.44	N=25° -E	第32回	
2	4	46	X=63.993 ~ 63.994	Y=87.174 ~ 87.175	楕円形	0.70	0.67	0.23	N=10° -E	第33回	
2	4	47	X=63.994	Y=87.173	(円形)	0.45	(0.39)	0.16	N=8° -E	第33回	
2	4	48	X=63.996 ~ 63.997	Y=87.178 ~ 87.179	楕円形	0.98	0.74	0.21	N=75° -E	第33回	
2	4	49	X=63.993 ~ 63.994	Y=87.179 ~ 87.180	円形	0.59	0.58	0.14	N=6° -E	第33回	
2	4	50	X=63.992 ~ 63.993	Y=87.179 ~ 87.180	楕円形	0.91	0.69	0.35	N=65° -W	第33回	
2	4	51	X=63.990 ~ 63.991	Y=87.178 ~ 87.179	楕円形	0.36	0.28	0.29	N=77° -E	第33回	
2	4	52	X=63.995 ~ 63.996	Y=87.179	楕円形	0.54	0.50	0.17	N=7° -E	第33回	
2	4	53	X=63.993	Y=87.181 ~ 87.182	楕円形	0.52	0.32	0.29	N=67° -W	第33回	PL.7
2	4	54	X=63.991 ~ 63.992	Y=87.180 ~ 87.181	楕円形	0.99	0.95	0.26	N=34° -E	第33回	PL.7
2	4	55	X=63.994 ~ 63.995	Y=87.180 ~ 87.181	楕円形	1.00	0.94	0.28	N=67° -W	第33回	PL.7
2	4	56	X=64.019 ~ 64.020	Y=87.168 ~ 87.169	楕円形	0.80	0.74	0.71	N=74° -W	第33回	PL.7
2	4	57	X=64.025	Y=87.167 ~ 87.168	円形	0.60	0.59	0.26	N=3° -W	第33回	
2	4	58	X=64.024 ~ 64.025	Y=87.171 ~ 87.172	円形	0.81	0.79	0.42	N=5° -E	第34回	
2	4	59	X=64.026 ~ 64.027	Y=87.173 ~ 87.174	不整形	0.86	0.84	0.18	N=2° -E	第34回	
2	4	60	X=64.026 ~ 64.027	Y=87.166 ~ 87.167	楕円形	1.16	0.97	0.34	N=37° -W	第34回	PL.7
2	4	61	X=63.991 ~ 63.992	Y=87.183 ~ 87.184	楕円形	0.85	0.68	0.13	N=5° -E	第34回	
2	4	62	X=63.990	Y=87.184 ~ 87.185	楕円形	0.43	0.39	0.15	N=15° -E	第34回	PL.7
2	4	63	X=63.990	Y=87.184 ~ 87.185	楕円形	0.35	0.27	0.38	N=4° -E	第34回	PL.7
2	4	64	X=64.028 ~ 64.029	Y=87.169 ~ 87.170	楕円形	0.70	0.60	0.47	N=57° -W	第34回	PL.7

ピット

区	面	番号	位置	平面形	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	跡番号	PL.	備考
2	4	1	X=64.033	Y=87.160	円形	0.45	0.44	0.10	第41回	ローム粒子を含む黒褐色土主体。掘り込みは浅く、底面U字状を呈す。人為的な遺構。
2	4	2	X=64.032	Y=87.165	円形	0.30	0.30	0.11	第41回	ローム粒子等を含む黒褐色土主体。掘り込みは浅く、丸底状を呈す。人為的な遺構。
2	4	3	X=64.032	Y=87.165 ~ 87.166	円形	0.31	0.30	0.18	第41回	ローム粒子を含む黒褐色土。底面に起伏があるが、平面形状は安定している。人為的な遺構。
2	4	4	X=64.032	Y=87.166	楕円形	0.21	0.18	0.08	第42回	ローム粒子を含む黒色土。極めて小規模で浅い掘り込み。人為的な遺構。
2	4	5	X=64.028	Y=87.164	円形	0.34	0.33	0.19	第42回	PL.8 ローム粒子を含む黒色土。円形が2点発見中に確認された。人為的な遺構。
2	4	6	X=63.999 ~ 64.000	Y=87.181	不整形	0.43	0.37	0.42	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土主体。平面形状はやや不整形だが、深く掘り込まれている。黒色岩質製の石1個と石核2個が出土した。人為的な遺構。
2	4	7	X=64.000	Y=87.180 ~ 87.181	円形	0.30	0.30	0.42	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土。打製石1個が出土した。人為的な遺構の可能性がある。
2	4	8	X=64.005	Y=87.176	円形	0.28	0.27	0.15	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土主体。小規模だが掘り込みは安定している。人為的な遺構。
2	4	9	X=64.006	Y=87.183	楕円形	0.35	0.28	0.17	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土主体。10号ピットに隣接する。底面は丸底状を呈す。人為的な遺構の可能性が高い。
2	4	10	X=64.006	Y=87.182 ~ 87.183	楕円形	0.26	0.22	0.13	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土上及び暗褐色土。小規模で、掘り込みも浅い。人為的な遺構の可能性が高い。
2	4	11	X=64.033	Y=87.167 ~ 87.168	円形	0.29	0.28	0.19	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土主体。12号ピットと重複。新:11号ピット←旧:12号ピット。丸底状を呈す。人為的な遺構。
2	4	12	X=64.033	Y=87.167 ~ 87.168	円形	0.42	0.40	0.06	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土。底面に起伏があるが、安定した掘り方である。人為的な遺構。
2	4	13	X=64.033	Y=87.168	楕円形	0.32	0.28	0.22	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土上。丸底状を呈し、掘り方は安定している。開闢時代後期称名寺2式鉢の上器部分が出土。人為的な遺構。
2	4	14	X=64.033	Y=87.169	楕円形	0.33	0.27	0.20	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土上。丸底状を呈す。人為的な遺構。
2	4	15	X=64.032 ~ 64.033	Y=87.169	円形	0.23	0.22	0.20	第42回	ローム粒子等を含む黒褐色土を2層(色調差)確認された。安定した掘り方である。人為的な遺構。

遺構計測表

区 面 番 号	位置		平面形		長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	標図 番号	PL.	備考
			長軸長 (m)	短軸長 (m)						
2 4 16	X=64,034	Y=87,169	円形	0.30	0.29	0.18	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。底面に凹凸が認められる。人為的な遺構。
2 4 17	X=64,033	Y=87,169	円形	0.40	0.40	0.18	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土と暗褐色土の2層が確認された。底面に凹凸が認められる。人為的な遺構。
2 4 18	X=64,029 ~ 64,030	Y=87,164	(円形)	0.39	(0.23)	0.14	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。19号ビット及び28号土坑と重複。新:28号土坑←18号ビット→旧:19号ビット 重複するため全容は不明。堆積上層等から、人為的な遺構。
2 4 19	X=64,029	Y=87,164 ~ 87,165	不整形	0.65	(0.26)	0.16	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土と重複。新:28号土坑←18号ビット→旧:19号ビット 重複するため全容は不明。人為的な遺構の可能性がある。
2 4 20	X=64,029 ~ 64,030	Y=87,171 ~ 87,172	楕円形	0.60	0.36	0.17	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。31号土坑と重複。新:31号土坑←20号ビット 重複のため全容不明。人為的な遺構。
2 4 21	X=64,029 ~ 64,030	Y=87,173 ~ 87,174	楕円形	(0.33)	(0.32)	0.23	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。22号土坑と重複。新:22号ビット←旧:21号ビット 振り方は安定している。人為的な遺構。
2 4 22	X=64,029	Y=87,173 ~ 87,174	円形	0.26	0.26	0.30	第42図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上と粘質黄褐色土の2層を確認。振り込みは21号ビットと重複。新:22号ビット←旧:21号ビット 21号ビットと近似した規則、形状を持つ。人為的な遺構。
2 4 23	X=64,032	Y=87,170	円形	0.21	0.21	0.20	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む粘質黄褐色土、黒褐色土、暗褐色土の3層が確認された。小規模だが、振り込みは安定している。人為的な遺構の可能性が高い。
2 4 24	X=64,031	Y=87,170	楕円形	0.33	0.31	0.21	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。振り込みは安定している。人為的な遺構。
2 4 25	X=64,003	Y=87,177	円形	0.26	0.24	0.12	第43図		PL.8	既而の土字を呈す浅い振り込み。振り込みは浅いが安定した振り方を持つ。1の直線がに出た。人為的な遺構。
2 4 26	X=64,018	Y=87,181	円形	0.35	0.31	0.40	第43図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。規模・形状・振り込みともに安定している。人為的な遺構。
2 4 27	X=64,018 ~ 64,019	Y=87,182	円形	0.28	0.26	0.14	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。安定した振り込みといえる。人為的な遺構。
2 4 28	X=64,020	Y=87,182	楕円形	0.32	(0.23)	0.17	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。振り込みは一部調査区外だが、安定した振り方といえる。人為的な遺構。
2 4 29	X=64,016	Y=87,179	円形	0.36	0.36	0.09	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。30号ビットと重複。新:30号ビット←旧:29号ビット 重複のため全容は不明。人為的な遺構の可能性あり。
2 3 30	X=64,016 ~ 64,017	Y=87,179	円形	0.32	0.31	0.27	第81図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土中にHr-FAが充填した柱状痕の断面を持つ。Hr-FA降下時に柱穴状の落ち込みが存在した。
2 3 31	X=64,018	Y=87,179	楕円形	0.53	0.38	0.58	第81図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土中にHr-FAが多く侵入する柱状痕の断面を持つ。Hr-FA降下時に柱穴状の落ち込みが存在した。
2 4 32	X=63,997	Y=87,181	円形	0.17	0.16	0.14	第43図		PL.8	鉢分が凝集する黒褐色土。39号土坑と重複。新:39号土坑←旧:32号ビット 重複のため全容は不明。人為的な遺構の可能性あり。
2 4 33	X=63,983	Y=87,180	楕円形	0.30	0.20	0.40	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土上体。形状がややゆがむが、深く振り込まれている。1の安山岩製台石が出土した。人為的な遺構。
2 4 34	X=63,982 ~ 63,983	Y=87,180 ~ 87,181	楕円形	0.32	0.21	0.34	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。下端径が小さくなる形状を呈す。人為的な遺構。
2 4 35	X=63,984	Y=87,183	楕円形	0.31	0.31	0.12	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土及び暗灰色土の2層。40号土坑と重複。新:35号ビット←旧:40号土坑 ややゆがんだ形状であるが、振り方は安定している。人為的な遺構。
2 4 36	X=63,984 ~ 63,985	Y=87,185	楕円形	0.45	0.36	0.53	第43図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土、鉢分凝集あり。縄文時代晚期前半の1が出た。人為的な遺構。
2 4 37	X=63,986	Y=87,182	楕円形	0.50	0.40	0.45	第43図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。41号土坑と重複。新:41号土坑←旧:37号ビット 振り込みは安定している。人為的な遺構。
2 4 38	X=63,988	Y=87,182	円形	0.37	0.36	0.46	第43図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。底面に凹凸があるが、振り込みは安定している。人為的な遺構。
2 4 39	X=63,990	Y=87,174	円形	0.43	0.43	0.21	第43図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。42号土坑と重複。新:39号ビット←旧:42号土坑 機縫の縫合が充填されている。人為的な遺構。
2 4 40	X=63,993	Y=87,173	円形	0.32	0.31	0.32	第44図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。形状・振り込み等安定している。1の土製円盤が出土した。人為的な遺構。
2 4 41	X=63,994	Y=87,174	楕円形	0.40	0.34	0.28	第44図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。形状・振り込み等安定している。1の土製円盤が出土した。人為的な遺構。
2 4 42	X=63,994 ~ 63,995	Y=87,177	楕円形	0.30	0.25	0.09	第44図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。小規模でやや浅い振り込みである。人為的な遺構の可能性が高い。
2 4 43	X=63,995	Y=87,176 ~ 87,177	楕円形	0.39	0.32	0.36	第44図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。形状・振り込み等安定している。人為的な遺構。
2 4 44	X=64,020 ~ 64,021	Y=87,180	円形	0.36	0.35	0.29	第44図	PL.8	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。縄文土器と縫合が充填されていた。複数の縫合とともに1の加曾利E 4式圓筒の縫合部が出土した。人為的な遺構。
2 4 45	X=63,994 ~ 63,995	Y=87,178	楕円形	0.28	0.22	0.26	第44図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。底面付近は断面径が狭くなる形状を呈す。人為的な遺構。
2 4 46	X=63,995	Y=87,179	楕円形	0.43	0.34	0.28	第44図		PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。鉢分の凝集あり。底面付近は断面径が狭くなる形状を呈す。人為的な遺構。

区	面番号	位置		平面形		長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)	柵番号	PL.	備考	
				X=63,994	Y=87,180						X=63,994	Y=87,181
2	4	47	X=63,994	Y=87,180	円形	0.24	0.22	0.30	第44柵	PL.8	ローム粒子を含む黒褐色土主体。平面形状の規模は小さいが、深く振り込まれる。人為的な遺構。	
2	4	48	X=63,989	Y=87,181	楕円形	0.24	0.17	0.24	第44柵		ローム粒子等を含む黒褐色土。規模は小さいが、振り込みは安定している。人為的な遺構。	
2	4	49	X=63,989	Y=87,182	円形	0.20	0.19	0.39	第44柵		ローム粒子等を含む黒褐色土。鉄分の凝集あり。規模は小さいが、深く振り込まれている。人為的な遺構。	
2	4	50	X=63,990	Y=87,183	楕円形	0.36	0.27	0.25	第44柵	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。鉄分の凝集あり。形状・振り方ともに安定している。人為的な遺構。	
2	4	51	X=63,993	Y=87,178	楕円形	0.41	0.31	0.43	第44柵	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。鉄分の凝集あり。底面に向かって断面径が狭くなる形状を呈す。1の縄文時代中期十石場式期の上器片が出土した。人為的な遺構。	
2	4	52	X=63,990	Y=87,181	円形	0.29	0.28	0.40	第44柵	PL.8	ローム粒子等を含む黒褐色土。鉄分の凝集あり。底面に向かって断面径が狭くなる形状を呈す。深く振り込まれている。人為的な遺構。	
2	4	53	X=63,990	Y=87,182	円形	0.29	0.28	0.28	第44柵		ローム粒子・小礫等を含む黒褐色土。鉄分の凝集あり。人為的な遺構。	
2	4	54	X=63,991	Y=87,180	楕円形	0.48	0.37	0.41	第44柵		粘性の強い暗褐色土。断面U字状を呈し、安定した振り方を持つ。1・2の縄文時代称名寺2式期の上器片が出土した。人為的な遺構。	

溝

区	曲番号	位置		全長(m)	幅(m)	深さ(m)	走行	柵番号	PL.	備考	
		X=63,919	Y=87,188 ~ 87,201	(33.6)	0.2 ~ 0.4	0.2	N-22° -E	南西~北東	第89・92柵	PL.20	
1	1	1	X=63,919 ~ 63,929	Y=87,201 ~ 87,203	(2.4)	0.2 ~ 0.3	0.2	N-74° -E	西~東	第89・92柵	PL.20
1	1	2	X=63,907 ~ 63,949	Y=87,186 ~ 87,203	(44.0)	0.2 ~ 1.0	0.1	N-21° -E	南西~北東	第89・92柵	PL.20
1	1	3	X=63,915 ~ 63,922	Y=87,192 ~ 87,196	(7.7)	0.4 ~ 0.7	0.1	N-30° -E	南西~北東	第89・92柵	
1	1	4	X=63,908 ~ 63,917	Y=87,184 ~ 87,197	(16.0)	0.2 ~ 0.5	0.3	N-55° -E	南東~北西	第89・92・93柵	PL.21
1	1	5	X=63,906 ~ 63,913	Y=87,184 ~ 87,194	(12.0)	0.3 ~ 3.0	0.3	N-58° -E	北西~南東	第89・92柵	PL.21
1	3	6	X=63,909 ~ 63,916	Y=87,183 ~ 87,205	(22.3)	0.7 ~ 1.7	0.2	N-73° -E	南西~北東	第83・85柵	PL.16 ~ 18
1	3	7	X=63,912 ~ 63,952	Y=87,185 ~ 87,204	(44.5)	0.4 ~ 1.0	0.1	N-24° -E	南西~北東	第83 ~ 86柵	PL.16 ~ 18
1	1	8	X=63,973 ~ 63,974	Y=87,178 ~ 87,179	(1.6)	0.2	0.1	N-23° -E	南西~北東	第89・92柵	PL.21
1	1	9	X=63,948 ~ 63,973	Y=87,183 ~ 87,186	(25.6)	0.5 ~ 1.8	0.2	N-0° -E	南~北	第83・84柵	PL.16 ~ 18

水田

区	面	番号	面積(m²)	水口	標高(m)	耕作(m)						柵番号	PL.	備考	
						北	南	西	東	高さ	幅				
1	3	1	15.82	有	359.95	—	0.12	0.56	0.03	0.42	0.20	0.54	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18	
1	3	2	(21.47)	有	360.04	0.12	0.56	0.24	0.70	0.15	0.78	0.12	0.56	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	3	20.01	無	360.32	0.24	0.70	0.03	0.33	0.02	0.34	0.14	0.60	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	4	(7.22)	有	360.07	0.16	0.57	0.11	0.56	0.14	0.60	—	—	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	5	(3.12)	不明	360.24	0.11	0.56	—	—	0.19	0.75	—	—	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	6	(20.07)	不明	360.45	0.03	0.33	0.08	0.45	—	—	0.03	0.58	第83・84・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	7	(2.27)	有	361.84	0.06	0.75	—	—	—	—	0.11	0.34	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	8	(10.72)	有	361.77	0.04	0.63	—	—	0.11	0.34	0.11	0.32	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	9	(4.48)	有	361.69	0.11	0.66	—	—	0.11	0.32	0.06	0.40	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	10	2.87	有	361.64	0.16	0.37	0.06	0.28	0.06	0.40	0.10	0.27	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	11	2.23	有	361.61	0.11	0.58	0.07	0.27	0.10	0.27	0.06	0.25	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	12	2.45	有	361.61	0.09	0.55	0.07	0.26	0.06	0.25	0.10	0.25	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	13	2.58	有	361.57	0.10	0.60	0.07	0.28	0.10	0.25	0.05	0.31	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	14	(3.37)	有	361.52	0.10	1.20	0.07	0.30	0.05	0.31	—	—	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	15	(2.17)	不明	361.64	0.06	0.40	0.07	(0.15)	0.07	0.38	0.05	0.27	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	16	2.47	有	361.61	0.07	0.27	0.06	0.26	0.05	0.27	0.05	0.24	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	17	2.14	有	361.57	0.07	0.26	0.05	0.24	0.05	0.24	0.04	0.25	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	18	2.19	有	361.52	0.07	0.28	0.03	0.28	0.04	0.25	0.05	0.22	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	19	(3.28)	有	361.51	0.07	0.30	0.05	0.24	0.05	0.22	—	—	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	20	(1.01)	有	361.63	0.06	0.26	—	—	—	—	0.04	0.26	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	21	(2.81)	有	361.55	0.05	0.24	0.11	0.35	0.04	0.26	0.03	0.27	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	22	3.70	有	361.52	0.03	0.28	0.15	0.30	0.03	0.27	0.05	0.30	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	23	(0.99)	不明	361.47	0.05	0.24	0.06	0.24	0.05	0.30	—	—	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	24	(1.02)	不明	361.48	0.11	0.35	—	—	—	—	0.01	0.24	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18
1	3	25	(0.22)	不明	361.48	0.06	0.24	—	—	0.01	0.24	—	—	第83・85・87柵	PL.16 ~ 18

遺物集中

区	面	番号	位置		長軸長(m)	短軸長(m)	柵番号	PL.	備考	
									Y=63,991 ~ 63,994	Y=87,179 ~ 87,181
2	3	1	X=63,991 ~ 63,994	Y=87,179 ~ 87,181	2.61	2.15	第82柵	PL.21		

第4章 自然科学分析

第1節 赤色顔料・微細物分析

株式会社 バレオ・ラボ

植栗山根A遺跡出土遺物の赤色顔料の分析

1.はじめに

吾妻郡東吾妻町大字植栗地内に所在する植栗山根A遺跡より出土した土器や石製品に付着する赤色顔料、および赤色塊について、蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、赤彩土器に付着する赤色顔料4点、石製品に付着する赤色顔料4点、遺跡より出土した赤色塊7点の、合計15点である(第5表、図版1)。時期は、土器と石製品は縄文時代晚期、赤色塊は5世紀代とみられている。実体顕微鏡下で、セロハンテープに赤色部分を極微量採取し、分析試料とした。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-9000を使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1000 μAのロジウムターゲット、キャビラリ径が100 μmまたは15 μm、検出器はSDD検出器である。検出可能元素は炭素(C)～アメリシウム(Am)である。

本分析での測定条件は、50kV、748～1000 μA(自動設定による)、キャビラリ径100 μm、測定時間100sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を第94・95図に示す。

分析の結果、ナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、ヒ素(As)などが検出された。

生物顕微鏡観察により得られた画像を図版2、3に示す。分析No. 2、5、7では赤色パイプ状の粒子が観察された。

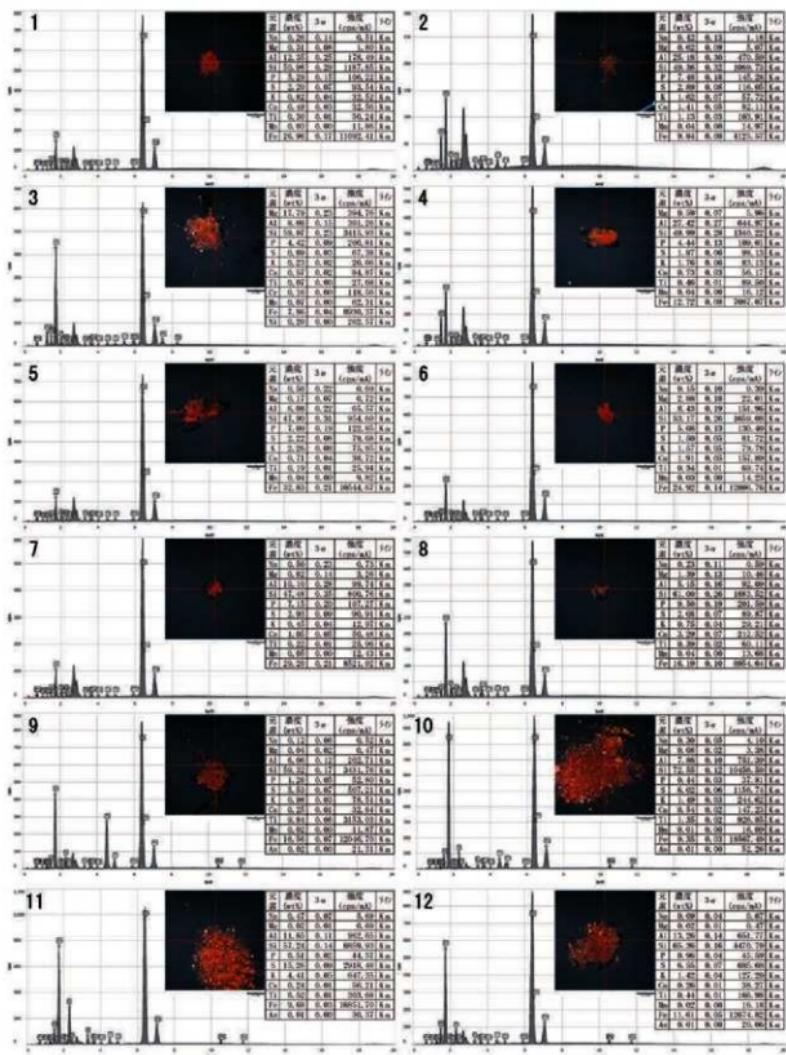
4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe₂O₃)、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬、2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μmのパイプ状の粒子形状からなるものが多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田、1997)、鉄バクテリア起源の含水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬、1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

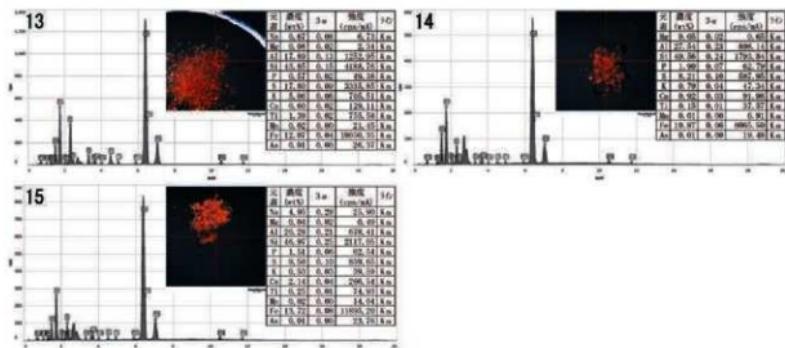
【赤色顔料付着遺物】(分析No. 1～8)

土器、石製品に付着する赤色顔料からは、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。一方で鉄が検出されているため、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。さらに、分析No. 2、5、7ではパイプ状粒子が観察され、いわゆるパイプ状ベンガラであった。

今回分析した遺物に付着する赤色顔料は、いずれもリンがやや多い傾向がみられた。後述の赤色塊にはみられない特徴である。パイプ状、非パイプ状を問わずみられる特徴であり、もしかすると赤色顔料を塗料とするために添加する、接着剤などの物質の痕跡なのかもしれない。なお、分析No. 3は、多量のマグネシウムと、クロムとニッケルも微量に検出され、ほかの遺物とは異なる特徴



第94図 採取試料の蛍光X線分析結果(1) (左上数字は分析No.)



第95図 採取試料の蛍光X線分析結果(2) (左上数字は分析No.)

第5表 分析対象遺物

分析番号	採取番号	出土遺構	整理番号	遺物内容	備考	主な 検出元素	その他 検出元素	分析・觀察結果備考
1	6	7号墳穴建物		赤彩土器 縄文時代後期前葉(大邱CI群)	Si, Fe, Al Na, Mg, P, S, K, Ca, Ti, Mn			リンやや多い
2	11	7号墳穴建物		赤彩土器 縄文時代後期前葉	Si, Al Na, Mg, P, S, K, Ca, Ti, Mn, Fe			ハイドロゲンガラ、リンやや多い
3	38	7号墳穴建物		赤彩土器 縄文時代後期中葉	Si, Mg Al, P, S, K, Ca, Ti, Cr, Mn, Fe, Ni			リンやや多い マグネシウム多量、クロム、ニッケル検出
4	14	1区構造		赤彩土器 縄文時代後期前葉～中葉	Si, Al, Fe Wg, P, S, K, Ca, Ti, Mn			リンやや多い
5	177	7号墳穴建物		石器 赤色顔料付土器(縄文時代後期)	Si, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn			ハイドロゲンガラ、リンやや多い
6	167	7号墳穴建物		石台 赤色顔料付土器(縄文時代後期)	Si, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn			リンやや多い
7	171	7号墳穴建物		石台 赤色顔料付土器(縄文時代後期)	Si, Fe, Al Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn			ハイドロゲンガラ、リンやや多い
8	172	7号墳穴建物		石台 赤色顔料付土器(縄文時代後期)	Si, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn			リンやや多い
9	25号墳穴建物		61004	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀前半)	Si, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn, As			硫黄やや多く、ヒ素わずかに検出
10	25号墳穴建物		61006	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀前半)	Si, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn, Fe, As			硫黄やや多く、ヒ素わずかに検出
11	25号墳穴建物		61007	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀前半)	Si, S, Al Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Fe, As			硫黄多く、ヒ素わずかに検出
12	2号墳穴建物掘り方		61008	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀前半)	Si, Al, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn, As			硫黄やや多く、ヒ素わずかに検出
13	2号墳穴建物		61009	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀前半)	Si, Al, S, Fe Na, Mg, Al, P, S, K, Ca, Ti, Mn, As			硫黄多く、ヒ素わずかに検出
14	6号墳穴建物		61015	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀後半)	Si, Al, Fe Na, Mg, P, S, K, Ca, Ti, Mn, As			硫黄やや多く、ヒ素わずかに検出
15	6号墳穴建物		61016	ベンガラ/Hr-F埋没住居(5世紀後半)	Si, Al, Fe Na, Mg, P, S, K, Ca, Ti, Mn, As			硫黄やや多く、ヒ素わずかに検出

がみられた。

「赤色塊」(分析No. 9~15)

赤色塊も上述の遺物付着赤色顔料と同様に、水銀は検出されず、鉄による発色と推定される。顔料としてはベンガラにあたる。

遺物付着赤色顔料と異なる点として、リンはそれほど多く検出されない一方、硫黄が比較的多く検出された。また、いずれの赤色塊も、ヒ素とみられるピークがわずかに認められた。

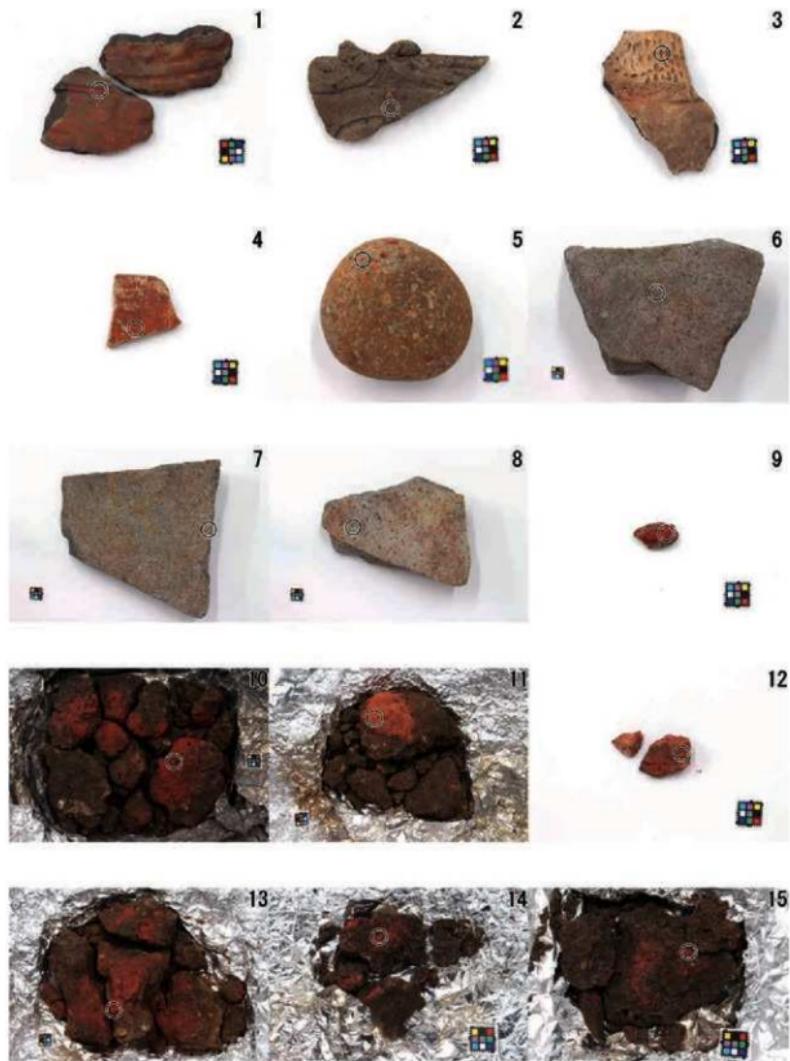
第5表に、結果の一覧を示す。

5. おわりに

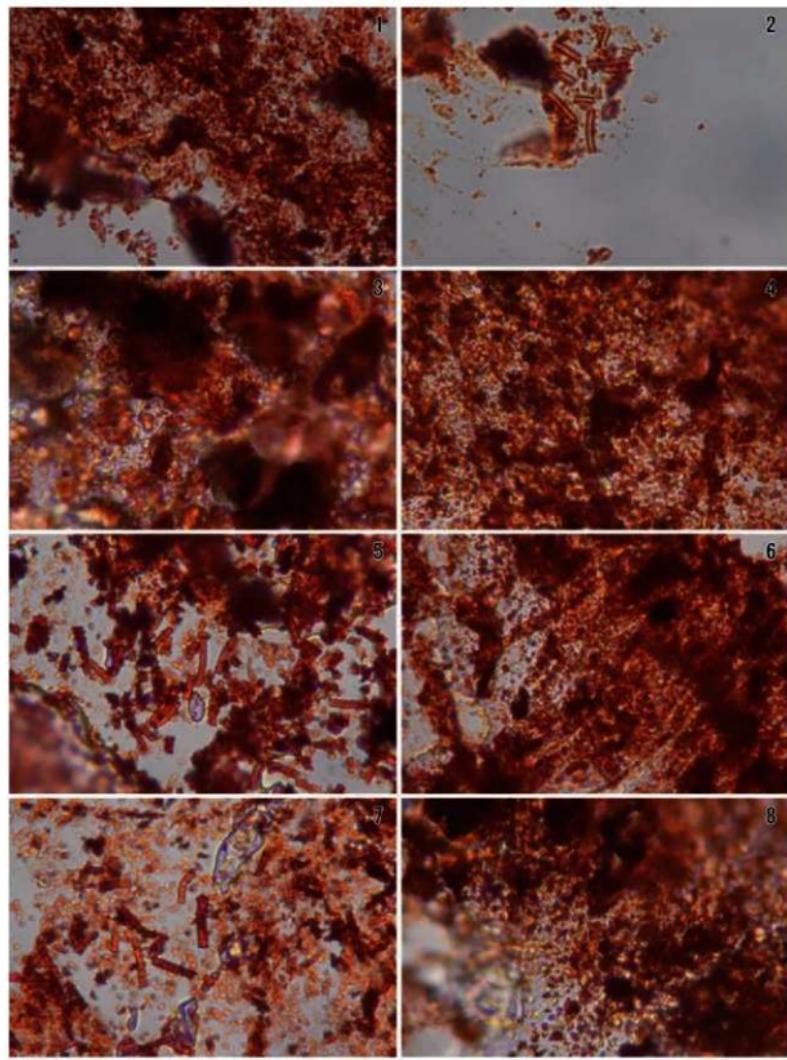
土器や石製品に付着する赤色顔料、および赤色塊について検討した。その結果、いずれも鐵(Ⅲ)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。うち土器1点と石製品2点からは、いわゆるパイプ状ベンガラが検出された。また、縄文時代晩期の遺物付着赤色顔料と、5世紀代の赤色塊では、リンや硫黄の多寡、ヒ素の検出といった点において異なる特徴がみられた。

引用文献

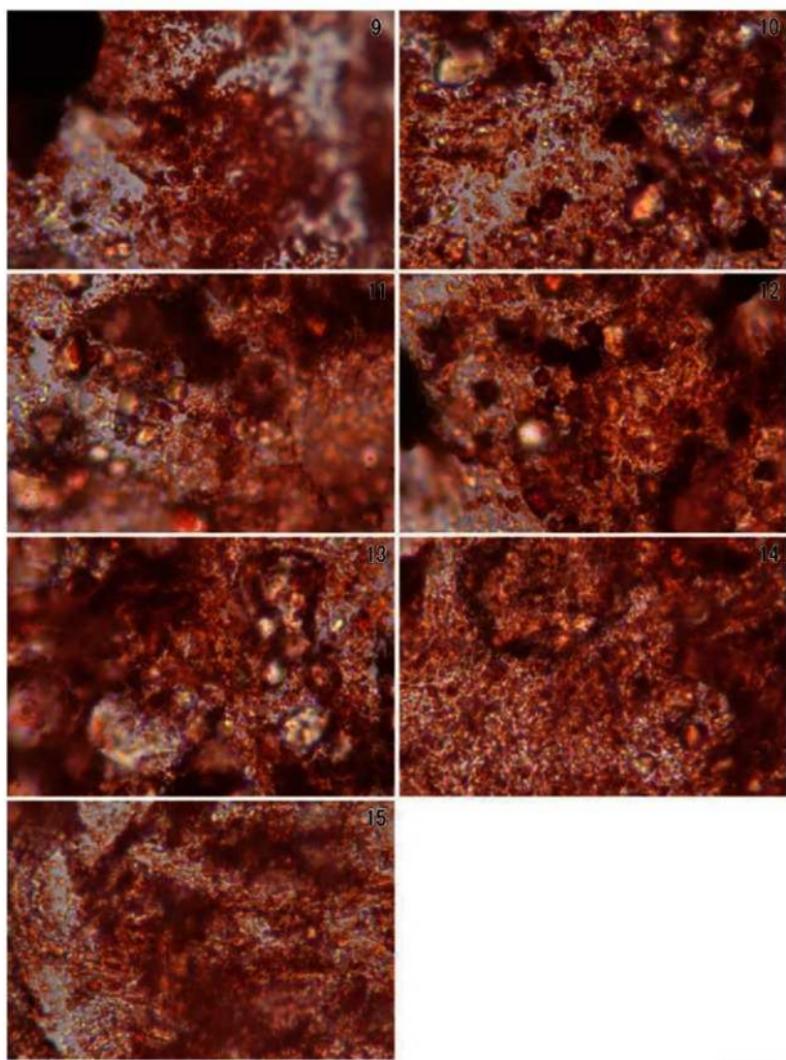
- 成瀬正和(1998)萬文時代の赤色顔料 I—赤色土器一、考古学ジャーナル、438, 10-14.
 成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料、正倉院紀要、26, 13-61.
 岡田文男(1997)ハイブリッドベンガラ粒子の復元、日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集、38-39.



図版1 分析対象遺物と試料採取位置（右上数字は分析No.）



図版2 採取試料の生物顕微鏡写真(1) (右上数字は分析No.、スケール: 10 μ m)



図版3 採取試料の生物顕微鏡写真（2）（右上数字は分析No.、スケール：10 μm）

植栗山根 A 遺跡から出土した大型植物遺体

1. はじめに

吾妻川右岸の河岸段丘上に立地する植栗山根 A 遺跡の、縄文時代晩期と古墳時代の竪穴建物から検出された種実と葉の同定を行い、当時の植生について検討した。

2. 試料と方法

種実試料は、肉眼で確認・回収された縄文時代晩期の7号竪穴建物の1試料である。葉試料は、古墳時代の2号竪穴建物から採取された3試料と4号竪穴建物から採取された1試料の、計4試料である。

大型植物遺体の抽出・同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

同定の結果、木本植物のオニグルミ炭化核とムクロジ炭化種子、ハクウンボク近似種葉の3分類群が得られた。また、残存状態が悪いため、科以上の詳細な同定ができなかった葉を不明 A ~ F に分類した。種実や葉以外には炭化材もみられたが、同定の対象外とした(第6表)。

以下に、大型植物遺体の産出傾向を時期ごとに、遺構別に記載する。

[縄文時代晚期]

7号竪穴建物：オニグルミが4点とムクロジが2点得られた。

[古墳時代]

2号竪穴建物：不明 A ~ 不明 F が各1点得られた。

4号竪穴建物：ハクウンボク近似種が1点得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・樋田(2003-)に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 炭化核 クルミ科

完形ならば上面觀は両凸レンズ形、側面觀は広卵形。

表面に縱方向の縫合線があるが、残存していない。表面には、浅い溝と凸凹が不規則に入る。内部は二室に分か

れるが、残存しているのは破片のみである。残存高6.3mm、残存幅5.6mm。

(2) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. 炭化種子 ムクロジ科

完形ならば球形。上部は突出せず、やや平坦。表面は平滑。線状の着点の痕跡がある。種皮は厚い。残存高8.2mm、残存幅4.7mm。

(3) ハクウンボク近似種 cf. *Styrax obassia* Siebold et Zucc. 葉 エゴノキ科

完形ならば、ほぼ円形～卵形。主脈は厚く太い。二次脈は基部側でやや対生だが、葉先にむかって互生になる。三次脈は互いに平行である。先端は短くとがり、基部は広いが、残存していない。葉縁に小さな鋸歯があるが、残存していない。破片の形状と葉脈模様から、ハクウンボク近似種と判断した。残存長76.1mm、残存幅76.0mm。

(4) 不明 A Unknown A 葉

葉の残存状態は非常に悪い。完形ならば狭梢円形の可能性。葉縁に小さな鋸歯がある。主脈は厚く、二次脈は葉の縁に沿って走る。全体の大きさと形が不明のため、同定はできなかった。残存長25.0mm、残存幅6.9mm。

(5) 不明 B Unknown B 葉

葉の残存状態は非常に悪い。葉縁に鋸歯が見られる。主脈と二次脈が観察できるが、科以上の同定に必要な識別点は残存していないかった。残存長29.4mm、残存幅12.2mm。

(6) 不明 C Unknown C 葉

状態が悪い。主脈と二次脈が観察できるが、科以上の同定に必要な識別点は残存していないかった。残存長25.4mm、残存幅6.0mm。

(7) 不明 D Unknown D 葉

葉の残存状態は非常に悪い。葉縁に鋸歯が見られる。主脈と二次脈が観察できるが、科以上の同定に必要な識別点は残存していないかった。残存長26.5mm、残存幅10.7mm。

(8) 不明 E Unknown E 葉

葉の残存状態は非常に悪い。科以上の同定に必要な識別点は残存していないかった。残存長36.5mm、残存幅17.7mm。

(9) 不明 F Unknown F 葉

葉は完全な形をしているが状態が悪い。葉柄は長く、

先端は徐々に狭くなる。葉脈の模様が不明瞭。科以上の同定に必要な識別点は残存していなかった。長さ2.5mm、幅4.5mm。

引用文献

長沢 武(2012)野外植物民俗事典. 443p. ほおずき書籍.
米倉浩司・梶田 忠(2003-)BG Plants 和名一学名インデックス(YList).
<http://ylist.info>

4. 考察

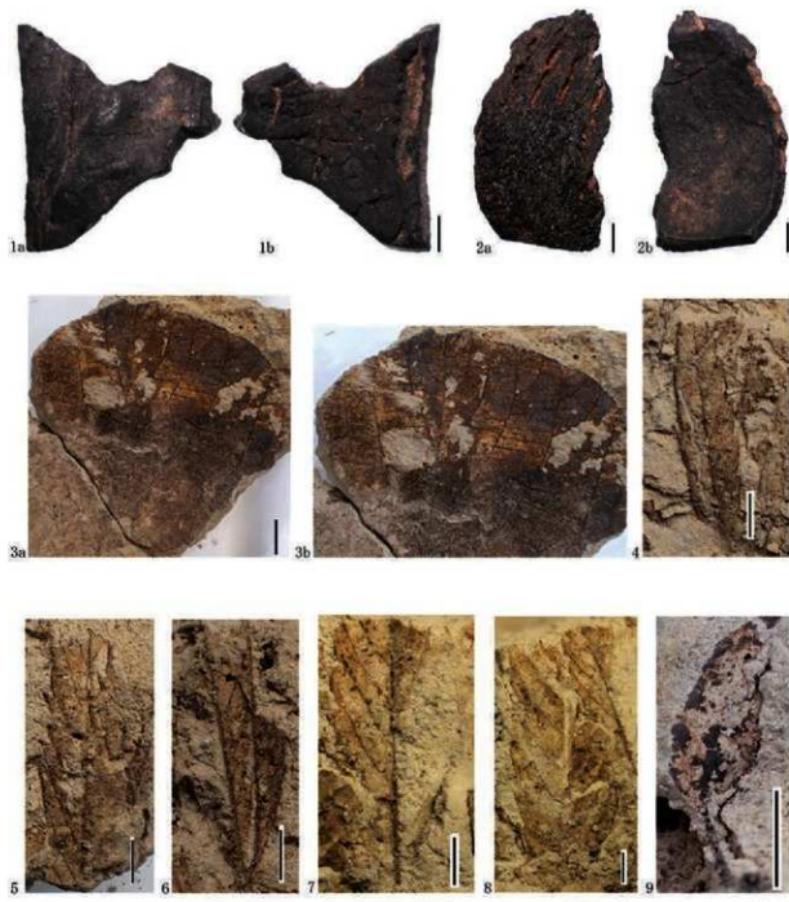
縄文時代晩期の7号竪穴建物からは、野生植物で食用として利用可能な堅果類のオニグルミとムクロジが得られた。オニグルミの核は、内部の子葉を利用するためには剥られた後に、食用にならない不要な部位が燃やされるなどして廃棄された可能性がある。ムクロジは、アケの成分であるサボニンが含まれているが、種子を煎れば食えることもできる。ムクロジは、近現代の民俗例では洗剤や薬用としても用いられている(長沢, 2012)。

古墳時代の4号竪穴建物からはハクウンボク近似種葉が得られており、周辺に生育していた可能性がある。

第6表 植栗山根A遺跡から出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	採取方法	地区			
		道構 7号竪穴建物		2号竪穴建物	4号竪穴建物
		一括	2次堆積層東壁	植物No.1	
整理番号		61051	61001	61002	61003
時期	縄文晩期			古墳時代	61012
オニグルミ	炭化核	(4)			
ムクロジ	炭化種子	(2)			
ハクウンボク近似種	葉				(1)
不明A	葉				(1)
不明B	葉				(1)
不明C	葉				(1)
不明D	葉			(1)	
不明E	葉			(1)	
不明F	葉		1		
不明	炭化材	(+)			

+;1-9



スケール 1-2:1mm, 3a:10mm, 4-9:5mm, 3bは任意

図版1 植栗山根A遺跡から出土した大型植物遺体

1. オニグルミ炭化核（7号竪穴建物、No. 61051）、2. ムクロジ炭化種子（7号竪穴建物、No. 61051）、3. ハクウ
ンボク近似種葉（4号竪穴建物、No. 61012）、4. 不明A葉（2号竪穴建物、No. 61003）、5. 不明B葉（2号竪穴建物
、No. 61003）、6. 不明C葉（2号竪穴建物、No. 61003）、7. 不明D葉（2号竪穴建物、No. 61001）、8. 不明E葉（2
号竪穴建物、No. 61001）、9. 不明F葉（2号竪穴建物、No. 61001）

第2節 出土焼骨分析

澤田純明・佐伯史子・奈良貴史

(新潟医療福祉大学 自然人類学研究所)

植栗山根A遺跡から出土した縄文時代の動物骨

1 はじめに

群馬県植栗山根A遺跡で2021年度に実施された発掘調査において、縄文時代の遺構6基と遺物包含層から計百点以上の焼骨片が出土した。群馬県埋蔵文化財調査事業団の依頼を受け、肉眼形態学的観察によりそれらの鑑定を試みたところ、約20点の骨について動物種を同定できただが、断片化して種同定が困難な骨も少なからず含まれていた。肉眼観察で種を同定できない焼骨の場合、四肢長骨幹部の緻密骨であれば、骨ミクロ構造の組織学的検討により動物種をある程度まで推定することが可能である(Harsányi 1993、澤田ほか 2010, Mulhern and Ubelaker 2012; Sawada et al. 2014)。そこで本鑑定では、肉眼観察で種を同定できる骨がなかった遺構については、四肢長骨の骨幹部を抜き出して、組織学的方法により出土骨の内容を検討した。

2 資料

鑑定の対象は、3号竪穴建物(古墳時代、時期区分不明)、7号竪穴建物(縄文晚期前葉)、8号竪穴建物(縄文晚期前葉)、46号土坑(縄文後期後葉)、55号土坑(縄文中期後葉)、61号土坑(縄文時代、時期不詳)、および1区3面・2区3面・2区4面の遺物包含層(縄文時代、時期不詳)から出土した焼骨群で、総重量は706.4gである。全てよく焼成しており、骨体の色調は灰白色ないし白色を呈していた。このうち、7号竪穴建物、8号竪穴建物、46号土坑、および遺物包含層から出土した焼骨群には肉眼観察で種を同定できる動物骨が含まれていたので肉眼形態学的検討のみを実施した。3号竪穴建物、55号土坑、および61号土坑から出土した焼骨群は、細片化が著しく肉眼観察で種を同定できなかったため、各遺構から試料1点を抜き出して組織学的方法に基づく検討を実施した。

3 方法

資料をクリーニング・計量した上で、以下の方法により鑑定を実施した。

1) 肉眼形態学的方法

新潟医療福祉大学自然人類学研究所が保管する現生標本および動物骨の図譜(France 2008、松井 2008)との比較に基づき、動物種と骨格部位を同定した。頭骨については歯の萌出状況、四肢骨については骨端の癒合状況を観察して成長段階を推定し、幼獣(生後6ヶ月未満)、若獣(生後6ヶ月以上成獣未満)、成獣(永久歯の萌出完了および四肢骨端の癒合完了)に区分した。

2) 組織学的方法

3号竪穴建物、55号土坑、61号土坑から出土した焼骨から、四肢長骨の骨幹部と思われる緻密骨片を抽出し、組織学的検討の試料とした。試料を澤田ほか(2010)の方法にしたがって樹脂に包埋し、樹脂が十分に重合硬化した後、骨幹長軸に対する横断面が得られるように硬組織切断機(SP1600、Leica)で薄切してプレパラートに封入した。検鏡には光学顕微鏡(Imager A1、Zeiss)を使用し、顕微鏡像をCMOSカメラ(AdvanCam-CTR20、AdvanView)で撮影した。

4 同定結果

目以下の分類群まで同定できた出土焼骨を第7表、遺構・層別の同定資料数(NISP: number of identified specimens)と最小個体数(MNI: minimum number of individuals)を第8表にまとめた。また、調査担当者が付した試料No.と点取り番号に準じた出土動物の内容を第9表として本稿末尾に示した。同定できた骨は全て哺乳類で、種の同定に至らなかった骨も、骨体の形状や骨質の性状から哺乳類に由来するものと思われた。肉眼形態学的方法で目以下の分類群まで同定された出土骨の主なものを写真1、組織学的方法で検討した試料とその組織像を写真2、比較現生標本の組織像を写真3に示した。

1) 肉眼形態学的方法による検討結果

(1) 7号竪穴建物焼骨(縄文後葉)

出土焼骨群の重量は609.9gで、鑑定した資料の大半が

この遺構に由来する。目以下の分類群まで同定されたのは、イノシシ14点(成獣の右頸骨・幼獣の左下頸骨の乳犬歯-乳臼歯部、幼獣の左下頸骨の乳臼歯部2点、幼獣の右下頸骨の乳臼歯部、若獣の下頸骨の切歯部・左右の前臼歯部・右第3後臼歯部(第3後臼歯未萌出)、幼獣の右下頸骨の圓節突起、若獣の右下頸骨の圓節突起、成獣の左下頸骨の圓節突起、若獣ないし成獣の左下頸骨の下頸角、幼獣の未咬耗臼歯冠片、若獣の右大腿骨の近位部、成獣の左脛骨の遠位部、成獣の第3/4中手骨ないし中足骨の遠位部)、シカ1点(左肩甲骨)、偶蹄目(イノシシ、シカ、カモシカ)の若獣の胸椎の椎体1点、中型食肉目(キツネ、タヌキ、イヌ、アナグマに相当する大きさ)の成獣の中手骨ないし中足骨の遠位部1点、計17点である。このうち、イノシシ幼獣の右下頸骨の圓節突起周辺とイノシシ成獣の左下頸骨の圓節突起周辺にカットマークが認められた。出土頸骨の歯は脱落ないし破損しており、歯冠が残存していたものは未萌出のイノシシ右第3後臼歯1点のみであった。イノシシの同定部位が頭部に偏っているが、これは、断片化した骨で同定可能な特徴を有する部位が頭骨に多いためかもしれない。種を同定できなかった骨には中型陸獣の四肢骨幹部が多く含まれており、それらがイノシシに由来する可能性は低くないと思われた。最小個体数は、イノシシ4体(幼獣2体、若獣1体、成獣1体)、シカ1体、中型食肉類1体であった。

(2) 8号竪穴建物焼骨(晚期前葉)

出土焼骨群の重量は7.3gで、シカ若獣の左脛骨の未癒合骨幹遠位部1点を同定した。

(3) 46号土坑焼骨(後期後葉)

出土焼骨群の重量は2.5gで、イノシシ成獣の第3ないし第4基節骨の近位部1点を同定した。

(4) 遺物包含層出土焼骨(1区3面、2区3面・4面、時期不詳)

出土焼骨群の重量は76.0gで、イノシシ若獣の左下頸骨(第4前臼歯・第1後臼歯部)、シカの右第2・3手根骨、シカ成獣の基節骨の近位部を同定した。

2) 組織学的方法による検討結果

(1) 3号竪穴建物焼骨(時期不詳)

出土焼骨群の重量は2.6gで、肉眼観察で種の同定が可能な骨は含まれていなかった。緻密骨片1点(写真2上左)を試料として組織学的検討を実施したところ、葉状骨(laminar bone/plexiform bone)と呼ばれるレンガ壁状の骨構造が確認された(写真2上右)。葉状骨はイノシシやシカ、カモシカなどの偶蹄類に顕著に発達する組織構造で、イヌやタヌキなどの食肉類やウサギ類にみられることがある(Mulhern and Ubelaker 2012)。試料において葉状骨が広い範囲に形成されており、骨質の厚さが2mm以上であり小型動物ではないと判断されたことから、試料はイノシシやシカなどの中型偶蹄類に該当すると思われたが、中型以上の食肉類である可能性も否定できない。葉状骨の他に二次オステオンとよばれる同心円状の層板構造がみられたならば、二次オステオンの面積やその内部にあるハバース管の面積を計測することでより詳細な動物種類の同定が可能であったが(Sawada et al. 2014)、本資料にはオステオンが認められなかった。

(2) 55号土坑焼骨(中期後葉)

出土焼骨群の重量は1.1gで、肉眼観察で種の同定が可能な骨は含まれていなかった。緻密骨片1点(写真2中左)を試料として組織学的検討を実施したところ、一次オステオンと思われるセメントラインのない同心円状の層板を伴う導管および非ハバース系の導管が緻密骨の主体をなす様相が確認された(写真2中右)。これらの導管は列状に並んでいるが、こうした導管の並び方はヒトにはみられず陸生哺乳類に出現するため、人獸鑑別の指標となる(Mulhern and Ubelaker 2012)。骨質の厚さが2mm以上で中型以上の陸生哺乳類と思われたが、動物分類を識別しうる特徴が乏しく、より詳細な種の推定は困難であった。

(3) 61号土坑焼骨(時期不詳)

出土焼骨群の重量は7.0gで、肉眼観察で種の同定が可能な骨は含まれていなかった。緻密骨片1点(写真2下左)を試料として組織学的検討を実施した結果、葉状骨が緻密骨の全面に広がる様相が確認された(写真2下右)。試料の骨質の厚さが2mm以上なので小型動物には

該当せず、葉状骨が顕著に発達していることからイノシシやシカ、カモシカなどの中型偶蹄類と思われた。

5 考察

1) 出土焼骨群の種組成

目以下の分類群まで同定できた動物骨について、全体を通して主体を占めるのはイノシシであり、同定資料数(NISP)の合計は16点、最小個体数(MNI)の合計は6体であった。次いでシカが多く(同定資料数4点、最小個体数3体)、1点のみであったが中型食肉目も含まれていた(キツネ、タヌキ、イヌ、アナグマに相当する大きさ)。肉眼形態学的方法では種を同定できなかった焼骨についても、組織学的方法により、イノシシやシカが含まれているとみなして矛盾のない結果が得られたことから、本遺跡における主要出土動物はイノシシとシカであると考えてよさそうである。イノシシやシカが卓越する動物相は本州の縄文時代遺跡に広く見られる様相であり(金子・牛沢 1982、西本 1991、新美 2010)、本遺跡の種組成も概ねこの傾向に沿ったものといえよう。

ただ、この種組成が植栗山根A遺跡における狩猟対象獣の内容を正しく反映しているのかについては、注意深く考える必要がある。出土動物は全てよく焼成しており、非焼骨は全くみられなかった。骨が焼成すると骨の内部の有機質が変性し、無機成分の結晶構造も変化する。このため、非焼骨が腐蝕や風化により消失してしまう環境であっても、焼骨は保存されやすい(Mays 1998)。日本列島には骨の残存に適さない地質環境が広がっており、焼骨しか出土しない遺跡があることについては多数の報告がある(山崎 2019)。植栗山根A遺跡においても、当初は非焼骨と焼骨の両方が存在したとしても、土中の統成作用で非焼骨が消失し、焼骨のみが遺残したとすれば、種組成の検討に際して、そのバイアスを考慮に入れる必要があろう。また、植栗山根A遺跡を形成した人々がなぜ動物骨を焼いたのか、焼かれた骨は狩猟された動物から無作為に選ばれたのか、それともイノシシやシカを選択的に焼いたのか、出土焼骨のもつ考古学的意味を明らかにする上で、更なる検討を要する問題である。

2) 烧骨の形成過程

骨は、焼成により色調が変化する。骨の焼成実験の蓄

積により、低い温度で焼成された骨は暗赤色や茶褐色を呈するが、焼成温度が高くなるにつれて黒色ないし灰青色となり、高温で強く焼成された骨は灰白色ないし白色化することが明らかにされている(Shipman et al. 1984、Nicholson 1993、Holden et al. 1995)。骨体が白色となる焼成温度は、Shipman et al. (1984)では約650°C以上、Holden et al. (1995)では800°C以上とされている。これらの知見に鑑みると、出土焼骨の大半が灰白色ないし白色であったことより、出土焼骨は650°C以上の高温で、おそらくは長時間にわたり焼かれたものと推察された。

また、上述したように、イノシシの下顎骨関節突起の周辺にカットマークが存在する骨が2点見つかったが、この部位は本郷(1991)が報告しているイノシシのカットマーク頻出部位の一つである。カットマークの存在は、これらの動物骨が解体された後に焼かれたことを示す証左といえよう。

6 まとめ

植栗山根A遺跡から出土した焼骨を肉眼形態学的方法と組織学的方法で検討した結果、イノシシとシカを主体とする種組成が確認された。また、骨体の色調から、650°C以上の高温で強く焼成されたものと推察された。

縄文時代の焼けた動物骨は、特に中期から晩期にかけて、中部高地や新潟地方などで多くの出土例が知られている(山崎 2019)。本例も、中部日本に広がっていた獣骨焼成の一環として位置付けられるものと思われる。

謝辞

出土焼骨の整理に際し、以下の新潟医療福祉大学生の助力を得た。記して感謝の意を表したい。池田彩華、菊地条太朗、栗川桃華、黒崎凜、小泉亮馬、千代初音、筑前滉太、松田和也、宮川遼愛、望月信吾、門田七海、山口あかり、渡邊咲希(五十音順、敬称略)。

文献

- Franck DL. 2008. Human and Non-Human Bone Identification: A Color Atlas. CRC Press.
- Barátsay L. 1993. Differential diagnosis of human and animal bone. In: Gruppe C and Garland AN. (eds.) Histology of Ancient Human Bone: Methods and Diagnosis. Springer, pp.79-94.
- Holden JL, Phakey PP, Clement JG. 1995. Scanning electron microscope observations of incinerated human femoral bone: a case study. Forensic Science International, 74: 17-28.
- Mays S. 1998. The Archaeology of Human Bones. Routledge.
- Mulhern DM and Ubelaker DH. 2012. Differentiating human from nonhuman bone microstructure. In: Crowder CM and Stout SD. (eds.), Bone Histology. CRC Press, pp. 109-134.
- Nicholson RA. 1993. A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. Journal of Archaeological Science, 20: 411-428.
- Sawada J., Kura T., Fukui J., bodo Y., Hirata K. 2014. Histomorphological species identification of tiny bone fragments from a Paleolithic site in the Northern Japanese Archipelago. Journal of Archaeological Science, 46: 270-280.
- Shipman P, Foster G, Schoeninger M. 1984. Burnt bones and teeth: an experimental study of colour, morphology, crystal structure and shrinkage. Journal of Archaeological Science, 11: 307-325.
- 金子浩昌・牛島百合子. 1982. 脊椎動物遺存体の分布密度. 勝塚出土の動物遺体. 千葉市立加曾利貝塚博物館, pp. 51-128.
- 澤田純明・奈良貞史・中嶋友文・齊藤慶史・百々幸雄・平田和明. 2010. 脊椎形態学的方法による骨小片の人獣鑑別: 東北北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析. Anthropological Science (Japanese Series), 118: 23-36.
- 新美倫子. 2010. 猪豚類相の変遷. 織文時代の考古学4 人と動物の関わり 合い・食料資源と生業相. 同社, pp. 131-148.
- 西本豊弘. 1991. 猪豚類遺存体に残された解剖痕の研究 -猪貝塚85区出土の獸骨をとおして-. 国立歴史民俗博物館研究報告, 29: 149-196.
- 松井草. 2008. 動物考古学. 京都大学出版社.
- 山崎健. 2011. 農耕開始期の動物考古学. 六一書房.

第7表 目以下まで同定できた出土動物骨

種名	和名	部位	成長段階	遺構/層	時期	備考
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の乳臼歯部	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の乳臼歯部	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の乳臼歯部	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	右下顎骨の乳臼歯部	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	右下顎骨の圓錐突起	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	カットマーク
Sus scrofa	イノシシ	臼歯の冠片	幼獣	7号堅穴建物	晩期前葉	未萌出
Sus scrofa	イノシシ	下顎骨の左右の切歎部と前臼歯部、右第3後臼歯部	若獣	7号堅穴建物	晩期前葉	第3後臼歯未萌出
Sus scrofa	イノシシ	右下顎骨の圓錐突起	若獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の下顎角	若~成熟	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	右大顎骨の近位部	若獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	右頸骨	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の圓錐突起	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	左脛骨の遠位部	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	第3/4中手骨ないし中足骨の遠位部	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Sus scrofa	イノシシ	第3/4基節骨の近位部	成獣	46号土坑		
Sus scrofa	イノシシ	左下顎骨の第4後臼歯と第1後臼歯部	若獣	遺物包含層(2区4面)		
Cervus sp.	シカ	左肩甲骨と肩甲棘	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Cervus sp.	シカ	左脛骨の遠位部	若獣	8号堅穴建物	晩期前葉	カットマーク
Cervus sp.	シカ	右第2・3手根骨	若~成熟	遺物包含層(2区4面)		
Cervus sp.	シカ	基節骨の近位部	成獣	遺物包含層(2区4面)		
Ariodactyla	偶蹄目	胸椎の椎体	若獣	7号堅穴建物	晩期前葉	
Carnivora	中型食肉目	中手骨ないし中足骨の遠位部	成獣	7号堅穴建物	晩期前葉	

第8表 目以下まで同定できた出土動物骨の同定資料数(NISP)と最小個体数(MNI)

	7号堅穴建物		8号堅穴建物		46号土坑		遺物包含層		合計	
	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI	NISP	MNI
イノシシ	14	4			1	1	1	1	16	6
シカ	1	1	1	1			2	1	4	3
偶蹄目	1	-							1	-
中型食肉目	1	1							1	1



写真1 目以下まで同定できた動物骨(1:イノシシ臼歯の歯冠片(幼獣)、2・3:イノシシ右下顎骨の関節突起(2:若獣、3:幼獣)、4:イノシシ右下顎骨の乳臼歯部(幼獣)、5・6:イノシシ左下顎骨の乳臼歯部(幼獣)、7:イノシシ左下顎骨の乳臼歯-乳臼歯部(幼獣)、8:イノシシ下顎骨の左右の切歯部(a)と前臼歯部(b, c)および右第3後臼歯部(d)(若獣)、9:イノシシ左下顎骨の関節突起(成獣)、10:イノシシ左下顎骨の下顎角(若~成獣)、11:イノシシ右頸骨(成獣)、12:偶蹄目胸椎の椎体(若獣)、13:シカ左肩甲骨の関節窩と肩甲棘(成獣)、14:イノシシ右大脛骨の近位部(若獣)、15:イノシシ左脛骨の遠位部(成獣)、16:イノシシ第3/4中手骨ないし中足骨の遠位部(成獣)、17:中型食肉目の中手骨ないし中足骨の遠位部(成獣)、18:シカ左脛骨の遠位部(若獣)、19:イノシシ第3/4基節骨の近位部(成獣)、20:イノシシ左下顎骨の第4前臼歯・第1後臼歯部(若獣)、21:シカ右第2・3手根骨(若~成獣)、22:シカ基節骨の近位部(成獣)

(1～17:7号竪穴建物出土、18:8号竪穴建物出土、19:46号土坑出土、20～22:遺物包含層(2区4面)出土、スケールバー:2 cm)

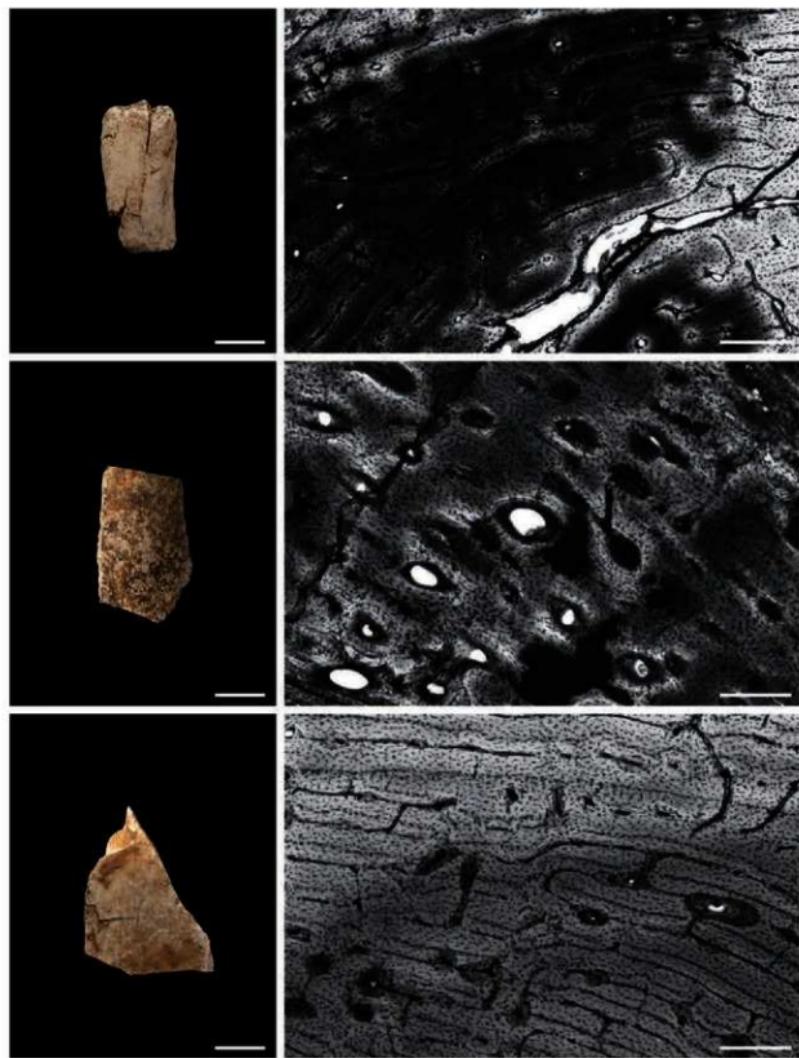


写真2 烧骨試料と組織像(上：3号竪穴建物焼骨、中：55号土坑焼骨 下：61号土坑焼骨)

(焼骨試料のスケールバー：5mm、組織像のスケールバー：200 μ m)

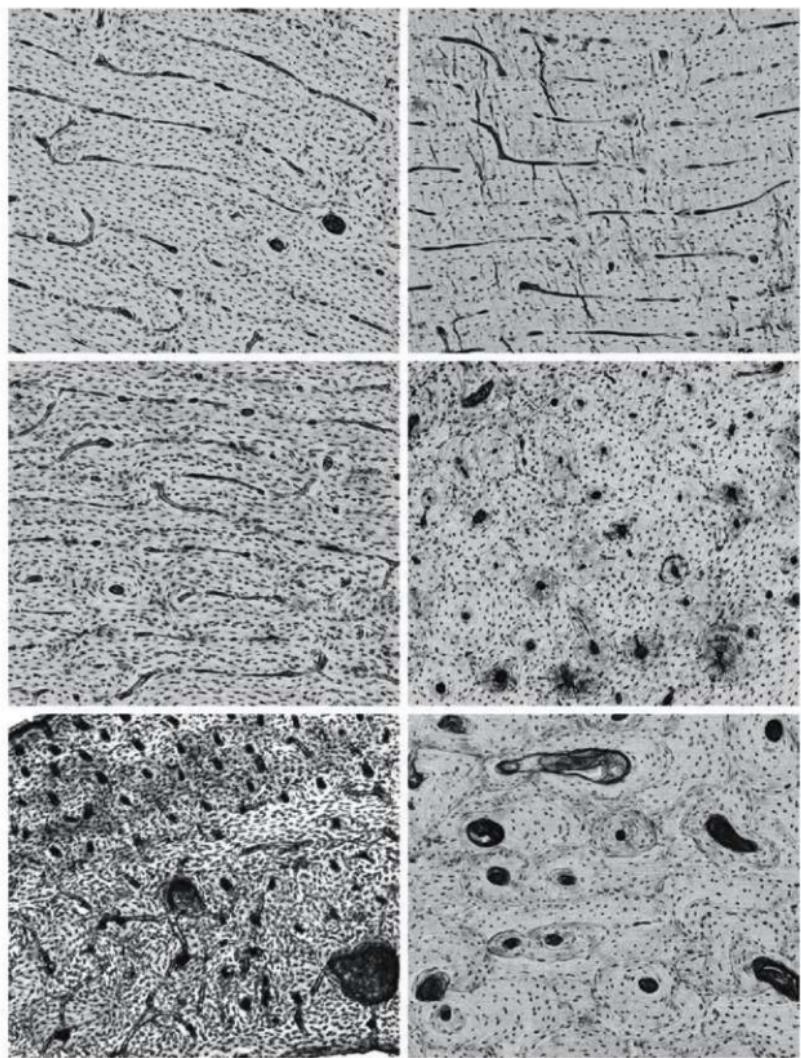


写真3 比較現生標本の組織像(左上：イノシシの葉状骨、右上：シカの葉状骨、左中：カモシカの葉状骨、右中：イヌの二次オステオン、左下：ウサギの一次オステオンと二次オステオン、右下：ヒト(成人)の二次オステオン。縮尺は写真2の組織像と同じ)

第9表 試料No.・点取り番号別の同定結果

道標	試料No.	点取り番号	区	出土骨重量(g)	時期	觀察方法	同定結果・所見
3号墳穴建物	-	-	2K	2.6	不詳	組織像	イノシシやシカなどの中型偶蹄類と思われた
7号墳穴建物	61018	405-1	2K	12.3	晩期前葉	肉眼	シカ左肩甲骨の肩甲棘(成獣)、点取り番号405-1と405-3は同一骨
7号墳穴建物	61018	405-2	2K	2.5	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61018	405-3	2K	5.7	晩期前葉	肉眼	シカ左肩甲骨の圓節窓(成獣、関節窓癒合)、点取り番号405-1と405-3は同一骨
7号墳穴建物	61018	405-4	2K	3.9	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61018	405-5	2K	4.3	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61018	405-6	2K	0.9	晩期前葉	肉眼	
2号墳穴建物	61019	406	2K	5.5	晩期前葉	肉眼	イノシシ左下顎骨の圓節突起(成獣、カットマーク)
7号墳穴建物	61020	407	2K	3.5	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61021	408	2K	4.6	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61022	409	2K	3.6	晩期前葉	肉眼	イノシシ右下顎骨の圓節突起(若齢)
7号墳穴建物	61023	410	2K	3.7	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61024	556	2K	5.4	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61025	557	2K	2.6	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61026	558	2K	2.8	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61027	559	2K	4.9	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61028	560	2K	2.2	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61029	785	2K	26.5	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61030	786	2K	95.0	晩期前葉	肉眼	イノシシ右大顎骨の近位部(若齢、骨端未癒合)
7号墳穴建物	61031	787	2K	38.7	晩期前葉	肉眼	同一個体に由来するイノシシ下顎骨の左右の切歯部、左右の臼白歯部、右第3後臼歯部(若齢、第3後臼歯未萌出)
7号墳穴建物	61032	788	2K	8.5	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61033	789	2K	11.0	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61034	790	2K	4.1	晩期前葉	肉眼	イノシシ第3/4中手骨ないし中足骨の遠位部(成獣、骨端癒合)
7号墳穴建物	61035	791	2K	3.8	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61036	893	2K	29.8	晩期前葉	肉眼	イノシシ右肩骨(成獣)
7号墳穴建物	61037	900	2K	26.7	晩期前葉	肉眼	イノシシ左下顎骨の下顎角(若~成獣)
7号墳穴建物	61038	-	2K	1.4	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61039	-	2K	24.2	晩期前葉	肉眼	
7号墳穴建物	61040	-	2K	62.3	晩期前葉	肉眼	イノシシ未吸耗臼歯の歯冠部(幼齢)、中型食肉類の中手骨ないし中足骨の遠位部(成獣、骨端癒合)
7号墳穴建物	61041	-	2K	71.4	晩期前葉	肉眼	偶蹄類胸椎の椎体(若齢、未癒合)
7号墳穴建物	61042	-	2K	132.3	晩期前葉	肉眼	イノシシ左脛骨の遠位部(成獣、骨端癒合)、イノシシ左下顎骨の乳大歯・乳臼歯部(幼齢)、イノシシ右脛骨の圓節突起(幼齢、カットマーク)
7号墳穴建物	-	616	2K	0.3	晩期前葉	肉眼	
2号墳穴建物	-	-	2K	5.5	晩期前葉	肉眼	
8号墳穴建物	61043	-	2K	7.3	晩期前葉	肉眼	シカ左脛骨の遠位部(若齢、骨端未癒合)
46号土坑	61044	-	2K	2.5	後期後葉	肉眼	イノシシ第3/4基節骨の近位部(成獣、骨端癒合)
55号土坑	61045	12	2K	1.1	中期後葉	組織像	中型の胎生哺乳類
61号土坑	61046	-	2K	7.0	不詳	組織像	イノシシやシカなどの中型偶蹄類と思われた
3面	-	-	1K	3.6	不詳	肉眼	
3面	-	-	2K	4.6	不詳	肉眼	
4面	61047	-	2K	66.5	不詳	肉眼	イノシシ左下顎骨の第4前臼歯・第1後臼歯部(若齢)、シカ右第2・3手根骨(若~成獣)、シカ基節骨の近位部(成獣、骨端癒合)
4面	-	-	2K	1.3	不詳	肉眼	

第3節 火山灰分析

(株)火山灰考古学研究所

1. はじめに

群馬県山間部の中之条盆地とその周辺には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山碎屑物、火碎物)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(たとえば町田・新井, 2011)などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、考古学的な遺物包含層や遺構の年代などに関する情報を得られるようになっている。

東吾妻町植栗山根A遺跡においても、層位や年代が不明な遺構などが検出されたことから、野外調査(地質調査)を実施して、土層やテフラ層の層序記載ならびに高純度での分析試料の採取を行った。さらに、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、指標テフラの検出同定を実施した。調査分析の対象は、1区南壁、1区北壁、2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面の3地点である。

2. 調査分析地点の土層層序

(1) 1区南壁

1区南壁では、下位より暗褐色泥層(層厚14cm, 12層)、基底部0.2cmが黄色をおびたやや青みがかった灰色細粒火山灰層(層厚5cm, 11-3層)、亜角礫を多く含む土石流堆積物(層厚24cm, 磚の最大径613mm, 11-2層)、砂混じり青灰色凝灰質シルト層(層厚7cm)、青灰色砂層(層厚3cm)、砂混じり青灰色凝灰質シルト層(層厚4cm, 以上11-1層)、青灰色細粒火山灰ブロック混じり灰色泥層(層厚7cm, 10層)、植物遺体を含む暗灰褐色泥層(層厚22cm, 9層)、褐色泥ブロックを含む灰色シルト層(層厚16cm, 8層)、亜円礫混じり灰色砂層(層厚6cm, 磚の最大径5mm, 7層)、黒灰色泥層(層厚7cm, 6層)、成層したテフラ層(層厚3cm, 5層)、暗灰色泥層(層厚0.8cm,

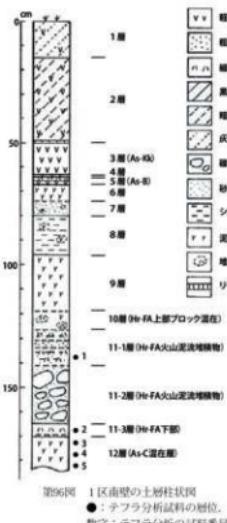
4層)、褐灰色軽石層(層厚11cm, 軽石の最大径16mm, 石質岩片の最大径9mm, 3層)、リモナイト層(層厚0.8cm)、褐灰色軽石混じり暗灰色土(層厚35cm, 軽石の最大径13mm, 2層)、褐灰色軽石混じりでやや暗い灰色表土(層厚15cm, 軽石の最大径8mm, 1層)が認められた(第96図)。

このうち、成層したテフラ層(5層)は、下部の褐灰色軽石層(層厚2cm, 軽石の最大径22mm, 石質岩片の最大径11mm)と、上部の灰色砂質細粒火山灰層からなる。このテフラ層は、層位や層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。また、そのまま上位の褐灰色軽石層(3層)は、層位や層相から1128(大治3)年に浅間火山から噴出したと考えられている浅間船川テフラ(As-Kk, 早田, 1991, 1996, 2004)に同定される。

(2) 1区北壁

1区北壁で検出された溝の覆土およびその上位の土層は、下位より暗褐色泥炭層(層厚31cm以上)、青灰色細粒火山灰層(層厚5cm)、比較的細粒の灰色土石流堆積物(層厚8cm, 磚の最大径32mm)、逆級化構造をもつ青灰色砂層(層厚8cm)、白色軽石混じり青灰色砂層(層厚1cm, 軽石の最大径8mm)、青灰色砂層(層厚4cm)、正の級化構造をもつ青灰色砂層(層厚3cm)、磧混じりで葉理が発達した黄灰色砂層(層厚4cm, 磚の最大径12mm)、青灰色シルト質砂層(層厚4cm)、暗灰褐色泥質砂層(層厚0.3cm)、青灰色シルト質砂層(層厚2cm)、暗灰色泥質砂層(層厚0.2cm)、砂混じりでかすかに成層した青灰色凝灰質シルト層(層厚19cm)、青灰色砂層(層厚3cm)、青灰色シルト質砂層(層厚6cm)、葉理が発達した黄灰色砂層(層厚5cm)、葉理が発達した青灰色砂質シルト層(層厚8cm)、かすかに成層した暗褐色泥炭層(層厚10cm)からなる(第97図)。

さらに、その上位に青みがかった灰白色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)、暗灰褐色泥層(層厚0.1mm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.1cm)、暗灰褐色泥層(層厚0.7cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、灰色泥質砂層(層厚9cm)、暗灰褐色泥層(層厚0.3cm)、灰色シルト層(層厚4cm)、灰色砂層(層厚0.3cm)、かすかに成層した灰色泥層(層厚3cm)、灰色砂層(層厚0.3cm)、やや暗い灰色泥層(層厚4cm)、暗灰色泥層(層厚0.6cm)、葉理が発達した灰色



第996図 1区南壁の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位、
数字：テフラ分析の試料番号。

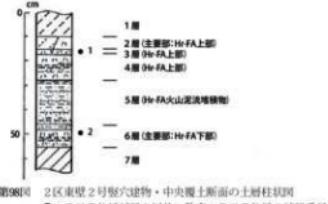
砂層(層厚1cm)、葉理が発達した灰色砂質泥層(層厚3cm)、葉理が発達した黄灰色砂層(層厚5cm)、黒灰色泥層(層厚0.5cm)、灰色泥層(層厚17cm)、黄色砂層(層厚3cm)、砂混じり灰色泥層(層厚10cm以上)が認められた。

(3) 2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面

2区東壁2号竪穴建物の中央覆土断面では、下位より黒灰褐色土(層厚10cm以上、7層)、黄色細粒火山灰層(層厚3cm)、黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)、白色細粒軽石混じり黄灰色細粒火山灰層(層厚3cm)、黄灰色砂質シルト層(層厚3cm、以上6層)、葉理が発達した灰色砂層(層厚2cm)、下半に葉理が発達し、上半がかすかに成層した灰色砂質シルト層(層厚10cm)、ごくわずかに成層した砂混じり灰色シルト層(層厚9cm)、わずかに桃色をおびた灰色シルト層(層厚1cm、以上5層)、緑灰色細粒火山灰層(層厚3cm)、最下部0.2cmがやや粗い緑灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、最下部0.3cmがやや粗い緑灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、桃灰色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、白色軽石混じり緑灰色細粒火山灰層(層厚2cm、軽石の最大径20mm、以上4層)、白色粗粒火山灰混じり桃色細粒火山灰層(層厚2cm、3層)、黄灰色細粒火山灰層(層厚8cm)、黄灰色土(層厚8cm、以上2層)、暗灰褐



第997図 1区北壁の土層柱状図



第998図 2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析の試料番号

色土(層厚10cm以上)が認められた(第998図)。
なお、6層の最上部と5層の詳細について考察部に述べる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

1区東壁および2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面で認められたテフラ層や、野外において肉眼で見えないクリプト・テフラの検出を目的として、2地点で採取された7試料

を対象に、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の含有率に応じて試料5~8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

1) 検出されたテフラ粒子の特徴

テフラ検出分析の結果を第10表に、特徴的なテフラ粒子を含む試料の写真を図版に示す。テフラ検出分析の結果、おもに次の5種類の軽石や火山ガラスを検出できた。

- タイプ a : 無色透明のバブル型ガラス。
- タイプ b : 無色透明、淡灰色、淡褐色の分厚い中間型ガラス。
- タイプ c : 白色や無色透明のスポンジ状や織維束状の軽石型ガラス。
- タイプ d : 灰白色の細粒軽石(最大径2.1mm)やスポンジ状軽石型ガラスで、斜方輝石や單斜輝石を伴う。
- タイプ e : 白色の軽石(最大径4.4mm)や、白色、灰白色、灰色のスポンジ状軽石型ガラス。斑晶には角閃石や斜方輝石が認められる。

第10表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石		火山ガラス	重鉱物	種・Vf片		
		量	色調			(不透明鉱物以外)量	最大径	
1区南壁	1	*	pm (sp)	白	am, opx	*	1.8mm	
	2	(*)	白 2.4mm	** pm (sp)	白, 灰白>灰	am, opx	*	1.8mm
	3	(*)	灰白 2.1mm	(*) pm (sp, fb), bw	灰白, 白, 無色透明	opx, am, cpx	*	1.2mm
	4	(*)	灰白 2.1mm	* pm (sp, fb), wd, bw	灰白, 白, 無色透明	opx, am, cpx	(*) 0.8mm	
	5	*	ad, pm (sp), bw	無色透明, 灰, 調滑, 灰白	opx, cpx, am	*	2.3mm	
2区東壁 2号竪穴建物 ・中央覆土断面	1	**	白 4.6mm	** pm (sp)	白, 灰白	am, opx	*	3.2mm
	2	*	白 2.0mm	** pm (sp)	白, 灰白	am, opx	*	1.0mm

****:多くに多い。***:多い。**:中程度。*:少しない。():多くで少ない。

bw:バブル型, ad:中間型, pm:軽石型, sp:スボンジ状, fb:纖維状, sc:スコリア型。

ol:カランラン石, opx:斜方輝石, cpx:單斜輝石, am:角閃石, ht:黒雲母。重鉱物の():量が非常に少ないと示す。

2) 分析地点でのテフラの産状

1区南壁の試料5では、タイプa～dの火山ガラスが少量認められる。不透明鉱物以外の重鉱物(以降、重鉱物)としては、斜方輝石、单斜輝石、角閃石が含まれている。礫や岩片は少量で、その最大径は2.3mmである。試料4～3でも、タイプa～dの火山ガラスが少量認められ、ほかにタイプdの軽石も含まれている。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、单斜輝石が含まれている。礫や岩片はごく少量で、その最大径は0.6mmである。

試料2にはタイプeの火山ガラスが比較的多く、ほかに軽石がごく少量含まれている。重鉱物は角閃石と斜方輝石で、少量含まれる礫や岩片の最大径は1.8mmである。試料1にもタイプeの火山ガラスが含まれているものの、その量はごくわずかである。重鉱物は角閃石と斜方輝石で、少量含まれる礫や岩片の最大径は1.8mmである。

2区東壁 2号竪穴建物・中央覆土断面の試料2では、タイプeの軽石が少量、また火山ガラスが比較的多く認められる。重鉱物は角閃石と斜方輝石で、少量含まれる礫や岩片の最大径は1.0mmである。試料1ではタイプeの軽石や火山ガラスが比較的多く認められる。重鉱物は角閃石と斜方輝石で、少量含まれる礫や岩片の最大径は3.2mmである。両者を比較すると、含まれるテフラ粒子の構成はよく似ているものの、上位にある後者の方が粗粒である。

4. 考察

(1) テフラ粒子やテフラ層の由来

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、タイプaのテフラは、岩相から約2.8～3万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2011など)に由来すると考えられる。

タイプbおよびタイプcのテフラは、岩相から約2万

年前頃の噴出年代をもつ浅間大窪沢1テフラ(As-0k1)および浅間大窪沢2テフラ(As-0k2, 以上中沢ほか, 1984, 早田, 2019など)、さらに約1.65～1.5万年前の噴出年代をもつ浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2011など)で代表される浅間火山軽石流期(荒牧, 1968)に由来する可能性が高い。そのほかに、後期更新世末期～完新世中期にかけて浅間火山から噴出したテフラ粒子に由来する可能性もある。

タイプdのテフラは、火山ガラスの岩相や重鉱物の組み合わせから、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間Cテフラ(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010, 町田・新井, 2011)と考えられる。また、タイプeのテフラは、火山ガラスの岩相や重鉱物の組み合わせから古墳時代の榛名系テフラと考えられる。可能性のある3層のテフラのうち、今回の分析の対象となった試料に含まれるものは、採取層準の層相を合わせると、6世紀初頭の榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)と考えられる。Hr-FAの堆積状況は、2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面でもっとも良い。後述する水成堆積物の上下にHr-FAが認められることから、便宜的にHr-FA下部・上部と呼ぶことにする。

1区北壁において、Hr-FAより上位に認められた灰白色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)は、層位や岩相から6世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)の最上部(I₁₉: Soda, 1996)と考えられる。その上位の青灰色細粒火山灰層(層厚0.1cm)や青灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)についてはHr-FPの再堆積層の可能性もあるが、比較的高純度であることから一連の噴火活動に由来するもので、Hr-FPの最終段階に比較的長期間噴火活動が続いたことを示唆するものかも知れない。

(2) Hr-FAに挟在される水成堆積物について

Hr-FAに挟在される水成堆積物は、1区において土石流堆積物、2区南部において泥流堆積物、そして2区北部の豊穴建物覆土中で洪水堆積物の様相を呈し、全体として高度低下とともに細粒化する傾向にある。

2区東壁2号豊穴建物の中央覆土断面の6層のうち、最上位の黄灰色砂質シルト層に関しては、初見の段階で、下位の他の火山灰層のように凝灰質で、降下火山灰層の可能性が考えられた。しかしながら、本堆積物は側方へ層厚が漸減し、豊穴建物縁辺部では認められなかった。このように、mantle beddingの堆積状況が認められないと、gas segregation pipe構造が認められないこと、炭化物が含まれていないことなどから、この堆積物は水流に伴う堆積物と考えられる。

その上位の5層についても、下部に流れの堆積物を伴う細粒の堆積物であることや、接する4号豊穴建物覆土の同層準に炭化物が含まれていたことから、調査のごく初期の段階において、火碎流由来の灰岩サージ堆積物とそれを覆う灰岩からの降下火山灰層の組み合わせの可能性が考えられた。しかしながら、4号豊穴建物覆土中の炭化物はHr-FA降灰以前に焼失した家屋の材で、5層が堆積時に高温であったことを示すものではなかった。また、2号豊穴建物の覆土中のそれと同様に、5層相当層中にはgas segregation pipe構造が認められなかった。さらに、2号豊穴建物の中央覆土断面の5層主体部の細粒部には、平行葉理が細かく発達していて、火山豆石や、火山豆石間の空隙の痕跡である小孔群も認められなかった。さらに、2号豊穴建物の上流側に位置する南部覆土断面では、5層の層厚が減少してmantle beddingが認められないだけでなく、5層が粗粒で、ほぼ全体に斜交葉理が発達していた。

以上のことから、5層に関しては斜面上方からの水流に伴うもので、1区においてHr-FA下部を覆って堆積した土石流の流下により押し出された河川の流水、あるいは土石流の堆積に伴って流路が変化した河川の流水による泥流・洪水堆積物、つまり広義のHr-FA火山泥流堆積物と考える。

なお、この点に関してより詳細な検討が必要な際には、テフラ組成分析などで堆積物に含まれる粒子の由來に関して詳細な検討が実施されると良い。

5.まとめ

東吾妻町植栗山根A遺跡において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。その結果、浅間Cテフラ(As-C、3世紀後半)に由来するテフラ粒子のほか、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-PP、6世紀中葉)、浅間Bテフラ(As-B、1108年)、浅間柏川テフラ(As-Kk、1128年)の一次堆積テフラ層などを認ることができた。発掘調査で検出された2号豊穴建物の層位は、Hr-FAより下位にある。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年、群馬大学紀要自然科学編、10, p.1-79.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縦文時代以降の示標テフラ層、考古学ジャーナル、no.53, p.41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間大山の地質、地図研究報専、no.14, p.1-45.
 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-始良Im火山灰の発見とその意義、科学、46, p.339-347.
 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺(第2刷)」、東京大学出版社、336p.
 中沢秀俊・遠藤邦彦・新井房夫(1984)浅間火山、黒斑-前掛期のテフラ層序、日本第四紀学会講演要旨集、no.14, p.69-70.
 坂口一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の上層泥と須恵器、群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」、p.103-119.
 坂口一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向-中居町一丁目道路222の水田耕作地と周辺集落との関係-、群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」、p.17-22.
 早田 勉(1980)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害、第四紀研究、27, p.297-312.
 早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち、佐久考古通信、no.53, p.2-7.
 早田 勉(2004)火山編年学からみた浅間火山の噴火史-とくに平安時代の噴火について-、かみつけの里博物館編「1108-浅間火山-中世への動向」、p.45-56.
 早田 勉(1996)関東地方-東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とに御岳第1テフラより上位のテフラについて-、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書、no.7, p.256-267.
 早田 勉(2019)北関東地方西部における胆石器時代の火山噴火と環境変化、令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集、p.19-25.
 Soda, T. (1996) Explosive activities of Baruna Volcano, and their impacts on human life in the six-th century A.D. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., no.31, p.37-52.

植栗山根A遺跡火山灰分析写真図版 1



写真1 1区南壁下部

Hr-FA下部を覆うHr-FA火山泥流堆積物。



写真2 1区南壁上部

ねじり鎌の刃部：下位より As-B と As-Kk.



Hr-FA下部

Hr-PP

Hr-FA火山泥流堆積物

写真3 1区北壁

Hr-FAを覆うHr-FA火山泥流堆積物とHr-PP.

植栗山根A遺跡火山灰分析写真図版2



写真4 1区北壁

3度降灰した可能性がある Hr-FP.



写真5 2区東壁 2号竪穴建物・中央覆土断面

Hr-FA 火山泥流堆積物を挟在する Hr-FA.



写真6 2区東壁 2号竪穴建物・南部覆土断面

Hr-FA 火山泥流堆積物を挟在する Hr-FA.

植栗山根A遺跡火山灰分析写真図版 3

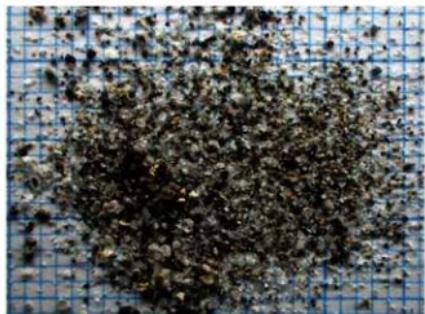


写真7 1区南壁・試料4（落射光）

As-Cに由来する灰白色の軽石やスponジ状軽石型ガラスを少量含む。重鉱物には斜方輝石、角閃石、輝石が認められる。背景は1mmメッシュ。

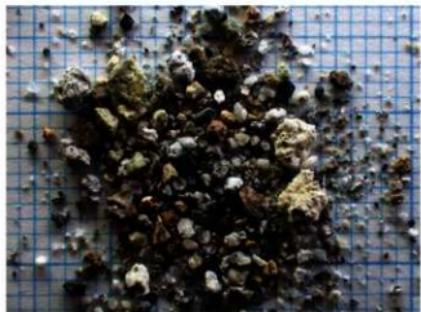


写真8 2区東壁2号堅穴建物・試料1（落射光）

白色軽石のほか、白色や灰白色のスponジ状軽石型ガラスを比較的多く含む。重鉱物には、角閃石や斜方輝石が認められる。背景は1mmメッシュ。

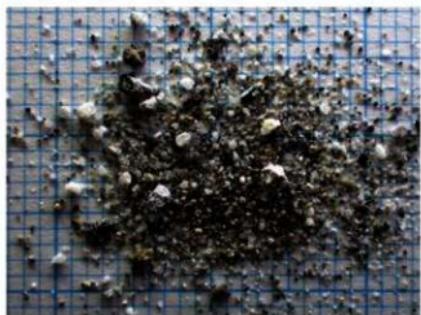


写真9 2区東壁2号堅穴建物・試料2（落射光）

白色軽石のほか、白色や灰白色のスponジ状軽石型ガラスを比較的多く含む。重鉱物には、角閃石や斜方輝石が認められる。背景は1mmメッシュ。

第4節 植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

植栗山根A遺跡(吾妻郡東吾妻町大字植栗地内)は、榛名山の北側、吾妻川によって形成された河岸段丘上に立地する。今回の発掘調査では、新井(1979)の榛名二ツ岳渋川テフラ(以下、FA)の泥流堆植物下位より、豊穴住跡や小区画水田などが検出されている。

本分析では、FAの降下堆積以前の土地利用、特に小区画水田での栽培植物の検討および小区画水田が未検出であった領域との比較を行う。また、上位には浅間Bテフラ(以下、As-B)が確認されていることから、降灰以前の土地利用についても検討する。なお、これらの分析目的について、植物珪酸体分析を実施して検討する。

1. 試料

分析試料の採取地点は、調査区南壁の中央付近(1地点)と、同調査区の北東隅付近(2地点)の2箇所である。1地点はFA泥流の下位より小区画水田が検出された領域にあたり、2地点は1地点において小区画水田が検出された黒色砂質シルトの堆積がみられるものの、明瞭な畦畔が確認されなかった領域にあたる。

分析試料は、上述した分析目的と担当者の指示に基づき、1地点からAs-Bの下位に認められた黒色シルト～粘土(サンプル1)と、FA泥流下位の小区画水田の耕土に相当すると考えられる黒色砂質シルト(サンプル2)を、2地点からFA泥流下位に堆積する黒色砂質シルト(サンプル3)の3点を採取し、分析に供している。

2. 分析方法

各試料を5g前後(湿重)で秤量する。次に過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)

の葉部短細胞に由來した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体)および葉身機動細胞に由來した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体)を、近藤(2010)の分類を参考に同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個体以下は<100で表示する。各分類群の含量は10の位で丸める(100単位にする)。なお、今回は杉山(2000)を参考として主な分類群の推定生産量(kg/m²・cm)を求める。推定生産量は機動細胞珪酸体の含量(個/g)に土壤の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個体当たりの植物体乾重:単位:10⁻⁵g)をかけて、面積1m²で層厚1cm当たりの植物体の生産量を求めたものである。分類群の換算係数は、イネ属(赤米の地上部)が2.94、クマザサ属(チマザサ節などとして)が0.75、メダケ属(ネザサ節として)が0.48、ヨシ属が6.31、スキ属が1.24を用いる。この結果も表中に併記する。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

3. 結果

結果を第11表と第99図に示す。3試料からは、植物珪酸体が検出される。その保存状態は概ね悪い。

FA泥流下位試料のうち、1地点のサンプル2は植物珪酸体含量が49,500個/gであり、栽培植物のイネ属が産出する。その含量は、短細胞珪酸体が300個/g、機動細胞珪酸体が3,900個/gである。また短細胞も僅かに検出される。この他にクマザサ属やメダケ属を含むタケア科、ヨシ属、コブナグサ属、スキ属、イチゴツナギア科などが見られ、ヨシ属の産出が目立つ。また推定生産量(kg/m²・cm)もヨシ属がイネ属よりも多い。

一方の2地点のサンプル3は植物珪酸体含量が少なく、4,800個/gである。イネ属は、産出しない。この他に見られる分類群は含量が少ないものの、1地点と同様であり、また、ヨシ属の産出が多い。

As-B下試料の1地点のサンプル1は植物珪酸体含量が67,700個/gである。イネ属が産出し、短細胞珪酸体が500個/g、機動細胞珪酸体が1,800個/gである。またサ

第11表 植物珪酸体含量

分類群	1地点		2地点
	A s-B下 1	FA下 2	FA下 3
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	500	300	-
クマザサ属	500	600	-
メダケ属	700	300	-
タケ亜科	3,800	2,500	300
ヨシ属	17,700	4,200	700
コブナグサ属	2,300	800	300
イチゴナギ亞科	500	-	200
不明	17,000	17,800	1,800
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	1,800	3,900	-
クマザサ属	500	1,100	<100
メダケ属	900	600	-
タケ亜科	2,500	1,100	200
ヨシ属	7,900	3,900	700
不明	11,300	12,500	600
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	42,800	26,400	3,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体	24,900	23,100	1,500
植物珪酸体含量	67,700	49,500	4,800
単位面積(幅厚1cm)当たりの植物体生産量(単位:kg/m ² ・cm)			
イネ属	0.53	1.14	-
クマザサ属(シマザサ節などとして)	0.03	0.08	0.00
メダケ属(ネザ節として)	0.04	0.03	-
ヨシ属	5.00	2.46	0.44
柱状組織片			
イネ属短細胞列	*	-	-
イネ科起源(その他)			
棒状珪酸体	**	**	*
長細胞起源	*	*	-
毛細胞起源	**	*	*

1) <100:100個/g未満

2) -:未検出、*:含有、**:多い

ンブル2と同様な分類群が見られ、ヨシ属の産出が目立つ。推定生産量(kg/m²・cm)もヨシ属が多い。

なお、これら3試料ではイネ科起源(棒状珪酸体、長細胞起源、毛細胞起源)も見られる。ただし、由来となった分類群は明確にならない。

4. 考察

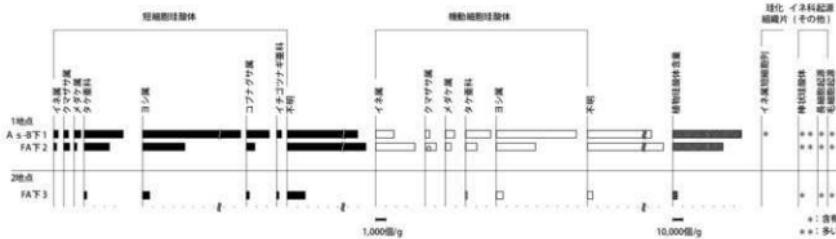
(1) 栽培植物について

F A泥流下位の小区画水田が検出された1地点では、黒色砂質シルト(サンプル2)からイネ属が産出した。その含量は、機動細胞珪酸体が多く、3,900個/gであった。安定した稲作が行われた水田跡の土壤では栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壤中に蓄積され、植物珪酸体含量(植物珪酸体密度)が高くなる。水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(機動細胞由来)が試料1g当たり5,000個以上の密度で検出された

場合には、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている(杉山, 2000)。ただし、3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例もあり、これを判断の基準とする場合もある(株式会社古環境研究所, 2007)。この事例と比較すれば、サンプル2の機動細胞珪酸体含量は同等であり、稲作が行われていた可能性を支持する結果と言える。また、湿润な場所に生育するヨシ属が多い点を考慮すれば、湿地を利用した水田稲作であったと考えられる。

これに対して、畦畔が検出されなかった2地点では黒色砂質シルト(サンプル3)からイネ属が産出しなかった。今回の産状を見る限り、2地点での稲作の可能性は考えにくい。ただし、ヨシ属の産出が多いことから、湿润な場所が2地点付近にも広がっていたことが想定される。

一方、As-B下位の黒色シルト～粘土(1地点:サンプ



第99図 植物珪酸体含量

ル1)からはイネ属が産出した。前述の事例と比較すれば、機動細胞珪酸体が1,800個/gであり、含量が少ないと言える。今回の産状を見る限り、稲作が行われた可能性を積極的に支持することは難しい。ただし、生産量が少なかったことや耕作期間が短かったこと、土層の堆積速度が早かったなどの要因により土層中にイネ属の植物珪酸体が蓄積しにくい状態にあったとも考えられ、そのためにはイネ属の産出が悪くなった可能性も想定される。なお、稲作が行われていたとすれば、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出から、湿地を利用した水田域であったと思われる。

(2) 古植生

F Aの降灰以前については、1地点と2地点でヨシ属が目立つことから、ヨシ属などの生育する湿潤な場所であったと考えられる。またタケ亜科、コブナグサ属、ススキ属なども周辺に生育していたと考えられる。タケ亜

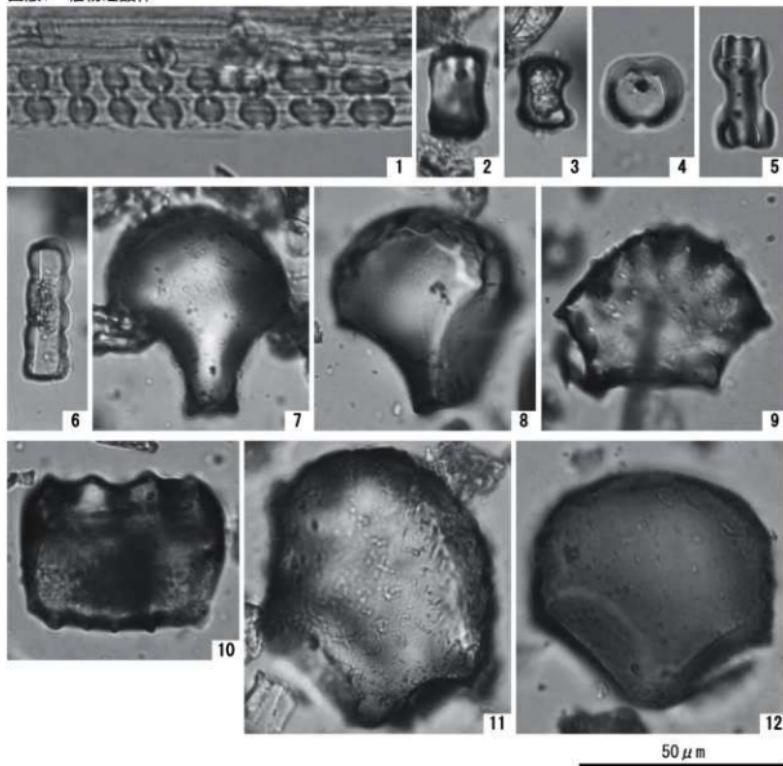
科には、クマザサ属やメダケ属も見られたと思われる。

一方、As-Bが降灰する以前についてもヨシ属の産出が目立つことから、F A降灰以前と同様に湿潤な場所であったと考えられる。またヨシ属をはじめとしてタケ亜科、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科なども調査区内や周辺に生育していたと考えられる。タケ亜科には、クマザサ属やメダケ属も見られたと思われる。

引用・参考文献

- 新井房夫, 1979, 開東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層, 考古学ジャーナル, 137, 41-52.
- 株式会社古環境研究所, 2007, 付編 石間西田道路跡Ⅲの自然科学分析, 石間西田道路Ⅲ 市道00-061号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 7p.
- 近藤謙三, 2010, プラント・オバール園譜, 北海道大学出版会, 387p.
- 杉山真二, 2000, 植物珪酸体(プラント・オバール), 訳 誠一郎(編著)考古学と自然科学3 考古学と植物学, 同成社, 189-213.

図版1 植物珪酸体



1. イネ属短細胞列(1地点:1)
3. メダケ属短細胞珪酸体(1地点:1)
5. コブナグサ属短細胞珪酸体(2地点:3)
7. イネ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
9. クマザサ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
11. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
2. クマザサ属短細胞珪酸体(1地点:1)
4. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点:2)
6. イチゴツナギ亞科短細胞珪酸体(1地点:1)
8. イネ属機動細胞珪酸体(1地点:2)
10. メダケ属機動細胞珪酸体(1地点:1)
12. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点:2)

第5節 分析結果の考察

本章第4節までの自然科学分析について、その成果をそれぞれ項立ててまとめていきたい。

1. 赤色顔料及び微細物分析

植栗山根A遺跡出土の赤色顔料・微細物分析は、縄文時代や古墳時代の赤色顔料の使用の実態や当時の植生を復元することにより、生活環境の様子を明らかにすることを目的に実施した。それぞれの分析結果をまとめていきたい。

赤色顔料分析

縄文時代7号竪穴建物出土の顔料付着の土器4点、石器4点(磨石1点、台石3点)の計8点と古墳時代2・6号竪穴建物出土の赤色顔料塊7点、総計15点を分析した。

縄文時代晩期7号竪穴建物から出土した遺物のうち、赤色顔料が塗装された土器や赤色顔料の付着が認められる磨石や台石の顔料を分析・同定することにより、赤色顔料の使用の実態を明らかにすることを目的に実施した。

縄文時代晩期の土器・石器等に付着した赤色顔料は、いずれもケイ素など土中成分に由来する元素が検出されたものの水銀は検出されず、水銀朱ではないことが明らかになった。明瞭な検出成分は鉄であり、赤い発色は鉄によるものと推定できた。こうしたことから、土器・石器に付着した顔料は、ベンガラであることが理解された。試料8点のうち3点の土器・石器から、パイプ状粒子が検出され、パイプ状ベンガラと位置づけられた。また、いずれの試料からも比較的多くリンが検出されていることも、これらのベンガラの特徴といえる。

古墳時代2・6号竪穴建物から出土した試料7点(赤色塊)からは、水銀は検出されず、鉄による発色と推定されるベンガラであった。このベンガラからは、上述の縄文時代のベンガラとは異なりリンの検出は少なく、硫黄が多く検出されヒ素が検出される特徴があった。

赤色顔料分析では、縄文時代の出土遺物からは、リンが比較的多く含まれる鉄の発色のベンガラが検出された一方、古墳時代の試料(赤色塊)からは少量のヒ素と硫黄が多く含まれるベンガラであることが確認され、両者の

違いが判明した。

縄文時代7号竪穴建物出土の土器・石器に付着するベンガラは、土器・石器双方からパイプ状ベンガラが検出され、分析結果総体を対比してみても大きな相違点は見当たらない。台石と磨石、赤色塗装された土器という3者の構造図を肯定的に描けることができるのではと考える。

古墳時代2・6号竪穴建物出土のベンガラは、硫黄が多く、ヒ素の検出が認められるもので、パイプ状粒子は観察されていない。本遺跡から検出された元素を見ると、金井東裏遺跡出土の所謂「赤玉」からの検出元素とよく似ているように思える。詳細な検討が必要であると考える。

微細物(大型植物遺体)同定

縄文時代晩期7号竪穴建物出土の炭化種実と古墳時代2・4号竪穴建物の覆土(Hr-FA由来の洪水堆植物)中の木葉7点について同定した。7号竪穴建物の炭化種実は、堅果類のオニグルミとムクロジ(オニグルミ4点・ムクロジ2点)の種実との結果が得られた。両者はいずれも野生植物で、食用として利用可能であり、核果内の子葉を取り除いた後に遺棄され、炭化したものと考えられる。

2・4号竪穴建物出土の木葉については、2号竪穴建物出土の木葉6点は、いずれも残存状態が悪く樹種等の同定に至らなかった。4号竪穴建物出土の木葉は、ハクウンボク近似種の木葉であることが判明した。ハクウンボクはエゴノキ科の落葉高木であり、山地に生えるとされている樹木である。これらの木葉については十分な結果とはいがたいが、周間にこうした植生があったことに齟齬はない。今日の植生と大きく違うことはなかったようである。

2. 出土焼骨の鑑定・分析

7号竪穴建物などから出土した焼骨について、人骨あるいは獸骨であるかの判定を目的に分析を実施した。分析結果によってはその評価は著しく異なるものとなり、期待値は高い。分析サンプル総数は39点である。焼骨は、焼土化した床面上から被熱した礫・炭化物・土器や石器などと混在しながらの出土であり、竪穴建物内に広く分布していた。

分析報告によれば、人骨と考えられる焼骨の出土はなく、そのすべてが哺乳類の獸骨であった。種や目を同定

できない獣骨についても、骨体の形状や骨質の性状から、哺乳類に由来する骨との報告がなされている。目以下まで同定できた出土動物骨は、イノシシ16・最小個体数6、シカ4・最小個体数3、偶蹄目(イノシシ・シカも同じ目)1、中型食肉目(キツネ・タヌキ・イヌ・アナグマ)1・個体数1という結果が得られた。出土動物骨(焼骨)は、ほとんどがイノシシであり、シカの個数は少ない傾向にある。中型食肉目の出土焼骨については、非常に希少といえる。目以下まで同定できた出土動物骨は、成長段階で見ると幼獣や若獣の割合が比較的に多く、イノシシにおいては、同定部位が下顎骨を中心に頭部周辺の骨が多い傾向にある。

これらの獣骨(焼骨)は、灰白色または白色を呈し650℃以上の高温で長時間にわたって焼かれたものであるとの見解が示されており、単なる残滓として焼骨を位置づけることはできないと考える。また、7号竪穴建物出土焼骨のうち、2個体のイノシシの下顎骨突起の周辺からカットマーク(解体痕)が確認されたとの報告もあり、注目される。

イノシシやシカは、狩猟により得た獲物であり、人々によって調理され食糧として供されたわけである。狩猟で得た動物は、解体・分配・調理の過程を経てその大きな役目を終えるが、残された獣骨は骨角器や骨髓食などの活用方法が考えられるものの、長時間にわたって焼かれる原因については不明といえる。不要な獣骨は廃棄されるわけであるが、慣習や儀礼的な作所としてこうした獣骨焼成があるとも考えられる。いずれにしても、残滓としての焼骨(獣骨)が被熱礫や遺物とともに竪穴建物内に遺棄されたということである。

7号竪穴建物からは、堅果類のオニグルミとムクロジの炭化種実が出土している。焼骨とともに残滓としてとらえることができ、縄文晩期前半の食糧事情全般を示しているものではないものの、食文化の一端を示すものといえる。季節的な傾向も考える必要があるが、その資料的価値は高い。

3. 火山灰分析

植栗山根A遺跡では、試掘調査の段階から火山灰や軽石等の火山から噴出したテフラ(火山碎屑物・火碎物)が散見され、その降下年代や層位によって、遺跡の評価に

大きな影響を与えるものとして意識されてきた。調査の段階でも、浅間Bテフラ(As-B)や浅間船川テフラ(As-Kk)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)などと思われるテフラが認められ、層位や層順、堆積の様相(堆積のあり様)など究明する必要に迫られた。とりわけ、浅間船川テフラ(As-Kk)もしくは浅間Bテフラ(As-B)に覆われた水田面、竪穴建物の覆土や小区画水田を覆っているHr-FAと考えられるいくつかのテフラの存在があった。2号竪穴建物の覆土に厚く堆積するHr-FAは、きわめて固く締まり、層中には化石化した木葉などの出土もあり、テフラの同定と堆積状況の復元は、遺跡の理解に必要不可欠なものとして理解され、分析する運びとなった。

分析結果を見ると、1区南壁(第96図：1区南壁の土層柱状図 火山灰分析報告書)では、As-Cが混在する暗褐色泥層(12層)を基底にHr-FA及びHr-FA火山泥流堆積物(10・11層)が0.5mほど堆積する。このHr-FA火山泥流堆積物は径600mmを超える礫が混入する礫層(土石流堆積物)が認められている。火山災害を示す堆積状況と言える。9・8・7層は、泥層、シルト層、砂層と続き、6層の泥層(水田土壤)となる。この6層の水田土壤は、As-B・灰層・As-Kkに覆われており、As-B降下時には、水田耕作は終焉しているということであった。

1区北壁の柱状図(第97図：1区北壁の土層柱状図)によれば、Hr-FA火山泥流堆積物までは1区南壁とほぼ同様の傾向が認められるが、Hr-FA火山泥流堆積物の上位にある灰白色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)は、榛名二ツ岳伊香保テフラHr-FPとの結果が得られている。

2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面(第98図：2区東壁2号竪穴建物・中央覆土断面の土層柱状図)では、7層(黒灰褐色土)の上位に2～6層の5つの層に分層されたHr-FAが確認された。結論から述べると、2～4層がHr-FA上部、6層がHr-FA下部であり、5層はHr-FA火山泥流堆積物という結果であった。噴火に伴う降下火山灰上部・下部の間にHr-FA水成堆積物(火山泥流堆積物)が挟在されているということであった。

火山灰分析を大観すると、下位層では始良Tn火山灰(2.8～3万年前)、浅間大窪沢1・2テフラ(As-Ok 1・2：約2万年前)、浅間板鼻黄色輕石(As-YP：1.65～1.5万年前)などのテフラの存在が確認された。また、浅間CテフラAs-C(3世紀後半)、榛名二ツ岳渋川テフラHr-FA、

榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FA)、浅間Bテフラ(As-B)、浅間船川テフラ(As-Kk)など、層位等を含め確認できたことは、遺跡理解に大きく貢献するといえる。

榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)由來の火山泥流堆積物については、1区南壁の土層柱状図、1区北壁の土層柱状図、2区東壁2号堅穴建物の土層柱状図のいずれでも榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に挟在される水成堆積物として確認されている。植栗山根A遺跡は、すぐ南側が榛名山麓の北端部が迫っている地形であり、こうした火山泥流堆積物はこの丘陵が給源と考えられる。したがって、給源に近い1区南では、土石流堆積物として、1区北では、泥流堆積物として、2区東壁2号堅穴建物では、洪水堆積物としての様相を持っているようである。

4. 植物珪酸体分析

1 分析の目的

植栗山根A遺跡の調査においては、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)（6世紀初頭）と浅間Bテフラ(As-B)（1108年）が確認されている。1区においては、各テフラに被覆された面で水田面やその可能性がある面が発見された。そこで、各降下テフラに被覆された水田であったことの検証と当時の環境について試料を採取し植物珪酸体分析を行い、当時の植生や植物利用に関する情報を得ることとした。

2 試料採取について

1区で3点の試料を採取した。採取地点は2点あり、第1地点では浅間Bテフラ(As-B)下1点と榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)下1点を採取し、第2地点でHr-FA下1点を採取した。

第1地点は、令和2年度南側を調査しており、その際にもAs-B下の水田耕作の可能性がある畦畔と水田土壤が発見されている。また、第1地点Hr-FA下では、小区画水田が発見されている。一方、第2地点Hr-FA下においては小区画水田が検出できなかった。

3 分析結果より明らかになったこと

(1) Hr-FA下の植物栽培について

詳細は分析報告にあるが、イネ属花粉の割合が30%以上、イネの植物珪酸体(機動細胞由来)が試料1g当たり5,000個以上の密度(3,000個/g程度の場合あり)を稲作が行われた数値的な目安と考えている。イネの植物珪酸体

(機動細胞由来)については、第1地点で3,900個/gであった。小区画水田の検出状況が良好であることから稲作が行われたと考えることができる。一方、第2地点においては、イネの植物珪酸体(機動細胞由来)が全く検出されなかった。第2地点からは、畦畔が発見されなかったことからも稲作が行われなかつたと考えてよく、畦畔の有無と稲作の有無が証明されたこととなる。また、調査において1区の水田面以外はアシの植物痕が多数検出しており、分析結果でもヨシ属産出が多いことが述べられている。古墳時代Hr-FA下では、水田に隣接する低湿地はアシが生い茂る景観が想定されることとなった。

(2) As-B下の栽培植物について

前述したが、令和2年度もAs-B下では畦畔及び水田土壤が検出されている。令和2年度の検証も含めて植物珪酸体分析を実施した。結果は1,800個/gと極めて含有量が少なかった。このことから、積極的な稲作を支持することはできないが、一方で耕作期間や生産量との関係も考慮すると、一概に稲作を否定はできない。今後の類例を待って評価していく必要がある。

(3) 古植生について

Hr-FA下においては、両地点ともヨシ属の検出が目立ち、ヨシ属が生育する湿润な場所であったことが想定される。また、他にタケ科、ススキ属の生育がみられるような環境であった。

As-B下においても、Hr-FA下と同様の結果が得られており、湿润な低湿地であったことが明らかとなった。

第5章 まとめ

植栗山根A遺跡で発見された遺構・遺物について、各時代ごとにその成果をまとめていきたい。

(1) 旧石器時代

植栗山根A遺跡では、旧石器時代の遺構・遺物の発見には至らなかった。周辺の遺跡でもいまだに吾妻川流域地域ではその調査に至った例は少なく、その要因は特定できない。上信自動車道をはじめとする当該地域の遺跡の発掘調査の進展に伴って、旧石器時代の様子が明らかになることを期待したい。

(2) 繩文時代

縄文時代の調査例は、近年は増加傾向にある。周辺の遺跡でもふれたように、上信自動車道吾妻西バイパス建設や八ッ場ダム建設に伴う発掘調査では吾妻川流域の縄文時代の様相が徐々に明らかになってきている。

本遺跡からは縄文時代中期から晩期前半にかけての遺構・遺物の発見があった。とりわけ、7・8号竪穴建物からは、縄文時代晩期前半の大洞C式期の土器が出土し、注目されるところであるが、東吾妻町の唐堀遺跡・万木沢B遺跡や長野原町石川原遺跡(ハッ場ダム建設に伴う調査)などでも縄文時代晩期の調査が行われ、その分布の様相が徐々にではあるが明らかにされている。

赤色顔料について

縄文時代晩期前半期に比定される7号竪穴建物から、ベンガラと同定された赤色顔料が付着した磨石1点と台石3点が出土した。いずれも廃棄された状態での出土ではあるが、磨石と台石は同時に使用されていた可能性が高く、ここで赤色顔料の生成あるいは調整を行い、使用していたと考えられる。ちなみに、唐堀遺跡では赤色顔料が付着した磨石9点と台石(石皿)6点を示しており、石川原遺跡でも同様の台石が2点出土していることから、晩期前半期のこの地域では赤色顔料の生成・使用が一般化していた可能性も見てきた。本遺跡で磨石としたものは小さな球状の円礫、台石は薄手の鉄平石と厚手の扁平礫であるが、唐堀遺跡や石川原遺跡の事例もほぼ同様の形状である。今後の資料増加に期待したい。

焼骨(獸骨)の出土

7号竪穴建物からは、焼土化した床面上に炭化物・被熱した礫・遺物などと混在しながら多量の焼骨(獸骨)が出土している。第4章第2節出土焼骨分析によれば、これらの焼骨はいずれもイノシシ・シカなどの哺乳類であり、人骨ではないという結果であった。

焼土・炭化物とともに出土した焼骨(獸骨)・被熱礫・土器・石器などの遺物類は、竪穴建物の廃棄前後に廃棄されたように思えるが、その過程は判然としない。食用として利用可能なオニグルミ・ムクロジの炭化種実と焼骨(獸骨)の出土は、当該期の食糧事情の一端をあらわしており、注目されるところである。また、獸骨焼成という行為が持つ意味について、類例とともに吟味していく必要がある。いずれにしても、縄文時代晩期の人々の行為の一端として記録され、評価されることを望みたい。

(3) 弥生時代

本遺跡から出土した弥生時代の遺物は少ない。遺構からの出土ではなく、2区4面からのものである。弥生時代中期から後期にかけての土器片のみであった。弥生時代の遺物の出土は、本遺跡の近隣でも集落が存在する可能性を示している。

(4) 古墳時代

Hr-FA由来の洪水層と微細物(大型植物遺体)同定

本遺跡で発見された竪穴建物の多くから、覆土中にHr-FAの1次または2次堆積層が確認されている。これは、竪穴建物の廃絶過程での時間軸を考える大きな要素として位置づけられる。Hr-FAが床面におよんでいる竪穴建物はないが、4号竪穴建物ではカマドに据えられた土師器甕内部にHr-FAの堆積が認められ、Hr-FAは床面付近にまで達している。また、5号竪穴建物では、Hr-FAの堆積は覆土上層部で認められるなど、その堆積のあり様に差異がある。こうした差異は、類例の検討を重ねることによって、堆積の過程の解明に寄与するものである。また、Hr-FAの上下の1次堆積土の間層として、洪水堆積物と思われるHr-FAの2次堆積土が認められたことも

大きな成果と言える。この洪水堆積物中出土の微細物(大型植物遺体)同定では、試料の残存状態が悪くハクウンボク近似種のみの確認であった。

Hr-FPの堆積(灰層)と洪水層の確認

2区南壁基本土層(C-C')において、As-Kk 1次堆積土下層にHr-FP由来の灰層とそれに伴う洪水層が確認された。Hr-FPの灰層下層にはHr-FAの2次堆積土やHr-FAの1次堆積土があり、層位的関係も整合性が認められた。

植栗山根A遺跡で確認されたテフラは、As-Kk・As-B・Hr-FP・Hr-FA・As-Cであるが、その層位関係及びそれぞれの層相やその属性が明らかにされたことは大きな成果といえよう。

床下からの赤色顔料の出土

2号竪穴建物の床面下から出土した赤色顔料：ベンガラの分析結果から、金井東裏遺跡出土の所謂赤玉(赤色顔料：ベンガラ)との近似性が明らかにされたことは、きわめて意義深い。詳細な検討が必要ではあるが、古墳時代への理解が一層深まるものと考えられる。

カマドとかの伴う竪穴建物

4号竪穴建物ではカマドが確認されているのに対し、3号竪穴建物では、炉及びカマドの双方が確認されている。4号竪穴建物のカマドは企画性に優れ残存状態が良好であるのに対し、3号竪穴建物のカマドは残存状態が悪く、カマドの構造的理解がほとんどできない状態のものであった。これは、4号竪穴建物の企画性の高さと単純に比較はできないものの、3号竪穴建物は炉が確認されているので、炉からカマドへの過渡的状況を示している可能性がある。出土遺物を見ると、2・3号竪穴建物が5世紀後半期、1号竪穴建物が5世紀中葉、4・5・6号竪穴建物が5世紀後半の様相を持つことから、時間軸の上でも矛盾するものではない。

小区画水田と集落(竪穴建物)

3面の遺構(古墳時代)は、竪穴建物・土坑・ピット等と水田面がある。水田面と竪穴建物群は、Hr-FAが基本的に被覆するもので、同時併存していたとはいえないまでも、ほぼ同時期であり、関係性の深い遺構としてとらえることができる。

調査地南側の丘陵沿いに水田があり、その北側が竪穴建物群等となる。小区画水田の水田土壌は、第4章第4節植物珪酸体分析の結果から、稲作の実施が裏付けられ

ている。

本遺跡地の勾配は、北に向かって下がる傾斜であるが、一部傾斜に逆らうように水田が設けられている。おそらく、丘陵地からの湧水を巧みに利用して水田耕作が行われたと思われる。水田等の生産域は、用水確保に有利な南側の丘陵沿いに広がりを持つと想定できる。

(5)奈良・平安時代

本遺跡では、As-Kk・As-B下の水田遺構が確認されているが、土地改良工事や度重なる洪水等の浸食によって、水田面は大きく荒らされている。水田土壌は目視する限り、粘質のきめ細かな粒子で構成される黒褐色土で、一般的な水田土壌に思えたが、第4章第4節植物珪酸体分析によれば、水田耕作が行われた植物珪酸体の量が基準値に満たない結果であった。水田経営では、効率的な収穫を目的に休耕田等の方策を講じたり、様々な工夫がなされたりしたと考えれば、この結果について直ちに水田耕作を否定するものではないと考える。

畦畔状の高まりや平坦面、水流が認められる溝状の落ち込みが、水田耕作の痕跡をわずかに確認できる遺構ということである。

植栗山根A遺跡は、律令制下においては吾妻郡の「大田郷」にあたると考えられ、本遺跡に隣接する植栗中原遺跡では、奈良・平安時代の竪穴建物等の遺構が調査されている。このことが示すように、本遺跡では竪穴建物等の集落関連遺構の発見はなかったが、本遺跡近隣で当該期の集落が営まれていることは言うまでもない。また、四戸遺跡・万木沢B遺跡でもAs-Kk・As-B下から本遺跡同様に生産跡の水田や畑、そして集落が発見されており、吾妻川流域の遺跡の広がりが確認できている。

(6)中・近世

中・近世に該当する遺構は、As-Kk・As-B下の水田面を開削している6条の溝である。竹管等が埋設された1・4号溝は、暗渠としての機能を持たせたもので、湿田対策として施されたと考えられる。他の溝についても時期決定の決め手に欠けている。ここでは、これらの溝が中・近世以降の所産であることを確認するにとどめておく。

第12表 非掲載遺物一覧

区 番 号	遺物名	土器部		陶器部		石器部		陶磁器	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
2_3_1	昭六建物	210	2245.0	155	1728.0	5	2018.0		
	陶付	45	1097.0	16	520.0	2	1900.0		
	塵土	153	1008.0	85	1060.0	3	28.0		
	刷り方	12	140.0	14	118.0				
2_3_2	昭六建物	630	4800.0	273	4249.0	16	407.0		
	陶付	47	1011.0	6	199.0	1	84.0		
	塵土	436	2679.0	161	2650.0	13	172.0		
	P2					1	43.0		
	P3	2	40.0	1	11.0				
	P4	1	10.0						
	P5	4	20.0	2	82.0				
	P6	3	20.0						
	P7	1	20.0						
	P9	1	10.0						
1号土坑	P11	1	10.0	1	28.0				
	2号土坑	7	100.0	7	187.0				
2号土坑	刷り方			1	45.0				
	鉢穴	16	250.0	13	232.0				
	刷り方	86	1001.0	70	280.0	1	108.0		
	底溝	18	140.0	11	135.0				
	床面	6	70.0						
	試掘孔1	1	20.0						
	昭六建物	174	2200.0	100	2384.0	6	8.5		
	陶付	8	760.0	1	78.0				
	塵土	67	450.0	34	720.0	4	4.5		
	1号土坑	22	160.0	5	96.0				
2_3_3	P4	2	40.0						
	力引方	12	79.0						
	加厚側引方			3	340.0				
	刷り方	63	520.0	31	510.0	2	4.0		
	底溝	22	120.0	1	47.0				
	昭六建物	52	730.0	49	699.0	3	423.0		
	陶付	11	290.0	11	33.0				
	塵土	31	310.0	31	540.0	3	423.0		
	刷り方	10	130.0	17	216.0				
	昭六建物	35	410.0	36	547.0	58	561.0		
2_3_4	陶付	2	140.0	1	37.0	1	2.0		
	塵土	33	270.0	35	510.0	57	559.0		
	P2								
	P3	2	36.0	1	42.0				
	P4			1	18.0				
	P5			1	37.0				
	P6			8	325.0				
	P7			4	79.0				
	鉢	6	70.0	92	35.0				
	昭六建物	152	3038.0	171	179.0				
2_4_1	陶付	77	830.0						
	塵土	65	65.0	17	179.0				
	P2			1	18.0				
	P3			1	10.0				
	P5			2	17.0				
	P6			4	74.0	1	470.0		
	昭物集中	190	3067.0	44	42.0	2	20.0		
	陶付	41	2612.0						
	塵土	109	1055.0	4	42.0	2	20.0		
	P7			13	205.0	14	1073.0		
2_4_2	昭物集中	5	149.0	13	897.0				
	陶付	8	26.0	3	1800.0				
	P2			9	28.0				
	P3			10	138.0				
	P5			3	28.0				
	P6			1	10.0				
	P7			3	23.0	1	4.0		
	土坑	14	166.0	4	103.0				
	P9			2	16.0				
	P10			1	61.0				
2_4_3	土坑			4	26.0	1	4.0		
	P11			1	37.0				
	P12			6	149.0	1	154.0		
	P13			7	140.0	3	85.0		
	P14			1	10.0				
	P15			5	376.0				
	P16			6	140.0				
	P17			7	115.0				
	P18			1	8.0				
	P19			1	8.0				
2_4_4	土坑			1	10.0				
	P20			2	29.0				
	P21			5	39.0	1	42.0		
	P22			12	125.0				
	P23			1	40.0				
	P24			10	83.0				
	P25			7	115.0				
	P26			2	28.0				
	P27			5	40.0	1	31.0		
	P28			4	72.0				
2_4_5	土坑			7	79.0				
	P29			5	108.0				
	P30			5	70.0				
	P31			2	34.0				
	P32			3	36.0				
	P33			5	52.0				
	P34			6	327.0	1	90.0		
	P35			2	187.0	1	90.0		
	P36			4	140.0				
	P37			12	175.0	5	1758.0		
2_4_6	土坑			3	73.0	5	1758.0		
	P38			9	102.0				
	P39			18	290.0				
	P40			10	224.0				
	P41			8	66.0				
	P42			1	20.0				
	P43			5	38.0				
	P44			9	97.0				
	P45			8	90.0	1	25.0		
	P46			2	51.0				
2_4_7	ピット			4	22.0				
	P47			3	26.0				
	P48			2	21.0				
	P49			1	16.0				
	P50			3	21.0				
	P51			2	21.0				
	P52			1	7.0				
	P53			1	16.0				
	P54			1	17.0				
	P55			1	20.0				
2_4_8	ピット			1	10.0	1	4.0		
	P56			1	42.0	1	1.0		
	P57			2	17.0				
	P58			2	21.0				
	P59			1	16.0				
	P60			3	21.0				
	P61			1	7.0				
	P62			1	19.0				
	P63			1	19.0				
	P64			4	31.0	1	19.0		
2_4_9	ピット			5	70.0	3	27.0		
	P65			2	47.0				
	P66			1	11.0				
	P67			2	47.0				
	P68			1	11.0				
	P69			1	11.0				
	P70			1	11.0				
	P71			1	11.0				
	P72			1	11.0				
	P73			1	11.0				
2_4_10	ピット			1	10.0				
	P74			2	21.0				
	P75			2	7.0	1	10.0		
	P76			1	22.0				
	P77			1	22.0				
	P78			1	22.0				
	P79			1	22.0				
	P80			1	22.0				
	P81			1	22.0				
	P82			1	22.0				
2_4_11	土構外	233	2887.0	2358	277.0	543	7403.0	3	96.0
	清							19	376.0
	1	1	2						
	1	1	3	清		1	10.0		
	1	1	4	清					
	1	1	5	清					
	1	3	6	清		1	10.0		
	1	3	7	清					
	1	3	8	清					
	1	3	9	清					
2_4_12	土構外	32	190.0	315	393.0	193	1910.0	15	151.0
	清								
	1	トレンチ	1	10.0					
	1	トレンチ	5	10.0					
	1	トレンチ	6	10.0					
	1	トレンチ	7	376.0					
	1	トレンチ	8	10.0					
	1	トレンチ	9	10.0					
	1	トレンチ	10	10.0					
	1	トレンチ	11	10.0					
2_4_13	土坑			2	16.0				
	P1			1	61.0				
	P2			4	26.0	1	4.0		
	P3			1	37.0				
	P4			1	37.0				
	P5			1	14.0	1	154.0		
	P6			2	16.0				
	P7			2	16.0				
	P8			2	16.0				
	P9			2	16.0				
2_4_14	土坑			2	16.0				
	P10			2	16.0				
	P11			2	16.0				
	P12			2	16.0				
	P13			2	16.0				
	P14			2	16.0				
	P15			2	16.0				
	P16			2	16.0				
	P17			2					

写 真 図 版



1. 1・2区全景空撮(西から)



2. 1・2区全景空撮(上空から)



1. 2区堅穴建物他全景(西から)



2. 2区堅穴建物他全景(東から)



1, 2区全景暨穴建物・土坑(上空から)



2, 1区南壁基本土層セクション(北から)



3, 1区東壁基本土層セクション(西から)



4, 2区旧石器基本土層(南から)



5, R2年調査区南壁セクション(北から)



1. 2区 7号竪穴建物遺物出土状況全景(上空から)



2. 2区 7号竪穴建物遺物出土状況全景(北から)



3. 2区 7号竪穴建物全景(西から)



4. 2区 7号竪穴建物全景(北から)



5. 2区 7号竪穴建物セクション B-B' (東から)



1. 2区 7号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2. 2区 7号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3. 2区 7号竪穴建物焼骨・遺物(南から)



4. 2区 7号竪穴建物遺物出土状況(西から)



5. 2区 7号竪穴建物ミニチュア土器出土状況(南から)



6. 2区 7号竪穴建物石劍・土器遺物出土状況(南から)



7. 2区 7号竪穴建物磨製石斧遺物出土状況(南から)



8. 2区 7号竪穴建物焼土 1(西から)



1. 2区 7号竪穴建物炉全景(東から)



2. 2区 7号竪穴建物出土砾



3. 2区 8号竪穴建物全景(東から)



4. 2区 8号竪穴建物セクション A-A' (東から)



5. 2区 8号竪穴建物遺物出土状況(東から)



6. 2区 8号竪穴建物遺物出土状況(東から)



7. 2区 1号石圓炉(東から)



8. 2区 1号石圓炉掘り方全景(東から)



1. 2区2号土坑遺物出土状況(西から)



2. 2区5号土坑遺物出土状況全景(南から)



3. 2区16号土坑全景(南東から)



4. 2区19号土坑全景(東から)



5. 2区24号土坑全景(南から)



6. 2区53号土坑遺物出土状況全景(南から)



7. 2区53号土坑セクションA-A'(南から)



8. 2区53号土坑遺物出土状況全景(南から)



9. 2区54号土坑遺物出土状況(東から)



10. 2区55号土坑遺物出土状況全景(南から)



11. 2区55号土坑遺物出土状況(西から)



12. 2区56号土坑遺物出土状況(北から)



13. 2区60号土坑全景(西から)



14. 2区63号土坑全景(東から)



15. 2区64号土坑全景(南から)



1. 2区5号ピット全景石(北西から)



2. 2区6号ピット遺物出土状況(南東から)



3. 2区8号ピット全景(南から)



4. 2区26号ピット全景(南から)



5. 2区36号ピット全景(南から)



6. 2区38号ピット全景(南から)



7. 2区39号ピット全景(西から)



8. 2区41号ピット全景(南から)



9. 2区44号ピット遺物出土状況石(東から)



10. 2区47号ピット全景(南から)



11. 2区50号ピット全景(西から)



12. 2区51号ピット遺物出土状況全景(南から)



13. 2区52号ピット全景(南から)



14. 2区30号ピット全景(東から)



15. 2区31号ピット全景(南から)



1. 2区1号竪穴建物セクションA-A'（南から）



2. 2区1号竪穴建物FA下面全景(南から)



3. 2区1号竪穴建物遺物出土状況(西から)



4. 2区1号竪穴建物掘り方全景(南から)



5. 2区1号竪穴建物遺物出土状況(南から)



1. 2区2号堅穴建物全景(上空から)



2. 2区2号堅穴建物掘り方全景(東から)



3. 2区2号堅穴建物全景(西から)



4. 2区2号堅穴建物遺物出土状況(西から)



5. 2区2号堅穴建物掘り方ベンガラ出土状況(南から)



1. 2区2号竪穴建物セクションA-A'（南から）



2. 2区2号竪穴建物貯藏穴全景（北から）



3. 2区2号竪穴建物P2柱痕（西から）



4. 2区2号竪穴建物P3柱痕（西から）



5. 2区3号竪穴建物全景（上空から）



1. 2区3号竖穴建物遺物出土状況(東から)



2. 2区3号竖穴建物全層白線入り(南東から)



3. 2区3号竖穴建物掘り方全景(西から)



4. 2区3号竖穴建物遺物出土状況(東から)



5. 2区3号竖穴建物貯蔵穴全景(南から)



6. 2区3号竖穴建物A-A'全景(西から)



7. 2区3号竖穴建物カマド掘り方全景(西から)



8. 2区3号竖穴建物カマド掘り方セクションA-A' (南から)



1. 2区 4号堅穴建物全景(上空から)



2. 2区 4号堅穴建物カマド・貯蔵穴全景(西から)



3. 2区 4号堅穴建物全景(南から)



4. 2区 4号堅穴建物FA除去全景(東から)



5. 2区 4号堅穴建物セクション D-D' (東から)



1. 2区 4号竪穴建物棒状痕検出状況(東から)



2. 2区 4号竪穴建物木材出土状況(東から)



3. 2区 4号竪穴建物カマド周辺遺物出土状況(西から)



4. 2区 4号竪穴建物カマド(西から)



5. 2区 4号竪穴建物カマド周辺遺物出土状況(北から)



6. 2区 4号竪穴建物カマドセクションC-C' (西から)



7. 2区 4号竪穴建物カマド遺物出土状況(北から)



8. 2区 4号竪穴建物P1柱痕(西から)



1. 2区5号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



2. 2区5号竪穴建物セクションA-A' (西から)



3. 2区5号竪穴建物木材炭化物出土状況(西から)



4. 2区5号竪穴建物遺物出土状況(西から)



5. 2区6号竪穴建物全景(西から)



1. 1区南側6・7号溝・水田面全景(上空から)



2. 1区北側9号溝・水田面全景(上空から)



1. 1区南側6号溝・水田面全景(上空から)



2. 1区畦畔断面セクション(北から)



3. 1区水田面(東から)



4. 1区北側全景水田面(東から)



5. 1区北側全景水田面(東から)



1. 1区北側全景水田面(東から)



2. 1区6号溝全景(西から)



3. 1区6号溝全景(東から)



4. 1区6号溝セクションD-D' (南東から)



5. 1区7号溝全景(北から)



6. 1区7号溝セクションE-E' (南から)



7. 1区7号溝セクション(南から)



8. 1区北側9号溝全景(南から)



1. R2年調査区2面全景(南から)



2. R2年調査区水田面(北から)



3. R2年調査区断割りトレンチ6号セクション(南から)



4. R2年調査区断割りトレンチ7・8号セクション(南から)



5. R2年調査区断割りトレンチ9号セクション(東から)



1. 1区全景(北から)



2. 1区北側As-Kk下1面全景(北から)



3. 1区1号溝全景(東から)



4. 1区1号溝セクションC-C' (北から)



5. 1区2号溝全景(北から)



1. 1区1面4・5号溝全景(北西から)



2. 1区4号溝(北から)



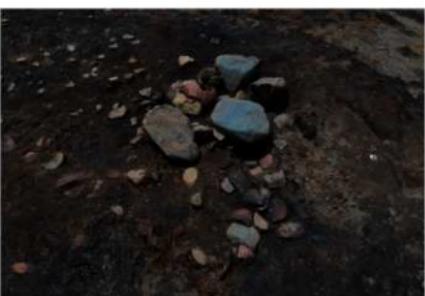
3. R2年調査区2号トレンチセクション(東から)



4. 1区8号溝全景(北から)



5. 2区1号遺物集中出土状況全景(東から)



6. 2区1号遺物集中出土状況(東から)



7. 2区南遺物出土状況(東から)



8. 1区北側石棒・石皿遺物出土状況(南から)

7号竖穴建物



7号竖穴建物



7号窑穴建物



7号竖穴建物



7号竖穴建物







7号竖穴建物





204



205

8号壁穴建物



15



18



1号石圆炉



2号土坑



8号竖穴建物 1号石圆炉 土坑



42号土坑



46号土坑



48号土坑



53号土坑



49号土坑



7

54号土坑



土坑

PL.34

55号土坑



56号土坑



61号土坑



60号土坑



62号土坑



64号土坑



63号土坑



土坑

6号ピット



7号ピット



14号ピット



25号ピット



33号ピット



36号ピット



41号ピット



44号ピット



50号ピット



51号ピット



54号ピット



遺構外出土土器1区



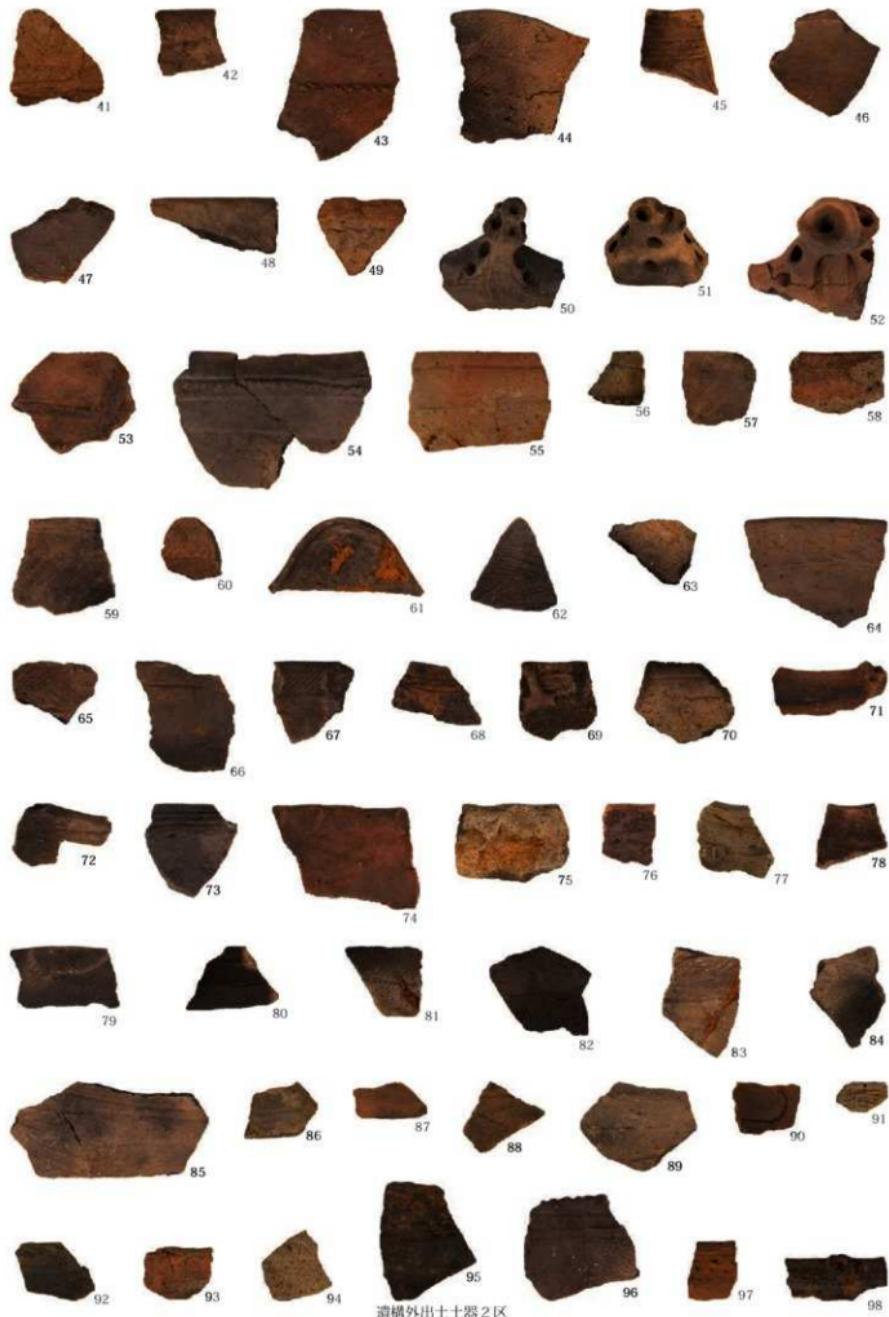
ピット 遺構外出土土器1区



遺構外出土土器 2 区



遺構外出土土器 1・2 区



造模外出土器 2区





遺構外出土器 2区



造構外出土石器 1 区

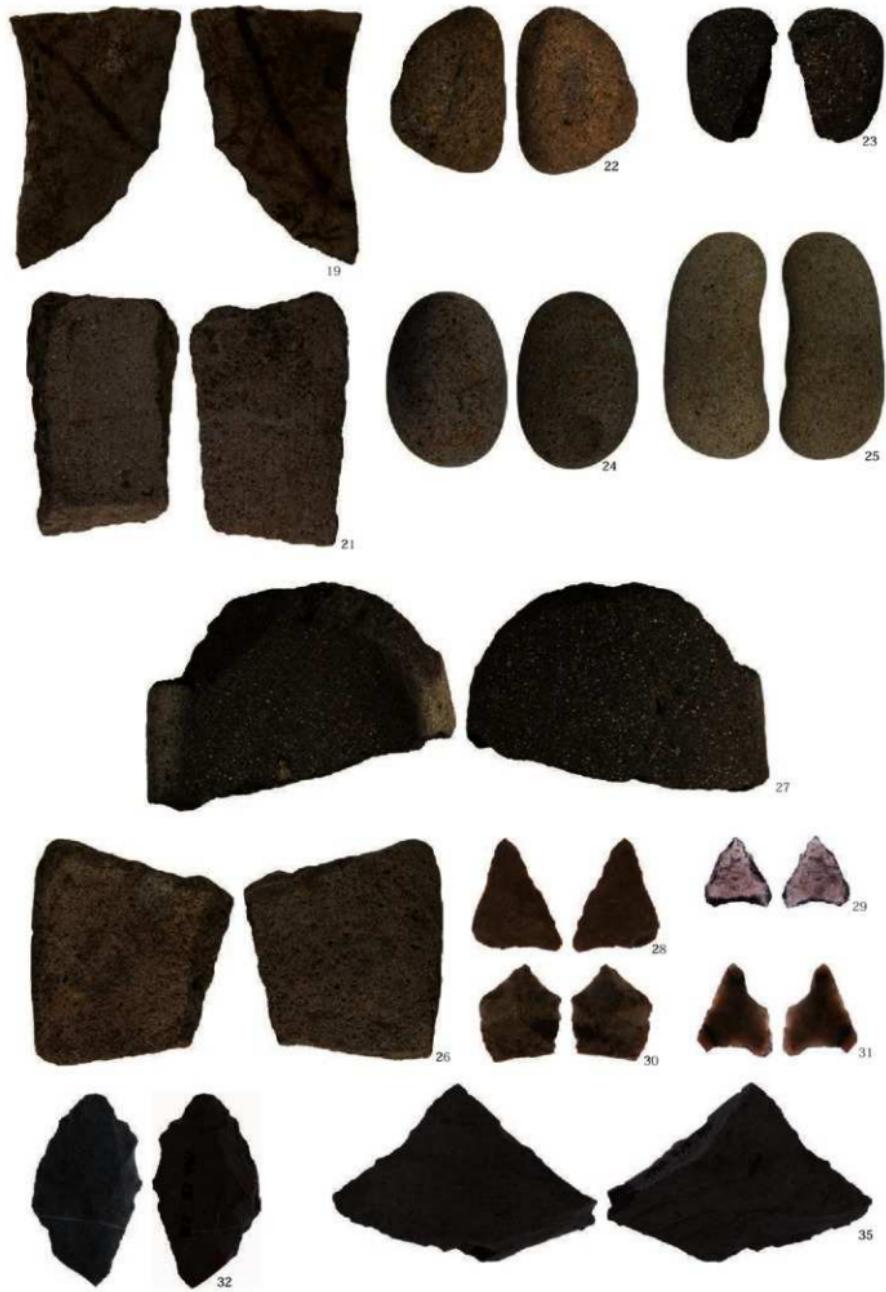


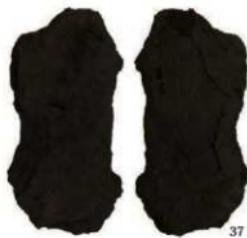
造構外出土土器 2 区・石器 1 区

遺構外出土石器 2 区



遺構外出土石器 2 区





1号竖穴建物



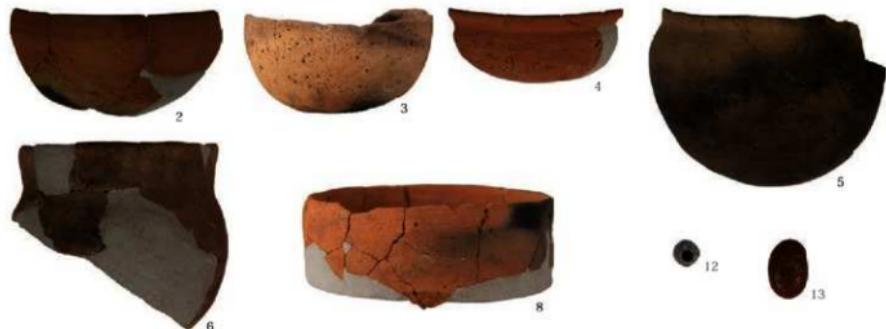
遺構外出土石器 2区 1号竖穴建物

PL.44

2号壁穴建物



3号壁穴建物



2・3号壁穴建物





15



16



17



18



19

20

21

5号竖穴建物



1

1号遗物集中



1



3

6号竖穴建物



3

6号土坑



1



4

道構外出土遺物2区



4

道構外出土遺物1区



1



2

3



4



5

4～6号竖穴建物 6号土坑 1号遗物集中 道構外出土遗物1・2区

報告書抄録

書名ふりがな	うえぐりやまねAいせき
書名	植栗山根A遺跡
副書名	一般県道植栗伊勢線道路改築(地方道・連係)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	725
編著者名	飛田野正佳
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230324
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渡川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	うえぐりやまねAいせき
遺跡名	植栗山根A遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしあがつままちうえぐり
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町植栗
市町村コード	10423
遺跡番号	1453
北緯(世界測地系)	36° 34' 21.70
東經(世界測地系)	138° 51' 32.98
調査期間	20200401-20201130、20210401-20210630
調査面積	4310.22m ²
調査原因	道路建設工事
種別	集落・生産跡
主な時代	縄文時代晚期/古墳/古代
遺跡概要	縄文時代-竪穴建物 2 /石円炉 1 /土坑62/ピット52 古墳時代-竪穴建物 6 /土坑 2 /ピット 2 /遺物集中 1 /水田面/溝 3 古代-水田面 中・近世-溝 6
特記事項	縄文時代晚期前半の竪穴建物 2 棟、古墳時代 5 世紀代の竪穴建物 6 棟の他、Hr-FAやAs-Bが被覆している水田が確認された。
要約	吾妻川右岸段丘上に位置し、縄文時代および古墳時代の集落と古墳時代および古代の水田等の生産域が展開する複合遺跡である。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第725集

植栗山根A遺跡

一般国道植栗伊勢線道路改築(地方道・連携)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年3月22日 発刷
令和5(2023)年3月24日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社

